

1996年度

法学部シラバス

獨協大学

「法学部シラバス」について

法学部長 金子 正史

シラバスとは、各講義科目の担当教員が自らの研究・教育理念にもとづいて作成したものであり、それぞれをみれば若干の相違はあるが、基本的には講義科目の年間の講義計画を週単位で説明したものである。

シラバスの作成目的は、教員自らがその講義内容をあらかじめ学生に提示することにより講義内容をより充実せしめるという点にあるが、学生にとっては次のような意味をもつものである。すなわち、学期始めの講義の選択の際に学生がシラバスに示された各々の講義内容を比較検討し、講義の選択が的確になされうるようにすることである。

学期始めに学生に配布される「履修の手引」とともに、このシラバスを熟読玩味したうえで、慎重な判断にもとづいた講義の選択が望まれる。

目 次

1994年度以降入学者対象

外国語科目

第一外国語

英語Ⅰ（購読）	-----	各担当教員	-----	1
英語Ⅰ（会話）	-----	各担当教員	-----	3
英語Ⅱ（購読）	-----	各担当教員	-----	5
英語Ⅱ（会話）	-----	各担当教員	-----	7

第二外国語

ドイツ語Ⅰ	-----	各担当教員	-----	9
ドイツ語Ⅱ	-----	各担当教員	-----	11
フランス語Ⅰ	-----	各担当教員	-----	13
フランス語Ⅱ	-----	各担当教員	-----	14

基礎科目

I 郡	法学入門	-----	坂本延夫	-----	15
	"	-----	後藤卷則	-----	
	政治学入門	-----	柴田平三郎	-----	17
	"	-----	臼井久和	-----	19
	国際関係論入門	-----	増島建	-----	21
	"	-----	宮里政玄	-----	23
III 郡	社会科学概論	-----	堅田剛	-----	25
	経済学	-----	岡田博	-----	27
	"	-----	小尾惠一郎	-----	29
	社会学	-----	有吉広介	-----	31
	社会思想史	-----	市川達人	-----	33
	"	-----	松丸壽雄	-----	35
IV 郡	歴史学概論（日本史）	-----	新井孝重	-----	37
	"（日本史）	-----	齊藤博	-----	39
	"（東洋史）	-----	春日井明	-----	41
	"（東洋史）	-----	熊谷哲也	-----	43
	"（西洋史）	-----	高橋正男	-----	45
	"（西洋史）	-----	古川堅治	-----	47
	文学概論（日本）	-----	北村進	-----	49
	"（日本）	-----	中村文	-----	51
	"（日本）	-----	肥田野昌之	-----	53
	"（日本）	-----	肥田野昌之	-----	55

	" (外国)	亀谷敬昭	57
	" (外国)	北澤滋久	59
	" (外国)	松山恒見	61
	" (外国)	宮澤康造	63
	国語表現法	新里博樹	65
	"	小島幸枝	67
	"	北村進	69
	"	福沢健	71
	"	肥田野昌之	73
	"	宮澤康造	75
	心理学	杉山憲司	77
	"	三本茂	79
	文化人類学	井上兼行	81
V郡	自然科学概論	福井尚生	83
	地球環境論	加藤僖重	85
	情報処理	各担当教員	87
	統計学	富田幸弘	89
	"	本田勝	91
	"	松井敬	93
	健康学	久松一恵	95
V郡	体育I・体育II		
	" (アウトドア海浜型)	和田智	97
	" (アウトドア山岳型)	和田智	99
	" (インラインスケート)	加藤雅子	101
	" (インラインスケート)	和田智	103
	" (インラインスケート/スケート)	和田智	105
	" (硬式テニス)	小俣充	107
	" (硬式テニス)	田中茂宏	109
	" (硬式テニス)	土井浩信	111
	" (硬式テニス)	中川昭	113
	" (硬式テニス)	中沢克江	115
	" (硬式テニス)	野口昭彦	117
	" (硬式テニス)	松原裕	119
	" (ゴルフ)	野口昭彦	121
	" (ゴルフ)	山中邦夫	123
	" (ゴルフ)	吉田卓司	125
	" (サッカー)	田代力也	127
	" (サッカー)	田中茂宏	129
	" (サッカー)	萩原武久	最初の授業で指示します。
	" (サッカー)	松本光弘	131
	" (スキー/トレーニング)	松原裕	133
	" (スキー検定トレーニング)	松原裕	135
	" (ソーシャルダンス)	青柳多恵子	137
	" (ソフトボール)	池垣功一	139

" (ソフトボール)	田代力也	141
" (ソフトボール)	萩野元祐	143
" (ソフトボール/スキー)	田代力也	145
" (卓球)	天野和彦	147
" (卓球)	太田朝博	149
" (卓球)	小川又八朗	151
" (卓球)	奥野忠枝	153
" (卓球)	本田稔祐	155
" (軟式野球)	太田朝博	157
" (軟式野球)	萩野元祐	159
" (バスケットボール)	太田朝博	161
" (バスケットボール)	勝瀬武	163
" (バスケットボール)	檜山康	165
" (バドミントン)	梶野克之	167
" (バドミントンⅡ)	梶野克之	169
" (バレーボール)	小俣充	171
" (バレーボール)	中沢克江	173
" (フットサル)	檜山康	175
" (フットサル)	松原裕	177
" (フリスビー/ウインドサーフィン)	和田智	179
" (ラグビー)	天野和彦	181

専門科目

法哲学	堅田剛	183
日本法制史	小柳春一郎	185
西洋法制史	竹本健	187
法社会学	森謙二	189
法心理学	小田晋	191
英米法	早坂禧子	193
ドイツ法	市川須美子	195
地域共同体法	廣部和也	最初の授業で指示します。
外国法文献研究	鈴木淳一	197
憲法Ⅰ	右崎正博	199
"	古関彰一	201
憲法Ⅱ	右崎正博	203
"	古関彰一	205
行政法Ⅰ	金子正史	207
行政法Ⅱ	荒秀	209
比較憲法	加藤一彦	211
税法	北野弘久	213
教育法	市川須美子	215
民法Ⅰ	平井一雄	217
"	花本広志	219

民法Ⅱ	-----	花本	広志	-----	221
民法Ⅲ	-----	辻	伸行	-----	223
民法Ⅳ	-----	後藤	巻則	-----	225
民法Ⅴ	-----	松嶋	由紀子	-----	227
商法Ⅱ	-----	青木	英夫	-----	229
商法Ⅲ	-----	坂本	延夫	-----	231
商法Ⅰ	-----	小林	俊明	-----	233
商法Ⅳ	-----	青木	英夫	-----	235
国際取引法	-----	山本	孝夫	-----	237
刑法Ⅰ	-----	奈良	俊夫	-----	239
〃	-----	(前期) 林	弘正	-----	241
	-----	(後期) 只木	誠	-----	
刑法Ⅱ	-----	(前期) 奈良	俊夫	-----	243
	-----	(後期) 只木	誠	-----	
〃	-----	野村	稔	-----	245
刑事政策	-----	大芝	靖郎	-----	247
労働法	-----	土田	道夫	-----	249
経済法	-----	山部	俊文	-----	251
消費者法	-----	後藤	巻則	-----	253
知的財産権法	-----	角田	政芳	-----	255
刑事訴訟法	-----	松本	一郎	-----	257
民事訴訟法	-----	森	勇	-----	259
倒産法	-----	櫻井	孝一	-----	261
国際法Ⅰ	-----	松田	幹夫	-----	263
国際法Ⅱ	-----	鈴木	淳一	-----	265
国際政治学	-----	星野	昭吉	-----	267
比較政治	-----	増島	建	-----	269
日本外交史	-----	森山	茂徳	-----	271
西洋外交史	-----	中園	和仁	-----	273
アメリカ外交史	-----	宮里	政玄	-----	275
国際経済論	-----	益山	光央	-----	277
国際組織	-----	寺澤	一	-----	279
平和学	-----	星野	昭吉	-----	281
国際関係文献研究 1	-----	臼井	久和	-----	283
〃 2	-----	中園	和仁	-----	285
政治学原論	-----	森山	茂徳	-----	287
地方自治	-----	佐藤	俊一	-----	289
政治思想史	-----	柴田	平三郎	-----	291
政治史	-----	井上	スズ	-----	293
行政学	-----	中村	陽一	-----	295
日本の政治	-----	(週2コマ後期完結) 宮崎	隆次	-----	297
欧米の政治	-----	宮下	大志	-----	299
第三世界の政治	-----	萩原	宜之	-----	301
政治学文献研究 1	-----	小野	修三	-----	303

"	2	-----	堀江浩一郎	-----	305
法律学特講A		-----	小柳春一郎	-----	307
法律学特講B	1	〈借地借家法〉(後期完結)	平井一雄	-----	309
"	2	〈民事訴訟法演習〉(前期完結)	森勇	-----	311
"	3	〈国際民事訴訟法〉(後期完結)	森勇	-----	313
"	4	〈公法特講〉(後期完結)	加藤一彦	-----	315
"	5	〈罪と罰について〉(前期完結)	松本一郎	-----	317
"	6	〈日本政治裁判小史〉(後期完結)	松本一郎	-----	319
国際関係特講A		-----	志摩園子	-----	321
国際関係特講B		(前期完結)	今井圭子	-----	323
政治学特講A		-----	堀江浩一郎	-----	325
経済原論		-----	西村允克	-----	327
会計学		-----	宮澤清	-----	329
環境保健論		-----	久松一恵	-----	331
総合講座		-----	森山茂徳	-----	333

目 次

1993年度以前入学者対象

専門科目

法哲学	堅 田 剛	1 8 3
西洋法制史	竹 本 健	1 8 7
法社会学	森 謙 二	1 8 9
英米法Ⅰ	早 坂 禧 子	1 9 3
ドイツ法Ⅰ	市 川 須美子	1 9 5
憲法Ⅰ	右 崎 正 博	1 9 9
〃	古 関 彰 一	2 0 1
憲法Ⅱ	右 崎 正 博	2 0 3
〃	古 関 彰 一	2 0 5
比較憲法	加 藤 一 彦	2 1 1
行政法Ⅰ	金 子 正 史	2 0 7
行政法Ⅱ	荒 秀	2 0 9
税 法	北 野 弘 久	2 1 3
教育法	市 川 須美子	2 1 5
公法特講（後期完結）	加 藤 一 彦	3 1 5
民法Ⅰ	平 井 一 雄	2 1 7
〃	花 本 広 志	2 1 9
民法Ⅱ	椿 久美子	3 3 5
民法Ⅲ	後 藤 卷 則	2 2 5
民法Ⅳ	松 嶋 由紀子	2 2 7
商法Ⅱ	青 木 英 夫	2 2 9
商法Ⅲ	坂 本 延 夫	2 3 1
商法Ⅰ	小 林 俊 明	2 3 3
商法Ⅳ	青 木 英 夫	2 3 5
民事訴訟法Ⅰ	森 勇	2 5 9
破産法	櫻 井 孝 一	2 6 1
借地・借家法（後期完結）	平 井 一 雄	3 0 9
銀行取引法（後期完結）	川 村 正 幸	3 3 7
民事法特講 1（前期完結）	森 勇	3 1 1
〃 2（後期完結）	森 勇	3 1 3
〃 3（前期完結）	小 柳 春一郎	3 0 7
〃 4（後期完結）	小 柳 春一郎	3 0 7
刑法Ⅰ	奈 良 俊 夫	2 3 9
〃	（前期）林 弘 正	2 4 1
	（後期）只 木 誠	

刑法Ⅱ	(前期)	奈良俊夫	243
"	(後期)	只木誠	243
"		野村稔	245
刑事訴訟法		松本一郎	257
刑事政策		大芝靖郎	247
犯罪心理学(後期完結)		小田晋	191
法医学(前期完結)		齋藤一之	339
刑事法特講 1		松本一郎	317
刑事法特講 2		松本一郎	319
労働法		土田道夫	249
工業所有権法		角田政芳	255
経済法		山部俊文	251
国際法Ⅰ		松田幹夫	263
国際法Ⅱ		鈴木淳一	265
国際政治学		星野昭吉	267
比較政治		増島建	269
国際取引法		山本孝夫	237
日本外交史		森山茂徳	271
西洋外交史		中園和仁	273
国際経済論		益山光央	277
外国法制研究 1		鈴木淳一	197
" 2		臼井久和	283
" 3		中園和仁	285
" 4		小野修三	303
" 5		堀江浩一郎	305
国際関係特講 1(前期完結)		今井圭子	323
" 2(前期完結)		志摩園子	321
" 3(後期完結)		志摩園子	321
政治学原論		森山茂徳	287
行政学		中村陽一	295
地方自治		佐藤俊一	289
政治思想史		柴田平三郎	291
政治史		井上スズ	293
政治学特講 1(前期完結)		森山茂徳	333
" 2(後期完結)		森山茂徳	333
経済原論		西村允克	327
会計学		宮澤清	329
簿記		井出健二郎	341
"		氏原茂樹	343
"		岡下敏	345
"		中村泰將	347
"		福島寿	349
"		細田哲	351
"		百瀬房徳	353

科目名	英語Ⅰ（講読）（一外）	担当者名	各担当教員
-----	-------------	------	-------

講義の目標	本講義は、英語で書かれた新聞、雑誌、小説、随筆など様々なジャンルの文章を読みこなすことができる読解力の基礎を養うことを目標とする。		
講義概要	講義の内容は、学生の英語力を考慮した上で決めた教材により講義を行う。教材は、現代英語で平易に書かれたものとし、読解力を養う上で最も基本となる文章理解が中心となる。訳読、要約、文法など総合的に学ぶ。		
使用教材	テキスト	各担当講師が決める。	
	参考文献	各担当講師の指示による。	
評価方法	各担当講師による。		
受講者に対する要望など	予習、復習を欠かさず、着実に学習して欲しい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	英語 I (会話) (一外)	担当者名	各担当教員
-----	----------------	------	-------

講義の目標	英語でコミュニケーションを行なう能力を身につけることを目標とする。つまりナチュラルスピードの英語を聞き、内容を理解し、基本的な日常会話を英語で行なえるようになることを目指す。		
講義概要	前・後期ともアメリカを舞台にした後述のビデオ教材を使用する。一つのエピソードが三幕(アクト)から成り、一回の授業で一幕ずつ進む。前期はエピソード1～4、後期はエピソード5～8を学習する。授業ではビデオの内容理解、文法・重要表現・発音の練習、およびペアワークや質疑応答などのコミュニケーション練習を行なう。受講者はスクリプトの内容や重要表現などについて予習すること。毎回授業の最後にヒアリングクイズを行なう。		
使用教材	テキスト	Family Album, U. S. A. (会話で学ぶアメリカライフ) NHK 出版	
	参考文献	なし	
評価方法	前・後期の定期試験(ヒアリング)の結果および平常点による。 出席は特に重視される。		
受講者に対する要望など	テープを持参すること。 遅刻者は教室への入室を認めない。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業の概要および機器の使い方について Episode 1 ACT 1：自分や他人の紹介の仕方について
2	Episode 1 ACT 2： "
3	Episode 1 ACT 3： "
4	Episode 2 ACT 1：指示の従い方、食物の注文などについて
5	Episode 2 ACT 2： "
6	Episode 2 ACT 3： "
7	Episode 3 ACT 1：時制、前置詞の使い方などについて
8	Episode 3 ACT 2： "
9	Episode 3 ACT 3： "
10	Episode 4 ACT 1：イディオム表現などについて
11	Episode 4 ACT 2： "
12	Episode 4 ACT 3： "
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Episode 5 ACT 1：否定の Yes/No Question、天気の話などについて
2	Episode 5 ACT 2： "
3	Episode 5 ACT 3： "
4	Episode 6 ACT 1：可能性の表現などについて
5	Episode 6 ACT 2： "
6	Episode 6 ACT 3： "
7	Episode 7 ACT 1：if を使った表現や完了形などについて
8	Episode 7 ACT 2： "
9	Episode 7 ACT 3： "
10	Episode 8 ACT 1：健康についての話題、付加疑問文などについて
11	Episode 8 ACT 2： "
12	Episode 8 ACT 3： "
備考	

科目名	英語Ⅱ（講読）（一外）	担当者名	各担当教員
-----	-------------	------	-------

講義の目標	本講義は、英語で書かれた新聞、雑誌、小説、随筆など様々なジャンルの文章を読みこなす能力を養うことを目指す。		
講義概要	講義の内容は、一年次の講読をふまえた上で決めた教材により講義を行う。		
使用教材	テキスト	各担当講師による。	
	参考文献	各担当講師の指示による。	
評価方法	各担当講師による。		
受講者に対する要望など	予習、復習を欠かさず、着実に学習して欲しい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	英語Ⅱ（会話）（一外）	担当者名	各担当教員
-----	-------------	------	-------

講義の目標	英会話が成立するためには、相手の話す英語が聞き取れる力と自分の意思を英語で表現する力がなければならない。英語Ⅱ（会話）では、英語Ⅰ（会話）に引き続き、その基礎的な力の養成をめざす。聴解力の向上と共に、会話を成り立たせるために必要な話す力をつけ、状況に応じて適切な応答ができるようになること、また、積極的に発言できるようになることを目標とする。		
講義概要	各担当者が最初の授業で説明する。		
使用教材	テキスト	各担当者が指示する。	
	参考文献		
評価方法	各担当者による。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	ドイツ語 I (二外)	担当者名	各担当教員
-----	-------------	------	-------

講義の目標	<p>I A (基礎) / ドイツ語圏の社会や文化についての基礎的な知識の獲得と、ドイツ語の基本能力の修得を目標とします。</p> <p>I B (読解練習) / 読解に重点を置きながら、ドイツ語の基本的な語彙や構文が理解できるよう指導します。</p> <p>I C (口頭練習) / 日常会話における基本的な表現を使って、ドイツ語での応答ができるよう指導します。</p> <p>I Aを中心に、I AとI B、またはI AとI Cというように組み合わせて履修して下さい。</p>		
講義概要	<p>I A (基礎) / ドイツ語圏の社会や文化にさまざまな形で触れた後、発音・数字・日常的な表現等の導入を経て、徐々にドイツ語の基本的語彙・表現・文法事項を学んでいきます。</p> <p>I B (読解練習) / 易しい文章を読みながら、そこに出てくる基本的な語彙や構文を理解し、修得していきます。</p> <p>I C (口頭練習) / コミュニケーションを意識しながら、日常会話における場面ごとの基本表現を学び、口頭で応答できるように練習を行います。</p>		
使用教材	テキスト	各担当者により使用テキストが異なります。詳しくは教科書販売所の掲示を見て下さい。	
	参考文献	・独和辞典 (中型のもの)	
評価方法	前・後期定期試験の成績と授業への出席状況などを総合的に判断して評価します。		
受講者に対する要望など	練習が主体の科目ですから、授業には必ず出席し、積極的に発言して下さい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1週 テキストの内容を紹介し、今後の授業の進め方・進度等について説明します。
2	第2週～第12週 テキストに基づいた練習
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1週～第12週 テキストに基づいた練習
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	ドイツ語Ⅱ(二外)	担当者名	各担当教員
-----	-----------	------	-------

講義の目標	II A (読解練習=ノンフィクション) } /ドイツ語Ⅰで修得したドイツ語の基礎知識を応用し、辞書さえ使用すれば、大方のドイツ文の内容を正確に読み取れるだけの読解力を養成します。 II B (読解練習=フィクション) } II C (口頭練習) /基本単語を使用して、何とか自分の意思をドイツ語で相手に伝えられる能力を養成することを目標とします。	
講義概要	II A (読解練習=ノンフィクション) } /最初に文法の基本事項の復習と未修事項の学習を行い、その後テキストの読解に入ります。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px;"> ドイツの政治・経済・社会・地誌などに関する文章やエッセイ等、いわゆるノンフィクションをテキストとして使用します。 </div> はじめは文法的な解説を充分に行い、ドイツ文の構造を理解させることに力を置きます。それから徐々にテキスト内容の全体的な把握に授業の重点を移し、読解の速度を上げていきます。 II B (読解練習=フィクション) } <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px;"> 小説・童話・説話・小話などのフィクションを教材とします。 </div> II C (口頭練習) /場面に応じて、基本的な文章を聞き取り、反復・応答できるように指導します。	
使用教材	テキスト	各担当者の使用テキストは、教科書販売所の掲示を見て下さい。
	参考文献	・独和辞典(中型のもの)、ドイツ語Ⅰで使用したテキスト。
評価方法	前・後期定期試験の成績と授業への出席状況などを総合的に判断して評価します。	
受講者に対する要望など	練習が主体の授業ですから、必ず出席して積極的に発言して下さい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキスト内容の紹介と今後の授業の進め方、速度などについて話します。また1年次に使用したテキスト（各自持参）及び既修・未修文法項目の確認と、基本的な文法事項の復習を行います。
2	2-7、8週 文法の復習、未修事項の学習を行います。
3	
4	
5	
6	
7	
8	徐々に、ドイツ語ⅡA・Bではテキストの読解練習に、ドイツ語ⅡCでは口頭練習に入ります。
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	1週～12週 ドイツ語ⅡA・Bはテキストの読解練習、ドイツ語ⅡCは口頭練習を行います。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	フランス語Ⅰ（二外）	担当者名	各担当教員
-----	------------	------	-------

講義の目標	フランス語の基礎文法を習得し、簡単なテキストを読む力をつけます。		
講義概要	フランス語の基礎を学びます。発音、動詞の活用、文法事項など、最初は複雑に思えるかも知れませんが、ある程度の根気と努力さえあれば習得できます。予習、復習に力を入れて、その都度マスターするように心掛けてください。		
使用教材	テキスト	各担当者による（場合によっては、二人の担当で共通の教科書を用いることもありますので、教科書販売所の掲示を確認してください）。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・初学者のために工夫された仏和辞典がいろいろとありますので、必ず購入してください。 ・教科書の末尾にはたいてい動詞活用表が掲載されていますが、より詳細なものも出版されていますので購入するとよいでしょう。その他の参考書については、担当者に直接相談してください。 	
評価方法	評価方法については各担当者から説明があります。		
受講者に対する要望など	どの学習でもそうですが、とりわけ語学においては持続的な積み重ねが重要です。毎日少しの時間でもよいから、フランス語に触れるように努力してください。		

科目名	フランス語Ⅱ（二外）	担当者名	各担当教員
-----	------------	------	-------

講義の目標	一年次に学んだフランス語の基礎知識を復習しながら、フランス語の多様な表現を学びます。		
講義概要	フランス語Ⅱ（二外）は、二人の担当者により週2コマ開講されます（内1コマは、フランス人教員によるフランス語会話の授業）。		
使用教材	テキスト	各担当者による（場合によっては、二人の担当者で共通の教科書を用いることもありますので、教科書販売所の掲示を確認してください）。	
	参考文献		
評価方法	評価方法については各担当者から説明があります。		
受講者に対する要望など	授業の進め方などについて説明がありますので、第一回目には必ず出席してください。		

科目名	法学入門	担当者名	坂本延夫 後藤巻則
-----	------	------	--------------

講義の目標	<p>法学部の学生として、専門科目の勉強をするに際して必要な基礎的知識を修得させること。専任教員が、かなり多くの法分野について、それらがどのようなものであるのかの概説を行うので、コースの選択あるいは専門ゼミの選択にも役立ちうるであろうこと。</p>	
講義概要	<p>詳しくはレジュメ集を見られたい。法令の常識、判例の常識、文献検索法などに立ち入ることは、従来の「法学」の講義では不十分ではなかったかと思われ、これらの点も特色といっていよいであろう。</p>	
使用教材	テキスト	各授業内容の概要を示したレジュメ集を配布する。
	参考文献	各教員ごとに、指示がある。
評価方法	<p>年二回の学期末定試による。担当教員が各自出題し、そのなかから選択し解答させる。採点は出題者が行う。</p>	
受講者に対する要望など	<p>独立した内容の講義が続くので、欠席すると全体像が把握し難くなる。止むを得ない事情の他は欠席しないこと。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	学部長挨拶 開講にあたって
2	法令の常識
3	判例の常識
4	判例の常識
5	民法の世界①
6	民法の世界②
7	労働法の世界①
8	労働法の世界②
9	文献検索法
10	民法の世界③
11	商法の世界
12	基礎法の世界
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	教育法の世界
2	民事手続法の世界
3	国際法の世界①
4	国際法の世界②
5	行政法の世界①
6	行政法の世界②
7	刑法の世界
8	刑事手続法の世界
9	憲法の世界
10	憲法の世界
11	法哲学の世界
12	
備考	

科目名	政治学入門	担当者名	柴田平三郎
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>現代の政治は国の内側においても外側においても複雑をきわめている。簡単に理解しうるなどと夢々思わないほうがよいと思う。マックス・ウェバーは政治を理解するには年をとらねばならないと言ったが、けだし至言である。この政治学入門は、文字通り政治を学ぶ入口の役目が課されていると思うが、その政治は結局人間によって営まれているので、政治と人間のかかわり合いの姿を注目していくことに力点が置かれると思っている。</p>	
講義概要	<p>単なる時事問題の解説とか制度の仕組みの解説とかではなく、政治の原理を学ぶ場所にしたいと考えている。</p>	
使用教材	テキスト	<p>この原稿を書いている時点では未定。</p>
	参考文献	<p>政治学の基礎文献は無数にある。講義のなかですできるだけ多く紹介するつもりである。この講義が終ったあとにおいてもじっくり読み続けてほしいと思っている。</p>
評価方法	<p>前期・後期の2回のテキストを基本に評価を決定する。その間、レポートを課す場合もありうる。</p>	
受講者に対する要望など	<p>言わずもがなのことであるが、学びたい意欲のある者だけが講義への真の参加者である。そのことをよく弁まえてほしい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	〔以下は、あくまでも当初の予定である。型通りに進まない可能性のあることを断っておく。〕 政治学入門を始めるにあたって。
2	政治とは何か。政治の定義の多様性。その語源的意味と歴史的変容。
3	政治の構造的な理解——力・倫理・技——について論じる。
4	同つづき。
5	政治と人間のかかわり合いについて論じる。
6	同つづき。
7	政治学の学問的性格——哲学と科学。
8	同つづき。
9	政治を動かすもの——力と思想の二契機。
10	(1)力〔権力〕の理解。
11	同つづき。
12	前期のまとめ。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	(2)〔思想〕の理解。
2	同つづき。
3	近代国家とは何か——歴史・思想・制度。
4	同つづき。
5	近代を動かした三つの政治的イデオロギー——保守主義・自由主義・社会主義。
6	同つづき。
7	同つづき。
8	民主主義とは何か——歴史・思想・制度。
9	同つづき。
10	現代日本の政治。
11	同つづき。
12	後期のまとめ。
備考	

科目名	政治学入門	担当者名	白井久和
-----	-------	------	------

講義の目標	政治学の基本的な概念と、政治の構造と仕組みについて講述する。	
講義概要	よく「政治化の時代」といわれる。われわれの日常生活は、現実の政治の動きに大きな影響を受けている。この政治の実態を権力と自由、国家と個人という根源的な視点から理論的に検討し、現代政治学の課題とは何かを明らかにできればと考えている。	
使用教材	テキスト	特定のテキストを使うことはない。
	参考文献	講義の初めに文献リストを配布する。
評価方法	前期レポート、後期試験。両者を総合して評価する。	
受講者に対する要望など	受講者は学ぼうとする意欲のある学生だけにしてほしい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間の講義概要と参考文献の紹介。
2	政治学と「政治化の時代」
3	政治の概念（1）－政治的なるものとは何か
4	政治の概念（2）－権力現象説
5	政治の概念（3）－政治システム論
6	政治学の方法
7	政治学における科学性
8	政治制度（1）
9	政治制度（2） 国民主権・権力分立・代表制
10	民主主義－自由民主主義・人民民主主義・指導民主主義
11	政治権力の本質－原型と正統性
12	政治権力の手段
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	政治的リーダーシップ（1）リーダー論
2	政治的リーダーシップ（2）リーダーの類型
3	リーダーシップの課題と機能
4	政治的態度の形成
5	政治的無関心
6	政治のプロセス（1）政党
7	政治のプロセス（2）圧力団体
8	政治のプロセス（3）マス・メディアと世論
9	政治変動－革命と戦争
10	外交と国際政治
11	国際連合と日本
12	地球環境問題
備考	

科目名	国際関係論入門	担当者名	増島 建
-----	---------	------	------

講義の目標	変動の渦中にある現代の国際関係の動きを、体系的・理論的に把握できるようにする。	
講義概要	講義では、(1)国際関係に関する理論、(2)国際関係の歴史、(3)国際関係の現状・問題点、解決の試み、を順に取り上げる。	
使用教材	テキスト	特に指定せず。
	参考文献	その都度紹介する。
評価方法	主として学年度末試験によるが、前期末に提出してもらい簡単なレポートも参考にする。	
受講者に対する要望など	国際関係は日常生活において日々出会うが、日常生活の論理では理解できない。この機会に国際関係の見方を養おうとの意欲をもって欲しい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンス
2	国際関係理論の歴史
3	国際構造レベルの国際関係理論(1)
4	同上(2)
5	国内構造レベルの国際関係理論(1)
6	同上(2)
7	個人レベルの国際関係理論
8	国際関係理論の現在の諸潮流
9	冷戦の歴史 (国際関係の歴史 1)
10	ベトナム戦争の歴史 (国際関係の歴史 2)
11	ヨーロッパ統合の歴史 (国際関係の歴史 3)
12	アフリカの国際関係 (地域別国際関係 1)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ヨーロッパの国際関係 (地域別国際関係 2)
2	中近東の国際関係 (地域別国際関係 3)
3	アジアの国際関係 (地域別国際関係 4)
4	核兵器の軍備管理と不拡散 (現代国際関係の諸問題 1)
5	世界の貧困・開発と開発援助 (ODA) の役割 (現代国際関係の諸問題 2)
6	地域紛争と PKO (現代国際関係の諸問題 3)
7	難民・移民問題 (現代国際関係の諸問題 4)
8	環境問題 (現代国際関係の諸問題 5)
9	比較外交政策
10	グローバルな性格の多国間協議・機関
11	地域的な性格の多国間協議・機関
12	NGO、個人の国際関係における役割
備考	

科目名	国際関係論入門	担当者名	宮里政玄
-----	---------	------	------

講義の目標	国際関係について基礎的な理論、知識、判断力を与えること。		
講義概要	前期では第二次世界大戦後の国際関係史を講義する。とくに冷戦の歴史、冷戦終結後の国際情勢などを扱う。また、発生する国際的な事件についてもその都度、新聞などを用いて取り上げる。後期では、国際関係の理論を紹介する。また、冷戦終結後のさまざまな問題も討議する。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・百瀬 宏『国際関係学』東京大学出版会、1994年。 ・中嶋嶺雄『国際関係論』中公新書。 	
	参考文献	国際関係史や理論について適宜指定する。	
評価方法	期末筆記試験を行う。原則として追試は行わない。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の全体の内容、テキスト、参考文献などについての紹介。
2	第二次大戦中の米ソ関係
3	冷戦の始まり。
4	中国革命、朝鮮戦争など。
5	1950年前半の国際関係—ベトナム戦争、ジュネーブ会議など。
6	1950年代後半の国際関係
7	キューバ・ミサイル危機
8	米ソの緊張緩和（デタント）
9	ベトナム戦争
10	冷戦の終結
11	冷戦後の世界
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国際関係とは何か。
2	国際関係の理論の歴史—第一次世界大戦後の「理想主義」
3	1930年代—冷戦期のリアリズム（現実主義）
4	リベラリズムからの批判
5	リアリズムとリベラル制度論の論争
6	国際関係論の現状
7	対外政策決定理論の紹介
8	同上
9	現代の国際問題
10	同上
11	同上
12	総まとめ
備考	

科目名	社会科学概論	担当者名	堅田 剛
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>社会科学は法学・政治学・経済学等の総称であるが、人間社会についての総合的・学際的な学問の性格をも有している。この意味での社会科学を、わが国は明治以降今日にいたるまで主に西洋諸国から受け入れてきた。日本の社会学者たちは、西洋の学問と日本社会との結合をいかに試み、なにを獲得しどこで失敗したのか。</p> <p>今年度は「日本の社会科学」をテーマに、こうした問題に思想史的検討を加えてみたい。時代的には幕末から第二次大戦後まで、人的には福沢諭吉から丸山真男あたりまでを扱う。明治期の独逸学協会についても触れる予定である。</p>		
講義概要	<p>石田雄の『日本の社会科学』をテキストとして用い、講義は概ねこれに即しておこなう。著者は丸山真男の流れをくむ政治学者であるが、私としては法思想史の立場からこれに取り組んでみたい。具体的な内容については年間講義予定欄で確かめてほしい。</p> <p>著者は「国家」「民衆」「階級」「民族」「人民」「市民」といったキーワードと、国家学会・社会政策学会・黎明会・昭和研究会などの活動面とから、実証的に「日本の社会科学」を検証している。重いテーマではあるものの、こうした構造を踏まえて読めばけっして難解なものではない。必要に応じて私なりの見解を付け加えたり関連資料を配付したりするけれども、基本的にはテキストの読解を中心に講義を進めるつもりである。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・石田雄『日本の社会科学』東京大学出版会、1984年</p>	
	参考文献	<p>①水田洋『社会科学の考え方——人間・知識・社会——』講談社現代新書、1975年 ②日高普『社会科学入門——社会の仕組みと現実の見方・考え方——』有斐閣新書、1980年 ③猪口孝『社会科学入門——知的武装のすすめ——』中公新書、1985年 ④『岩波講座 社会科学の方法』全12巻、岩波書店、1993/94年。</p>	
評価方法	<p>各学期末に筆記試験をおこない、両方の点数を考慮して学年の成績とすることを原則とする。採点に際しては、誤字・脱字等を細かくチェックする。また「自分の頭で考えた」答案のほうを高く評価する。状況により出席点を加味する。さらに、自由提出のレポートを受け付ける。</p>		
受講者に対する要望など	<p>レポートの提出は任意とするが、当然ながら成績評価の対象となる。内容により、上限を20点として加算する。この「特典」は2回の定期試験を受けた者にのみ適用する。積極的にレポートを書いてほしい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	社会科学とはなにか (ガイダンス、社会科学の構造、日本の社会科学、問題提起)
2	「一国独立」と国家学 (「天下」「国家」および「臣民」)
3	同上 (社会諸科学の萌芽と国家学会)
4	同上 (個別科学への途)
5	「社会」の意識化と社会政策学会 (「社会」の意識化における日本的特質)
6	同上 (社会政策学会における「国家」と「社会」)
7	同上 (社会政策学会への批判と内部分化)
8	「民衆」の登場と市民社会の自己主張 (「民衆」の登場)
9	同上 (知識人の集団形成)
10	同上 (大正デモクラシーと社会理論の方法)
11	「階級」の出現と「社会科学」 (「階級」の意識化)
12	同上 (マルクス主義による「社会科学」の独占)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「階級」の出現と「社会科学」(統) (日本におけるマルクス主義の問題性)
2	危機意識と「民族」共同体 (「非常時」と「民族」)
3	同上 (「参与」する社会科学者)
4	同上 (マルクス主義以後の社会科学)
5	敗戦における社会科学の蘇生 (「人民」の時代から「大衆社会」へ)
6	同上 (「悔恨共同体」の中の集団化とその帰趨)
7	同上 (戦後社会科学の思想)
8	「市民」の噴出と現代社会科学の課題 (「市民」の噴出とそれ以後)
9	同上 (社会諸科学の専門分化とその問題性)
10	同上 (今日の問題状況と社会科学の課題)
11	むすび (日本の社会科学の反省)
12	予備
備考	

科目名	経済学	担当者名	岡田 博
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>経済学の入門書をテキストに使用して、経済学の基礎理論を講義する。講義では経済学の基礎知識の修得とともに、現実の経済にも関心を深めその動きを洞察する力が少しでも涵養されるように意を用いたい。</p>		
講義概要	<p>経済学の基礎理論をできるだけ理解し易いように講ずる。講義の主内容は、経済学の方法、経済体制、経済循環、国民所得、貨幣と金融、財政と財政政策、消費の理論、生産の理論、市場理論、等々。</p>		
使用教材	テキスト	<p>未定、最初の講義のときに指示する。</p>	
	参考文献	<p>・川口他：『経済学入門』有斐閣、他。</p>	
評価方法	<p>学年末の定期試験の成績で評価する。場合によっては前期末の定期試験も行う。また出席も時々とり、これも評価の参考に加える。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業に欠席しないこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済学とはどんな学問か：経済問題の根源、経済学の定義、ミクロ経済学、マクロ経済学
2	経済体制についてⅠ：経済体制とは、経済体制の共通課題
3	経済体制についてⅡ：体制分類の視点、資産の所有制度、経営管理のあり方、経済活動の調整機構、経済的成果の比較
4	資本主義市場経済の特徴：経済主体とその行動、市場の役割
5	混合経済体制における政府の役割：所有権と契約の保護、経済政策
6	経済循環：生産から消費への財・サービスの流れの概観
7	国民所得の概念：GNP, NNP 等々、わが国の国民所得
8	国民所得の決定：有効需要の原理、消費関数と乗数理論
9	国民所得の変動：景気循環、インフレーション
10	貨幣と金融Ⅰ：貨幣の形態・機能、資金と金融市場
11	貨幣と金融Ⅱ：貨幣創出の機構、信用創造
12	貨幣と金融Ⅲ：金融政策
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	財政Ⅰ：政府の経済的機能の拡大、予算制度、わが国の予算
2	財政Ⅱ：租税、わが国の税制
3	財政政策Ⅰ：財政政策の目標
4	財政政策Ⅱ：資源配分と財政政策、所得再分配と財政政策、経済安定と財政政策
5	消費の理論Ⅰ：消費者と効用、消費者の合理的選択
6	消費者の理論Ⅱ：序数的効用理論と消費者均衡
7	生産の理論Ⅰ：供給と費用
8	生産の理論Ⅱ：利潤極大の条件、生産関数
9	市場価格の決定Ⅰ：需要と供給
10	市場価格の決定Ⅱ：市場構造
11	国際経済：国際収支、為替相場、貿易と開発
12	おわりに
備考	

科目名	経済学	担当者名	小尾 恵一郎
-----	-----	------	--------

講義の目標	<p>受講生が経済学を学ぶ意義がよく理解できるようになること。</p> <p>経済学はどう展開されてきたか。</p> <p>経済学は経済政策にどうかかわりと役割をもつか。</p>	
講義概要	<p>(1)経済学のスミス以来の展開</p> <p>(2)ケインズ以前の経済学 ケインズの経済学—その意義—</p> <p>(3)経済発展・成長のしくみ</p> <p>(4)経済政策の意味・経済学との関連</p> <p>前半は(1)、(2)。これをふまえて後半は(2)と(3)(4)を中心として講義をする。</p>	
使用教材	テキスト	<p>単一テキストは用いない。</p> <p>適時、適当な教材をコピーして配布。</p>
	参考文献	同上
評価方法	<p>図や式の理解も時に必要ではあるが講義内容の全体的な理解度を重視する。</p>	
受講者に対する要望など		

科目名	社会学	担当者名	有吉広介
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>現代社会の諸問題は、近代に起こり、現在も進行している産業化、これに引き続いて起こりつゝある脱産業化、そしてこれらが引き起こした社会構造の変化とおおいに関係がある。本講義では、この視点から、現代のわれわれの日常生活にみられる諸変化と、そこにあるさまざまな社会問題とを考えてみたい。</p>		
講義概要	<p>豊かで、ゆとりある生活の実現とか、余暇の確保とかがテーマになる時代に、現実には、企業では能率主義的管理体制のもとにサービス残業が求められたり、過労死までもがみられる。その背景には、日本社会の特殊性もあるが、市場原理に結びついた産業化の論理が社会や文化に浸透し、これらを変化させてきた事情がある。核家族化、組織の官僚制化、都市化、流動社会化、学歴主義化、高齢化と少子化、福祉化などもそうした流れのなかに起こる。産業化が職業生活を含めてわれわれの日常生活のなかで社会問題をどのように生みだしているのかを講義の論旨にして、前記の諸現象の源をも説明していく。講義の進行は、講義メモを配布して理解を深めることによる。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	随時紹介。	
評価方法	<p>評価は、前・後期の定期試験期間中に各一回おこなう試験の成績による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義に出席し、そこで要点を把握すること</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	社会学の先駆者サン・シモンやオーギュスト・コントなどにおける社会学のテーマ
2	古典的社会学者F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウエーバーなどにおける近代社会の理解
3	古典的社会学者F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウエーバーなどにおける近代社会の理解
4	古典的社会学者F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウエーバーなどにおける近代社会の理解
5	社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方
6	社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方
7	現代の職業構造の分析
8	雇用社会と職業的キャリア
9	産業社会における知識の性格と教育
10	日本の近代化、教育システム、および学歴社会
11	社会的不平等の諸次元
12	不平等の構造化
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	社会移動の現実
2	日本の階層社会と社会移動
3	管理社会の中核としての近代官僚制
4	近代的経営の社会構造
5	日本的組織構造
6	都市化と地域社会
7	家族の定義・類型、そして核家族化・少子化
8	家族のライフサイクルの変化
9	高齢化社会の人口学的および社会学的分析
10	高齢化社会における社会問題
11	生活の質を考える。
12	まとめ
備考	

科目名	社会思想史	担当者名	市川 達人
-----	-------	------	-------

講義の目標	私たちの政治や経済に対する見方・考え方のなかに生きている近代的社会観の生成を、その誕生の時と所にさかのぼって理解することを目的とする。		
講義概要	ルネッサンスを起点として19Cあたりまでの社会思想の歴史を概観する。近代市民社会の成立・成熟を支えた政治思想、経済思想、哲学などの流れをたどることとなるが、それぞれの時代を代表する人物の思想に焦点をあてた講義となる。現在、リベラリズムが時代の関心となっているが、その形成と限界というのが隠れたテーマとなる。		
使用教材	テキスト	渋谷一郎編『社会思想の歴史』八千代出版社	
	参考文献	講義で適宜指示	
評価方法	後期の一括試験で評価を与える。前期末にレポートの提出を求める場合もありうる。		
受講者に対する要望など	私語厳禁		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間予定。講義の目的と課題、講師の問題意識。
2	思想史の方法。社会とは。社会思想の歴史的類型。
3	近代市民社会について（西欧的社会観の原型と展開）
4	ルネッサンスと都市。
5	マキャヴェリズムとマキャヴェリ評価の歴史。
6	マキャヴェリと『君主論』。
7	ユートピア思想一般について。
8	トマス・モアの『ユートピア』。
9	中世の教会改革運動。千年王国説。後期スコラ学派。
10	ルターの改革運動、神学、政治思想。
11	ルターの職業倫理。カルヴィニズムの二重予定説。
12	カルヴィニズムと近代合理主義。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ヨーロッパにおける自然思想の歴史（古代ギリシャ、中世、近代）。
2	ホッブズの人間観と自然権思想。
3	ホッブズの国家論。
4	ロックの市民政府論。
5	ロックの所有権理論とリベラリズムの原点。
6	フランス啓蒙思想（ヴォルテール、ディドロ、モンテスキュー）
7	ルソーの啓蒙批判と社会批判(1)
8	ルソーの啓蒙批判と社会批判(2)
9	マダム・スミスと経済的自由主義、市民社会の交通理論。
10	社会主義思想の諸潮流。
11	マルクスの社会主義と現代への影響。
12	まとめ。
備考	

科目名	社会思想史	担当者名	松丸 壽雄
-----	-------	------	-------

講義の目標	歴史観、社会観を自らの判断のもとで形成することができるように、批判的なものの観方を得ること。	
講義概要	それぞれの社会には、それぞれの歴史的状況、習慣などにより、異なったものの考え方が生じうる。それは社会をどう考えるかという思想までに展開することもあるし、それぞれの時代の単なる傾向に終わる場合もある。しかし、それと社会思想の一つと考えられる。本講義では、「社会思想」を上のような広い意味に捉えて、特に日本人の社会に対する考え方、主に西洋人の社会に対する考え方を比較しながら明らかにしたい。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	講義中に指示
評価方法	受講者が多い場合には、筆記試験も考えられる。受講者が相応であれば、最低年二回のレポートと授業への貢献度（例えばディスカッションへの参加）により評価。	
受講者に対する要望など	例年他人のレポートを写すだけで、あるいはただ調べただけのものをレポートにする人が後を絶たない。自分でものを考えようと努力する人が受講することを望む。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の概要説明
2	受講者数の調整
3	明治時代の社会
4	明治時代と江戸時代
5	明治以降の家族制度から見た社会観
6	明治以降現代までの風俗から見た社会観
7	芸術作品から窺える自然観、世界観
8	同上
9	現代の自然観、世界観
10	現代の社会観
11	できれば、ディスカッション
12	前期の総括
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期のまとめと後期の講義の概要
2	ヨーロッパの芸術作品から見た自然観、世界観
3	同上
4	同上
5	ヨーロッパの中世以降近代に至る歴史現象から見た世界観、社会観
6	同上
7	同上
8	ヨーロッパの現代の生活様式から見た人間観、社会観
9	同上と日本の場合の比較
10	同上
11	できればディスカッション
12	年間の総括
備考	

科目名	歴史学概論（日本史）	担当者名	新井孝重
-----	------------	------	------

講義の目標	13世紀の中頃から畿内を中心にあらわれる盗賊武士団＝悪党を、鎌倉時代の体制がもつ矛盾と関連づけて観察し、彼らの活動が客観的にはたした歴史的意味をさぐる。	
講義概要	鎌倉体制の崩壊とそれにつづく建武政権・南北朝の内乱の過程を民衆の視点から詳論する。北条得宗専制の体制は、地方農村にいかなる重圧を加えていたのか、その体制に反抗する悪党と呼ばれる集団は、いかなる人びとであったのか、建武政権はどのような政策をとったのか、そしてこの政権の政策に対する武士の対応はどのようなものであったか、さらに南北朝内乱期の民衆の武力がいかなる特質をもっていたのか、などのことがらを見る。	
使用教材	テキスト	・新井孝重『中世悪党の研究』吉川弘文館
	参考文献	・網野善彦『蒙古襲来』小学館、日本の歴史 ・佐藤進一『南北朝の動乱』中央公論、日本の歴史（中公文庫にあり）
評価方法	評価は、後期の試験成績をもってする。	
受講者に対する要望など	紳士的な態度でリラックスして聴いていただければよい。	

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	寺社に現われる悪党。これまで荘園を支配し、悪党に対峙する存在として考えられてきた寺院や神社内部から、実は悪党が発生している事実を注目する。
2	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(1)寺院内部の構造としくみを観る。とくに僧房という私的空間に僧の武装慣行のはじまった事実を注目。
3	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(2)寺院の全体意志の形成原理、実現の様式を注目し、それとの対抗的存在と行動を「悪僧」にみる。
4	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(3)寺院「悪僧」と農村武士悪党とのつながりを観察する。
5	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(1)中世成立期荘園制の概容をながめる。
6	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに名主と名田に対する権力の統制装置を「没官」を通じて考える。
7	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに下司・公文など荘官層のかかえもつ矛盾を別出する。
8	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに〈荘園〉を構成する寺院権力の在地とのかかわり方をみる。
9	幕府権力の動態(1)鎌倉幕府の成立と將軍専制のありようを概観する。また、地方の行政権力としての守護、地頭を発生経路と役割の面からみる。
10	幕府権力の動態(2)鎌倉幕府の内部における執権と評定制にみられる権力の安定性と、武家政治の充実をみる。
11	幕府権力の動態(3)鎌倉幕府の得宗家の専制化と権力の不安定化を、モンゴル襲来、御家人窮乏、霜月騒動を通じてながめる。
12	悪党の跳梁は、鎌倉時代政治史に何をもたらしたか。前期授業の総括を兼ねて北条得宗専制と公家、寺社の伝統的・門閥的支配に反抗する悪党を観る。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	南北朝内乱期悪党の群像(1)伊賀国黒田荘悪党金王兵衛盛俊の動きを追う。
2	南北朝内乱期悪党の群像(2)伯耆の土豪・武装商人であった名和長年の動きを追う。
3	南北朝内乱期悪党の群像(3)河内の土豪武装芸能民であった楠木正成の動きを追う。
4	建武政権の崩壊(1)後醍醐天皇はいかなる権力の樹立をめざしたか、理念と現実をみる。
5	建武政権の崩壊(2)政権を崩壊にみちびいた足利尊氏・直義の動きを観察する東国足利荘を基盤として成長した豪族領主足利氏を観る。
6	建武政権の崩壊(3)南北両朝の大分裂、足利族内抗争(観応の擾乱)の政治過程を通観する。
7	内乱を通じて何が変わったか。(1)変わる戦争の形態、騎馬から徒歩立の戦闘、悪党の傭兵化、足輕の発生。
8	内乱を通じて何が変わったか。(2)変わる村の生活、旧名体制がくずれて、新たな小百姓らをふくむ惣村が形成された。
9	内乱を通じて何が変わったか。(3)民衆の発言力の増大。荘園にくらす農民たちは、みずからの結合組織をバックに、さまざまな戦いを開始する
10	バサラと芸能(1)内乱期の文化表現にバサラというのがある。バサラ大名の佐々木道誉、土岐頼遠の行動様式を通じてバサラについて考える。
11	バサラと芸能(2)中世を貫徹する「狂」の表現(バサラをも通底する)を、“悪”なるものを基礎にして考える。寺院大衆の延年、猿楽などを観察。
12	中世の終焉。中世的な世界を、地侍の一揆体制という形で実現していたかつての悪党の巢窟伊賀国は、近世の先駆的権力織田信長に滅ばされた。
備考	

科目名	歴史学概論（日本史）	担当者名	齊藤 博
-----	------------	------	------

講義の目標	地域民衆史や全体史としての社会史の立場から、日本および日本人のトータルな課題に迫る。思想・人物・地域の三視点から日本人像に照射を加えたい。		
講義概要	<p>読書を通じての思索によってしか、歴史的なものの見方は身につかない。「若者の感性」やマスメディアの多数派思考やCM的流行ムード、あるいは国民的多数のマインドによって、歴史学を水に薄めるわけにはいかないのである。きちんとした専門書、あるいはしっかりした啓蒙書を読むことが、歴史学の学習には求められている。</p> <p>レポートは、「我が家の歴史」である。夏期休業中に祖父母、家業、家系についての聞き取り調査、文献文書の報告書（400字詰縦書き5枚以上）を提出（後期第1回目授業まで）する。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・齊藤 博『歴史の精神』学文社 ・齊藤 博『民衆史の構造』新評論 	
	参考文献	講義の間に、12冊以上を紹介する。そのうち2～3冊は是非とも通読してもらいたい。	
評価方法	前期と後期にペーパーテスト（論文形式）がある。		
受講者に対する要望など	出席が良好でないとう理解しにくい内容・傾向・水準にある。日本史だから日本人にはよくわかる、ということはない。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本および日本人について。日本史の特徴Ⅰ、日本人が日本史を学ぶ困難性
2	日本史の特徴Ⅱ、風土と歴史、日本史研究者像Ⅰ、新井白石、本居宣長、伴信友
3	日本史研究者像Ⅱ、津田左右吉、和辻哲郎、柳田国男、喜田貞吉、服部之総、羽仁五郎
4	日本史研究者像Ⅲ、瀧川政次郎
5	日本史研究者像Ⅳ、芳賀登、色川大吉、井上幸治
6	地域民衆史の視座と方法
7	「日本的なもの」を考える
8	「天への想い」Ⅰ、日中歴史学の比較と対照、東洋的歴史像の構築
9	「天への想い」Ⅱ
10	アジア的共同体論についてⅠ
11	アジア的共同体論についてⅡ
12	「我が家の歴史」をどう記録するか
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	近世史と近代史の問題点Ⅰ
2	近世史と近代史の問題点Ⅱ
3	明治維新論Ⅰ
4	明治維新論Ⅱ
5	高杉晋作の漢詩集を読む、教育精神の系譜から（獨協精神）、吉田松陰論、品川弥二郎論
6	同上Ⅱ、幕末維新論Ⅰ（日本資本主義発展史の視座から）
7	同上Ⅲ、幕末維新論Ⅱ
8	同上Ⅳ、幕末維新論Ⅲ
9	同上Ⅴ、幕末維新論Ⅳ
10	同上Ⅵ、幕末維新論Ⅴ
11	同上Ⅶ、近代化論をどう考えるか。
12	まとめ（総括）—日本および日本人論をめぐって
備考	

科目名	歴史学概論（東洋史）	担当者名	春日井 明
-----	------------	------	-------

講義の目標	<p>我々日本人は近代化の過程でアジアに対する視点を失い、語りかける言葉を失ってしまった。語りかけるにも語りかける術を知らないということは、彼等との歴史的土壌の共通性への感覚を失っているからである。アジアと言っても、近代化以前は中国文化圏と言い換えることができる東アジアの世界が、日本の歴史や文化の形成に深く関わり、我々の意識の深奥に東アジア的価値観とも言うべきものが存在することを歴史を材料として考えてみたい。今後の新しい価値観の創造に連なる意味ももつであろう。</p>	
講義概要	<p>東洋史の名で呼ばれる歴史世界の領域は非常に広い。そこで、歴史学でその対象としている東洋世界の気候風土の全体像と地域的な相違を大まかに理解し、その上で、日本の歴史・文化が育まれた東アジア世界に講義の中心を置き、さらにより焦点を絞って、日本の歴史の展開が東アジアの世界形成とその構造とどのように結びついていたかを観ることにする。日本史を国際関係の中に位置づけて理解するということである。扱う時代は19世紀以前とする。</p> <p>以上を講義の骨格としながら、日本文化論に登場する幾つかの文化価値についても東アジア世界という立場から考えてみたい。</p>	
使用教材	テキスト	・西嶋 定生『中国史を学ぶということ』
	参考文献	講義中に、随時紹介するものとする。
評価方法	<p>学年末に、常時出席者を対象として筆記試験を行う。出席していなかったものは、原則として受験資格を失う。</p>	
受講者に対する要望など	<p>講義中の私語は厳禁。違反者はその時点で退室してもらおう。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	アジアの風土と地理(1)
2	同 上 (2)
3	西アジア世界、中央アジア世界、北アジア世界、南アジア世界の素描(1)
4	同 上 (2)
5	東アジア世界の始まりと中国史
6	東アジアの一員としての日本の位置
7	漢字文化圏の成立と東アジア世界の関係
8	漢字について——その歴史的価値
9	冊封体制——東アジアの国際関係——の成立
10	女王卑弥呼の国際感覚と国際情勢
11	倭の五王と国際感覚と国際情勢
12	隋唐帝国の成立と、聖徳太子及び天智天皇の国際感覚の欠如
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	唐詩と平安文学を、歴史意識の視点から比較する。
2	10世紀から11世紀にかけての東アジアの変動(1)
3	同 上 (2)
4	日本の武家政権の有国際性と無国際性——(1)日宋貿易と勘合符貿易
5	同 上 (2)蒙古襲来と秀吉の朝鮮出兵
6	ヨーロッパのアジア貿易——茶をめぐる(1)
7	同 上 (2)
8	江戸時代の国際交流(1)——対中国
9	同 上 (2)——対朝鮮
10	祖先信仰と天の思想
11	中国の儒教(1)
12	同 上(2)
備考	

科目名	歴史学概論（東洋史）	担当者名	熊谷哲也
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>西アジアの歴史について講述する。イスラーム教徒が共有する過去を知ることにより、彼らが何を常識とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。</p> <p>イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、ここでじっくりと腰を落ち着け、彼らの歴史を学ぶことはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。</p>	
講義概要	<p>前期は7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀までの歴史を概観し、イスラーム教の拡大によって広大な宗教世界が形成される様子を理解する。宗教・社会・文化についての基本的な知識も学ぶ。</p> <p>後期はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別、テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな問題について、関心と理解が深められるよう留意する。</p>	
使用教材	テキスト	とくに定めない。
	参考文献	夏休みあけに読書レポートを提出していただくが、そのためにイスラームに関する新書程度の本を用意してもらおう。詳しくは授業で指示する。
評価方法	試験とレポート。発想のオリジナリティーを重視する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。
2	イスラーム教の誕生以前の世界について考える。ユダヤ教やキリスト教の知識が必要である。
3	預言者ムハンマド（マホメット）の出現と、その時代背景について考える。彼の教えがアラビア半島内にひろまる経過を理解する。
4	最初の4人のカリフ（正統カリフ）について考える。第一次内乱、シーア派の出現を理解する。
5	ウマイヤ朝の歴史について考える。これがヴェルハウゼンの古典理論において「アラブ帝国」と定義される意味を検討する。
6	アッバース朝の歴史について考える。その成立が、古典理論において「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行と定義される意味を検討する。
7	イスラーム教の聖典であるコーラン（クルアーン）、預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって成立・発達した初期思想とその展開について学ぶ。
8	アッバース朝時代から発達したアラビア科学とその内容について、また、中世イスラーム社会において民衆教化の役割をはたしたイスラーム神秘主義（スーフィズム）について考える。
9	アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現した軍事政権とその発展について考える。
10	エジプトのマムルーク朝について考える。とくにイクター制が西ヨーロッパの封建制と比較される点を検討する。
11	ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考察する。レコンキスタ、十字軍、大航海時代、それらが作り上げたヨーロッパの人々の歴史観について検討する。
12	予備
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	オスマン朝の成立と発展について考察する。この王朝が「完成されたイスラーム国家」と呼ばれる点について検討する。また、カピトレーションの問題をとりあげる。
2	欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について考えながら、アジアにおける近代化の枠組をひとまず一般論として把握する。
3	西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動とその内容を考える。欧化主義や原理主義（復興主義）が成立する基本的なメカニズムを理解する。
4	さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・スーフィズムなどの問題について考える。
5	エジプトの近代化とその過程について考える。
6	トルコの近代化とその過程について考える。トルコ・ナショナリズム、パン・イスラミズムを理解する。
7	近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて、いくつかの問題をとりあげて考察する。
8	知識人層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会に固有なことがらを取りあげ、近代化との関係について考える。
9	近・現代のアラブ世界の文化について考える。
10	今世紀のイスラーム世界について考える。イスラーム諸国における民族主義とそのゆくえ、マイノリティーの問題をとりあげる。
11	東西冷戦終結後におけるイスラーム諸国と欧米諸国との関係を考える。
12	予備
備考	

科目名	歴史学概論（西洋史）	担当者名	高橋正男
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>近年我々はユーラシア大陸の大半を占める西欧、東欧・ロシア、中東で起こった政治情勢の変転に際し、人間生活の過去を構築する歴史学への興味をかきたてられている。本年度は文明の発生から現代に至るまでの政治・社会史に重点をおいた西洋史の大勢をイェルサレムを基点に世界史的な連関のもとに多面的・立体的に理解させることを主眼とし、受講生とともに日本人の視点から西洋史を現代国際関係から見直し21世紀を展望してみたい。</p>		
講義概要	<p>講義は平明・概説的であるが、重要事項は詳述し、あわせて学界の研究状況も織り込んで紹介する。講義内容は別紙シラバスを参照されたい。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・高橋正男著『イェルサレム』（世界の都市の物語14）文藝春秋、1996年 ・高橋正男著『年表 古代オリエント史』（第2刷）時事通信社、1994年 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・高橋正男著『旧約聖書の世界』（第4刷）時事通信社、1994年 ・D=バハト著（高橋正男訳）『図説 イェルサレムの歴史』（第2刷）東京書籍、1994年 その都度紹介する。 	
評価方法	<p>前期・後期の筆記試験による。 講義資料等は出席者のみに配布する。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	歴史とは何か
2	先史時代・歴史時代
3	文明の発生
4	古代オリエント史の推移(1)
5	古代オリエント史の推移(2)
6	族長時代から王国成立まで(1)
7	族長時代から王国成立まで(2)
8	第一神殿時代 —前586年まで— (1)
9	第一神殿時代(2)
10	バビロニア捕囚時代
11	第二神殿時代 —前538～後70年—
12	第二神殿時代(2) まとめ・VIDEO
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ローマ時代 —70～330年—
2	ビザンツ時代 —330～638年—
3	初期ムスリム時代 —638～1099年—
4	十字軍時代 —1099～1187年—
5	アイユーブ朝およびマムルーク朝時代 —1187～1517年—
6	オスマン・トルコ時代 —1517～1917年—
7	イギリス委任統治時代 —1917～1948年—
8	イェルサレムの東西分断 —1948～1967年—
9	イェルサレム再統合 —1967年以降
10	第二次世界大戦後の中東情勢
11	現代歴史学の諸問題
12	後期のまとめ・VIDEO
備考	

科目名	歴史学概論（西洋史）	担当者名	古川 堅治
-----	------------	------	-------

講義の目標	本講座は「ヨーロッパの歴史」と題して、その統合と分裂の側面から通観し、今日のヨーロッパ連合が発展のどのような可能性をもっているかを考えることを目標としている。		
講義概要	講義は概説的に進めていくが、関連するテーマのビデオや映画などもできるだけ使って理解を深めるのに役立てたい。授業では細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、各テーマ毎に問題を提示し、それについて考えてもらうことを主眼にしているので、積極的かつ活発な質問、意見が出ることを期待されている。その意味でも自由に意見が述べられるようにアトホームな雰囲気、小じんまりとしながら進めていく。		
使用教材	テキスト	とくに使用することはない。	
	参考文献	フレデリック・ドルーシュ編／木村尚三郎監訳『ヨーロッパの歴史』東京書籍、1994年 クシントフ・ポミアン／村松剛訳『ヨーロッパとは何か』平凡社、1994年	
評価方法	前期・後期2回のレポートと何回かの小レポートで評価する。テーマ・枚数、メ切等については授業中に提示する。		
受講者に対する要望など	受身の姿勢ではなく、積極的に問題点を考え、議論する姿勢を期待する。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「はじめに」 ヨーロッパとは何か
2	「(1)先史文明から古典文明まで」(I) ・ヨーロッパ最初の耕作民 ・金属時代と地中海交易
3	「(2)先史文明から古典文明まで」(II) ・地中海世界におけるギリシアの発展 ・古典文明の最盛期
4	「(3)ローマ帝国の威光」(I) ・ローマ都市国家から世界帝国へ ・ローマ帝国のヨーロッパ
5	「(4)ローマ帝国の威光」(II) ・侵入と変動 ・新しいヨーロッパの成立に向けて
6	「(5)ビザンツ帝国と西欧世界」(I) ・ユスティニアヌスとビザンツ帝国 ・ビザンツ帝国の最盛期
7	「(6)ビザンツ帝国と西欧世界」(II) ・西欧世界とビザンツ帝国 ・東方と西方の宗教生活
8	「(7)中世のキリスト教世界」(I) ・中世ヨーロッパとキリスト教 ・ヨーロッパの封建制
9	「(8)中世のキリスト教世界」(II) ・都市のネットワーク ・文化的統一と政治的分裂
10	「(9)危機とルネサンス」(I) ・経済と社会 ・政治と行政
11	「(10)危機とルネサンス」(II) ・宗教と精神生活 ・文化の変容
12	「小 括」 前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「(11)新世界との出会い」(I) ・ヨーロッパの膨張 ・「大発見」の時代
2	「(12)新世界との出会い」(II) ・植民帝国の形成 ・世界経済と異文化との接触
3	「(13)宗教改革と絶対主義」(I) ・宗教革命 ・対抗宗教改革とカトリックの改革
4	「(14)宗教改革と絶対主義」(II) ・宗教戦争とヨーロッパの分裂 ・絶対主義のヨーロッパ
5	「(15)啓蒙の時代と自由の思想」(I) ・グランド・ツアー ・社会生活と経済
6	「(16)啓蒙の時代と自由の思想」(II) ・啓蒙の時代 ・アメリカの独立戦争とフランス革命
7	「(17)ヨーロッパの近代化」(I) ・自由主義と民族主義 ・都市化と人口増加
8	「(18)ヨーロッパの近代化」(II) ・農業改革 ・ヨーロッパの工業化と社会改革
9	「(19)自己破壊への道」 ・第1次大戦 ・第2次大戦
10	「(20)分裂から相互理解へ」(I) ・分裂したヨーロッパ ・復興と東西対立
11	「(20)分裂から相互理解へ」(II) ・危機への対応 ・EUの可能性
12	「総 括」 一年間のまとめ
備考	

科目名	文学概論(日本)	担当者名	北村 進
-----	----------	------	------

講義の目標	近代の小説を読み味わいながら、小説のおもしろさ、奥深さを学ぶとともに、人間・社会・愛・自分などについて考える。いろいろな作品を取り上げ解説を加えることによって、小説に対する興味を持たせたい。今が一番本を読める時期だからである。		
講義概要	近代のいろいろな人の短篇小説を読み、内容を把握しながらその作品の主題、作者の意図するところを探り、理解を深める。また作者についても学ぶ。作品を読んだ後は簡単な読後感想を書いてもらう。		
使用教材	テキスト	『近代の短篇小説』 (株)おうふう	
	参考文献	必要があればその都度指示する。	
評価方法	前期はレポート、後期は未定。 出席も重視する。		
受講者に対する要望など	休まず出席すること。積極的に意見を述べること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義の概要を説明し、近代文学の流れを概観する。アンケートに答えてもらう。
2	坂口安吾を取り上げる。坂口安吾について解説し、安吾の文学史における位置付け、及び「無頼派」について解説する。
3	坂口安吾「桜の森の満開の下」を読む。
4	「桜の森の満開の下」の作品世界について考察する。
5	太宰治を取り上げる。太宰治の生涯をたどりながら、文学活動を三期に分け、それぞれの特徴について解説する。
6	太宰治の前期の作品から一つ選んで読み、解説する。
7	「走れメロス」を取り上げ、この話の元となったシラーの詩との比較を通して作品化の方法について考察する。
8	太宰の中期の作品から一つ選んで読んでみる。
9	「桜桃」を読み、晩年の太宰について「家庭」という面から考察する。
10	横光利一を取り上げる。「新感覚派」について文学史をたどりながら解説する。
11	横光利一の「蠅」を読み、その作品世界について考察する。
12	横光利一の「頭ならびに腹」を読み、その作品世界について考察するとともに、千葉亀雄の「新感覚派の誕生」にも触れる。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	横光利一「春は馬車に乗って」を読む。
2	中島敦を取り上げる。中島敦について解説し、「名人伝」を読む。
3	「名人伝」について解説し、中島敦の文学方法について考察する。
4	中島敦の「文字禍」を読み、解説する。
5	武田麟太郎を取り上げる。武田麟太郎について解説し、「雪の話」を読む。
6	「雪の話」について解説する。
7	森鷗外の歴史小説を読み、解説する。
8	同 上
9	同 上
10	大江健三郎「他人の足」を読む。
11	「他人の足」について考察し、作品の意図をさぐる。
12	樋口一葉「十三夜」を読む。
備考	

科目名	文学概論(日本)	担当者名	中村文
-----	----------	------	-----

講義の目標	鎌倉時代の初めに成立した『建礼門院右京大夫集』を講読する。平家の全盛を背景とした華やかな宮中の女房として仕えた作者が、源平の争乱による恋人の戦死という悲痛な体験を乗り越え、自らの生涯を綴った作品の読解を通して、王朝最末期の動乱の時代を一人の女性がどのような姿勢と心情で生き抜いたのか、読み取っていききたい。また、人間が自己の体験を文字で記録することの意味について考えたい。		
講義概要	作者の建礼門院右京大夫は、平清盛の娘で高倉天皇の後となった徳子の許に仕える女房であった。平家の莫大な経済力に裏打ちされて、王朝の残り火のように展開した絢爛たる文化の中で、まだ少女のような作者は輝くように美しい天皇と中宮徳子の姿を仰ぎ見、平家の公達との風雅な交遊を楽しみ、宮仕えの煩わしさに悩み、二人の貴公子との恋に苦しんだ。そうした女房としての様々の体験を読み取りながら、実際の時代状況と照らし合わせて、彼女が何を書き残し、何を書かなかったのかを探り、戦乱や恋人の死を経験した女性にとっての追憶の意味や自己の生涯をことばによって再構成する理由などについて考えたい。		
使用教材	テキスト	久松潜一・久保田淳校注『建礼門院右京大夫集 付平家公達草紙』(岩波文庫)	
	参考文献		
評価方法	前期・後期各一回のレポートを提出してもらう。作品に対する読解の程度により判定する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイドンス。時代的背景についての解説。
2	序文。内と中宮。
3	中宮と建春門院。
4	実宗との贈答。実宗と維盛。
5	御八講。一枝の花。上の御笛。
6	友の恋。慶び申し。内裏近き火。
7	蘆分け小舟の櫛。のがれがたき契り。
8	おましのきりぎりす。尾花が袖。
9	風をいとふ花。御垣の花。
10	清経と大炊御門斎院中将。忘れ草。
11	維盛北の方との贈答。
12	西八条の遊び。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後白河院京極慰問。
2	臨時の祭。
3	雪の朝。朝顔の花。
4	面影に立つ夕。
5	中宮の御産。
6	色好むと聞く人。
7	焚く薬の煙。
8	なれし枕。夜床のほととぎす。
9	星合の空。
10	重衡の鬼物語り。
11	寿永・元暦の世のさわぎ。
12	ためしなき別れ。
備考	

科目名	文学概論（日本）	担当者名	肥田野 昌之
-----	----------	------	--------

講義の目標	日本の代表的な古典である『万葉集』を講読する。主として作品の背景をなす万葉の時代・万葉人の生活・歴史的事件などについて解説し、教養人として必要な「万葉集入門」となるような講義をしたいと思う。		
講義概要	前期は主として、初期万葉の歴史的事件を背景として、有間皇子や大津皇子の悲劇・額田王や但馬皇女などについて、その歌とのかかわりで物語風に概説する。また代表歌人たる人麻呂などの有力歌人群、東歌・防人歌の問題、伝説・説話の歌など広く検討してみたい。		
使用教材	テキスト	小野寛校註『万葉集抄』笠間書院	
	参考文献	斎藤茂吉『万葉秀歌』上下（岩波新書）	
評価方法	授業への出席と前・後期試験によって決定する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義概要の説明。『万葉集』について名義・成立・注釈書などを概説する。
2	巻一国歌大鑑番号1番・雄略天皇の歌について考える。
3	中大兄の三山歌について、いろいろな角度から考察する。
4	額田王とその歌についての説明と鑑賞。
5	柿本人麻呂とその長歌を中心に読む。
6	大津皇子・大伯皇女について、謀反事件を考察しながら、それらの歌を読む。
7	穂積皇子と但馬皇女の悲恋と歌物語について。
8	有間皇子の謀反と歌について、日本書紀を参考にして考える。
9	再び柿本人麻呂の短歌とその終焉について考える。
10	山部赤人「不尽山を望くる歌」を中心に読む。
11	前期のまとめとしてプリント二枚を配って、前期試験の傾向と対策について説明する。
12	大宰帥大伴旅人「酒を讃むる歌」を中心にして読む。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	真間娘子について——赤人と虫麻呂——
2	山上憶良とその歌——貧窮問答歌を中心にして——
3	万葉集の歌体について、特に旋頭歌を中心にしての歌と説明。
4	高橋虫麻呂の伝説歌について——浦島子・菟原処女など——
5	寄物陳思・正述心緒——巻十一の歌を読む。
6	万葉集の用字法——特に義訓・戯訓など。
7	東歌についての説明と歌。
8	中臣宅守と狭野弟上娘の悲恋とその贈答歌について。
9	巻十六有由縁并雑歌を中心にして読む。
10	大伴家持とその歌について講読する。
11	後期のまとめとしてプリント二枚を配り、後期試験の傾向と対策について説明する。
12	防人歌についての説明と歌。上代特殊仮名遣についても説明する。
備考	

科目名	文学概論（日本）	担当者名	肥田野 昌之
-----	----------	------	--------

講義の目標	<p>明治以降の社会変革・変遷に伴ない、近・現代文学もまた、江戸文学の伝統を踏まえながらも欧米文化の影響を色濃く受けざるを得なかった。そうした現代文学の歩みを理解し、現代文学の意義や面白さを味わってほしいと思う。</p>	
講義概要	<p>近・現代の文学思潮を展望し、各作家の紹介や作品の案内および文学上の諸問題を解説し、文学への関心を深めたいと思う。</p>	
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・吉田精一編『近代文学』 おうふう
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・奥野健男『日本文学史近代から現代へ』中公新書 ・小田切進『日本の名作近代小説62編』中公新書
評価方法	<p>授業への出席・前期レポート・後期試験の三つによって決定する予定である。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	啓蒙期——戯作文学・翻訳文学・政治小説など
2	写実主義——坪内逍遙・二葉亭四迷など
3	擬古典主義Ⅰ——硯友社と尾崎紅葉
4	擬古典主義Ⅱ——幸田露伴とその作品
5	擬古典主義Ⅲ——樋口一葉とその作品
6	浪漫主義Ⅰ——文学界と北村透谷
7	浪漫主義Ⅱ——泉鏡花とその作品
8	浪漫主義Ⅲ——国木田獨歩とその作品。レポートの課題
9	自然主義Ⅰ——島崎藤村とその作品
10	自然主義Ⅱ——田山花袋とその作品
11	森鷗外とその作品。レポート提出
12	夏目漱石とその作品
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	新浪漫派Ⅰ——永井荷風とその作品。レポートの返還
2	新浪漫派Ⅱ——谷崎潤一郎とその作品
3	人道主義（白樺派）Ⅰ——有島武郎とその作品
4	人道主義Ⅱ——武者小路実篤とその作品
5	人道主義Ⅲ——志賀直哉とその作品
6	新現実派Ⅰ——菊地寛とその作品
7	新現実派Ⅱ——芥川龍之介とその作品
8	プロレタリア文学——小林多喜二を中心にして
9	新感覚派Ⅰ——横光利一とその作品
10	新感覚派Ⅱ——川端康成とその作品
11	まとめとしてプリント二枚を配り、年度末試験についての傾向と対策を説明する。
12	戦後の文学——大宰治を中心にして
備考	

科目名	文学概論(外国)	担当者名	亀谷敬昭
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>外国文学といっても、ここではヨーロッパの文学を主とする。ギリシア・ローマ以来ヨーロッパの文学は、人はいかに生きるべきかという問題と深く関係してきた。文学の原点をここにすえて、それぞれの時代と国とにおいて、この問題がどのように展開されてきたのかを検討してみるのが、本講義の目標である。世紀という概念はヨーロッパ的であるにしても、間もなく新しい世紀を迎えようとするこの時期に、人生いかに生きるべきかは永遠の課題であり、自ら探究しようとする人の指針となることを期待している。</p>	
講義概要	<p>ヨーロッパ文学を代表する作品約10編を取り上げ、その作者や時代の背景、作品の成立やその問題点などを検討し、それが現代のわれわれにどのような意味があるのかを考える。</p>	
使用教材	テキスト	授業時間中に適宜指示する。
	参考文献	
評価方法	<p>前期はレポートで、後期は試験とするが、時々簡単な小テストを試み、これらを合わせて評価する。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「ホメロスの「イーリアス」。その成立および背景となる事情。
2	「イーリアス」続き。アキレウスとヘクトールの決闘。後代のヨーロッパ文学に及ぼした影響など。
3	アイスキュロスの「アガメムノン」。その成立および背景となる事情。
4	「アガメムノン」3部作。オレステスの復讐とその後。
5	ソフォクレスの「オイディプス王」。
6	「オイディプス王」続き。ギリシア悲劇と近代悲劇の比較
7	「ニーベルンゲンの歌」。その成立と背景となる事情。
8	「ニーベルンゲンの歌」と「ベアオウルフ」および「ローランの歌」との比較。
9	クリストファー・マーロウとシェイクスピア。
10	シェイクスピアの4大悲劇について。
11	ゲーテの「ファウスト」第1部の成立とその背景
12	ゲーテの「ファウスト」第2部の成立とその背景
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ゲーテの長篇小説「ウィルヘルム・マイスターの徒弟時代」。その成立と背景および後代への影響について。
2	ゲーテの長篇小説「ウィルヘルム・マイスターの遍歴時代」。その成立と背景について。
3	レフ・トルストイの長篇小説「アンナ・カレニナ」その成立と時代的背景。
4	「アンナ・カレニナ」と「戦争と平和」の比較。
5	ドストエーフスキイの「罪と罰」。その成立と時代的背景。
6	「罪と罰」と「カラマーゾフの兄弟」の比較。
7	トーマス・マンの長篇小説「ブテンブローク家の人々」。その成立と時代的背景。
8	「ブデンブローク家の人々」と「魔の山」の比較。
9	ヘルマン・ヘッセの「荒野の狼」について。その成立と時代的背景。
10	「荒野の狼」と「車輪の下」の比較。
11	フランツ・カフカの作品「城」。その成立と時代的背景。
12	「城」と「審判」の比較。
備考	

科目名	文学概論(外国)	担当者名	北澤 滋久
-----	----------	------	-------

講義の目標	文学を味わうことの愉しさを伝え、併せて教養豊かな国際人をめざす者の人間形成の一助とすることを主たる目標とします。		
講義概要	<p>—英米の文学に観る人間像—</p> <p>英米の文学のなかの古典・傑作をいくつかのトピックスに大別して、1講義、1作家、1作品を原則に、定説を踏まえながらも担当者独自の観点から解説してゆきます。毎回聴いていけば「学」はつくでしょうが、文学史的な体系を覚えてもらうつもりではありません。何より受講者の感性に訴えたく思います。文学は本来楽しいもののはずです。この際ちょっと読書好きになってさえもらえれば、美しく感動的に描かれた未知の人生や思想と出会えて、心地よい興奮とともに、ずっしりと重く自分の人生への指標が仄かに視えてもくることでしょう。こうした文学へのいざないに、肩のこらない楽しい授業にしたいと思います。興味ある向きは、最初のガイダンス授業を覗いてみてください。</p>		
使用教材	テキスト	テキストは特に定めません。	
	参考文献	参考文献は、2回目の授業時間に一覧表にして配布します。	
評価方法	前期の講義で扱った作品の中から一編を読んで(翻訳可)、その感想文を夏休み後に提出してもらいます。これと後期の試験により評価します。		
受講者に対する要望など	毎年多数の受講者の集まるのは結構なのですが、熱心な学生から私語が多くて困るとの苦情が出ています。単に単位獲得のみを目的とする方は悪しからずご遠慮ください。因みに毎年20-30%の不合格者が出ています。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	登録のよすがに：本講義の内容と目標、そして受講者に願うこと
2	開講の辞：言語・文学・芸術、そして言語芸術としての文学
3	I 現代文明下のアメリカの少年たち 『ハックルベリーの冒険』：インノセントな魂 THE ADVENTURES OF HUCKLEBERRY FINN by Mark Twain
4	『ブラック・ボーイ』：人種差別に抗って BLACK BOY by Richard Wright
5	『ライ麦畑でつかまえて』：現代社会に生きることの苦悩 THE CATCHER IN THE RYE by J. D. Salinger
6	II 19世紀、イギリスの娘たち 『テス』：汚された？純潔 TESS OF THE D'URBERVILLES by Thomas Hardy
7	『フロス河畔の水車場』：新しい女性の生きざまを求めて THE MILL ON THE FLOSS by George Eliot
8	『ジェーン・エア』：自立する女性 JANE EYRE by Charlotte Brontë
9	III 19世紀、英米文学の驚異 『嵐が丘』：天国と地獄のパラドックス WUTHERING HEIGHTS By Emily Brontë
10	『白鯨』：近代的英雄の悲劇 MOBY-DICK by Herman Melville
11	IV 英雄不在の20世紀の英雄たち 『ロード・ジム』：英雄ならざる英雄の悲劇 LORD JIM by Joseph Conrad
12	『老人と海』：一老漁師にみる英雄的雄姿 THE OLD MAN AND THE SEA by Ernest Hemingway
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	V 海洋(冒険)小説の諸相 『ロビンソン・クルーソー』：孤島に生きる近代人 THE ADVENTURES OF ROBINSON CRUSOE by Daniel Defoe
2	『ガリヴァ旅行記』：人間嫌悪の結晶 GULIVER'S TRAVELLS by Jonathan Swift
3	VI 近代芸術観の極致 『月と六ペンス』：芸術家の狂気 THE MOON AND SIXPENCE by William Somerset Maugham
4	『アッシュナー館の崩壊』他：至上の美を求めて THE FALL OF THE HOUSE OF USHER by Edgar Allan Poe
5	『ドリアン・グレイの肖像』：耽美の世界に踏み入って THE PICTURE OF DORIAN GRAY by Oscar Wilde
6	VII 父なるもの、母なるものの原像 『ハムレット』：青年の母への愛憎 HAMLET by Wiliam Shakespeare
7	『息子たち、恋人たち』：母と息子の絆 -SONS AND LOVERS by D. H. Lawrence
8	『若い芸術家の肖像』：父なるものを求めて A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG MAN by James Joyce
9	VIII 倫理と欲望の狭間 『ねじの回転』：女性家庭教師のみた幻想 THE TURN OF THE SCREW by Henry James
10	『事件の核心』：信仰と不倫に揺れて THE HEART OF THE MATTAER by Graham Greene
11	『緋文字』：姦通と復讐の贖い THE SCARLET LETTER by Nathaniel Hawthorne
12	閉講の辞：芸術と人生、そして質疑・応答
備考	

科目名	文学概論(外国)	担当者名	松山恒見
-----	----------	------	------

講義の目標	読書の愉しみと、それによってもたらされる教養の基盤がどれほど大きいかを悟ってもらうこと。特に、自国文学ではなく、他国のそれは、地球規模でものを考える時代には、よその国の人びとの思想感情を少しでも理解すると共に、他山の石として、自分の生活や研究にも役立てられるはずで、これも当然、射程に入る。	
講義概要	本年度については、広く読まれている作品を可能なかぎり中軸にしたい。同時に、文学作品を架空の出来事と見るのではなく、自分の人生にひき較べるような読みかたを会得させたい。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	多岐にわたるので、その都度指示。
評価方法	前・後期とも、課題図書を定め、その読後感を書いてもらうことで評価の50%とする。残る50%は、通常の試験と同様で、講義内容の理解度を見る出題による。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	読書について——文学とは何か。自国文学を知るためにも、外国文学を知ろう。
2	ヨーロッパ文学の源泉(1) 古代ギリシャ・ローマ文明、とくにその文学。
3	ヨーロッパ文学の源泉(2) 聖書、キリスト教。
4	中世文学——ロランの歌、トリスタンとイゾー、狐物語、ヴィヨーン。
5	十六世紀 (ルネッサンス) ——モンテーニュとラブレー。
6	十七世紀——古典主義、コルネイユ、ラシーヌ、モリエール。
7	十七世紀(2) ラ・フォンテーヌ、デカルト、パスカル、モラリスト、ラファイエット夫人 (クレヴの奥方)。
8	十八世紀——啓蒙主義、ヴォルテール、ディドロ。(課題図書発表)
9	十八世紀(2)——ルソオ、「危険な関係」、「ポールとヴィルジニー」、「マノン・レスコー」。
10	フランス革命をめぐる。アナトール・フランスの「神々は渴く」。
11	十九世紀——ロマンチズム。シャトーブリアン、スタール夫人、翰コンスタンの「アドルフ」。
12	十九～二十世紀文学の展望。(進度調節)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ロマンチズムの四大詩人。ユーゴー。
2	スタンダールの「ラシーヌとシェイクスピア」をめぐる。
3	ジュールジュ・サンド、バルザック。
4	スタンダール、メリメ。
5	フロベール、モーパッサン。
6	ボードレール、ヴェルレーヌ、ランボー、マラルメ。(象徴主義)
7	十九世紀のその他の作品。
8	ゾラ、自然主義。(課題図書発表)
9	アンドレ・ジイド、ヴァレリー、ブルースト。
10	コクトー、ロマン・ロラン、マルタン・デュガール、その他。
11	サルトル、ボーヴァール、カミュ、モーリャック。
12	現代文学。ルイ・アラゴンからミシェル・トゥルニエまで。
備考	

科目名	文学概論(外国)	担当者名	宮澤康造
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>訓読漢詩文を通じて、中国の古典を学習し、その読解力を身につける。特にわが国の古典に大きな影響を及ぼした唐代の詩文について学ぶ。あわせて現代に生きる漢文故事成語の原典に当り、また広く故事成語を理解する。</p>		
講義概要	<p>古くから日本の文物制度は、中国に負うところが大きい。特に中国文学がわが国の文学に与えた影響は大きい。日本古典の学習には、漢文の読解力や理解を無視することはできない。本講座では、漢文読解の力を養い、漢詩文を理解し、また日本で現在も生きている故事成語を広く学ぶ。基礎編で漢文の訓読、演習編で漢詩文の読解・演習に当る。</p> <p>さらに参考のプリント教材を多く用意して、広く中国文学の概要を学び、日本所在の漢詩文の碑(いしぶみ)の読解なども加えて、興味ある講座を用意している。</p>		
使用教材	テキスト	詩文選・故事成語考(御牧貞風編)	
	参考文献	<p>①漢文学習のための辞典 ②教材学習のための参考書 いずれも授業時プリント等で示し、解説する。</p>	
評価方法	<p>①出席状況を重視する。日頃の訓読演習への参加は学習向上への鍵。 ②前・後期末実施のテストの成績。 ③学生の自己評価表も参考にする。 ④自主レポート</p> <p style="text-align: right;">以上の四点から総合評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>継続は力、日常の学習の積み重ねが肝要。平気で休んだり遅刻するような学生は始めから申し込みをしないこと。学問を通じて人間形成を望む者は来れ。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	漢文学の学習について——日本文学と中国古典との関連にふれ、漢文学習の重要性を知る。まず身近かな故事成語から学ぶ。年間講座要項の説明。
2	漢文の基礎——漢文訓読の方法について学ぶ。現代に生きる漢文故事成語にどんなものがあるか。その原典は。初め三回はプリントによる考究。
3	漢文の基礎——漢文の字源（成り立ち）、中国の歴史概略、中国文学の日本文学への影響、日本所在の漢文・漢詩碑について。森鷗外撰文の漢文碑の通読。
4	訓読基礎編——「他山之石」「五十歩百歩」（テキスト1頁） 読解（指名読・範読・斉読・語釈・通解・以下共通）日本のことわざと比較
5	「矛盾」「朝三暮四」「借虎威」（テキスト2～3頁）読解。
6	「蛇足」「四面楚歌」「寒翁馬」（テキスト4～6頁）読解。
7	漢文故事成語考（テキスト27～54頁）の学習。故事成語をどのように理解するか。その出典との関係を考える。
8	年令の異称・名数についての理解。（テキスト55～60頁）
9	演習編 陶潜「飲酒」の読解。陶潜の生涯とその文学について。
10	「帰園田居」の読解。古詩の押韻について。
11	「帰去来辞」「五柳先生伝」の読解。中国の文章の種類について。
12	全国漢詩碑についての考察。夏休みの自主レポートのこと。
備考	夏休みの余暇に、漢文や漢詩の碑を探访して、その読解を試みる。（参照——全国漢詩碑）読めないところは、後期の質問として解明していく。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の答案返却と概評。王維の詩「送元二使安西」の読解。「唱渭城」とは。唐代の詩の概説——主なる詩人とその作品について——
2	劉希夷「代悲白頭翁」（白頭吟）の読解。対句的表現の妙について。
3	李白と杜甫について——プリントにより対比考察。李白と「子夜呉歌」、「子夜呉歌」読解。楽府について解説。
4	李白の詩を学ぶ——テキスト六編の中より好きな一詩をとくに考究して、暗誦できるまで学習する。六詩の通解。
5	杜甫の詩を学ぶ——テキスト六編の中から好きな一詩を選び、暗誦できるまで学習する。「貧交行」～「月夜」の五詩通解。
6	杜甫の詩「兵車行」の考究。設問（プリント）の解答。杜甫の詩の特色についてまとめる。
7	白居易について——その生涯と作品について——「慈烏夜啼」読解。
8	「長恨歌」を学ぶ。——長編の詩の通読、表現上の特色について知る。段落と押韻について考究。第一段の読解。
9	「長恨歌」を学ぶ。——第二・三段の読解。設問（プリント）の解答。
10	「長恨歌」を学ぶ。——長恨歌伝、長恨歌の背景について解説。
11	「長恨歌」と日本古典——源氏物語をはじめ、わが国古典に及ぼした影響を考究、さらに中国古典と日本文学との関係を学ぶ。
12	故事成語学習のまとめ——故事成語の原典の通読（テキスト27～54頁）現代の新聞にあらわれた故事成語について。
備考	

科目名	国語表現法	担当者名	新里博樹
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>コトバは、人間の内面を構成する素材である。そして、言語表現とは、その内なるコトバを様式として外に言語として実体化させることに他ならない。すなわち、言語による表現とは、単に何かを他者に伝達することのみにとどまらず、自己の内面を深化させることにもつながるのである。本講座では、そうした素材であり、手段である、“コトバ—言語”の特質を踏まえながら、言語表現の様式の諸相、およびその諸特徴を講じつつ、日本語による表現のルールと方法とを学び、国語表現（文章表現・口頭表現）の実際を体験することを目標とする。</p>	
講義概要	<p>国語表現における基礎事項に関する講義を交えつつ、講義—実作演習—添削批評という基本パターンを反復しながら、さまざまなスタイルの表現を実際に体験してもらう。講義1に対して演習3の割合で、実際の表現演習に学生自身が自分で取り組むことになる。文章表現の場合は、その場で（あるいは前以て）提示される課題・テーマに対して、その場で取り組み、基本的に授業時間内に提出する。そして、提出物は後日、添削批評を経て返却される。口頭表現の場合は、スピーチ・ディベートなどを、予め定めた手順に従って（全員が何らかの形で参加することになる）体験することになる。また時には相互批評などの討議形式の授業も実施する予定である。</p>	
使用教材	テキスト	使用せず
	参考文献	その都度、提示・紹介する。
評価方法	<p>授業時における提出物と授業に対する参加（質問や発言など）の度合いによって評価する。返却された提出物（原稿その他）はすべて保管し、最終授業時にまとめて再提出してもらい、それによって評価することになるが、基本的には平常点による評価と考えて良い。</p>	
受講者に対する要望など	<p>B5原稿用紙を各自用意して欲しい。また、小型のものでよいから、国語辞典を携帯してもらいたい。演習中心なので、自ら積極的に取り組む姿勢が望まれる。他の受講者にとって迷惑となる行為は一切厳禁する。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンスとして、年間の講義概要の解説、および、評価の方法と基準の説明などを行い、導入として、言語による表現とはどういうことか、という問題について講じる。
2	文章表現演習Ⅰ：自己紹介文 とりあえず自由に、自己紹介の文章を作成する。自分の生い立ち、趣味、特技、性質、癖、現在の状況、悩んでいること、価値観 etc.
3	講義Ⅰ：原稿用紙の歴史と使用法 原稿用紙の発達の歴史とその使用規則の基礎的な事項を講じる。その上で、実際に、特定の文章を原稿用紙に転記する演習を行う。
4	文章表現演習Ⅱ：随想文 講義Ⅰの内容に留意しながら、随想文を作成する。テーマは「日本の色」。自分の思い、価値観などを具体例を提示しながら書く。
5	文章表現演習Ⅲ：百字文 「手」というタイトルで、段落表示や句読点を含めて百字ぴったりの短文を作成し、それを起としてさらに、承転結の百字文を三編作成する。
6	講義Ⅱ：文章の構成と段落 文章構成の様相と、段落について講じる。段落はどのように設定すべきか、全体の構成はどうしたらよいかなど、文章構成の基礎を解説する。
7	文章表現演習Ⅳ：論説文 講義Ⅰ・Ⅱの内容に留意しながら論説文を作成する。テーマは「現代日本の社会状況」。自分なりにポイントを絞り、具体的に書く。
8	文章表現演習Ⅴ：推敲演習 推敲の方法とその目安についての理解を深めるため、文章表現演習Ⅳの作品の幾つかを採り挙げ、推敲の演習を行う。
9	講義Ⅲ：題材の求め方とその膨らませ方 文章表現のテーマや素材（具体例など）をどこに求め、どう膨らませていくか、という認識法や発想法について講じる。
10	文章表現演習Ⅵ：要約演習 まず自由に二百字文を作成する。その上で、できるだけ内容を変えないように、百字、五十字、二十字、十字と字数を減らしていく演習を行う。
11	文章表現演習Ⅶ：写生文 具体的事物を見ながら、それを写生した文を作成する。それを見ていない人に伝えるべく、言葉によるスケッチを行う。
12	前期の総括と夏期休暇中の課題提示 前期における提出物を全て返却し、夏期休暇中の課題を提示する。目上の人物に対する近況報告の”堅い手紙”を作成するのが課題となる。
備考	授業時間内に提出するため、比較的短い文章の演習が中心となってしまいます。そこで、長文の文章の添削批評を希望する学生は、随時、自由に申し出てもらうことになるが、ただし、添削批評の時間的余裕を与えて欲しい。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏期休暇中の課題の提出。後期の予定の確認。
2	文章表現演習Ⅷ：報告文 夏期休暇中における自己の行動（自分で設定する）に対しての報告文を作成する。客観的事実と自己の感想を分けて書く。書式は授業時に提示。
3	文章表現演習Ⅸ：批評文 提示された現代短歌の幾つかの中から一首を選び、それに対する鑑賞批評の文章を作成する。鑑賞批評は単なる感想でないことに留意して書く。
4	講義Ⅳ：詩的表現と短歌 詩的表現としての韻文について概説し、その中でも世界に誇り得る日本の文化の一つとしての短歌の特質について講じる。
5	文章表現演習Ⅹ：短歌実作演習 十首程度の短歌を実際に作成する演習を行う。併せて、その中から一首を選び、次回の歌会の準備を行う。
6	口頭表現演習Ⅰ：歌会演習 前回の準備に従い、実際に歌会を行う。提示された各自の作品に対して相互に自由に批評しあい、討議する。
7	講義Ⅴ：口頭表現の留意点 話し言葉による伝達の構造とその特質を論じ、音声言語による表現における留意点を講じる。
8	口頭表現演習Ⅱ：スピーチの原稿作成 結婚披露宴におけるスピーチの原稿を作成する。併せて、次回実施される結婚披露宴のシュミレーションの役割分担を行う。
9	口頭表現演習Ⅲ：結婚披露宴のシュミレーション 前回の打ち合わせに従って、想定された結婚披露宴のシュミレーションを行う。各自の役割分担に従ってスピーチを行う。
10	講義Ⅵ：ディベートの方法 ディベートの方法について解説する。ディベートの進行方法、考え方、技術、評価の方法などについて講じる。併せて、次回の役割分担を行う。
11	口頭表現演習Ⅳ：ディベート演習 その場で提示される論題に対して、ディベートの対戦を行う。対戦者以外は、全員が審査員となる。
12	総括、および、提出物の再提出
備考	添削批評を経て返却された原稿に対しては、訂正・書き直しをした上で、整理しておくことが望ましい。くれぐれも、その場の”書き捨て”にせぬよう心掛けて欲しい。

科目名	国語表現法	担当者名	小島幸枝
-----	-------	------	------

講義の目標	現代の動勢の中で自らの意見を、正確で品位のある日本語で表現する力の養成。実用文が難なく書けるようになることを目標とするが、各自、十分な漢字力をつけ語彙量を增強する訓練を怠らないことを前提としたい。		
講義概要			
使用教材	テキスト	松村明編 国語表現法 (桜楓社)	
	参考文献		
評価方法	平常の提出物で評価する。試験はしない。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	表現者（送り手）と理解者（受け手）のことばにおけるメカニズムを概説
2	音声言語について。文字言語との差異および特徴の認識
3	音声言語の種々相
4	日本語の基礎知識——日本語の音韻、アクセントの特徴
5	美しいことばの条件。正確さと品格をどのように獲得するか
6	スピーチ（演習） 互いのスピーチをきいて評価、および自己評価をする
7	反省とまとめ（次週ディベートの予告）
8	ディベート
9	反省とまとめ
10	敬語について。日本の敬語の歴史と特徴（上代～中世）
11	同上（中世末～現代）
12	漢字テスト
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文字言語——文章を書く手順、材料の収集法
2	文章を書く——自由文又は意見文
3	交換、添削しあう
4	手紙を書く——型のある文章、敬語
5	材料の収集と選択、配列——説明文、報告文を書く
6	文献、資料を用いて文章を補強する
7	漢字テスト
8	アウトラインの作り方——効率よく文章を書くために
9	評論を書く
10	段落とトピックセンテンスのきめ方——書評を書く
11	交換、批評しあう
12	推敲のポイントを学ぶ。まとめ
備考	前期は、読解と実作を習慣づけるために宿題形式で①社説要約（週1作）②読書報告（月1本）③作文（週1作）を課すが後期は短時間で実作する習慣をつけるために作文は授業中に完成する。従って③の課題はない。

科目名	国語表現法	担当者名	北村 進
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>和歌・短歌の表現を通して日本語の美しさを学ぶとともに、実作によって表現の仕方を身につける。多くのすぐれた作品に触れ、それらを覚えることは教養の一つであり、美しい日本語を身につける手段である。</p> <p>短歌は自分の心の動き（感動）を表現する一手段であるが、散文と違って音数に制約がある。制約がある分、感動が凝縮され、言葉で表現した以上のものが生まれてくる。そこに魅力があると言える。定型にまとめるのは確かに難しい。その難しい作業を通して、日頃おろそかにしている言葉による表現を見つめ直す。</p>		
講義概要	<p>言葉が氾濫していると言われる状況にあって、一語一語を大切に、美しい日本語による表現力を身につけたい。そのためには多くのすぐれた文学作品に接することが必要だと考えるが、本講義では特に和歌・短歌という定型にこだわって、その表現の変遷をたどりながら、言葉の大切さ、日本語の美しさを学ぶつもりである。講義は古代から現代に至る作品を読み味わうことが中心となるが、それにとどまらない。やはり実作を通して学ぶことが大切であろう。そこで毎月一首以上の短歌制作を義務づける。言葉の選択の仕方、表現の難しさを身をもって体験してもらおう。講義中にも短歌の鑑賞文など書いてもらおう。その他国語に関する一般知識についても触れるつもりである。</p>		
使用教材	テキスト	『新修 日本抒情詩歌』(株)おうふう	
	参考文献	その都度指示する。	
評価方法	<p>前期はレポート、後期は未定。</p> <p>出席・提出物も重視する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>提出物は期日を守ってきちんと提出すること。欠席をしないこと。当然のことだが講義中無駄話をしないこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義の概要を説明し、古代から現代までの和歌・短歌の流れを略説する。
2	現代短歌鑑賞及び入門一俵万智の『サラダ記念日』の中から何首か取り上げて、現代短歌に親しむと共に、作歌の手引とする。
3	岡井隆『短歌の世界』、俵万智『短歌をよむ』を参考に、短歌を作る上での基本事項について解説する。
4	『万葉集』の歌を取り上げる。『万葉集』について解説し、初期万葉（巻1が中心）の歌を読み味わう。テキスト p23～p24
5	『万葉集』巻2～巻5までの歌を取り上げる。テキスト p25～p30
6	『万葉集』巻6～巻10までの歌を取り上げる。伝説歌が中心となる。テキスト p33～p36
7	『万葉集』巻11～巻16までの歌を取り上げる。作者未詳の一般大衆の歌が中心となる。テキスト p37～p42
8	『万葉集』巻17～巻20までの歌を取り上げる。大伴家持及び防人の歌が中心となる。テキスト p43～p46
9	『古今和歌集』及び『和泉式部集』の歌を取り上げる。テキスト p55～p58
10	『新古今和歌集』の歌を中心に、王朝和歌を取り上げる。テキスト p59～p61
11	『百人一首』の歌を取り上げる。テキスト p65～p78
12	『百人一首』のパロディを取り上げる。『狂歌百人一首』など、百人一首をもじった歌の数々。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	中世の歌謡を取り上げる。『梁塵秘沙』や『閑吟集』の中から、よく知られた歌謡を取り上げ、解説する。テキスト p51～p54、p78～p81
2	近世の和歌を取り上げる。賀茂真淵は万葉調の歌を詠み、これに異を唱えた香川景樹は古今的な調べを重んじた。それぞれの歌を景樹著『新学異見』を読みながら考察する。
3	近世末期に登場した歌人たち、良寛、大隈言道、橘曙覧の歌を取り上げる。テキスト p96～p98
4	明星派の歌人たちの歌を取り上げる。与謝野鉄寛、与謝野晶子、山川登美子など。テキスト p96～p98
5	同 上
6	アララギ派の歌人たちの歌を取り上げる。正岡子規、長塚節、伊藤左千夫他。テキスト p108～p112
7	この時期に活躍したその他の歌人たち一石川啄木、若山牧水、北原白秋の歌を取り上げる。テキスト p99～p108
8	明治・大正・昭和にわたる「恋」の名歌を取り上げる。
9	古代から近代に至る「辞世」の歌を取り上げる。
10	詩を鑑賞する。島崎藤村、室生犀星、佐藤春夫、立原道造など。テキスト p125～165
11	現代短歌を取り上げる。男性歌人の歌。
12	同 上 女性歌人の歌。
備考	

科目名	国語表現法	担当者名	福 沢 健
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>本講座においては、文章表現の基礎となる事項を再確認し、自らの思考を論理的に表現できる能力を身につけることを目標とする。言語表現には「話す」「聞く」「読む」「書く」のいわゆる四技能があるが、特に後二者に力を入れたいと考えている。大学生活の中で最も需要が高いのは、やはり「読む」能力と「書く」能力であると考えからである。</p> <p>具体的な文章表現の能力は、実践によって培われる性質のものである。したがって、授業は講義によって文章表現理論を論ずることよりも、学生諸君による演習が中心となる。</p>		
講義概要	<p>文章表現の基礎として確認する事項は以下の通り。①語彙（熟語・同義語・類義語・対義語・同音異義語・同訓異義語・四字熟語）。②表記（用字法・句読法・原稿用紙の使い方）。③表現（レトリック・敬語法・手紙文・文と文とのつなぎ方）。④総合（推敲・作文演習）。</p> <p>以上の基礎事項を問題演習型で行なう。ただし、問題を解いてもらった後にこちらで解答・解説を述べるだけでは単調になってしまうので、なるべく指名するかたちで授業に参加している学生諸君に解答してもらおうと思っている。また、その日に扱った事項が身についているかを自ら確認してもらうために、授業中に出てきた事項に関連する短文を書いて提出してもらうこともある。</p>		
使用教材	テキスト	使用せず。プリントを配布。	
	参考文献		
評価方法	<p>定期試験による評価は行なわない。ただし、毎月一回程度、そこまでの知識が身についているかを確認する小テストを行なう。このテストの総合点が、評価の中心となる。その他課題物の提出状況・出席状況を評価の対象として加味する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>国語辞典を携行すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業内容の説明。
2	言葉の役割について考える——①認識・思考、②表現・伝達、③情報の蓄積、④保存と虚構——
3	正確な表現、的確な表現とは何かを考える——①紋切り型の表現、②舌足らずであいまいな表現——
4	語彙を増やす〈Ⅰ〉——①漢語の語彙を増やす、②四字熟語についての知識を身につける——
5	語彙を増やす〈Ⅱ〉——同義語・類義語・対義語についての知識を身につける——
6	語彙を増やす〈Ⅲ〉——同音異義語・同訓異義語についての知識を身につける——
7	語彙を増やす〈Ⅳ〉——慣用句についての知識を身につける——
8	正しい表記法を身につける〈Ⅰ〉——用字法——
9	正しい表記法を身につける〈Ⅱ〉——①句読法、②原稿用紙の使い方——
10	文法——①修飾語と被修飾語、②陳述副詞——
11	文章研究——推敲——
12	予備日
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文章の構成——①三段構成、②具体的叙述と抽象的叙述——
2	短作文演習——①一文作文、②二文作文と接続詞、③三文作文
3	レトリック〈Ⅰ〉——比喩表現——
4	レトリック〈Ⅱ〉——展開の表現技法——
5	レトリック〈Ⅲ〉——伝達の表現技法——
6	敬語法〈Ⅰ〉——場面に応じた言葉使いを考える——
7	敬語法〈Ⅱ〉正しい敬語法を考える——
8	敬語法〈Ⅲ〉——同上——
9	敬語法〈Ⅳ〉——同上——
10	手紙文〈Ⅰ〉——手紙文の型式——
11	手紙文〈Ⅱ〉——敬語を用いて文章を書く——
12	予備日
備考	

科目名	国語表現法	担当者名	肥田野 昌之
-----	-------	------	--------

講義の目標	日本語への関心を深め、日本語による表現を豊かにしようとするものである。また常用漢字の練習や日本語・日本文学の基本的な知識の学習を通して、大学生としての教養を深めたいと思う。		
講義概要	論理的な文章表現の習得を目的とし、文章の構成・段落の問題、表記法、原稿用紙の使い方などの基礎的事項についての講義と実習を行い、文章による効果的な伝達の技能を養うようにしたい。 また、文字の問題・仮名づかいなど日本語に関する知識や教養としての能や歌舞伎など日本文学に関連する基本的知識についても言及したい。		
使用教材	テキスト	『新しい常用漢字の書き表し方』 角川書店	
	参考文献		
評価方法	授業への出席と実作および年度末の試験によって決定する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	国語表現についての意義と一年間の講義概要を説明する。
2	現代社会における文章の機能についての考察とともに文章上達法についても考える。
3	「文は人なり」について考えるとともに文章と文体についても言及する。
4	文章表現のプロセスとして、文章の目的・主題の選定・主題の限定などについて説明する。
5	文章表現のプロセスとして、材料の意義・材料の源泉などについて説明する。
6	文章表現のプロセスとして、材料の順序と構成やアウトラインについて説明する。
7	豊かな内容とは——物の見方や読書などについて考える。
8	国語表記の問題——段落の分け方や送りかななどについても言及する。
9	原稿用紙の使い方や校正などについても説明する。
10	作文を書く（添削と採点）
11	作品を返還して、感想や注意事項を述べる。特に誤字の問題、常体・敬体の混在など。
12	学生が黒板に出て、漢字かなづけ・漢字書き取りを行う。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	教養として能・狂言の入門——熊野・附子など——
2	教養としての歌舞伎入門——勸進帳・与話情浮名横櫛など——
3	文字について——特に「漢字御廃止之儀」から常用漢字までを概説する。
4	仮名づかいについて——仮名づかいの歴史、特に歴史かなづかいと現代かなづかいに力点をおいて説明する。
5	標準語と方言について説明し、女房詞や忌詞などについてもふれる。
6	文章のさまざま——実用性の濃い文章と芸術性の濃い文章など——
7	手紙の書き方——手紙の形式を中心にして説明する。
8	課題作文を書く（添削と採点）
9	作品を返還し、感想や注意事項を述べる。
10	学生が黒板に出て、四字句の完成などを行う。
11	まとめとしてプリント二枚を配り、年度末試験についての傾向と対策を説明する。
12	ことばと社会について——ことばの乱れや敬語法について考える。
備考	

科目名	国語表現法	担当者名	宮澤康造
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>国語表現には、音声（話し言葉）と文字（文章）による二つの方法がある。本講座では文章表現を主として展開し、その基本を身につけると共に、実作と作家の文章の考察により文章力を高めることを目標とする。また応用として詩歌などの創作、新聞や雑誌の編集、自分史のまとめなどについても広く学ぶ。</p> <p>書くことが習慣化し、文章を読みまた書くことが楽しくなることが最終の目標である。</p>				
講義概要	<p>継続は力、とくに国語表現の養成は、日常生活の中でのたゆまぬ努力によって培われる。文章は内なるものの表現、書けるようになるには、内なるものの充実が必要である。体験を重んじ、読書を大切にすることが必須である。現代の情報の氾濫の中で、いかに情報を受容し活用するかが鍵となる。</p> <p>本講座では、年間を通じて書くことに心向けさせ、書くことの方法を身につけるための習練と広い知識の学習を用意している。手紙の書き方からはじめ、漢字や仮名づかい、作家の文章や文章論に学び、新聞や碑文のことばに関心を寄せ、資料の生かし方、編集の方法など多岐に及んだ講義・演習を用意している。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>①「文章の書き方」(文化庁) ②「作家・文学碑の旅」(ぎょうせい)</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>前期の第1時限「国語表現参考書目」(プリント)で提示。</td> </tr> </table>	テキスト	①「文章の書き方」(文化庁) ②「作家・文学碑の旅」(ぎょうせい)	参考文献	前期の第1時限「国語表現参考書目」(プリント)で提示。
テキスト	①「文章の書き方」(文化庁) ②「作家・文学碑の旅」(ぎょうせい)				
参考文献	前期の第1時限「国語表現参考書目」(プリント)で提示。				
評価方法	<p>①出席を重視する。毎時のノート、プリント等の累加記録が大切。</p> <p>②前・後期末のテスト2回の成績</p> <p>③折々の作文のまとめと提出状況、自主レポート</p> <p>④学生の自己評価も参考にして、総合評価</p>				
受講者に対する要望など	<p>欠席や遅刻を平気とする者は、初めから受講の申込みをしないこと。</p> <p>受講するなら最後まで出席への努力を重ねるように。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講座要項、国語表現参考書目（プリント）により、年間の講座の概要を示す。また文章の姿、上達のための要件について講話。
2	手紙について—— 文章に習熟する近道は、手紙と日記を書くことである。まず手紙についての知識から身につけるようにする。実習—— 封筒の書き方
3	手紙の実習と諸注意—— 手紙についての具体的留意事項を葉書・封書・往復葉書・海外郵便等で学ぶ。
4	作家の手紙の考察—— 藤村・漱石はじめ作家の書簡から学ぶ。詩から散文へ—— 藤村の小説時代の手紙。資料としての手紙。
5	文章の書き方—— テキスト①座談会の要約をメモしながら、文章の要点を学ぶ。メモのとり方と実習。記録というものの力。持続は力なりということ。
6	原稿用紙の書き方—— 文章における段落というものの理解、原稿用紙の正しい表記に慣れる。
7	文題と内容—— 一般題と特殊の文題の理解、題材とその構成のしかたについて学ぶ。テキスト①文章の技術
8	漢字の学習—— 誤り易い漢字や熟語、身につけたい160の漢字、漢字の字源、構成を学ぶ。
9	文章の書き方—— 望ましい文章とは何か、機能的な文章への関心を深める。文章の種類とそれに応じた書き方を学ぶ。
10	文章論に学ぶ—— 作家の文章読本・文章論を通じて、文章のあるべき姿を知る。書き出しの工夫、結びの要領、構成等を学ぶ。
11	文学碑のことば—— 作家の文学碑に刻まれたことばや文章を通じて、ことばの力を考える。それぞれの作家の特色の理解。テキスト②
12	埼玉県の文学碑—— 文学碑一覧により、学園近辺の文学を理解する。とくに芭蕉と草加などレポートのまとめ方、夏休みの自主レポートを計画する。
備考	夏休みを利用して、国語表現にかかわる学習を進める。その参考題目を挙げ、その中より自主レポートとして進んでまとめることを心がける。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期答案の返却と概評。「ことしの夏を語る」感想発表またはメモ。題材となるものをどのように列べるか考える。 実作—— 「ことしの夏」
2	作家の文章の考察—— 短編を選び、その主題を考察する。さらにその書き出しと結筆の工夫を考える。
3	かな（カナ）文字について—— 「あいうえお」五十音、「いろは歌」四十七文字の由来、かな・カタカナの由来、変体仮名について学ぶ。
4	作家と文章—— 好きな作家を選び、その文章の特色を考え、文章の道を学ぶ。作家とエッセイ（随筆集）、作家のペンネームの由来を知る。テキスト②
5	外来語—— 新聞・雑誌に登場するカタカナ語・外来語の文章中での生かし方。キーワードについて。 実習—— カタカナ語の収録
6	新聞に学ぶ—— 日刊新聞を通じて、新聞のあるべき姿、その概要を知る。見出しと内容について。社説、コラムの文章について。実習—— 新聞記事の切抜き
7	新聞に学ぶ—— 新聞・雑誌の編集について。割付けということ。作家・文人の投稿の文章、コラム欄に学ぶ。
8	作家の文章論に学ぶ—— 作家の文章読本、文章論を通じて文章のあり方を考える。丸谷オー「名文を読み」ということ。（前期の展開）
9	短詩型文学について—— 日本の韻文として、和歌、俳句、川柳、詩等のさまざまな短詩型文学を理解する。 実作—— 俳句を作る
10	レポート、論文のまとめ方—— 資料を生かしていかに整った文章に構成するかを学ぶ。 実作—— 「大学生生活とは」
11	自分史のまとめ—— 現在迄の年譜の作成。その中の一時代の文章化を試みる。その積み重ねで自分史をまとめる。 実作—— 「～のころ」
12	情報や資料の生かし方—— 溢れる情報洪水の中から、いかに資料を収集し、生かすかを学ぶ。スクラップの作り方。
備考	プリント資料の綴じ込を作成

科目名	心理学	担当者名	杉山憲司
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>この授業では、学習、記憶、動機づけ、発達、パーソナリティ、創造性など、心理学が扱う諸問題の中からもなるべく広範囲に、また、日常的な問題と関連するテーマを選び講述する。講義を通じて、心理学の問題の捉え方、研究方法や成果について紹介し、心理学から見た科学的な人間の理解が講義の最終的な目標である。</p>		
講義概要	<p>心理学の研究対象は日常的な現象が多く、学生は、既に、一定の意見を持っていることが多い。しかし、人間はいつ動機づけられ、無力感に陥るのか。性格はどのように形成されるのかなど、案外解っていないことや、常識が間違っていることも多い。また、学問としての心理学は、自分自身を研究対象にするという際だった特徴があり、自己を知ることが目的として受講される学生も多いであろう。これに対して、心理学は、大きく分けて、人間に共通する一般的特徴や法則の研究と、一人一人の個性・個人差、即ち特定の個人を理解しようとする研究とがあり、両研究は相互に刺激しあっている。</p> <p>この授業では、なるべく広範囲に渡って様々なテーマを選び、心理学の問題の捉え方、研究方法を紹介しながら、心理学の研究と日常生活がどのように関係するかについて講述する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>青柳肇・瀧本孝雄・杉山憲司・矢澤圭介（編著） 『こころのサイエンス』『トピックスこころのサイエンス』福村出版（各¥1,900）</p>	
	参考文献	<p>教科書の各章末に参考文献が示されている。その他は授業中に随時指示する。</p>	
評価方法	<p>前後期2回の試験とリーディングレポートで評価する。 追試は教務課を通すこと。</p>		
受講者に対する要望など	<p>自己を知り、他人を知ること。個人の特性と置かれた状況とを見つめ直すチャンスとして利用すること。 授業を聞く際、専攻や、将来の職業との関連を絶えず意識すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	心理学への導入：1) 学習目標；前・後期目標、講義の進め方、成績評価、2) 心理学の学問的体系；研究対象と研究方法、他の学問との方法に関する比較と特徴、3) 一般法則と個人差研究；実験研究、事例研究、
2	I. 行動の視点からの人間研究（4章）：1) 行動の種類と進化；エソロジー、2) 学習の基本型；条件づけ、実験神経症、強化随伴性、しつけ、情緒の統制、バイオ・フィードバック、プログラム学習（CAI）
3	行動の視点からの人間研究（その2）：1) 模倣の理論と役割；モデリング、影響力のある社会的勢力モデル、同一視、社会的学習理論、2) 行動の自己制御；強化基準（価値）の内在化
4	重要な学習・行動の種類と内容：1) スポーツ、健康の自己管理、学習の動機づけ、2) 技能学習の特徴、自動車運転の要因モデル、感覚運動習熟、
5	重要な学習・行動の種類と内容（その2社会的行動）：1) リーダーシップ；リーダーシップスタイル、PM類型論、2) 同調と服従；
6	社会的行動（その2）：3) 攻撃行動、愛他行動；責任の分散、4) 課題達成と愛他行動のバランスと育成；発達・教育課題
7	II. 感覚受容器、知覚や認知の視点から（5章）：1) 感覚；受容器の特徴や種差など、2) 知覚；恒常性や錯視などの特徴
8	3) 認知のプロセス、4) 人間の情報処理モデル；トップダウン、ボトムアップ、選択的注意、5) 社会的認知
9	記憶の構造や特徴 1) 短期記憶・長期記憶、意味記憶・エピソード記憶など、2) 記憶の情報処理モデル
10	III. 動機づけと情緒の視点から（6章）：1) 生理的動機、ホメオステシス、2) 情緒
11	内発的動機 1) 学習・仕事動機；知的好奇心、自己原因性、有能感、2) 内発的動機づけ；活性化、最適不適合理論、自己決定理論
12	対人社会動機 1) 愛着（アタッチメント）、共感性と愛他動機、2) 動機の矛盾、コンフリクト、フラストレーション、ストレス耐性
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期目標：人間の個性理解 I. パーソナリティ（性格）（1章）：1) 気質類型論とクレペリン検査、DSM-III-R
2	2) パーソナリティの特性論 質問紙性格検査、因子分析と根源特性 標準心理検査
3	3) パーソナリティの力動論 フロイトの精神分析、無意識、幼児期の重視、心的外傷、4) 人間性心理学説のパーソナリティ論
4	パーソナリティの形成・発達と病理 1) 初期経験の重要性、相互作用説、遺伝プログラムと状況規定性、2) パーソナリティの病理と対処法、クライアント中心療法
5	II. 知能と創造性（2章）：1) 知能研究の源、知能観と知能検査、2) 新しい知能観、偏差値の功罪、能力か動機づけか
6	創造性と創造性の開発：知能検査で測られていないもう一つの能力 1) 拡散的思考と集中的思考、2) 創造性の育成と活性化
7	III. 生涯発達（3章）：1) 研究の源と発達観の変遷、生涯発達の視点、2) 研究法：縦断的研究、親や教師の発達観とピグマリオン効果
8	初期発達 1) 乳児の気質の型、アタッチメント、2) コンピテンスと自己原因性の獲得
9	社会性の発達 1) 道徳性と向社会性の発達段階、2) 仲間関係のルールとスキル
10	青年期と自己意識 1) 公的自己・私的自己、自我同一性の獲得、2) 自己主張、対人不安
11	生涯発達と生き甲斐 1) 仕事と生き甲斐、キャリアーとしての職業、2) 老人の喪失感、統制感の喪失
12	最終のまとめ 1) 心理学からみた人間、2) 現代の課題、残された問題
備考	

科目名	心理学	担当者名	三本 茂
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>—人間行動の理解のために—</p> <p>心理学は人間の行動における法則性を明らかにしようとする科学である。講義では、人間の行動を個人・社会集団のふたつの側面から考察する。</p>		
講義概要	<p>個人の行動の側面としてパーソナリティ（性格、集団的パーソナリティ、知能、適応のメカニズムなど）を取り上げる。</p> <p>更に、社会集団の側面として、集団の機能、人間以外の動物の集団、社会的態度、文化と社会現象について触れる。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	その都度指示する	
評価方法	評価は、前期および随時のレポートと年度末の筆記試験により行う。		
受講者に対する要望など			

年間講義予定

前期

主要テーマ

○性格

1. 性格とは何か
2. 性格とパーソナリティ
3. 性格の理論
4. パーソナリティの形成 (集団的パーソナリティ)
5. パーソナリティの診断
6. 適応

○知的行動

1. 知能とは何か
2. 知能の形成と発達
3. 知能と社会・文化的要因

備考

後期

主要テーマ

○社会的行動

1. 集団の特質
2. 動物の集団
3. 集団内の個人行動
4. 社会的態度

○社会集団と文化

1. 文化をどう考えるか
2. 比較文化論の視点
3. 社会現象

備考

科目名	文化人類学	担当者名	井上兼行
-----	-------	------	------

講義の目標	文化人類学は、文明社会から最も遠い位置にある未開社会の文化を、異文化として理解し、同時にそれを通してわれわれの文化についても理解を深めようとする学問である。事例を通してそのおおよそを知る。		
講義概要	文化人類学形成の歴史を通して、未開社会の文化に対するこの学問の態度を明らかにし、次いでその独特な研究方法を述べる。そのあとは、いくつかの事例を通して異文化理解の仕方を示し、またそこからわれわれの文化をどのように考えることができるかを説明してゆく。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	随時紹介する。	
評価方法	試験を考えているが、登録者が極端に少ない場合はレポート等もありうる。		
受講者に対する要望など	以下に示す日程はあくまで暫定的なものである（順序はこの通りである）ことを念頭においてほしい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序——体どんな学問か。
2	形成の歴史——(1)スペイン人のインディオ観①
3	” ——(2) ” ②
4	” ——(3)16C後半～18C後半の西欧人の未開人観
5	” ——(4)18C後半～19C後半の西欧人の未開人観
6	19C後半 文化人類学の誕生——(1)“文化”の概念①
7	” ——(2)“文化”の概念②
8	” ——(3)“進化”の概念
9	19C末～20C初 現代の文化人類学へ
10	研究方法としての“実地調査”——(1)
11	” ——(2)
12	これ以降は事例研究になる。テーマは今のところ未定である。ここまでの話の脈絡から決めてゆく。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	自然科学概論	担当者名	福井尚生
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>自然科学屋は夫々の専門分野の興味に従って部分自然を研究しています。随分成果は上がっていると思います。しかし各分野にしか通用しない法則では未だ自然の本質を見抜いたとは言えません。自然全体を貫いている普遍的な法則の発見には、全体自然の目が必要です。目先の現象に惑わされずに、遠くまで思考を伸ばせる対象を選ぶことが大切です。</p> <p>これまでに得られた知識を総合的に要求される“地球外文明及びその探査”は格好の対象だと思います。先人がこの問題にどう取り組んで来たかを学び、未知の問題に我々がどう対処すべきかを考えるきっかけを作ります。</p>		
講義概要	<p>地球外文明の</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 進化 利用するエネルギーに依る文明の階段 2. 探査計画 SETI 3. 探査哲学 平凡性の原理、人間原理 4. 思想 多数世界論と唯一世界論 5. 効能 		
使用教材	テキスト	地球外文明の思想史（横尾広光著）恒星社厚生閣 視聴覚教材	
	参考文献		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎回出す課題（教行程度）をこちらで用意する用紙に書き溜め、前期分1枚・後期分1枚を提出してもらいます。これが主な評価対象です。 2. その他の評価方法は受講者数・学習態度（出席及び1.の課題への取組み方）を見て決めます。 		
受講者に対する要望など	<p>課題については、資料等を調べた後、自分で考えたユニークな内容に努めて下さい。尚、受講希望者は本講義の目標・概要を読み各自の意見を100字以内にまとめたメモを最初の講義の日の17時まで直接福井（教室又は中央棟702）に必ず提出して下さい。</p>		

科目名	地球環境論	担当者名	加藤 信重
-----	-------	------	-------

講義の目標	この科目は特に <u>法学部学生諸君</u> のための講義で、近年、問題になっている様々な環境問題を生物学の立場から把握することを目指す。		
講義概要	身近な生物を理解するためにも、種々の環境問題にスポットを当てて講義を進めたい。そのためにも新聞・雑誌等に目を通すことが肝要である。必要に応じて一定のテーマについてのレポートを提出してもらおう。		
使用教材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	講義中に必要に応じてコピー配布をする。	
評価方法	出席回数、通常のレポート、夏期休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。		
受講者に対する要望など			

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	序論 一年間の講義の進め方を説明。特に現在問題を授業に取り入れるために、各自が意識的に新聞・雑誌を読み、それについてのレポート提出が多いことを理解してもらう。
2	日本の抱える環境問題① ヒトの影響が大きくなった地球。
3	日本の抱える環境問題② 人口増加に追いつかない食糧の総量。
4	トピックス① 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
5	生態系 無機物→有機物→……→……の流れにのって。
6	
7	ナショナルトラスト制度 地域文化を保存するために。
8	
9	トピックス② 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
10	国立公園制度 手本はアメリカ？ ヨーロッパ？
11	
12	身近な自然 夏期休暇のレポートを書くために。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	後期の序論 後期の講義進め方を説明。
2	種の多様性保全条約 なぜ他の生物を守らなければならないか。
3	ラムサール条約 日本のフライウエイを渡る鳥たち。
4	トピックス④ 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
5	ワシントン条約 絶滅の危機に瀕している動植物。
6	
7	
8	トピックス⑤ 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
9	
10	豊かな生活とは 地球環境を守るために。
11	まとめ 一年間のまとめと試験の説明。
12	
備考	

科目名	情報処理	担当者名	各担当教員
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>経済学部の学生が4年間の学習・研究生活に必要な情報処理の基礎を講義およびコンピュータ実習を通して勉学、学習を行なうものである。例えばレポート、卒論において</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文章はワープロを使用 ○文献は図書館のデータベースを使用して探す ○データは統計計算等による処理を通してグラフ等に整理する <p>等々がコンピュータを通してできることを指す</p>		
講義概要	<p>講義および実習を通して上記の目標を達成するためワープロソフト・表計算ソフトの使用方法を始め、コンピュータを中心とした情報処理全般のテーマを扱う。</p> <p>講義計画が後述してあるが、各テーマの取り扱われる順序、時間配分は各教員により異なります。またこれら以外のテーマも扱われますので担当教員に確かめて下さい。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	各教員が適宜に指定する。	
評価方法	原則として試験およびレポートを中心に評価する。出席も重要な考慮ポイントである。詳しくは各教員に聞くこと。		
受講者に対する要望など	<p>最初のうちは“習うより慣れろ”です。くり返しの勉強（復習）が必要でしょう。例年受講希望者が多く抽選により決めています。（毎年改善をしていますが残念なのですが教室の数、機材の数、教員の数に限界があり、本年度も多分抽選になると思います。）このため何回も抽選に外れてしまう学生さんもいます。抽選に外れて受講したくても出来ない友人もいるということを考え、安易に受講希望をしないで欲しい。</p>		

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション
2	情報化社会（コンピュータの歴史、情報と産業、コンピュータの将来） 情報と倫理
3	入力装置とキーボード
4	QWERTY 配列 マウス 他
5	日本語ワードプロセッサ
6	カナ入力、ローマ字入力 編集（複写、移動、文字サイズ等々）
7	MS-DOS
8	ファイル管理等々
9	表計算
10	スプレッド・シート 統計処理 等
11	コンピュータ概説
12	ハードウェア・ソフトウェア コンピュータの仕組、等
13	情報の表現とコンピュータ
14	文字コード 等
15	ネットワーク
16	ビットネット
17	データベース
18	図書検索 等
19	コンピュータ・システム
20	オンライン、TSS、etc.
備考	各テーマの順序、時間配分は教員により異なる。上記以外のテーマも各教員ごと扱います。

科目名	統計学	担当者名	富田幸弘
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達はそのデータの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしている。こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組とその重要性を十分に理解し、応用能力を身につけることを目標としている。</p>		
講義概要	<p>出来るだけ具体的な問題を意識しながら教科書にそって進める。その内容は以下のようものである。</p> <p>(1)記述的な統計 (2)初歩的な確率論と確率分布 (3)統計的推定 (4)統計的仮説検定</p> <p>講義内容を良く理解してもらうために、適宜演習問題に取り組んでもらう。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・池田貞雄・松井敬・富田幸弘・馬場善久共著『統計学—データから現実をさぐる』 内田老鶴圃</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>前期と後期の定期試験の結果により評価する。また、出席状況やレポートも考慮する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義内容を理解するためのノートを用意する。 電卓が必要です。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

※各週の〈 〉の中は、キーワードです。

週	主 要 テ ー マ
1	今年度の「統計学」の講義について 〈教科書とノート、定期試験と出欠席、評価〉
2	統計的な考え方と例 〈国勢調査、品質管理、コンピュータ〉
3	統計学の発達と先駆者 〈コルモゴロフ、ピアソン、フィッシャー〉
4	データの整理(1) 〈尺度、平均値、標準偏差〉
5	データの整理(2) 〈中央値、範囲、四分位数〉
6	データの整理(3) 〈度数分布表、ヒストグラム、階級値〉
7	データの整理(4) 〈簡便法、平均値、標準偏差〉
8	データの整理(5) 〈散布図、相関係数、回帰直線〉
9	データの整理のまとめ
10	確率(1) 〈大数の法則、事象、組み合わせ〉
11	確率(2) 〈互いに独立、条件付き確率、乗法定理〉
12	確率分布(1) 〈離散型確率変数、二項分布、漸化式〉
13	確率分布(2) 〈連続型確率変数、正規分布、標準化〉
14	確率と確率分布のまとめ
15	前期試験

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期試験の結果と復習
2	母集団と標本(1) 〈乱数、標本調査、無作為抽出〉
3	母集団と標本(2) 〈母集団分布、標本分布、中心極限定理〉
4	統計的推定(1) 〈推定、信頼係数、区間推定〉
5	統計的推定(2) 〈比率の推定、二項分布、サンプルサイズ〉
6	統計的推定(3) 〈母平均の推定、正規分布、最尤推定〉
7	統計的推定のまとめ
8	統計的仮説検定(1) 〈帰無仮説、第1種の過誤、有意水準〉
9	統計的仮説検定(2) 〈比率の仮説検定、片側検定、両側検定〉
10	統計的仮説検定(3) 〈 2×2 の分割表、独立性の仮説、 $r \times s$ の分割表〉
11	統計的仮説検定(4) 〈母平均の仮説検定、母平均の差の仮説検定、相関係数の検定〉
12	統計的仮説検定のまとめ
13	ノンパラメトリックな方法(1) 〈スピアマンの順位相関係数、ケンドールの順位相関係数、適合度検定〉
14	ノンパラメトリックな方法(2) 〈符号検定、順位和検定、ウイルコクソンの符号付き順位和検定〉
15	後期試験

科目名	統計学	担当者名	本田 勝
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>我々の身の回りの様々なデータを解析し、推論していく統計学の手法は経済学や経営学の分野でもいろいろな形で応用されている。</p> <p>この講義の目的は、統計学の基本的考え方と、それを具体的に応用していく方法を習得することである。</p>		
講義概要	<p>記述統計学によって、データの整理のし方を述べる。</p> <p>確率分布の準備のために確率の概念を述べる。</p> <p>一般的な確率分布の考え方を述べる。</p> <p>いくつかの特殊な確率分布について述べる。</p> <p>標本分布の考え方について述べる。</p> <p>推定について、点推定、区間推定の順に述べる。</p> <p>統計的仮説検定について述べる。</p> <p>2変量の統計的解析について述べる。</p> <p>ノンパラメトリックな検定について述べる。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・拙著 『基本統計学』 産業図書</p>	
	参考文献	<p>・C. R. ラオ著 (藤越他訳) 『統計学とは何か』 丸善</p>	
評価方法	<p>前期および後期の定期試験と、レポート、出席調査による総合評価。</p>		
受講者に対する要望など	<p>各自、専用のノートを用意し、講義内容を記録すること。</p>		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	統計的とは何かについて、統計学の導入を行なう。(母集団、標本、記述統計、推測統計)
2	標本として得られるデータの整理の仕方について述べる。位置の尺度のとらえ方など。(度数分布、平均、中央値、最頻値)
3	ばらつきの尺度によるデータ特性の把握の仕方について述べる。(分散、標準偏差、チェビシェフの不等式)
4	データ整理の方法を理解するための演習を行なう。
5	確率導入のための準備として、集合および事象について述べる。(和事象、積事象、順列、組み合わせ)
6	確率を導入し、加法定理、条件付確率および乗法定理について述べる。確率に関する問題演習を行なう。
7	確率度数と確率分布の考え方を述べ、離散型および連続型の例を考えてみる。
8	確率分布の数学的定義を、密度関数と分布関数を用いて説明し、分布の平均や分散などの特性値について述べる。
9	2項分布を例に、確率分布(離散型)の性質を調べる。
10	ポアソン分布の性質を調べる。問題演習。
11	連続分布とその特性について、一様分布、指数分布、正規分布を例に述べる。
12	正規分布の確率の求め方と確率度数の標準化について述べる。問題演習。(標準正規分布)
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	標本分布とは何か、標本分布はどのような確率分布をするかについて述べ、中心極限定理についても言及する。
2	標本比率の分布はどのような確率分布をするかについて述べ、2項分布の正規近似についても言及する。
3	カイ2乗分布およびスチュードントのt分布を説明したあと、標本分散の確率分布について述べる。
4	母集団パラメータの推定について、点推定、区間推定の考え方を述べる。(不偏推定量、信頼係数)
5	母平均の区間推定のし方を述べる。問題演習。
6	母集団比率及び母分散の区間推定のし方を述べる。
7	統計的仮説検定の考え方と母平均の検定法について述べる。問題演習。(帰無仮説、対立仮説、検定の過誤)
8	2度数間の相関とは何かについて述べる。(共分散、正の相関、負の相関、完全相関)
9	回帰直線について述べる。(線形回帰、最小2乗法)
10	カイ2乗検定の考え方について述べる。問題演習。(適合度検定、分割表、独立性の検定)
11	ノンパラメトリック検定の考え方を述べる。(符号検定、順位和の検定)
12	一年間の総復習を行なう。
備考	

科目名	統計学	担当者名	松井 敬
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学、経営学を含む諸科学に大きく貢献してきた。近年は、コンピュータなどのデータ処理システムの目ざましい発展もあって、人間活動のあらゆる分野で広く利用されている。</p> <p>本講義は、統計学の基礎的な概念と方法について正確な知識と応用能力を身につけることを目標とするが、出来るだけ具体的な問題を意識しながら進めることにする。</p>				
講義概要	<p>前期では記述的な統計から始め、単純回帰、初歩的な確率論を経て、確率分布までを扱う。既知の内容も多いと思うが、後期で扱う応用のための方法論の基礎となるものなので、後期の内容との関連の上で体系的に説明してゆきたい。後期は、統計的方法として様々な分野で応用される内容を含んでいる。すなわち、推定、検定、ノンパラメトリック法などの理論と方法である。</p> <p>実験、観察、調査などには数量的なデータが付随するが、これらの処理にはデータの背景を十分に考えた適切な統計的方法を選択する必要がある。講義の中ではこういった点に十分配慮し、統計的応用に際して留意すべき点を明確にしてゆきたい。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>・池田貞雄、松井敬、富田幸弘、馬場善久共著 『統計学—データから現実をさぐる』 内田老鶴圃</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>上記テキストは入門書としてはかなり広い範囲をカバーし、しかも分かり易く説明しているので、特別に参考文献が必要とも思われない。この後で進むべき本としては、たとえば、竹村彰道『現代数理統計学』創文社などがある。洋書も数知れずある。また、応用のための各論的な本も数多い。興味のある学生は個別に相談してほしい。</td> </tr> </table>	テキスト	・池田貞雄、松井敬、富田幸弘、馬場善久共著 『統計学—データから現実をさぐる』 内田老鶴圃	参考文献	上記テキストは入門書としてはかなり広い範囲をカバーし、しかも分かり易く説明しているので、特別に参考文献が必要とも思われない。この後で進むべき本としては、たとえば、竹村彰道『現代数理統計学』創文社などがある。洋書も数知れずある。また、応用のための各論的な本も数多い。興味のある学生は個別に相談してほしい。
テキスト	・池田貞雄、松井敬、富田幸弘、馬場善久共著 『統計学—データから現実をさぐる』 内田老鶴圃				
参考文献	上記テキストは入門書としてはかなり広い範囲をカバーし、しかも分かり易く説明しているので、特別に参考文献が必要とも思われない。この後で進むべき本としては、たとえば、竹村彰道『現代数理統計学』創文社などがある。洋書も数知れずある。また、応用のための各論的な本も数多い。興味のある学生は個別に相談してほしい。				
評価方法	前・後期二回の期末試験による。				
受講者に対する要望など	講義内容をより良く理解してもらうために、適宜演習を取り入れている。そのために、電卓を常に持参してほしい。				

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	統計学とは何だろうか：(1)統計学とはどんな学問か、なぜ統計学を学ぶのかについて概説する。あわせて、統計学の位置づけや統計的な考え方についても述べたい。(2)年間の授業の進め方、方針、その他。
2	統計学の考え方、データを記述する尺度：(1)統計的な見方、考え方とはどんなことか。(2)変量(変数)と尺度。(3)データを記述する尺度について。
3	データを記述する尺度：(1)位置と散らばりの尺度、(2)データを記述する様々な尺度の意味と特徴およびそれらを求める(計算する)上での注意。(3)度数分布表、ヒストグラムなど。
4	2つの変数の間の関係をさぐる-1：身長と体重、需要と供給、打率と打点といった2つの変数の間の関連性を説明する尺度について考える。相関係数と回帰。
5	2つの変数の間の関係をさぐる-2：2つないし3つ以上の変数間の“線型”な関係を調べる。回帰直線、重回帰。
6	確率-1：(1)なぜ確率を学ぶか、どんな点に注意すべきか。(2)確率を考える立場、用語、定義。
7	確率-2：(1)順列、組み合わせなど。(2)独立性など事象についての諸概念。(3)条件付き確率、ベイズの定理。(4)復元抽出、非復元抽出。
8	確率分布-1：(1)確率の考えを借りて、試行(実験)の結果を分布という概念でとらえる。(2)離散型確率分布-超幾何分布、二項分布、ポアソン分布など。
9	確率分布-2：(1)確率分布の意味を再考し、一般化する。(2)離散型確率分布の平均値と分散、期待値。
10	確率分布-3：(1)連続型確率分布-連続型確率分布の意味。(2)正規分布-分布の形状、特徴その他。
11	正規分布その他：データ処理の様々な場で見られる正規分布とその周辺のことについて考察する。(1)正規分布。(2)二項分布の正規近似。(3)その他の連続分布。(4)連続型確率分布の平均と分散(期待値)。
12	データの要約：(1)データを記述する尺度とデータの特徴づけを終えたところで、統計的な考え方を再考する。(2)前期のまとめ。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	無作為標本(ランダム・サンプル)、母集団と標本-1：母集団と標本は、現代の統計学の枠組みを与えていて大変重要。(1)無作為標本。(2)乱数、無作為抽出法。(3)母集団と標本、統計量、標本分布。
2	母集団と標本-2：(1)標本平均の標本分布、中央値の標本分布、一般に標本分布。(2)中心極限定理。カイ2乗分布、t-分布、F-分布。
3	推定-1：標本(サンプル)にもとづいて母集団のパラメータ(母数)を推定する方法とその意味。(1)点推定。(2)比率の区間推定。(3)サンプルの大きさについて。
4	推定-2：(1)正規分布の母平均 μ の区間推定。(2)なぜ標本平均を用いるか-推定量の意味、推定量の性質、推定量の比較。(3)最尤推定法-データから母数を探る。
5	統計的仮説検定-1：“仮説”の検定を、どんな考え方にそって行うのかを、まず、(1)手法(考え方)の理解、次に、(2)様々な場合への対応という点から理解してもらう。
6	統計的仮説検定-2：(1)比率の検定-考え方と手順。(2)2x2表-2x2表にもとづく検定の意味。
7	統計的仮説検定-3：(1)2x2表-モデルとの関連、タイプの異なる2x2表。(2)rxs表。
8	統計的仮説検定-4：正規分布の母平均の検定-母集団が1つの場合、母集団が2つの場合(平均の差の検定)。それぞれの場合について、分散が既知、未知の場合にわけて検討する。
9	統計的仮説検定-5：(1)相関係数の検定、分散の検定(母集団が1つの場合、2つの場合)。(2)一般に統計的仮説検定を行う際の手続きと注意-具体例を通して、統計的仮説検定の問題を考えてみる。
10	ノンパラメトリックな方法-1：(1)ノンパラメトリックな方法とは？なぜノンパラメトリックな方法を用いるのか。(2)順位相関係数。(3)符号検定。
11	ノンパラメトリックな方法-2：(1)順位にもとづく検定。(2)適合度検定。
12	統計的推測：(1)統計的方法の枠組みの理解と様々な手法の関連を再考する。(2)後期のまとめ。
備考	

科目名	健康学	担当者名	久松一恵
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>一般に人が幸福であるためには心身の健康を欠くことができず、社会の発展にとっても人々の健康は必要であると考えられてきた。近年は各国の健康水準はその社会生活の状況を統合して表わすものであると認識されるに至り、1980年代以降、国際的に健康指向の時代に入った。</p> <p>高度化する科学技術文明の中での生活、及び開発途上の生活圏に潜在する健康危険を回避し、あるいは克服していくためには、基本的に何を知り、心得ておくべきか、個人として実践可能な水準で、検討したい。</p>	
講義概要	<p>健康学は健康の価値を問う学問ではなく、すでに健康は価値あるものとして、健康であることの条件を科学的に探求し、それに基づいた生活の仕方を具体的に検討する技術の学問である。</p> <p>本講義では、まず健康の概念について紹介し、次に前期は現代社会における心の健康問題を、後期は生活環境の整備、疾病予防の諸問題を取上げる。</p> <p>時間に余裕があれば、適宜、視聴覚教材を使用する。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生統計協会編集・発行『国民衛生の動向』（厚生指標臨時増刊号） <p>課題に応じてプリントを配布し、参考書を紹介する。</p>
評価方法	<p>学期末の定期試験による。授業への出席状況も考慮する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>欠席者にはプリントを配布しない。</p> <p>講義予定は、多少、ずれることがある。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	健康学 (HEALTH SCIENCES) の構成と歴史
2	健康学の実践的課題
3	健康概念に関連する用語 1) 健康
4	2) 不健康 3) 疾病 4) 障害
5	5) リハビリテーション 6) 看護、介護
6	7) 死
7	精神の健康 1) 精神・心の存在 2) 脳の構成と機能
8	3) 精神の健康度 4) 精神的不健康
9	5) 精神の不調 ①
10	6) 精神の不調 ②
11	7) 精神の不調 ③
12	8) 精神障害の予防と対策
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	生活環境と健康 1) 病原生物 ① 感染症の予防
2	② HIV/AIDS 予防の問題点
3	③ 食中毒の予防
4	④ 海外旅行と食品衛生
5	2) 化学物質の毒性と安全性
6	① その実際 (嗜好品、医薬品)
7	② その実際 (食品添加物、農業、上水の問題)
8	3) 放射性物質と放射線防護
9	4) 室内の居住環境
10	成人病と老人保健の諸問題
11	家族と健康
12	まとめ
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ インラインスケート（前期） アウトドアレクリエーション海浜型（集中授業）	担当者名	和田 智
-----	--	------	------

講義の目標	<p>前期インラインスケートでは、基本的なスケート技術の習得を目標とする。</p> <p>集中授業アウトドアレクリエーション海浜型では、スキンドайビング、ウインドサーフィン、カヤック、フィッシングに関わる知識・技術の習得を通して、海という自然環境と関わる楽しみを追求していく。</p>		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・用具、施設の都合から、募集人数は男子20名、女子20名までとする。 ・インラインスケート実施時にはソックスを必ず用意すること。 ・インラインスケート、スキンドайビング他は未経験者でも受講可能。ただし、海での活動に支障のある疾患を持つものは受講できない。 ・集中授業の必要経費（宿泊費・食費・保険料等）として30000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。 <p>集中授業は、期間：平成8年7月26日（金）～30日（火）4泊5日 場所：新潟県佐渡郡赤泊村蓮場（むしろば）海水浴場の予定 現地集合・現地解散とする。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献		
評価方法	出席状況（60%）、受講態度（20%）、技術の向上度（20%）で評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション・イメージビデオの視聴と理論
2	靴・プロテクター合わせ、安全のための諸注意・ストッピング
3	歩行からフィアストロック・フォアひょうたん
4	パイロンを利用したフォアひょうたん
5	片ひょうたんからスネークへ
6	パイロンを使ったスネーク・バックストロックの導入
7	バックひょうたん
8	バック片ひょうたん その1
9	バック片ひょうたん その2
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ アウトドアトレーニング（前期） アウトドアレクレーション山岳型（集中授業）	担当者名	和田 智
-----	---	------	------

講義の目標	山岳型野外活動の基本的な知識と技術の習得・グループワークトレーニングを前期授業の中で行い、実践の場として集中授業で山へ出かけていく。これらの活動を通して、将来個人で、また家族で、安全で快適に自然を享受できる能力を身につけることを目標とする。		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・志賀高原で実施する集中授業に向けて、必要な知識、技術を前期学内の授業でグループワークを中心に学ぶ。集中授業では、ホテルをベースに、毎日変化に富んだコースを歩き、志賀高原の自然を楽しむ。歩くコースはファミリー向けのハイキングコースだが、期間中歩く距離は30～40 kmに及ぶ。 ・学内の授業は、平常授業時間以外に週末を利用することもある。 ・集中授業では、日頃から歩き慣れていない者にとっては大変つらく感じるかもしれない。そのため、4泊5日乗り越える自信のある者、あるいは挑戦してみたい者の受講を望む。 ・集中授業は、必要経費（宿泊費・食費・保険料等）として35000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。 <p>集中授業は、期間：平成8年9月4日（水）～8日（日）4泊5日 場所：長野県志賀高原周辺（志賀パレスホテル泊）の予定 現地集合・現地解散とする。</p>		
使用教材	テキスト	ナシ	
	参考文献		
評価方法	出席状況（60%）、受講態度（40%）で評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	グループ編成・グループゲーム
3	班別野外炊事打ち合わせ
4	班別野外炊事 その1
5	マップリーディング
6	コンパスゲーム
7	野外技術 その1
8	野外技術 その2
9	野外技術 その3
10	班別野外炊事打ち合わせ
11	班別野外炊事 その2
12	集中授業についてのオリエンテーション
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ インラインスケート	担当者名	加藤雅子
-----	----------------------	------	------

講義の目標	フィットネス、レース、ホッケー、スタント等が楽しめるようになる為にインラインスケートの基礎技術を身に付ける。		
講義概要	スケーティングとクロスフォアとバック、ストップ、方向転換、ステップ等を組み合わせて行なえるように技術練習をし、ローラーに乗る位置と感覚を覚える。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	出席状況、授業態度、技術の向上度、レポートを加味して評価する。		
受講者に対する要望など	動きやすい服装であること。 ソックスは必ず用意すること。 やむを得ない事由の欠席の場合は、できるだけ早く届け出ること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間スケジュールおよび履習上の諸注意と、インラインスケートの特性について説明 イメージビデオの視聴。
2	インラインスケートの履き方と、安全面の諸注意。 足踏み、歩行練習。
3	ハの字歩行、フォアひょうたん、ストップの練習（ヒール）
4	フォアスケータリング、片ひょうたんの練習
5	バックの歩行とひょうたんの練習。 Tストップの練習。
6	バックの片ひょうたんの練習。
7	パイロンを使ったフォアのスラロームの練習 1
8	パイロンを使ったフォアのスラロームの練習 2
9	パイロンを使ったフォアのスラロームの練習 3
10	フォアクロスの導入
11	フォアクロスとスケータリングを組み合わせた練習。
12	ローラーホッケーのゲーム。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習。
2	フォアのサーペンタイン。 ターンの練習。
3	バックのサーペンタイン。 フォアのサーペンタイン+バックのサーペンタインを組み合わせた練習。
4	スピンストップの練習。 モホークターンの練習。
5	コンビネーションステップの練習。
6	バッククロス of 導入。
7	バッククロスとスケータリングを組み合わせた練習。
8	パワーストップの練習。
9	フォア/バックのトランジション（方向転換）
10	ワンフットスラローム。（フォア）
11	ワンフットスラローム。（バック）
12	ローラーホッケーのゲーム。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ インラインスケート	担当者名	和田 智
-----	----------------------	------	------

講義の目標	インラインスケート基本技術の習得		
講義概要	<p>インラインスケート初心者でも受講可能。 スケート靴、プロテクター類はすべて大学で用意している。 動きやすい服装で受講すること。 ソックスは必ず用意すること。</p>		
使用教材	テキスト	ナシ	
	参考文献		
評価方法	出席状況 (60%)、受講態度 (20%)、テストの結果 (20%) で評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション・イメージビデオの視聴と理論
2	靴・プロテクター合わせ、安全のための諸注意、ストッピング
3	歩行からフォアストローク・フォアひょうたん
4	パイロンを利用したフォアひょうたん
5	片ひょうたんからスネークへ
6	パイロンを使ったスネーク・バックストロークの導入
7	バックひょうたん
8	バック片ひょうたん その1
9	バック片ひょうたん その2
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習
2	ターン
3	パワースライド
4	フォアクロス その1
5	フォアクロス その2
6	フォアクロス その3
7	ダンスの練習
8	ダンス
9	バッククロス
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ インラインスケート（後期） スケート（集中授業）	担当者名	和田 智
-----	--	------	------

講義の目標	<p>後期インラインスケートでは、アイススケートのための基本的なスケート技術の習得を目標にする。集中授業アイススケートでは、冬季の代表的なスポーツであるアイススケート・カーリングの実践を通して知識・技術を身につけることにより、将来に向けての余暇享受能力を開発することを目標とする。</p> <p>集中授業アイススケートでは、後期に実施してきたインラインスケートの技術を活かしながら、基本滑走、アイスフォークダンス、アイスダンス、アイスホッケー、ノルマの達成を通して、フォアクロス、バッククロスまでできることを技術的な目標に置く。カーリングでは、ゲームの楽しさを理解できる程度の知識、技術の習得を目標に置く。</p>		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・インラインスケート実施時にソックスを必ず用意すること。 ・インラインスケート、アイススケート他の未経験者でも受講可能。 ・インラインスケートに関わる用具はすべて大学で用意しているが、アイススケートの靴については、自分の靴を準備することが望ましい。（10,000円程度） ・集中授業の必要経費（宿泊費・食費・保険料等）として40000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。 <p>集中授業は、期間：平成8年12月18日（水）～22日（日）4泊5日 場所：長野県軽井沢スケートセンター（塩壺温泉ホテル宿泊）の予定 現地集合・現地解散とする。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献		
評価方法	出席状況（60%）、受講態度（20%）、技術の向上度（20%）で評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション・イメージビデオの視聴と理論
2	靴・プロテクター合わせ、安全のための諸注意 ストッピング
3	歩行からフィアストローク フォアひょうたん
4	パイロンを利用したフォアひょうたん
5	片ひょうたんからスネークへ
6	パイロンを使ったスネーク バックストロークの導入
7	バックひょうたん
8	バック片ひょうたん その1
9	バック片ひょうたん その2
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 硬式テニス	担当者名	小 俣 充
-----	------------------	------	-------

講義の目標	テニスというスポーツをどのように理解し、どのような目標を設け、どのように取り組むのかを確定し、その取り組み方に必要なこと（基礎）の獲得を目指す。		
講義概要	アグレッシブ・テニスに必要な基礎（ストロークまたはボレー）と、それぞれの動作を確かなものにする意識の働きについて学ぶ。多岐にわたる基礎を簡潔にまとめ、個々に身についた動作の修正を含めて繰り返し練習する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1. ベスト・テクニク・テニス 日本プロテニス協会編、学習研究社 2. テニスのメンタルトレーニング ロバート・S・ワインバーグ、大修館書店 3. スポーツを読む 稲垣正浩、三省堂 4. インナーゲーム・インナーテニス W. T. ガルウェイ、日刊スポーツ出版社 	
評価方法	出席回数をベースにし、テニスにどれほど集中し努力したかにより評価		
受講者に対する要望など	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経験者（中級以上：フォアとバックのストロークおよびボレーがひと通り打てる）のみ受講可。 2. 後期に埼玉オープンを見学する予定。 		

年間講義予定

前・後期とも受講者の実態と進歩の状況により、次ぎのテーマを順次取り上げる。また個々のプレーを映像でとらえ、研究する。

1. 身体の構えと加重
2. 身体の軸と身体の動き
3. フットワーク
4. グリップ
5. ストロークの原型
6. ラケットのセット
7. ラケットの動き
8. 打点
9. 目線 (バックとフォアの見分け)

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 硬式テニス	担当者名	田中茂宏
-----	------------------	------	------

講義の目標	技術的には、フォア、バックハンドの両ストロークを中心にラリーが続けられる様になり、ゲーム形式の練習時ではゲームの進め方、ルールを学ぶ。		
講義概要	<p>ストローク、ボレー、サービスの練習を中心に行い、ゲーム形式の授業時には、結果を記録する。</p> <p>能力別のグループ分けを行い、レベルに応じて授業を進める。</p> <p>ダブルス、シングルのゲームを通してルール、ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>出欠呼を毎回実施し、遅刻を認めない。</p> <p>雨天時には3棟1階の体育掲示板で集合場所等を指示する。</p> <p>着替えを忘れた者は授業への参加を認めない。</p> <p>見学者は着替えた後に出席すること。</p> <p>授業はテニスコートで実施する。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	なし	
評価方法	出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの記録を加味して評価する。		
受講者に対する要望など	クレーコートを使用するので必ずテニスシューズで出席すること。出欠状況は各自で覚えておくこと。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成。
2	準備体操各種と実施上の注意。用具の準備の仕方と片付け方の指示。ストロークを中心にに行う。
3	準備体操の後、ストロークを中心に、ボレー、サービス等の練習を加えていく。
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	ゲームを行い、審判法、ルール、ゲームの進め方を習得する。
11	同上
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	準備体操の後、ストローク、ボレー、サービスの練習を復習する。
2	同上
3	同上
4	同上
5	同上
6	準備体操、ストローク練習の後、ダブルスのゲームを行い、記録をとる。
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 硬式テニス	担当者名	土井浩信
-----	------------------	------	------

講義の目標	テニスの授業を通して、体育とは何か、自分にとっての生涯スポーツの在り方とはどんなものであるかを考えていきたい。		
講義概要	テニスに関する技能学習が中心になるが、場に応じた課題を与えていく。スポーツの楽しさ、スポーツにとってのルール、他者観察力、自己観察力、自分自身の身体との対話能力、中心把握のポイント等々、授業を通して課題について考える。		
使用教材	テキスト	なし。※雨天時等に指導ビデオの教材を使用する。	
	参考文献	なし。	
評価方法	授業への出席度とレポートによる評価。		
受講者に対する要望など	テニスコート専用の運動靴（テニスシューズ）着用厳守。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業説明と受講にあたっての諸注意。個人カード作成。
2	ラケットの基本的な持ち方握り方。グループ分け。用具の準備の仕方。 フォアハンドの基本ストロークの学習。 用具の片付けとコート整備の仕方。
3	フォアハンド (手なげトスのボール)。ショートラリー。 バックハンド (手なげトスのボール)
4	サーブ練習の導入。球出し練習。 テニス経験者、ゲーム指導 (ローテーション方式)。
5	サービスとサービスレシーブ練習。 連続グランドストロークのポイント式ゲーム導入。
6	ダブルスゲーム (ルールの説明、審判の仕方、ゲームケアのマナー) の導入。円滑なゲーム運営について役割確認。
7	ダブルスゲームと基本練習の場のセッティング。選択方式の練習導入。
8	ダブルスゲームと基本練習の場のセッティング。選択方式の練習導入。
9	ダブルスゲームと基本練習の場のセッティング。選択方式の練習導入。
10	ダブルスゲームのチーム戦開始。
11	ダブルスゲームのチーム戦開始。
12	ダブルスゲームのチーム戦開始。前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ボレーの基本練習。ショートフライボールのボレー、ロングフライボールのボレー、ライナーボールのボレー連続。 サービス、サーブレシーブの練習。
2	シングルスゲームの導入。ルールの説明、運営方法の確認。
3	シングルスゲームのチーム戦。動き方の基本、ポジショニングの学習。
4	シングルスゲーム・ダブルスゲームのチーム戦。
5	ダブルスゲームのゲーム評価の仕方。動きのチェック。
6	ダブルスゲーム (乱取り形式でのゲーム運営)。 課題「全員が楽しめるテニスのプレイ」
7	ダブルスゲーム (乱取り形式) 課題「視・観・察」
8	ダブルスゲーム (乱取り形式) 課題「自分に最も適した運動リズムとフォーム」
9	ダブルスゲーム 課題「自己観察、他者観察」
10	ダブルスゲーム 課題「中心把握する能力」
11	ダブルスゲーム 課題「自分自身の身体との対話、イメージ能力」
12	一年のまとめと評価。レポート提出。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 硬式テニス	担当者名	中川 昭
-----	------------------	------	------

講義の目標	主として日常生活における運動不足の解消と健康の保持、増進のために、生涯を通して運動（テニス）に親しんでもらう能力と態度を身につける。		
講義概要	前期は、個々の能力に応じた指導を行うために、初心者と経験者に分かれて練習を行う。初心者はグランドストロークの練習を中心に、経験者はアプローチショットやネットプレー等実践的な練習を中心に行う。尚、出来る限り短期間で技術の向上を図るために、ストロークやボレー等のビデオ撮影を行い、個々の欠点を細く分析してゆく予定である。後期は、初心者と経験者を合わせてグループ分けをし、グループごとの対抗戦（ダブルス）を行う。尚雨天時には、トレーニングルームおよび教室にて健康維持のため（減量、成人病予防を含む）の運動処方（運動の種類、強度、頻度等）について講義および実技指導を行う。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	授業への貢献度によって決定する。		
受講者に対する要望など	必ずテニスシューズを着用すること。雨天時にも必ずトレーニングウェアを持参すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション（種目の選択、授業に関する注意事項等）。
2	テニスによる傷害（肉離れ、テニス肘等）予防と競技力向上を目的としたストレッチ等の具体的方法について学習する。
3	初心者はグリップの握り方とボールに慣れるための練習（ボールつきなど）を行う。経験者はグラウンドストロークの練習を中心に行う。
4	初心者はグラウンドストロークの練習を、経験者は主としてボレーの練習を行う。
5	初心者はグラウンドストロークの練習とボレーの練習を、経験者は、スマッシュの練習を中心に行う。
6	初心者、経験者に分け、6～8人のグループをつくる。そしてグループごとにストロークやボレーの練習を行う。ビデオ撮影。
7	上記に同じ。また、特に経験者のグループでは、サーブ、スマッシュやアプローチショット、ボレーの組み合わせなどの実践的な練習を中心に行う。ビデオ撮影。
8	上記に同じ。また、同じグループ内でダブルスのゲームを行う。その際、ゲームの進め方、審判の仕方も学習する。
9	上記に同じ。
10	上記に同じ。
11	上記に同じ。
12	グラウンドストローク、ボレーおよびルールについて簡単な試験を行う。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に学んだ各技術の復習を行う。
2	初心者と経験者を合わせてグループ分けをし、同じグループ内でダブルスのゲームを行い、お互いの実力を確認しあう。
3	グループごとの対抗戦（ダブルス、4～6ゲーム先取の1セットマッチ）を行う。
4	上記に同じ。
5	"
6	"
7	"
8	"
9	"
10	"
11	"
12	サーブと試合を通して実践的技術の試験を行う。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 硬式テニス	担当者名	中 沢 克 江
-----	------------------	------	---------

講義の目標	テニスのゲームを楽しむために基本的技術を習得する。体を動かすことを目的とし、ボールを打ち合いながら受講生同士の親睦を図る。		
講義概要	<p>基本的技術の習得</p> <p>ルール、マナーの理解</p> <p>ゲームを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームはダブルスを行う。 ・ゲームのペアは、受講生同士の親睦を深めることを目的に組むので、教員が指示する。 ・技術レベル別リーグ戦では、受講生同士でペアを組み、技術レベル別は自己申告で決める。 		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、受講態度、課題の理解度、技術を評価する。</p> <p>受講態度の中には、服装も対象とする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>体育実技に適した服装で受講のこと。</p> <p>クレーコートに適するテニスシューズ必ず用意すること。</p> <p>天候などにより、内容の変更がある。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：授業に関する説明及び諸注意。個人資料の作成。
2	基礎練習：ラケットの使い方。ボールに慣れる。身体の使い方。等
3	基礎練習：グラウンドストローク。
4	基礎練習：グラウンドストローク。サービス。
5	基礎練習：グラウンドストローク。サービス。ボレー。 応用練習：グラウンドストローク。
6	基礎練習：グラウンドストローク。ボレー。サービス。 応用練習：簡易ゲーム＝ルール説明
7	応用練習：グラウンドストローク。ボレー。サービス。
8	応用練習：ダブルスゲーム＝ゲーム方法の説明。ルール説明。
9	ダブルスゲーム
10	ダブルスゲーム
11	ダブルスゲーム
12	ゲームを中心に、評価を行う。
備考	雨天の時は、内容を変更します。3棟の体育掲示板を見ること。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	基礎応用練習：グラウンドストローク他。
2	基礎応用練習中心で、ゲームも行う。 ゲームは男女別、男女混合でも行う。
3	ゲーム（ダブルス）中心。 応用練習：グラウンドストローク他。
4	ゲーム（ダブルス）中心。 応用練習：グラウンドストローク他。
5	ゲーム：ダブルス 第7週からの技術レベル別リーグ戦のためのダブルスペア作りの準備。
6	ゲーム：ダブルス 第7週からの技術レベル別リーグ戦のダブルスペアの決定。
7	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
8	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
9	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
10	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
11	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
12	評価を行う。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 硬式テニス	担当者名	野口昭彦
-----	------------------	------	------

講義の目標	<p>現代社会では科学技術文明の進歩に伴い社会環境が著しく変化してきた。その変化に対して身体運動の重要性が認識され、「健康増進」に深い関心が持たれてきた。また、ストレス解消等さまざまな目的に応じて身体活動を行う社会へと変化してきた。このような現代社会での健康管理は、ただ漠然と運動やスポーツを行うものではなく、各自のライフスタイルや体力に応じ、自分の健康は自分で創り上げていく、ウェルネス (WELLNESS) 運動が必要である。以上のことを考慮し、学生時代に運動の基礎を体得し、永い人生に活用できる内容を展開する。</p>		
講義概要	<p>テニスは生涯スポーツとして適切な運動刺激があり、年齢やその人の体力、技能に応じてできるスポーツなので、身体運動の習慣を身に付けることが期待でき、その楽しさを生涯味わうことができる。テニスはメンタルな要素を多く含んでおり、いつでも冷静な判断で精神力や集中力を養い、エチケットやマナーを守り、人々の人間関係を大切にできるスポーツである。また、テニスは技術の取得に経験と時間が必要とされることから、全体を初心、中級、上級の4クラスに分け、各クラスに適した指導を行い、楽しいテニスを取得し、永い人生の生涯体育として、また、社会生活に貢献できることを期待したい。</p>		
使用教材	テキスト	適宜資料を配布する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『テニス教本』 テニスジャーナル ・『先手をとるダブルス2人の役割』 学研 ・『テニスのメンタルトレーニング』 大修館書店 	
評価方法	<p>出席を重視するが、履修態度や運動服装も評価の対象とする。簡単なテストを行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>必ずコートに適合したテニスシューズを各自で用意する事。降雨等でコートが使用不可能の場合は、教室にてビデオまたは、講義を行う。年間講義予定は授業の進行状況により、変更の場合もある。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション。1年間の履修概要説明。
2	基本動作：ラケットグリップの確認（フォア、バック） ボールに慣れる、フットワーク
3	基本動作：技術レベルごとに班編成。グラウンドストローク（フォア）
4	基本動作：各班ごとにグラウンドストローク（バック）
5	基本動作：各班ごとにグラウンドストローク。ボレー
6	基本動作：各班ごとにグラウンドストローク（クロス）、ボレー（ロー、ハイ）
7	基本動作：各班ごとにグラウンドストローク（逆クロス）、ボレー、スマッシュ
8	基本動作：各班ごとにグラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サーブ
9	各班ごとに、ダブルスの試合、審判法、マナー 試合の基本練習
10	各班ごとに、ダブルスの試合、審判法、マナー 試合の基本練習
11	各班ごとに、ダブルスの試合、審判法、マナー 試合の基本練習
12	各班ごとに、ダブルスの試合、審判法、マナー 試合の基本練習
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の基本動作の復習
2	応用動作：グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス
3	応用動作：グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス
4	応用動作：グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス
5	各班ごとに、ダブルス（含ミックス）試合、雁行陣、試合のセオリー説明
6	各班ごとに、ダブルス（含ミックス）試合、雁行陣、試合のセオリー説明
7	各班ごとに、ダブルス（含ミックス）試合、並行陣、試合のセオリー説明
8	各班ごとに、試合。ダブルス（含ミックス）リーグ戦
9	各班ごとに、試合。ダブルス（含ミックス）リーグ戦
10	各班ごとに、試合。ダブルス（含ミックス）リーグ戦
11	各班ごとに、試合。ダブルス（含ミックス）リーグ戦
12	各班ごとに、試合。ダブルス（含ミックス）リーグ戦
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 硬式テニス	担当者名	松原 裕
-----	------------------	------	------

講義の目標	「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に基づき、硬式テニスを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。		
講義概要	<p>選択の際には男女・技術レベルは問わないが、ダブルスの試合ができるようになることを目標とする。一面6人×6面=36名を定員とし、40名以上は抽選となる。</p> <p>基本技術では、ストロークよりも、サーブ、レシーブ、ボレーに中心をおいて練習する。ゲームの要素を早い時期から取り入れ、分習法よりも全習法が主体となる。コートが使用できない場合には他の場所を使用して練習するか基礎的な理論を講義する。</p> <p>希望者には夏季休業中に合宿を実施する。</p>		
使用教材	テキスト	『テニス教本』 社団法人日本プロテニス協会編	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR『突然変わり出す覚え方』 サーブの新打法とネットダッシュ 宮村 宏 ・VTR『突然変わり出す覚え方』 ネットプレーの新技术 宮村 宏 その他 	
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。		
受講者に対する要望など	必ず、コートに適合したテニスシューズを各自で用意する事。常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意
2	個人のビデオ撮影① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
3	個人のビデオ撮影② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
4	技術レベルごとに班編成をし班別に練習① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
5	技術レベルごとに班編成をし班別に練習② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
6	技術レベルごとに班編成をし班別に練習③ ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
7	技術レベルごとに班編成をし班別に練習④ ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
8	ダブルスの試合の進め方① ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
9	ダブルスの試合の進め方② ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
10	ダブルスの試合の進め方③ ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
11	ダブルスの試合の進め方④ ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
12	テスト ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	個人のビデオ撮影① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
2	個人のビデオ撮影② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
3	技術レベルごとに班編成をし班別に練習① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
4	技術レベルごとに班編成をし班別に練習② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
5	ダブルスの試合の進め方① ○プレイヤーの戦術的な動き
6	ダブルスの試合の進め方② ○プレイヤーの戦術的な動き
7	技術レベルごとに班編成をして団体戦①
8	技術レベルごとに班編成をして団体戦②
9	技術レベルごとに班編成をして団体戦③
10	技術レベルごとに班編成をして団体戦④
11	技術レベルごとに班編成をして団体戦⑤
12	総合テストまたはレポート
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ ゴルフ	担当者名	野口昭彦
-----	----------------	------	------

講義の目標	<p>現代社会では科学技術文明の進歩に伴い社会環境等が著しく変化してきた。その変化に対して身体運動の重要性が認識され、“健康増進”に深い関心が持たれてきた。また、ストレス解消等さまざまな目的に応じて身体活動を行う社会へと変化してきた。このような現代社会での健康管理は、ただ漠然と運動やスポーツを行うものではなく、各自のライフスタイルや体力に応じ、自分の健康は自分で創り上げていく、ウェルネス (WELLNESS) 運動が必要である。以上のことを考慮し、学生時代に運動の基礎を体得し、永い人生に活用できる内容を展開する。</p>		
講義概要	<p>ゴルフは生涯スポーツとして適切な運動刺激があり、年齢やその人の体力、技能に応じプレーが可能のため、身体運動の習慣を身に付けることが期待でき、その楽しさを生涯味わうことができる。また、ゴルフはメンタルな要素を多く含んでおり、いかなる時でも冷静な判断で行動を行なうことで精神力や集中力を養い、人への思いやりや、気配等のエチケットやマナーを守り、周囲の人々の人間関係を大切にするスポーツである。以上の様にゴルフは非常に特徴のあるスポーツなので、技術の習得はもとより、ゴルフを通じて生活環境の変化や悪化等にも対応できる、精神力や体力を養い、永い人生での社会生活に貢献できることを期待したい。</p>		
使用教材	テキスト	適宜資料を配布する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・谷口信弘『はじめてのゴルフ』 新星出版社 ・伊能一郎『ゴルフスウィング、レッスン』 新星出版社 ・『ゴルフ基本』 学研 ・田中誠一『ゴルフ上達の科学』 プレジデント社 ・市村操一『ティーチング・ゴルフ』 ベースボールマガジン社 ・デビット・レッドベター『ザ・アスレチックスウィング』 ゴルフダイジェスト社 	
評価方法	出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする。また、簡単なテストを行なう。		
受講者に対する要望など	<p>降雨等でグラウンドが使用不可能の場合は、教室にてビデオまたは、講義を行なう。5月下旬から学外のゴルフ練習場で行う。ゴルフシューズか運動靴を使用すること。年間講義予定は授業の進行状況により、変更の場合もある。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の履修概要の説明。
2	基礎知識＝エチケット、マナー、服装、クラブ構造と用途について。
3	前期は基礎技術を中心に行なう＝クラブの握り方、左手、右手の握り方、グリップとクラブフェースの関係について。
4	スタンス（身体の構え）＝両足と上体の構え、左腕、右腕の構え方、両足とボールの位置関係を中心に行なう。
5	正しいアドレスの入り方＝ボールの後方から球筋を見る、右手で目標ラインに合わせる、飛球線と平行に構える等を中心に行なう。
6	正しいスイングの基本＝スイングのスタート、バックスイングのトップ、ワンピーススイング等について行なう。
7	正しいスイングの基本＝ダウンスイングの開始、インパクト、フォロースルー等について行なう。
8	スイングの弧とショットの関係＝スイングの弧とボール位置、円軌道のタイプと飛球方向等について行なう。
9	タイミングの実際＝ダウンスイングの開始とタイミング、タイミングとリズムの関係を中心に行なう。
10	ミドルアイアの練習＝前回までの学習を踏まえて、ゴルフ練習場にて練習球を使用しての練習。
11	ミドルアイアの練習＝確実にヒットすることを目標に。
12	ミドルアイアの練習＝ダウンプローを中心とした打ち込み。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期授業で行なった練習の復習。
2	ショートアイアの練習＝目標に対して正確に打つ練習。
3	アプローチショット＝ピッチエンドラン、ランニングアプローチ、ピッチショット等コントロールを必要とする練習を中心に行なう。
4	ロングアイアンの練習＝苦手意識を捨てる事の練習を行なう。
5	ドライバー＝構えとボールの位置、アップブローに打つ、力まず力を抜いて打つ練習を中心に行なう。
6	フェアウェイウッド＝ドライバーと同様の練習。
7	5、6週目と同じ練習。
8	応用スイング＝基本スイングを変化させ、応用スイングの知識を知る練習を行なう。
9	8週目と同じ練習。
10	各クラブの基本スイングを変化させ、応用スイングにて実戦的な練習を行なう。
11	10週目と同じ練習。
12	10週目と同じ練習。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ ゴルフ	担当者名	山中邦夫
-----	----------------	------	------

講義の目標	ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。		
講義概要	ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズミカルなスイング、さらには力強いスイングが出きるよう、グループ練習、VTRを用いた分析等を用いた授業となる。		
使用教材	テキスト	特になし。	
	参考文献		
評価方法	授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。		
受講者に対する要望など	欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。登録時に、練習場のボール代(10,000円)を払込むこと。ゴルフクラブは各自で、靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ゴルフ競技の概要 (VTR と講義)
3	スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習)
4	スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習)
5	スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。
6	スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。
7	スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。
8	(学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
9	(学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
10	(学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
11	(学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
12	(学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	(学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
2	(学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
3	(学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
4	(学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
5	(学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
6	(学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
7	(学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
8	(学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
9	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
10	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
11	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
12	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ ゴルフ	担当者名	吉田卓司
-----	----------------	------	------

講義の目標	<p>ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得して欲しい。</p>		
講義概要	<p>ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をVTRビデオにより学習する。前期は主として、クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第7週までは、学内でプラスチック、ボールを使用して、打球する。第8週からゴルフ練習場にて、実習する。</p> <p>後期は、はじめから、ゴルフ練習場にて、実習する。雨天にかかわらず実習可能なので、直接ゴルフ場に集合すること。ショートアイアン、ミドルアイアンの打法と1番・3番ウッドの打法を習得する。TVビデオを使用して、個人個人のスイングをチェック指導の予定である。</p>		
使用教材	テキスト	ナシ	
	参考文献	ナシ	
評価方法	<p>出席を重視し、普段の履習態度や運動服装等も評価の対象とする。テストは、アイアンとウッドの2回実施する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること（汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため）</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ゴルフの歴史と正しいマナーについて
3	基本的技術の TV ビデオ鑑賞
4	ショートアイアン (8, 9, PW, SW) のスウィング (グリップ、スタンス、アドレス、スウィングの方法をを習得する)
5	(学内でプラスチック・ボールを使用して実習)
6	(各人の個別指導) (正しいグリップ、スタンスの巾、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法)
7	
8	ゴルフ練習場にて実習 ショートアイアン ミドルアイアン 基本的なスウィングと打球
9	(反復練習)
10	(個別指導：グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック)
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ゴルフ練習場にて、実習
2	アイアンショット (3, 5, 7, 9, PW, SW) 練習 (個別指導とフォームのチェック)
3	1番ウッド (ドライバー) 3番ウッド (スプーン) の打法と練習
4	(ロングアイアン3, 4) ショット練習
5	
6	TV ビデオを使用して、個人個人のスウィングをチェック指導
7	
8	
9	
10	テスト (アイアン、及びウッド) 及び実習
11	
12	
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ サッカー	担当者名	田代力也
-----	-----------------	------	------

講義の目標	技術の習得、体力の向上をめざす。チームゲームの中で協調性を高める。正しいルールと、フェアで安全なプレイを学ぶ。		
講義概要	さまざまな基本練習から、攻撃、守備の展開、ゲームへと移行する。ゲーム毎にポイントを与え、確認する。 グラウンド不良時には、ビデオ等により、さまざまな角度からサッカーを学習する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	出席状況、遅刻、見学、参加態度に加えて、技術、技術を高めることへの努力、チームの中での協調性を評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講義予定については、第1週の授業で指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ サッカー	担当者名	田中茂宏
-----	-----------------	------	------

講義の目標	<p>ゲーム形式中心の内容を通して、ゲームの進め方、ルールを学ぶ。 グループ別の練習を取り入れて、基礎的な技能の向上をねらう。 各チームが均等になる様に分けてリーグ戦を行う。 ゲームでは、主審、ラインズマンをつけて行う。(各自、1度は経験する)</p>		
講義概要	<p>ゲーム中心で行うが、ゲームの中でボールを扱える様に個人、チームでの練習を行う。 ビデオ等でルールの審判のやり方を学び、ゲームで実際に経験する。 出欠点呼を毎回実施し、遅刻を認めない。 雨天時には、3棟1階の体育掲示板で集合場所等を指示する。 着替えを忘れた者は授業への出席を認めない。 見学者も更衣の後に出席すること。 授業はサッカー場で実施する。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	なし	
評価方法	出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果を加味して評価する。		
受講者に対する要望など	出欠状況は各自で覚えておくこと。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認と授業内容の説明、個人の資料の作成。
2	準備体操と実施上の注意。用具の準備と片付け方の指示。 基礎的な練習を行い、ゲームを行う。
3	準備体操、個人、チームでの基礎練習。ゲームを行う。
4	準備体操、個人、チームでの基礎練習。ゲームを行う。
5	準備体操、個人、チームでの基礎練習。ゲームを行う。
6	準備体操、個人、チームでの基礎練習。ゲームを行う。
7	準備体操、個人、チームでの基礎練習。ゲームを行う。
8	準備体操、個人、チームでの基礎練習。ゲームを行う。
9	チーム対抗戦を行う。主審、ラインズマンをつけて、成績を記録する。
10	チーム対抗戦を行う。主審、ラインズマンをつけて、成績を記録する。
11	チーム対抗戦を行う。主審、ラインズマンをつけて、成績を記録する。
12	チーム対抗戦を行う。主審、ラインズマンをつけて、成績を記録する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	準備体操、ボールを使用して個人、チームでの練習を行う。ゲームを行う。
2	準備体操、ボールを使用して個人、チームでの練習を行う。ゲームを行う。
3	準備体操、ボールを使用して個人、チームでの練習を行う。ゲームを行う。
4	準備体操、ボールを使用して個人、チームでの練習を行う。ゲームを行う。
5	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
6	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
7	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
8	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
9	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
10	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
11	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
12	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ サッカー	担当者名	松本光弘
-----	-----------------	------	------

講義の目標	<p>サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して体力の向上も合わせて目標とする。 内容的にはより高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。又、自主的にチームを作り活動ができるよう主体的な学習ができるようになることを最終目標とする。</p>		
講義概要	<p>サッカーの技術及び戦術を各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。 雨天時には体育館で実技を行うか、教室にてVTRを利用した講義を行う。</p>		
使用教材	テキスト	特になし	
	参考文献	特になし	
評価方法	<p>出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能の進捗度を含め総合的に評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツの用意を要望する。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション、種目分け
2	体力測定、12分間走 簡単なゲーム
3	技術練習とハーフゲーム
4	技術練習とハーフゲーム
5	技術練習とハーフゲーム
6	ルールの解説（講義）
7	個人戦術とハーフゲーム
8	個人戦術とハーフゲーム
9	個人戦術とハーフゲーム
10	グループ戦術とハーフゲーム
11	グループ戦術とハーフゲーム
12	サッカーの歴史（講義）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	チーム戦術とミニゲーム
2	チーム戦術とミニゲーム
3	チーム戦術とミニゲーム
4	攻撃におけるグループ戦術とミニゲーム
5	守備におけるグループ戦術とミニゲーム
6	グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム
7	グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム
8	フルゲーム
9	フルゲーム
10	フルゲーム
11	フルゲーム
12	フルゲーム 評価
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ スキートレーニング（後期） スキー（集中授業）	担当者名	松原 裕
-----	---------------------------------------	------	------

講義の目標	「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に基づき、アルペンスキーを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。		
講義概要	<p>選択の際には男女・技術レベルは問わないが、アルペンスキーの基本を理解し、身に付けることを目標とする。学内の授業では、ローラーブレード等のバランス感覚とストックワーク・基本姿勢などを学ぶ。</p> <p>スキー実習は2月下旬秋田県田沢湖スキー場を予定している。費用は交通費、レンタルを除いて40,000円の予定。</p>		
使用教材	テキスト	『ベーシック・スキー・テキスト』 板垣和男/佐々木明男著	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR『THIS IS THE オーストリアスキー』 ・VTR『スキー王国の上達マニュアル1』 ・VTR『スキー王国の上達マニュアル2』 その他 	
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。		
受講者に対する要望など	学内、集中ともに適合した用具を各自で用意する事。常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。集中授業で団体生活ができる事。		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意 *第2週より前期は授業がありません。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	ローラーブレード① ○サイズ合せ ○基本滑走
2	ローラーブレード② ○デモビデオでのイメージトレーニング ○基本滑走
3	ストックワーク① ○直滑降姿勢・曲げブルーク・伸びブルーク ○ストックワーク
4	ストックワーク② ○ターンイメージの中でのストックワーク
5	ローラーブレード③ ○滑走しながらのストックワーク
6	ローラーブレード④ ○スラローム滑走しながらのストックワーク
7	ローラーブレード⑤ ○ペア滑走でのシンクロ・逆シンクロ
8	ストックワーク③ ○正しい姿勢の反復練習
9	総合練習
10	スキー実習のオリエンテーション① ○テキスト配布 ○スキー指導法 ○スキーの基本理論
11	スキー実習のオリエンテーション② ○スキーの基本理論・応用 ○スキー実習実施上の注意
12	スキー実習のオリエンテーション③ ○スキーの基本理論・応用 ○スキー実習実施上の注意
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ スキー検定トレーニング（後期） スキー検定（集中授業）	担当者名	松原 裕
-----	---	------	------

講義の目標	『大学は学問を通じての人間形成の場である』という建学の理念に基づき、SAJ 基礎スキー技能テスト（級別テスト）を通じてフェアプレーの基本を多角的に考え、スキーを理解し、個人のレベルアップを目標とする。		
講義概要	<p>選択の際には男女は問わないが、技術レベルとしてはリフトに乗って中斜面を滑った程度を目安とする。</p> <p>学内の授業では、ローラーブレード等のバランス感覚、ストックワーク・基本姿勢などを学ぶ。40名以上は抽選となる。</p> <p>スキー実習は12月26日（木）～30日（月）4泊5日長野県斑尾高原サンパティックスキー場を予定している。29日（日）に級別テスト（1級～5級）を実施する。</p> <p>実習参加費は、交通費・レンタルを除いて42,000円を予定している。</p>		
使用教材	テキスト	『日本スキー教程』 全日本スキー連盟編	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR『基礎スキー検定』 ・VTR『スキー王国の上達マニュアル1』 ・VTR『スキー王国の上達マニュアル2』 ・その他『WOWOW スキーレッスン』等 	
評価方法	毎時間の出席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。		
受講者に対する要望など	<p>教員、受講学生、お互いの努力で実のある授業となるようにしたい。</p> <p>この授業がいろいろな意味でキッカケになってくれれば良い。</p> <p>集中授業で団体生活ができる事。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意 *第2週より前期は授業がありません。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ローラーブレード① ○サイズ合せ ○基本滑走
2	ローラーブレード② ○基本滑走 ○ストックワーク
3	ローラーブレード③ ○基本滑走 ○ストックワーク 曲げ・伸し
4	ローラーブレード④ ○ターンイメージの中でのストックワーク
5	ストックワーク① ○直滑降姿勢 ○曲げプルーク・伸しプルーク
6	ストックワーク② ○ターンイメージの中でのストックワーク
7	ストックワーク③ ○ペアでのシンクロ・逆シンクロ
8	スキー検定に関する講義① ○検定基準 ○スキー用語
9	スキー検定に関する講義② ○スキー用語のテスト ○実習事務連絡
10	スキー検定に関する講義③ ○スキー用語のテスト結果 ○実習事務連絡確認
11	スキー実習の反省
12	
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ ソーシャルダンス	担当者名	青柳多恵子
-----	---------------------	------	-------

講義の目標	<p>日常生活が西洋化されているにも関わらず、所作やダンスに対する考え方は日本的な領域から脱皮していない。また、国際的マナーの一つとしてのボディコミュニケーションである考え・話し・聞く・話すことの一部としてダンスを身につけることを目標とする。</p>		
講義概要	<p>ソーシャル・ダンスの初歩の歩行から、ワルツ・タンゴ・ルンバ・チャチャなどの技術的なことと同時に、踊るための体力の養成をし、踊ることの楽しさと、音楽によって自由に動けるテクニックを訓練する。しかし、特殊な難しいことでなく、歩ける人と音楽を楽しめる人であれば誰でも出来る、また楽しい生涯体育の一つです。</p>		
使用教材	テキスト	ソーシャルダンス基礎編	
	参考文献		
評価方法	<p>出席を重視する。ただし、ワルツ・ルンバをマスターする事。</p>		
受講者に対する要望など	<p>ダンスは男女同数しか受け付けません。 ダンスシューズを購入してください。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業概要の説明
2	ダンスの歩行・ステップの説明 ブルース・マンボのリズムによって
3	ワルツ・ブルース・マンボ
4	ワルツ (チェンジステップ・ナチュラルターン) ブルース・マンボ
5	ワルツ (チェンジステップ・ナチュラルターン) ブルース・マンボ
6	ルンバ (スクエア) ブルース (クォーターターン)
7	ルンバ (スクエア) ブルース (クォーターターン)
8	VTR タンゴ・ワルツ・ブルース・ルンバ
9	タンゴ (リンク・) ワルツ・ブルース・ルンバ
10	チャチャ・ジャイブ
11	チャチャ・ジャイブ
12	VTR 撮影 総まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習 ステップの解説
2	前期の VTR の解説 ワルツ・ジャイブ・ルンバ
3	ワルツ (スピントーン・フィスク) キュウバンルンバ
4	ワルツ (スピントーン・フィスク) キュウバンルンバ
5	チャチャ・キュウバンルンバ
6	チャチャ・キュウバンルンバ
7	VTR ジャイブ・
8	VTR ワルツ
9	VTR ルンバ
10	VTR ブルース
11	VTR 総まとめ
12	VTR 映写 解説
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ ソフトボール	担当者名	池 垣 功 一
-----	-------------------	------	---------

講義の目標	正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。		
講義概要	前期の前半は個人技術中心の練習内容とし、後半からチームを編成して、チームごとの練習ならびに試合に移る。後期は試合を主とした展開となるが、適宜、チームごとにテーマを決めたチーム練習を加える。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	評価は体育実技評価規準により、出席点に技能点、総合点（態度・努力・服装等）を加味して行なう。		
受講者に対する要望など	前・後期とも、雨天時およびグラウンド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間スケジュールおよび履修上の諸注意と、ソフトボールの特質、ルール等について説明
2	キャッチボール（ソフトボールに適したボールの握り方、フォーム） ピッチング（スリングショット投法）
3	ピッチング（スリングショット投法の復習およびウインドミル投法） トスバッティング
4	ピッチング（各種投法の復習） ハーフバッティング
5	守備練習（基本的なゴロと飛球の捕り方） フリーバッティング
6	守備練習（各ポジションの守備方法） シートノック
7	ベースランニングおよびスライディングの練習 バント練習（内野手の連けいプレー）
8	シートノックによる守備練習（ダブルプレーの練習） ゲーム形式のバッティング練習
9	審判の方法についての説明 チームの編成(1)（ポジション・打順を決める） 練習試合
10	チーム練習（試合前の、シートノック） 試合 A～B、C～D
11	チーム練習（トスバッティング） 試合 A～C、B～D
12	チーム練習（バント） 試合 A～D、B～C
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に学習した内容の総合的練習(1) 審判方法の復習
2	前期に学習した内容の総合的練習(2) スコアブックのつけ方についての説明
3	チーム編成(2)（以下、各々試合3回ごとに編成をかえる） 練習試合
4	チーム練習（毎週、チームごとにテーマを決めて実施する。以下同じ） 試合 E～F、G～H
5	チーム練習 試合 E～G、F～H
6	チーム練習 試合 E～H、F～G
7	チーム編成(3) チーム練習 試合 I～J、K～L
8	チーム練習 試合 I～K、J～L
9	チーム練習 試合 I～L、J～K
10	チーム編成(4) チーム練習 試合 M～N、O～P
11	チーム練習 試合 M～O、N～P
12	チーム練習 試合 M～P、N～O
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ ソフトボール	担当者名	田代力也
-----	-------------------	------	------

講義の目標	ソフトボールの正しいルールを理解と、チームプレイによる協調性を育む。また体力、運動能力の向上、技術のかく得をめざす。		
講義概要	打撃、守備の基本練習からゲームに移行する。時限毎にゲームのポイントを指摘して確認する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	出席状況、遅刻、見学、参加態度に加えて、技術、技術を高めることへの努力、チームの中での協調性について評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講義予定については第1週の授業で指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ ソフトボール	担当者名	萩野元祐
-----	-------------------	------	------

講義の目標	<p>基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。</p>		
講義概要	<p>初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数7回以上の者については評価の対象としない。</p> <p>交通機関及び体調などやむえない理由以外の遅刻は認めない。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション (体育館)。 登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成など。
2	ソフトボールの歴史、特性、競技場、基本ルールなどの説明。 個人技能練習、ボールの握り方、キャッチボールの送球、捕球の基本練習。
3	前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
4	バッティング、バットの握り方、スタンス、位置、構え方、スイングなどの練習。 独自ルールでゲームの実習。
5	前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
6	前回までの復習。 バンドのグリップ、スタンス、セフティバンドなどの練習。 独自ルールでのゲーム実施。
7	守備における送球、補球 (ゴロ、フライ) 練習。 独自ルールでゲームの実習。
8	前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
9	投手のボールの握り方と投法練習。 独自ルールでゲームの実習。
10	前回の復習。 4チームによるリーグ戦。(A対B、C対D)
11	前期の復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
12	ゲームの攻防を通してテスト。 リーグ戦、(A対D、B対C)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習。 独自ルールでゲームを実施。
2	上記と同じ。
3	集団技能 (守備)、ベースカバーを練習。 4チームによるリーグ戦。(A対B、C対D)
4	前回の復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
5	集団技能 (守備)、リレープレイを練習。リーグ戦、(A対D、B対C)
6	前回の復習。 リーグ戦2巡目、(A対B、C対D)
7	集団技能を復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
8	スクイズプレイの練習。 リーグ戦、(A対D、B対C)
9	ダブルプレイの練習。 リーグ戦3巡目、(A対B、C対D)
10	前回の復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
11	リーグ戦、(A対D、B対C)
12	ゲームの攻防を通してテスト。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ ソフトボール・スキー〈集中授業〉	担当者名	田代力也
-----	-----------------------------	------	------

講義の目標	<p>・ソフトボール</p> <p>打つ、走る、捕える、投げる等の基本運動能力を高める。</p> <p>チームゲームを通じて協調性を高める。</p> <p>・スキー</p> <p>生涯スポーツとしてのスキーを認識する。</p> <p>理論と実技の中で、技術の習得、安全なスキーを学ぶ。</p>		
講義概要	<p>・ソフトボール</p> <p>打撃、守備の基本練習からゲームに移行する。時限毎にゲームのポイントを指摘し確認する。</p> <p>・スキー</p> <p>体力、技術程度により班別講習を行なう。“スキーはリズム”をテーマとする。ビデオ撮りによって各自のすべりの分析を行ない、技術向上への資料とする。ソフトボールと並行してスキーのためのトレーニングを行なう。</p>		
使用教材	テキスト	ベーシック・スキー・テキスト 板垣和男/佐々木明男：共著 千早書房	
	参考文献		
評価方法	出席状況、遅刻、見学、参加態度に加えて、技術、技術を高めることへの努力、またソフトボールについては、チームの中での協調性について評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講義予定については第1週の授業で指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 卓球	担当者名	天野和彦
-----	---------------	------	------

講義の目標	卓球の基本的知識を学習するとともに、技能の向上をはかる。		
講義概要	ゲームを中心に行い、その中で、ルール、打法、ゲームのすすめ方を紹介する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	出欠、授業態度、さらに技能の進歩などを考慮して決定する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ラリーの連続を行うために①——コントロール
3	ラリーの連続を行うために②——サービスとレシーブ
4	シングルの簡易ゲームを行い、グループ編成をする。
5	シングルの簡易ゲームを行い、グループ編成をする。
6	グループ別でのシングルスゲーム
7	グループ別でのシングルスゲーム
8	グループ別でのシングルスゲーム
9	上級者と初級者のペアで、ダブルスの練習
10	ダブルスゲームのリーグ戦
11	ダブルスゲームのリーグ戦
12	ダブルスゲームのリーグ戦
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ラリーの連続を行うために③——いろいろな打法
2	全員によるシングルストーナメント
3	全員によるシングルストーナメント
4	能力別でのダブルスゲーム
5	能力別でのダブルスゲーム
6	能力別でのダブルスゲーム
7	グループを編成し、グループ対抗のリーグ戦を行う
8	グループを編成し、グループ対抗のリーグ戦を行う
9	グループを編成し、グループ対抗のリーグ戦を行う
10	全員によるダブルストーナメント
11	全員によるダブルストーナメント
12	
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 卓球	担当者名	太田朝博
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>台球は、老若男女を問わずだれでも手軽にでき、生涯を通して楽しめるスポーツである。又、他の競技に比較して、コートがせまく、ボールも小さく軽いので、非常にスピーディーな対応が要求される。さらに対人競技であるから、勝負におけるかけひきも重要となる。したがって技術の習得と並行して、敏しょう性、持久力、脚力などの体力と、精神的にも鋭い反射神経や決断力を養なう。</p>		
講義概要	<p>基本的技能を繰り返し練習し、それをしっかりと身につけ、スピード感のある動きの習得と高度なゲーム展開ができるようにする。</p> <p>又、ダブルスゲームでは互いのコンビネーションを身につけ、互いに打ち合うおもしろさと、パートナーと協力して相手とゲームをする方法を身につける。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>出席点を中心として評価し、授業態度、技能の進歩などを加味する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人的技能＝フォア・バックロング、カット、スマッシュ、サーブ ・ゲーム結果 <p>欠席時数7回以上の者に対しては、評価の対象としない。</p>		
受講者に対する要望など			

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション 登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成
2	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;">個人的技能</div> <div> グリップ [シェイク・ペン]、素振り サーブ、サーブレシーブ フォアロング、バックハンドロング—スマッシュ フォアショート、バックショート カット 等の習得 </div> </div>
3	
4	
5	
6	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;">基本的技能の反復</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px; margin-left: 10px;">応用的技能</div> <div> 基本的技能の連携とラリー ラリーにより数多くの打込みを行ないその中で動きを身につけて行く。 </div> </div>
7	
8	
9	
10	
11	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;">簡易ゲーム</div> <div> ・シングルスゲームの動きと戦法 ・ダブルスゲームのコンビネーション </div> </div>
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;">基本的技能</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px; margin-left: 5px;">応用的技能</div> <div style="margin-left: 10px;">の反復練習</div> </div>
2	各自で不得手としている技術を中心に練習を行なう。
3	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;">リーグ戦</div> <div style="margin-left: 10px;"> シングルスゲーム 個々にゲームを展開し、その結果を記録する。 </div> </div>
4	
5	
6	
7	
8	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;">ダブルスゲーム</div> <div style="margin-left: 10px;"> 固定のペアを組みゲームを展開し、その結果を記録する。 </div> </div>
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 卓球	担当者名	小川 又八朗
-----	---------------	------	--------

講義の目標	卓球を通じて、運動をする習慣を身につけ、生涯体育として健康の維持増進をはかるとともに、卓球の基本動作、ルールなどについても勉強し技能の向上を計るとともに、社会生活の中でもそれらを活用できるようにすることをめざす。		
講義概要	卓球についてのビデオを見て、基本練習を通じてラリーを続けられるようにし、集中力を養う。また、サービスとレシーブの重要性を理解させ簡単なゲームができること、審判ができるようにルールについても勉強していく、ゲームは、簡単なものから、個人ゲーム、ダブルスゲーム、団体対抗ゲームと進めていく。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	特になし。	
評価方法	評価は出席点を中心とし、技能の進歩の度合、平素の授業態度、特に服装の適否なども加味して行なう。尚欠席が7回以上の者は、評価はFとする。やむを得ず欠席した場合はできるだけ早く口頭で届け出ること。		
受講者に対する要望など	欠席、遅刻はしないこと。服装は体育に適したもの、Gパンは認めない。靴も、ゴム底の運動靴を使用すること。用具については、大学で用意するが、ラケットはできるだけ各人で用意すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認と、個人の資料作成、授業内容の説明。
2	教室でビデオを見て、基本的知識を修得する。
3	準備運動の実施方法、簡単な能力テストをし、能力別のグループ作成、ルールについて説明。
4	シングルのゲーム（リーグ戦）、初心者は、基本練習。
5	シングルのゲーム（リーグ戦）、初心者は、基本練習。
6	シングルのゲーム（リーグ戦）、初心者は、基本練習。
7	シングルのゲーム（リーグ戦）、初心者は、基本練習。
8	ダブルスのゲーム（リーグ戦）。
9	ダブルスのゲーム（リーグ戦）。
10	ダブルスのゲーム（リーグ戦）。
11	ダブルスのゲーム（リーグ戦）。
12	全員を抽選により、トーナメント試合。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	トーナメント試合。
2	トーナメント試合。
3	トーナメント試合。
4	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
5	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
6	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
7	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
8	シングルス及び、ダブルスゲーム。
9	シングルス及び、ダブルスゲーム。
10	シングルス及び、ダブルスゲーム。
11	シングルス及び、ダブルスゲーム。
12	技能テスト。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 卓球	担当者名	奥野忠枝
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>卓球という球技をとおして、技術の向上はもとより、ゲームをたのしみながら、ルール、試合方法、審判法を学ぶ。</p> <p>ダブルス競技においては、チームワークを体験することによって、協力の態度を養う。</p>		
講義概要			
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>評価は出席点を重視し、平素の授業態度、技能の進歩を加味し実施する。欠席はできるだけ届け出ること。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認 授業内容の説明と諸注意 個人資料の作成
2	競技場と用具について（準備と片付け方） ラケットの種類、持ち方
3	ボールの打ち方 ラリーの連続を行う。 ミニ試合
4	サービス、レシーブの練習 ミニ試合
5	バックハンド フォアハンドの練習 シングルの試合方法と試合
6	サービスについて ボールの回転とラケットの動きを練習 シングルス試合
7	審判法について学ぶ
8	ダブルス競技のルールを学ぶ ダブルスミニ試合
9	グループでリーグ戦形式のダブルス試合
10	上記に同じ
11	シングルス試合
12	前期のまとめ シングルス試合
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習 基本の動き シングルス試合
2	カットについて学ぶ シングルス試合
3	マナーについて 悪いマナー・良いマナー
4	ダブルの作戦おパートナーとの動きについて
5	グループでダブルの試合
6	上に同じ
7	上に同じ
8	上に同じ
9	シングルのトーナメント試合
10	シングルス ダブルスにわかれて試合
11	総復習
12	総復習と反省
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 卓球	担当者名	本田稔祐
-----	---------------	------	------

講義の目標	卓球を通じて、運動をする習慣を身につけるとともに、卓球の基本動作、ルールなどを学習して、技能も向上させ、将来それらが健康の維持増進のために役立つようにすること。		
講義概要	卓球についてのビデオを見て、基本練習を通じてラリーを続けられるようにし、サービス、レシーブの重要性を理解するとともに、ゲームと審判ができ、簡易ゲーム、シングルス、ダブルス、団体対抗ゲームなども体験させる。		
使用教材	テキスト	特になし	
	参考文献	特になし	
評価方法	評価は出席点を中心とし、平素の授業態度、服装の適否、技能の進歩の度合などを加味して行う。なお欠席が7回以上の者は、評価はFである。		
受講者に対する要望など	欠席、遅刻はしないこと。服装は運動着以外は認めない、靴もゴム底の運動靴を使用のこと。卓球用具は、大学で用意するが、できればラケットは各人で用意した方が望ましい。欠席などの届けは、口頭でよい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業内容の説明と授業登録の確認、個人の資料作成など。
2	教室でビデオを見て、基本的知識、基本動作の理解。
3	能力テストによりグループ分け、基本練習。
4	シングルスゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
5	シングルスゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
6	シングルスゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
7	シングルスゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
8	ダブルスゲーム（リーグ戦）
9	ダブルスゲーム（リーグ戦）
10	ダブルスゲーム（リーグ戦）
11	ダブルスゲーム（リーグ戦）
12	全員でのトーナメント試合
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	トーナメント試合
2	団体対抗のリーグ戦
3	団体対抗のリーグ戦
4	団体対抗のリーグ戦
5	団体対抗のリーグ戦
6	団体対抗のリーグ戦
7	ダブルスゲーム（リーグ戦）
8	ダブルスゲーム（リーグ戦）
9	ダブルスゲーム（リーグ戦）
10	ダブルスゲーム（リーグ戦）
11	ダブルスゲーム（リーグ戦）
12	技能テスト
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 軟式野球	担当者名	太田朝博
-----	-----------------	------	------

講義の目標	<p>野球は、守備と攻撃を規則的に交代しあってゲームを展開し、一定回数内の得点を競い合うスポーツである。投球、捕球、打撃、走塁などの基本的な個人技能を習熟するとともに、スクイズ、バントエンドラン、ヒットエンドランなどの攻撃法やバントシフト、ピックオフプレー、カットプレーなどの防御法を通して集団的技能を身につける。これらのことを基礎にして、ゲームでは、個人的、集団的技能を生かした作戦をたてて組織的なゲーム展開が出来るようにする。</p>		
講義概要	<p>個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、スピード感のある高度なゲーム展開が出来ることを目指し授業を進める。</p> <p>雨天等で実技が出来ない時はルールの解説、スコアのつけ方、ビデオなどを見て学習。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>出席点を中心にして評価し、授業態度、技能の進歩などを加味する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人的技能——捕球——送球 遠球 打撃 ・ゲーム結果——（集団、個人技能）等を総合的に見て評価する。 <p>欠席時数7回以上の者に対しては、評価の対象としない。</p>		
受講者に対する要望など			

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション 登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成
2	個人的技能 基本技能 キャッチング
3	スローイング 1対1での正確な技能の習得 バッティング ノックとトスバッティング、バッティングをしっかりと身につける
4	ピッチング
5	
6	集団的技能 連携プレー 攻撃＝バント及びヒットエンドラン
7	タッチアッププレー 守備＝フォースプレー
8	ダブルプレー バント処理と野手の動き
9	カバーリング あらゆるプレーに対するフォーメーション
10	ルールの解説とスコアのつけ方（ワンプレーに対する判定法）
11	簡易ゲーム 簡易なゲームを通し事前に練習したプレーの確認とルールの習得。
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	個人技能 の反復練習 集団技能
2	キャッチング ゲーム 個々の技量を考えチーム間の力量の差が大きくなるようにチーム編成し、リーグ戦を行なう。
3	トス、フリーバッティング シフト打撃 ピッチング スコアをつけ個人の打撃成績（打率・盗塁・打点など）を集計し技能を競い合う。
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 軟式野球	担当者名	萩野元祐
-----	-----------------	------	------

講義の目標	<p>基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、軟式野球を楽しむということも目標のひとつである。</p>		
講義概要	<p>初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、軟式野球の特性や、技術、戦術を高める。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数7回以上の者については評価の対象としない。</p> <p>交通機関及び体調などやむえない理由以外の遅刻は認めない。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション（体育館）。 登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成など。
2	軟式野球の歴史、特性、競技場、基本ルールなどの説明。 個人技能練習、ボールの握り方、キャッチボールの送球、捕球の基本練習。
3	前回の復習。 バッティング、バットの握り方、スタンス、位置、構え方、スイングなどの練習。
4	前回の復習。 ゲーム形式で練習。
5	バンドのグリップ、スタンス、セフティバンド ゲーム形式で練習。
6	前回の復習。 ゲーム形式で練習。
7	投手のボールの握り方と投法練習。 4チームによるリーグ戦。（A対B、C対D）
8	守備における送球、補球（ゴロ、フライ）練習。 リーグ戦、（A対C、B対D）
9	前回の復習。 リーグ戦、（A対D、B対C）
10	集団技能（守備）、ベースカバーを練習。盗塁、盗塁阻止練習。 リーグ戦2巡目、（A対B、C対D）
11	前回の復習。 リーグ戦、（A対C、B対D）
12	ゲームの攻防を通してテスト。 リーグ戦、（A対D、B対C）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習。 練習形式のゲーム。
2	上記と同じ。
3	集団技能（守備）、バックアップを練習。 チームによるリーグ戦。（A対B、C対D）
4	前回の復習。 リーグ戦、（A対C、B対D）
5	集団技能（守備）、リレープレイを練習。 リーグ戦、（A対D、B対C）
6	前回の復習。 リーグ戦2巡目、（A対B、C対D）
7	集団技能を復習。 リーグ戦、（A対C、B対D）
8	スクイズプレイの練習。 リーグ戦、（A対D、B対C）
9	ダブルプレイの練習。 リーグ戦3巡目、（A対B、C対D）
10	前回の復習。 リーグ戦、（A対C、B対D）
11	リーグ戦、（A対D、B対C）
12	ゲームの攻防を通してテスト。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ バスケットボール	担当者名	太田朝博
-----	---------------------	------	------

講義の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボールの特性や練習方法を理解し、個人的技能や集団的技能を養ない、各自の技能の程度やチームの力量に応じ、作戦を立てて、ゲームが出来るようにする。 ・チームとしての共通の目標をもち、相互に協力して、計画的に安全に練習やゲームが出来るようにする。 ・ゲームの計画や運営が自主的に出来、審判も出来るようにして、生涯を通して、運動を楽しむことが出来る能力や態度、習慣を身につけるようにする。 		
講義概要	<p>個人技能と集団技能を交互に繰り返し、スピード感のある高度なゲームの展開が出来ることを目指して授業を進める。</p> <p>ゲームでは簡単なスコアをつけ、個々の技能を確認する。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>出席点を中心として評価し、授業態度、技能の進歩などを加味する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人的技能—シュート力、ドリブル技術、等。 ・ゲーム結果—（集団、個人技能）等を総合的に見て評価する。 <p>欠席時数7回以上の者に対しては、評価の対象としない。</p>		
受講者に対する要望など			

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション 登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">個人的技能</div> (基本技能) パスワーク、ドリブル、シュート (ジャンプ・ロング) リバウンド、フリースロー 等の習得
3	
4	
5	
6	
6	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">集団的技能</div> (チームプレー) ・オフェンスの基本プレー 2対2、3対3から展開し、チームオフェンス ・ディフェンスの基本プレー 2対2、3対3から展開し、チームディフェンス ゾーンとマンツーマンディフェンス
7	
8	
9	
10	
11	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">応用技能</div> (簡易ゲーム) 基本的技能、集団技能の習得の確認 正規ゲームの準備
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;">個人的技能</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;">集団的技能</div> </div> の反復練習
2	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="width: 30%;"> パス シュート オフェンス、ディフェンス </div> <div style="width: 10%; border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">リーグ戦</div> <div style="width: 60%;"> 個々の技量を考えチーム間の力量の差が大きくなるように チーム編成し、リーグ戦を行なう。 簡単なスコアをつけ個々の技術を競い合う。 (シュート、アシスト) </div> </div>
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ バスケットボール	担当者名	勝 瀬 武
-----	---------------------	------	-------

講義の目標	<p>体育実技は実習であるから積極的に参加し、自ら活動する意欲をもって、体力の維持増進に努めてもらいたい。また、バスケットボールの授業を通して、社会性、協調性、公正な判断やルールを遵守する態度を学んでほしい。</p>		
講義概要	<p>バスケットボールのルールを正確に把握し、基本技術を習得することによって、楽しくゲームが出来るようにする。また、ゲームの時には、各チームから審判、得点係等を出し、試合の進行を助け合う。</p> <p>個人のレベルアップとともに試合運び等を研究し、チーム全体の技術の向上を目標に努力する。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	なし	
評価方法	<p>出席、受講態度を重視し、欠席回数が授業時数の1/3を超した者は不合格とする。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	基本練習 (パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート)
3	基本練習 (パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート)
4	セットオフェンス (ハーフコートにおける 3対2)
5	セットディフェンス (ハーフコートにおける 5対5)
6	オールコートにおける試合 (班分けをする)
7	オールコートにおける試合 (班分けをする)
8	リーグ戦開始 (前期) (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう)
9	リーグ戦開始 (前期) (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう)
10	リーグ戦開始 (前期) (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう)
11	リーグ戦開始 (前期) (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう)
12	リーグ戦開始 (前期) (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期リーグ戦前の予備試合 (後期リーグのためにチームの再編成)
2	後期リーグ戦前の予備試合 (後期リーグのためにチームの再編成)
3	後期リーグ戦開始 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)
4	後期リーグ戦開始 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)
5	後期リーグ戦開始 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)
6	後期リーグ戦開始 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)
7	後期リーグ戦開始 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)
8	後期リーグ戦開始 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)
9	後期リーグ戦開始 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)
10	後期リーグの成績により、順位決定戦を行う。
11	後期リーグの成績により、順位決定戦を行う。
12	後期リーグの成績により、順位決定戦を行う。
備考	

科 目 名	体育Ⅰ・体育Ⅱ バスケットボール	担当者名	檜 山 康
-------	---------------------	------	-------

講 義 の 目 標	バスケットボールの技術向上とともに、ゲームを通じてバスケットボールの特性を学びながら、楽しさを知ることを目標とする。		
講 義 概 要	バスケットボールのゲームを中心に行い、その中で問題があれば練習で改善できるようにしていく。常にゲームを中心に考え、自分たちで練習内容を組み立てられるようにしていく。		
使 用 教 材	テキスト		
	参 考 文 献	随時、プリントを配布して学習を進めていく。	
評 価 方 法	出席重視、欠席日数が全授業時数の1/3に達した場合、いかなる理由があっても、評価はしません。また全員にレポートを課す場合もある。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	服装などスポーツを行うのにふさわしいものを身につける。特に貴金属類、時計などは危険なので絶対にはずすこと。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ボールに慣れよう(1) ・ボール運動とドリブル ～様々なゲームを通して、ボールに慣れ、友達になろう～
3	ボールに慣れよう(2) ・パスとシュート ～色々なパスとシュートの方法を知ろう。正確に行えるようにしよう～
4	バスケットボールの動きに慣れよう(1) ・ステップワーク、ターン、ガーディングなどバスケットボール特有の動きを身につけよう。
5	バスケットボールの動きに慣れよう(2) ・ボールキープ、マークの方法などを身につけよう
6	基本を学ぼう(1) ・個人戦術の基本について a)パスアンドラン、b)まわりを見る、c)ボールを迎えに行く
7	基本を学ぼう(2) ・グループ戦術の基本 a)ボールをもった人をサポートする、b)攻撃の方向を変える
8	基本を学ぼう(3) ・チーム戦術の基本 a)マンツーマンディフェンスとゾーンディフェンス
9	チームごとの練習と対抗試合(1) ・試合—反省—練習—試合というサイクルを作れるようにしよう
10	チームごとの練習と対抗試合(2)
11	チームごとの練習と対抗試合(3)
12	チームごとの練習と対抗試合(4)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	1対1の攻防 ・フェイントの方法とディフェンス
2	2対1の攻防 ・パスのもらい方とスクリーンプレー
3	2対2の攻防 ・マンツーマンディフェンスについて
4	3対2の攻防 ・ボールなしの動き、3人目の動き
5	3対3の攻防 ・マンツーマンディフェンスと各種攻撃プレー
6	速攻とその守備について
7	チームによるリーグ戦①
8	チームによるリーグ戦②
9	チームによるリーグ戦③
10	チームによるトーナメント戦①
11	チームによるトーナメント戦②
12	チームによるトーナメント戦③
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ バドミントン	担当者名	梶野克之
-----	-------------------	------	------

講義の目標	ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、バドミントンの基本的なプレーを練習を通して、身につける。これらの過程を通して身体活動の必要性を理解するとともに、体力の維持向上をはかる。シングルス、ダブルスの試合方法を理解して実践できるようにするとともに、審判法についても十分に理解し、進んで審判ができるようにする。バドミントンの全般的な理解とともに、体力の維持向上をはかり、今後の生活の中に活かせるようにすることを目標としたい。		
講義概要	バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合を実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が活かせるようにするとともに、試合中に生じた課題を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。ダブルスのフォーメーションについて理解し、パートナーと協力して試合を組み立てていく。審判法についても理解して、進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。		
使用教材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・相沢マチ子『やさしいバドミントンレッスン』、1983、ベースボールマガジン社 ・阿部一佳、渡辺雅弘『基本レッスンバドミントン』、1985、大修館書店 	
評価方法	評価は、出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。		
受講者に対する要望など	毎回出席を原則とし、毎週新しい技術の習得を目指したい。より効果をあげるために毎回出席して、努力してほしい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間授業計画の説明と、受講上の注意、次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認をする。
2	バドミントン競技の全般的な説明を行う。コート・ラケット・シャトル等についての解説をする。基本的なグリップの説明を行い、素振りによりストロークの基本を学ぶ。ネットをはさんでクリヤーの基本を練習する。
3	前回に練習した基本的なストロークを、相手コート深くにシャトルを送るハイクリヤーに発展させる。ハイクリヤーと同じ構えから、シャトルをネット際に落とすドロップを理解し基本を練習する。
4	前回までのクリヤー・ドロップの復習をする。ネット近くで小さくコントロールするヘアピンの練習をする。最初はネット近くに構えて行すが、慣れてきたら、中央近くに位置し前方へのフットワークを学ぶ。
5	前回までの各種のストロークを復習する。アンダーハンドからシャトルを打つ、サーブの基本となる動作を練習する。コートを縦半分を使い、これまで練習した各種ストロークを自由に打ちあってみる。
6	前回までの各種ストロークを課題をきめて練習する。前週の半面シングルスのカウントをとって実施する。縦半分の広さであるので、前後の動きを課題として試合形式で行う。
7	前回までのストロークを課題をきめて練習する。前回に続いて半面シングルスを行い、審判法について理解し進んで審判を行うようにする。試合結果について記録し、上達度の参考とする。
8	前回までのストロークを復習する。ドライブの基本を学び、相手コートに素早くシャトルを送り込めるようにする。全面を使用した正規のシングルスのゲームを実施する。
9	前回までの各種ストロークを復習する。スマッシュの基本を学び、これまでよりもスピードのあるシャトルに慣れる。前回に続いて正規のシングルスのゲームを実施する。
10	前回までのストロークを課題をきめて練習する。相手にハイクリヤーを打ってもらい、ホームポジションから後方へのフットワークを学ぶ。ダブルスの基本を理解し、試合形式のダブルスを実施する。
11	前回までのストロークを復習する。ダブルスの基本的なフォーメーションを学び練習する。ダブルスのルールについて理解し、試合を実施すると同時に、審判法の理解を深める。
12	前回までのストロークを復習する。全体をいくつかのグループに分け、総あたりのリーグ戦を実施する。進行係を決めて、試合及び審判が円滑に進行するようにする。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に練習した基本的なストロークを復習する。ダブルスの試合進行方法と、審判法を確認し、ダブルスの試合を実施する。バドミントンを久しぶりに行う者が多いので、前期の感覚を思い出させる。
2	ハイクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスのパートナーを決め、いくつかのグループによりリーグ戦を再開する。セッティングについて説明を行い、理解を深める。
3	ハイクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスの基本的なフォーメーションについてパートナーと確認し、ゲームの中で実施できるように心がける。
4	パートナーとクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し問題点を整理する。前回に引き続き、ダブルスゲームを実施する。
5	クリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し、問題点を整理する。ゲームの進行状態を確認し、組み合わせを変えてリーグ戦を進める。
6	ハイクリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。ダブルスゲームを進行し、練習した課題がゲームの中で実際に使えるように努力し、ゲームの質を高める。
7	ハイクリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続き、ダブルスゲームを進行し、ゲームのおもしろさを理解し、進んでゲーム・審判を行う。
8	クリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続きゲームを進行し、試合の中で課題の克服に努める。パートナーと相談しながらより高いレベルのゲームを心掛ける。
9	クリヤーから開始し、各種ストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中での問題点を集中して練習する。リーグ戦の進行状況により、パートナー・組み合わせを考える。
10	クリヤーから開始し、課題となるストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中で相手プレイヤーの動きに合わせたプレーの練習をする。引き続きゲームを進める。
11	クリヤーから開始し、ストロークの練習をする。パートナーとゲームの中での問題点を整理し練習する。ゲーム・審判ともに全員が進んで実行するようにする。
12	ゲームの進行を確認し、勝負、順位などについて整理する。この授業のまとめと、これ以後のバドミントンとの関わりや、体育・身体運動との関わりについて考える。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ バドミントンⅡ	担当者名	梶野克之
-----	--------------------	------	------

講義の目標	バドミントンの授業を受講した者や経験者を対象とした授業としたい。バドミントンの基本的プレーを充実させると同時により高いレベルの技術を練習を通して身につける。これらの過程を通して身体活動の必要性を理解するとともに、体力の維持向上をはかる。シングルス、ダブルスの試合を実践することを通して技術の向上とともに、審判法についても理解を深める。バドミントンの全般的な理解するとともに、体力の維持向上をはかり、今後の生活の中に生かせるようにすることを目標としたい。		
講義概要	バドミントンに関する技術やルールについてより深い理解をする。各種のストロークの技術を向上させ、より正確なショットを目指す。シングルス・ダブルスの試合を実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法についても理解を深める。ゲームの中で、練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた課題を克服してより高いレベルのゲームを求めていく。ダブルスのフォーメーションについて理解し、パートナーと協力して試合を組立てていく。審判法について理解し、自ら進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。		
使用教材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・阿部一佳 渡辺雅弘『基本レッスンバドミントン』、1985、大修館書店 ・阿部一佳他訳、Jake Downey『ウィニングバドミントン [ダブルス]』、1990、大修館書店 	
評価方法	評価は、出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。		
受講者に対する要望など	毎回の出席を原則とし、毎週新しい技術の修得を目指したい。より効果をあげるために努力してほしい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間授業計画の説明と、受講上の注意、次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認をする。
2	バドミントン競技の全般的な説明を行う。コート・ラケット・シャトル等についての解説をする。基本的なグリップの説明を行い、素振りによりストロークの基本を学ぶ。ネットをはさんでクリヤーの基本を練習する。
3	前回到練習した基本的なストロークを、相手コート深くにシャトルを送るハイクリヤーに発展させる。ハイクリヤーと同じ構えから、シャトルをネット際に落とすドロップを理解して基本を練習する。
4	前回までのクリヤー・ドロップの復習をする。ネット近くで小さくコントロールするヘアピンの練習をする。最初はネット近くに構えて行いが、慣れてきたら、中央近くに位置し前方へのフットワークを学ぶ。
5	前回までの各種のストロークを復習する。アンダーハンドからシャトルを打つ、サーブの基本となる動作を練習する。コートを縦半分を使い、これまで練習した各種ストロークを自由に打ちあってみる。
6	前回までの各種ストロークを課題をきめて練習する。前週の半面シングルスのカウントをとって実施する。縦半分の広さであるので、前後の動きを課題として試合形式で行う。
7	前回までのストロークを課題をきめて練習する。前回に続いて半面シングルスを行い、審判法について理解し進んで審判を行うようにする。試合結果について記録し、上達度の参考とする。
8	前回までのストロークを復習する。ドライブの基本を学び、相手コートに素早くシャトルを送り込めるようにする。全面を使用した正規のシングルスゲームを実施する。
9	前回までの各種ストロークを復習する。スマッシュの基本を学び、これまでよりもスピードのあるシャトルに慣れる。前回に続いて正規のシングルスゲームを実施する。
10	前回までのストロークを課題をきめて練習する。相手にハイクリヤーを打ってもらい、ホームポジションから後方へのフットワークを学ぶ。ダブルスの基本を理解し、試合形式のダブルスを実施する。
11	前回までのストロークを復習する。ダブルスの基本的なフォーメーションを学び練習する。ダブルスのルールについて理解し、試合を実施すると同時に、審判法の理解を深める。
12	前回までのストロークを復習する。全体をいくつかのグループに分け、総あたりのリーグ戦を実施する。進行係を決めて、試合及び審判が円滑に進行するようにする。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に練習した基本的なストロークを復習する。ダブルスの試合進行方法と、審判法を確認し、ダブルスの試合を実施する。バドミントンを久しぶりに行う者が多いので、前期の感覚を思い出させる。
2	ハイクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスのパートナーを決め、いくつかのグループによりリーグ戦を再開する。セッティングについて説明を行い、理解を深める。
3	ハイクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスの基本的なフォーメーションについてパートナーと確認し、ゲームの中で実施できるように心がける。
4	パートナーとクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し問題点を整理する。前回到引き続き、ダブルスゲームを実施する。
5	クリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し、問題点を整理する。ゲームの進行状態を確認し、組み合わせを変えてリーグ戦を進める。
6	ハイクリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。ダブルスゲームを進行し、練習した課題がゲームの中で実際に使えるように努力し、ゲームの質を高める。
7	ハイクリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続き、ダブルスゲームを進行し、ゲームのおもしろさを理解し、進んでゲーム・審判を行う。
8	クリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。ダ引き続きゲームを進行し、試合の中で課題の克服に努める。パートナーと相談しながらより高いレベルのゲームを心掛ける。
9	クリヤーから開始し、各種ストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中での問題点を集中して練習する。リーグ戦の進行状況により、パートナー・組み合わせを考える。
10	クリヤーから開始し、課題となるストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中で相手プレイヤーの動きに合わせたプレーの練習をする。引き続きゲームを進める。
11	クリヤーから開始し、ストロークの練習をする。パートナーとゲームの中での問題点を整理し練習する。ゲーム・審判ともに全員が進んで実行するようにする。
12	ゲームの進行を確認し、勝負、順位などについて整理する。この授業のまとめと、これ以後のバドミントンとの関わりや、体育・身体運動との関わりについて考える。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ バレーボール	担当者名	小 俣 充
-----	-------------------	------	-------

講義の目標	バレーボールの面白さの経験とそれによる運動欲求の充足を目指す。また自らの努力と、他の努力を促すことによりチームの仲間意識（存在意識）を育む。		
講義概要	ゲームに向けた基礎とその動作を確かなものにする意識の働きについて学ぶ。また基礎を簡潔にまとめ、その動作を繰り返し練習する。続いてリーグ戦を行い、勝つことを目指して力を合わせ気持ちを集中し、その楽しさと充足感を体験する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	1 スポーツとルールの社会学 守能信次著、名古屋大学出版会 2 スポーツ・人間・社会 ライナー・マートンズ、ベースボール・マガジン社 3 人と人との間 木村 敏、弘文堂	
評価方法	出席回数をベースにし、どれほど自ら努力したか他の努力を促したかにより評価。		
受講者に対する要望など	バレーボールを面白くするためにバレーボール経験者（運動部）の受講を多少優遇することがある。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業の目的を説明。基本技術と動きの反復練習。教師と受講生および受講生相互のコミュニケーションを図る。
2	基本技術と動きの反復練習。運動量と脈搏・呼吸の関係の理解。プレーしながらの発声の徹底。
3	チーム分け。ゲームでのポジション確定へのプロセスに導入。 : 固定ポジションとローテーション
4	固定ポジションでの連係プレーの反復練習。
5	固定ポジションでのゲームプレーの反復練習。
6	ポジション確定。ゲームプレーの反復練習。
7	リーグ戦その1
8	リーグ戦その2
9	リーグ戦その3
10	リーグ戦その4
11	リーグ戦その5
12	順位決定戦と前期のまとめ。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏季休業中のスポーツ・レクリエーション活動実態調査。授業の目的を説明。基本技術と動きの反復練習。
2	固定ポジションでの連係プレーの反復練習。
3	固定ポジションでのゲームプレーの反復練習。
4	ローテーションでの連係プレーの反復練習。
5	ローテーションでの連係プレーの反復練習。
6	ローテーションでのゲームプレーの反復練習。
7	リーグ戦その1 (固定およびローテーション)
8	リーグ戦その2 (上に同じ)
9	リーグ戦その3 (上に同じ)
10	リーグ戦その4 (上に同じ)
11	リーグ戦その5 (上に同じ)
12	順位決定戦と後期のまとめ。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ バレーボール	担当者名	中 沢 克 江
-----	-------------------	------	---------

講義の目標	<p>バレーボールのゲームを楽しむために必要な基本的技術、ルール等を学びながら、体を動かし、チームワークを養う。</p> <p>チームプレーの中で自分の役割を考え、受講生同士の親睦を図る。</p>		
講義概要	<p>基本的技術の習得。</p> <p>ルールの理解。</p> <p>ゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期のゲーム：受講生の親睦を深めるため、チームの編成は毎週変更する。 技術レベル別、男女混合などのゲームも行う。 ・後期のゲーム：4週目までは前期と同じ。 5週目からは、メンバー編成固定でリーグ戦を行う。 ・6人制のゲームを中心に、いろいろなゲームを楽しむ。 		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、受講態度、課題の理解度、技術を評価する。</p> <p>受講態度の中には、服装も対象とする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>体育実技に適した服装で受講すること。</p> <p>体育館専用シューズを用意すること。</p> <p>内容については変更がありうる。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：授業に関する説明及び諸注意。個人資料の作成。
2	基本技術：オーバーハンドパス アンダーハンドパス
3	基本技術：オーバーハンドパス アンダーハンドパス トス 簡易ゲーム
4	基本技術：パス トス レシーブ サーブ スパイク 簡易ゲーム
5	基本応用技術：サーブレシーブ等 簡易ゲーム
6	チーム練習：各ポジションでの動き ・チームの構成メンバーは毎週変更する。 ゲーム
7	ゲーム
8	ゲーム
9	ゲーム
10	ゲーム
11	ゲーム
12	評価を行う。 ゲーム
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	基本技術：パス トス レシーブ サーブ スパイク 基本応用技術：サーブレシーブ等
2	チーム練習：各ポジションでの動き ・チームの構成メンバーは4週目まで毎週変更。 ゲーム
3	ゲーム
4	ゲーム
5	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦 ・チームの構成メンバーを固定し、リーグ戦を行う。
6	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
7	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
8	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
9	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
10	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
11	ゲーム
12	評価を行う。 ゲーム
備考	

科 目 名	体育Ⅰ・体育Ⅱ フットサル	担当者名	檜 山 康
-------	------------------	------	-------

講 義 の 目 標	フットサルを通じて技術、体力を高め、その特性を学びながら楽しむことを目標とする。		
講 義 概 要	<p>フットサルは、いわゆるミニサッカーやサロンフットボールと呼ばれているものである。すなわちサッカーを狭いスペースでも楽しめるようにルールやコート of 広さ、人数などを変化させたものである。そのためサッカーに似ている点も多いが、異なる点も多い。技術や戦術面でも非常に特徴あるスポーツである。</p> <p>授業では、フットサルの特性に触れられるように内容を組み立てていくつもりである。</p>		
使 用 教 材	テキスト		
	参 考 文 献	随時プリントを配布して学習を進めていく。	
評 価 方 法	出席重視、欠席日数が全授業時数の1/3に達した場合、いかなる理由があっても、評価はしません。また全員にレポートを課す場合もある。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	服装などスポーツを行うのにふさわしいものを身につける。特に貴金属類、時計などは危険なので絶対にはずすこと。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ボールに慣れよう(1) ・ドリブルの練習 ～様々なゲームを通して、思い通りにボールを動かせるようにしよう～
3	ボールに慣れよう(2) ・パスの練習 ～パスの方法を学習し、思い通りにパスができるようにしよう～
4	ボールに慣れよう(3) ・ボールキープの練習 ～ボールをとられないようにしよう～
5	基本を学ぼう① a)パスアンドゴー、b)パスを受ける前に周りを見る、c)ボールに寄る ～手を使ったゲームで基本的な動きを覚えよう～
6	基本を学ぼう② ～①の課題を試合形式の練習で応用できるようにしよう～
7	基本を学ぼう③ ・サポート（ボールを持った味方を助ける）の動き ・3人で3角形をつくり協力すること
8	チーム対抗のゲーム
9	チーム対抗のゲーム
10	チーム対抗のゲーム
11	チーム対抗のゲーム
12	チーム対抗のゲーム
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	アイコンタクトとは？
2	コーチングとリスニングとは？
3	攻撃のリズムや方向を変えるとは？
4	幅広く攻撃するとは？
5	1対1について ・ディフェンスの方法とフェイントの使い方
6	2対1の攻防 ・速攻とその対処の仕方
7	2対2の攻防 ・マンツーマンディフェンスの方法
8	3対2の攻防 ・オーバーラップ、スイッチプレーを使う
9	ゲーム①
10	ゲーム②
11	ゲーム③
12	ゲーム④
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ フットサル	担当者名	松原 裕
-----	------------------	------	------

講義の目標	『大学は学問を通じての人間形成の場である』という建学の理念に基づき、フットサルを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。		
講義概要	世界に広がる多種多様なミニサッカー競技の呼び名を統一し、ルールも統一したのがフットサルです。選択の際には男女・技術レベルは問わないが、1チーム5人。うち1人はGKが基準となる。40名以上は抽選となる。スパイクは不可。アップシューズ等スパイクのないものを使用する。基本練習は、VTRを見て共通のイメージを作ってから行なう。前期は、分習法が主体となる。後期はゲーム中心の全習法が主体となる。グラウンドが使用できない場合には他の場所を使用して練習するか、基本的な理論を講義する。		
使用教材	テキスト	・『FUTSAL OFFICIAL HANDBOOK』	
	参考文献	・VTR「君が主役だフットサル」 その他	
評価方法	毎時間の出席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。		
受講者に対する要望など	常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成 (写真添付) ○授業実施上の諸注意
2	基本トレーニング① ○VTRとボール慣れのトレーニング
3	基本トレーニング② ○基本技術とウォーミングアップ
4	パス・コントロール
5	シュート
6	1 VS 1の攻防
7	グループの戦術①・攻撃
8	グループの戦術②・守備
9	ゴールキーパー
10	スタイルを考えたゲーム
11	スタイルを考えたゲーム
12	テスト ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期授業のダイジェスト
2	チーム分けとゲーム
3	リーグ戦①
4	リーグ戦②
5	リーグ戦③
6	リーグ戦④
7	リーグ戦⑤
8	リーグ戦⑥
9	リーグ戦⑦
10	リーグ戦⑧
11	リーグ戦⑨
12	総合テストまたはレポート
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ フリスビー（前期） ウィンドサーフィン（集中授業）	担当者名	和田 智
-----	---	------	------

講義の目標	<p>前期フリスビーでは、基本的なスローイング技術の習得とアルテミットというゲームを楽しむためのルール・チームの動きを学習してもらう。</p> <p>集中授業ウィンドサーフィンでは、ウィンドサーフィンに関する知識・技術の習得を通して、海という自然環境と関わる楽しさを追求していく。</p>	
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の都合から、募集人数は男子20名、女子20名までとする。 ・フリスビー、ウィンドサーフィン未経験者でも受講可能。ただし、海での活動に支障のある疾患を持つものは受講できない。 ・用具類はすべて大学で用意している。 ・ウィンドサーフィンは、必要経費（宿泊費・食費・保険料等）として28000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。 ・ウィンドサーフィンの技術進歩は、天候に大きく左右される。 <p>集中授業は、期間：平成8年9月13日（金）～17日（火）4泊5日 場所：千葉県館山市獨協学園館山海の家の子予定 現地集合・現地解散とする。</p>	
使用教材	テキスト	霜山厚、『ボードセイリングマスター』、マリン企画
	参考文献	
評価方法	出席状況（60%）、受講態度（20%）、技術の向上度（20%）で評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	フリスビー・ディスクの基本的スローとキャッチ
3	バックハンドスローの練習 その1
4	バックハンドスローの練習 その2
5	サイドアームスローの練習 その1
6	サイドアームスローの練習 その2
7	アルテミットのルールとミニゲーム
8	アルテミットリーグ戦
9	アルテミットリーグ戦
10	アルテミットリーグ戦
11	アルテミットリーグ戦
12	ウインドサーフィンのオリエンテーション
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ ラグビー	担当者名	天野和彦
-----	-----------------	------	------

講義の目標	ラグビーの技術、戦術の基礎を習得する。また、ルールを理解とゲームの展開方法を学習する。		
講義概要	安全に留意しながら、最終的には、15人制のゲームができるようにする。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	出欠、授業態度、さらに多少の技能の進歩などを考慮して決定する。		
受講者に対する要望など	できる限りスパイクを用意すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ラグビーの個人技術を学ぶ①
3	ラグビーの個人技術を学ぶ②
4	ラグビーの個人技術を学ぶ③
5	ラグビーの個人技術を学ぶ④
6	ラグビーの集団技術を学ぶ①
7	ラグビーの集団技術を学ぶ②
8	ラグビーの集団技術を学ぶ③
9	ラグビーの集団技術を学ぶ④
10	フォワードの戦術①
11	バックスの戦術①
12	ゲーム
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	フォワードの戦術② スクラムからの攻撃と防御
2	フォワードの戦術③ ラインアウト、モール・ラックからの攻撃と防御
3	バックスの戦術② パスによる攻撃と防御
4	バックスの戦術③ キックによる攻撃と防御
5	フォワード、バックスが一体となった動き①
6	フォワード、バックスが一体となった動き②
7	フォワード、バックスが一体となった動き③
8	いろいろな状況からの攻撃と防御①
9	いろいろな状況からの攻撃と防御②
10	ゲーム
11	ゲーム
12	ゲーム
備考	

科目名	法哲学	担当者名	堅田 剛
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>法哲学的諸問題の概説をおこなう。「法哲学」は法の哲学であるのか哲学的な法学であるのかという議論があるが、基礎法学の分野に位置づけられている以上、当然ながら法学の範囲を踏み出さないように自戒したい。とはいっても、哲学的な話は避けられないので、この点はあらかじめお断りしておく。</p> <p>年間の授業時間を「法思想史」と「法理論」の二つの領域に分けて、歴史と論理の弁証法的統合をめざす。ただし、法思想史に6割方のウェイトを置くので、この点も了解願いたい。</p>				
講義概要	<p>具体的には、年間講義予定欄を参照していただきたい。</p> <p>概ね下記のテキストに即して授業を進める。ただし、時間的な都合と私の問題関心により、テキスト所載の項目を省略したり、あるいは新たな項目を付け加えることもあるので注意すること。</p> <p>講義内容は慣例にしたがって「法思想史」と「法理論」に分けるが、あえて前期と後期できれいに分割することはやめ、前期の全時間と後期の10月いっぱいを目安に法思想史に当て、法理論には後期の残り時間を当てる。とくに法理論の領域については適当なテキストがみあたらないため、レジュメを配布しこれにもとづいて講義をおこなう。変則的ではあるが、私なりの方法で進めさせていただく。項目ごとの参考文献は、その都度紹介する。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>・田中成明・竹下賢・深田三徳・兼子義人『法思想史』有斐閣Sシリーズ、1988年</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> ①恒藤武二『法思想史』筑摩書房、1977年 ②三島淑臣『法思想史』新版、青林書院、1993年 ③森末伸行『法思想史概説』中央大学出版部、1994年 ④矢崎光圀『法哲学』筑摩書房、1975年 ⑤加藤新平『法哲学概論』有斐閣、1976年 ⑥碧海純一『新版法哲学概論』第二版、弘文堂、1989年 ⑦ホセ・ヨンバルト『法哲学案内』成文堂、1993年 </td> </tr> </table>	テキスト	・田中成明・竹下賢・深田三徳・兼子義人『法思想史』有斐閣Sシリーズ、1988年	参考文献	①恒藤武二『法思想史』筑摩書房、1977年 ②三島淑臣『法思想史』新版、青林書院、1993年 ③森末伸行『法思想史概説』中央大学出版部、1994年 ④矢崎光圀『法哲学』筑摩書房、1975年 ⑤加藤新平『法哲学概論』有斐閣、1976年 ⑥碧海純一『新版法哲学概論』第二版、弘文堂、1989年 ⑦ホセ・ヨンバルト『法哲学案内』成文堂、1993年
テキスト	・田中成明・竹下賢・深田三徳・兼子義人『法思想史』有斐閣Sシリーズ、1988年				
参考文献	①恒藤武二『法思想史』筑摩書房、1977年 ②三島淑臣『法思想史』新版、青林書院、1993年 ③森末伸行『法思想史概説』中央大学出版部、1994年 ④矢崎光圀『法哲学』筑摩書房、1975年 ⑤加藤新平『法哲学概論』有斐閣、1976年 ⑥碧海純一『新版法哲学概論』第二版、弘文堂、1989年 ⑦ホセ・ヨンバルト『法哲学案内』成文堂、1993年				
評価方法	<p>各学期末に筆記試験をおこない、両方の点数を考慮して学年の成績とすることを原則とする。採点に際しては、誤字・脱字等を細かくチェックする。また「自分の頭で考えた」答案のほうを高く評価する。状況により出席点を加味する。さらに、自由提出のレポートを受け付ける。</p>				
受講者に対する要望など	<p>レポートの提出は任意とするが、当然ながら成績評価の対象となる。内容により、上限を20点として加味する。この「特典」は、2回の定期試験を受けた者にのみ適用する。積極的にレポートを書いてほしい。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	法哲学とはなにか (ガイダンス、法哲学の学問的位置、法哲学の課題)
2	古代ギリシアの法思想 (神話のなかの法と正義、ソフィストとソクラテス)
3	同上 (プラトンの法思想、アリストテレスの法思想)
4	古代ローマの法思想 (ローマ法とストア派の自然法論、エピクロス派)
5	同上 (ローマ法制史、ローマ法の基本原理)
6	中世キリスト教の法思想 (ローマ理念とキリスト教、アウグスティヌス)
7	同上 (スコラ哲学とトマス・アキナス、トマスにおける法と正義)
8	近世自然法学 (イギリス市民革命期の法思想、ホッブス、ロック)
9	同上 (フランス啓蒙期の法思想、モンテスキュー、ルソー)
10	ドイツ観念論の法思想 (啓蒙期自然法思想、カントの法哲学)
11	同上 (フィヒテ、ヘーゲルの法哲学)
12	予備
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	歴史法学の法思想 (ドイツの歴史法学、サヴィニー、概念法学)
2	同上 (グリム、イェーリングの法理論、イギリスの歴史法学)
3	新カント派の法思想 (新カント派法哲学、ラートブルフの法思想)
4	同上 (ケルゼン純粹法学、正義論と価値相対主義)
5	法の規範性 (法的ルールと法規範、社会規範としての法)
6	法の歴史性 (自然法の歴史性、法原則の歴史性)
7	法の実定性 (実定性の本質、法の実定性と正当性)
8	法と強制 (法的強制の意義、強制と合意)
9	法と道徳 (法と道徳の区別、法と道徳の交錯)
10	自然法論 (伝統的自然法論、自然法論と実質的正義)
11	法実証主義 (法実証主義の根本的主張、自然法論と法実証主義)
12	予備
備考	

科目名	日本法制史（94年度以降）	担当者名	小柳 春一郎
-----	---------------	------	--------

講義の目標	<p>講義の目標は、近代に至る法律制度の歴史について、裁判制度、法観念、家族制度、を中心に概観することであり、それを通じて、現行法についてより深い理解を持つことである。これらの論点を取り上げるのは、歴史的に大きな変化があり、現行法もまた、歴史的諸制度を前提にしているからである。特に、日本の前近代法を取り上げることにより、逆に近代法とはどのような特質があるかを明らかにしたい。更に、西欧諸国の法制度を輸入して作られた日本の近代法と日本の前近代との関連も明らかにする。</p>		
講義概要	<p>講義は、6月までを前近代にあてる。冒頭に日本法制史の学問としての特質やその歴史を紹介した後に、(1)中世（法観念、家族制度、土地制度）、(2)近世（法観念、家族制度、土地制度）について講義を行う。各項目毎に1回の講義を割り当てる。</p> <p>その後、(3)近代の裁判制度を概観する。江戸時代の制度との違い、現行制度の形成、法曹の養成などを紹介する。</p> <p>後期には、大きく二つの部分に分けて、(4)近代の家族制度の歴史と(5)近代憲法の歴史を扱う。前者では、戸籍制度の形成、旧民法の編纂の試み、後者では憲法の編纂過程とその特色などを論ずる。</p>		
使用教材	テキスト	講義の際に指示する。	
	参考文献	講義の際に指示する。	
評価方法	<p>前期、後期ともに試験を行う。試験は、客観式（穴埋め、○×など）と主観式（何々について論ぜよ。）を併せて試験問題とする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>歴史に関する講義は、一方通行になりがちなので、問題意識を持って講義を聴いてほしい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本法制史入門 どういう学者が居たか。どうい問題意識で学問が研究されてきたか。この講義は、どのように位置づけることができるか。これらについて、概略を述べる。
2	(1)中世①法観念 鎌倉時代の代表的な法である御成敗式目を紹介しながら、中世の法観念の特質である道理としての法という考え方の登場をみる。またその背後にある自立的なイエの存在を明らかにする。
3	(1)中世②不動産法 鎌倉時代の不動産訴訟制度を中心に中世の不動産法の特質を概観する。職の観念の特質を明らかにしながら、近代的土地所有権との違いを述べる。
4	(1)中世③家族法 中世の社会生活の基本単位であるイエの特質を概観した後、御成敗式目を題材にして、中世の夫婦関係、親子関係に関する法の特質をみる。
5	(2)近世の法概観 自立的なイエの解体に伴う権利観念の変化を論じ、近世の法がもはや道理としての法ではなくなったことを論ずる。
6	(2)近世②不動産法 大名等の土地領有権である知行と農民の土地所有権である所持との違いを明らかにしながら、近世の土地所有権の特質を論じる。更に、都市における土地所有権の在り方を論ずる。
7	(2)近世③家族法 武士の家族法を中心にしながら、近世の家族法の特質を明らかにすると共に、近世のイエの在り方を論ずる。
8	(3)近代の裁判制度①裁判所の整備 江戸時代の訴訟制度との違いに注目しながら、近代的裁判制度の導入について述べる。明治初年の裁判制度充実のための様々な努力についてふれる。
9	(3)近代の裁判制度②裁判所構成法 現在の裁判所法との違いに注目しながら、明治憲法下の裁判所制度の特質をみる。
10	(3)近代の裁判制度③司法権の独立 大津事件に注目しながら、司法権の独立の過程を歴史的に概観する。
11	(3)近代の裁判制度④法曹の養成(その1) 検察官・裁判官の養成制度の整備と明治初年の法律学校の歴史を概観する。
12	(3)近代の裁判制度④法曹の養成(その2) 弁護士養成制度について概観する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	(4)近代の家族法①戸籍制度の整備 明治初年の戸籍制度の整備について述べ、それと同時に氏と名の固定がどのような過程で行なわれたかを述べる。
2	(4)近代の家族法②旧民法の編纂 ボアソナード影響の下に行われた旧民法の家族法編纂の特質を論ずる。同時に、民法典の編纂の歴史を概観する。
3	(4)近代家族法③明治民法の編纂 民法典論争を紹介した後に、現行民法の編纂方式の特質を論ずる。
4	(4)近代家族法④明治民法の親族法 明治31年に公布された明治民法の親族法規定の特色を夫婦法、親子法などについて概観する。
5	(4)近代家族法⑤明治民法の相続法 家督相続という独特の制度を有した明治民法の相続法の特質を明らかにする。
6	(4)近代家族法⑥明治民法改正史 明治民法に対する相対立する見方を前提にして、その戦後における改正を論ずる。
7	(5)近代憲法史①憲法構想 明治初年に民間の者も含めて種々のものがあつた憲法構想の内容を紹介する。
8	(5)近代憲法史②大日本帝国憲法の起草 井上毅等を中心に進められた大日本帝国憲法の起草過程の特色を明らかにする。
9	(5)近代憲法史③帝国憲法の特色 現行憲法との対比において明治憲法の特色を紹介する。
10	(5)近代憲法史④憲法学説の特色 美濃部学説と穂積八束学説との相違に注目しながら、憲法学説の特色を見る。
11	(5)近代憲法史⑤憲法争議 憲法の解釈を巡って争われた憲法争議を紹介し、明治憲法の動態を明らかにする。
12	(5)近代憲法史⑥新憲法の成立 現行憲法の起草過程の特色を明らかにする。
備考	

科目名	西洋法制史	担当者名	竹本 健
-----	-------	------	------

講義の目標	ヨーロッパの法文化社会史に対する基本的な理解を得ることを目指します。		
講義概要	<p>本講義では、ヨーロッパの「近代法」が成立していくまでの過程を、大きく3部に分けて概観します。</p> <p>Ⅰ ローマ法史 Ⅱ ローマ法の継受史 Ⅲ 近代法の成立史</p> <p>Ⅰ部では、古典期の法律学者の紹介を中心に、ローマ法の世界を描写したいと思います。Ⅱ部では、12世紀のイタリアにおける「ローマ法の継受」から始めて、主に註釈学派、註解学派、人文主義法律学へと話を進めていきます。Ⅲ部では、ドイツのみならずヨーロッパ法史において重要な存在である「歴史法学派」から近代法（ドイツ民法典）が成立する歴史を概説し、同時に「近代法」に孕まれている諸問題を考えていく予定です。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・河上倫逸『法の文化社会史』ミネルヴァ書房 ・上山安敏『近代ヨーロッパ法社会史』ミネルヴァ書房 ・H・コーイング『ヨーロッパ法文化の流れ』ミネルヴァ書房 ・E・エールリッヒ『法社会学の基礎理論』みすず書房 ・J・J・バッフハオーフェン『母権論』みすず書房 ・堅田剛『歴史法学研究』日本評論社 	
評価方法	評価は、後期試験によって決定する。授業への出席も考慮に入れる。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「西洋法史学」についての概説
2	I ローマ法史 ローマ法の歴史の概観
3	ローマ法の法源
4	古典期の法律学者たち
5	帝政後期のローマ法——ユスティニアヌス法典を中心に
6	II ローマ法の継受史 古代ローマ法の再発見
7	学識法の形成——ボローニア法科大学——ボローニア方式の普及（ヨーロッパ法科大学史）
8	註釈学派・註解学派
9	人文主義法律学・典雅法律学
10	近世ドイツにおける法律学——ツァシウス・コーンリングを中心に
11	III 近代法の成立史 「歴史法学派」と近代法——III部全体への序論
12	歴史法学派の先駆者たち
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	フリードリッヒ・カール・フォン・サヴィニーの登場
2	「歴史法学派」の成立
3	「民族法」と「国家法」
4	法律家としてのヤーコプ・グリム——ゲルマン法学の確立
5	ドイツにおける「民法典論争」
6	パンデクテン法律学——概念法律学
7	「科学」としての法学
8	官僚の抬頭
9	ドイツ民法典の制定とその問題性
10	法社会学・自由法学——E・エールリッヒと「生ける法」の探究
11	「法の本質」のあくなき探究——J・J・パッハオーフェン『母権論』の試み
12	まとめ——「法」からヨーロッパを見る
備考	

科目名	法社会学	担当者名	森 謙 二
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>法社会学的思考を学ぶこと。法律学は、法技術的な固有なことばと思考方法によって、しばしば他の社会諸科学から孤立する傾向があるとも言えるのかも知れません。現実の紛争を一定の規範に基づいて解決をする実用的な要求に応えなければならないことから考えると仕方がないのかも知れませんが、法社会学においては、他の隣接社会諸科学と協力をしながら、生きた社会規範＝生ける法を問題とし、全体的な社会秩序のなかでの法の在り方を問題とします。法社会学的思考というのは、このような視点の獲得という意味です。</p>				
講義概要	<p>講義のテーマは、大きく区分すると三つになります。(1)法社会学における「法」の概念を中心とした問題——ここでは法社会学の形成も含めて法社会学に関わる一般的な問題について話題とします。(2)市民社会と法——ここでは私たちの世界が資本主義社会であることを前提として、近代から現代への法構造の展開を問題とします。(3)日本社会と法——日本社会の伝統的な社会構造は多様であることを前提とし、国家法がこの多様な社会構造を統一化、画一化する役割を果たすことを確認しながら、日本社会における固有な法秩序を問題とします。(1)と(2)についてはレジュメを配布、(3)についてはテキストを使用する。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>後期：平松紘・森謙二『家族・村落・法——教材』敬文堂</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ハーバーマス『公共性の構造転換』未来社 ・江守五夫『日本村落社会の構造』『日本の婚姻』『家族の歴史民族学』ともに弘文堂 ・六本佳平『法社会学』有斐閣 ・エールリッヒ『法社会学の基礎理論』みすず書房 ・ヴェバー『法社会学』創文社 ・森謙二『墓と葬送の社会史』講談社新書 </td> </tr> </table>	テキスト	後期：平松紘・森謙二『家族・村落・法——教材』敬文堂	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーバーマス『公共性の構造転換』未来社 ・江守五夫『日本村落社会の構造』『日本の婚姻』『家族の歴史民族学』ともに弘文堂 ・六本佳平『法社会学』有斐閣 ・エールリッヒ『法社会学の基礎理論』みすず書房 ・ヴェバー『法社会学』創文社 ・森謙二『墓と葬送の社会史』講談社新書
テキスト	後期：平松紘・森謙二『家族・村落・法——教材』敬文堂				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーバーマス『公共性の構造転換』未来社 ・江守五夫『日本村落社会の構造』『日本の婚姻』『家族の歴史民族学』ともに弘文堂 ・六本佳平『法社会学』有斐閣 ・エールリッヒ『法社会学の基礎理論』みすず書房 ・ヴェバー『法社会学』創文社 ・森謙二『墓と葬送の社会史』講談社新書 				
評価方法	<p>試験、レポートを総合的に評価し、場合によれば出席も評価に関わる場合があります。試験とレポートは分離されたものではなく、一体のものと考えています。この点については講義中に話します。</p>				
受講者に対する要望など	<p>積極的に授業に参加してくれる学生を望みます。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	法社会学はどのような学問か？ 法社会学と社会諸科学、法社会学と法解釈学
2	法社会学の形成——エールリッヒとヴェーバー、法の理解をめぐる
3	法社会学の形成——エールリッヒとヴェーバー、自由法運動の評価をめぐる
4	法社会学における「法」の概念
5	法社会学からみた法の解釈——「法の解釈」をめぐる論争
6	市民社会と法(1) 近代市民法の構造
7	市民社会と法(2) 市民的公共性の形成
8	市民社会と法(3) 市民的自由
9	市民社会と法(4) 市民的公共性の崩壊
10	市民社会と法(5) 市民的自由の展開と社会法の形成
11	市民社会と法(6) 現代における権利の性格
12	市民社会と法(7) 公共的親密圏と法 地域・環境・生活
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本社会と法——問題の視座
2	伝統的な社会構造——日本村落社会の類型論
3	村落類型論からみた家族・親族構造
4	イエ・家・「家」
5	明治国家のもとでの村落——土地制度
6	明治国家のもとでの村落——戸籍制度と「家」
7	明治国家のもとでの村落——地方制度
8	明治国家のもとでの村落——村落の再編成（年齢階梯制秩序の再編成）
9	村落構造と共同体論
10	戦後日本社会のイエ秩序と年功序列の原理
11	家族・地域共同体・地域自治
12	まとめ
備考	

科目名	法心理学（94年度以降） 犯罪心理学（後期）（93年度以前）	担当者名	小田 晋
-----	-----------------------------------	------	------

講義の目標	<p>「法と人間」のかかわりを、司法精神医学、犯罪心理学の「眼」を通して理解するのが本講義の目標である。前年で①法の発生と起源に関する古態心理学（パレオサイコロジー）、心理人類学・精神分析学の立場からの見方を呈示し③刑事裁判、民事裁判と精神医学はどうかかわるかを講義する。後半は犯罪学（クリミノロジー）の部として、①人間はなぜ犯罪をおかすのか②犯罪・非行はどうすれば予防できるのか、③犯罪者、非行少年はどう処置すべきか、④犯罪の捜査はどう行いか（警察心理学）を講義し、更に、精神分析、行動科学の概念を理解する。</p>		
講義概要	<p>第1部（法心理学）：(1)法の心理学的・人類学的基礎④法の発生と人類の特性⑤精神分析学の立場から見た法と禁忌と刑罰⑥行動科学としての法心理学、(2)裁判と心理学・精神医学はどうかかわるか⑦責任能力の理論的基礎⑧刑事責任能力、民事責任能力制定の大綱、⑨精神鑑定はどう行われるか⑩証言と供述の心理学、⑪捜査と警察の心理学。</p> <p>第2部（犯罪学）：(1)犯罪と社会病理の本質 (2)犯罪心理学入門、⑫犯罪学の諸学説、⑬犯罪の原因論について、E・メツガーの動力的犯罪説の公式に沿って理解し、犯罪者の素質、類型、犯因性人格環境、犯因性行為環境について説明する。⑭矯正心理学（犯罪者非行少年の処遇）⑮被害者学、⑯女子犯罪、少年犯罪、老人犯罪、外国人犯罪等特殊問題。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・小田晋『(新版)人間はなぜ犯罪をおかすのか』はまの出版 1995 ・小田晋『(新版)人間はなぜ人を殺すのか』はまの出版 1995 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・吉益修夫『犯罪学概論』有斐閣 ・山根清道（編）『犯罪心理学』新曜社 ・中田修『犯罪と精神医学』創元社 ・K・レスラー他（持野秀久訳）『快楽殺人者の心理』早川書房 ・小田晋『精神変容のドラマ―鑑定例と狂気誌―』青土社 ・中田修他編『司法精神医学』現代精神医学大系24巻 中山書店 ・小田晋『現代人の精神病理―私の臨床ノートから―』青土社 	
評価方法	<p>前・後期の試験期間に筆答試験（法解釈学が主体ではないから、資料の持ちこみは認めない）。講義の出欠、授業中の態度も参考とするので授業中、教師からの質問には積極的に答えてほしい。</p>		
受講者に対する要望など	<p>テキスト、参考書に目を通してほしい。配布したプリントはファイルし、次回も必ず持参のこと。</p>		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	法の心理学的・人類学的基礎(I) 古態心理学 (paleopsychology) の立場から、法の発生は、人類の特性といかに関連し、「生物としてのヒト」にどう基礎をを置いているか考える。
2	法の心理学的・人類学的基礎(II) 心理人類学 (psychological Antoropology) の立場から、法および違法行為についての文化人類学的基礎について述べる。
3	法の心理学的・人類学的基礎(III) 精神分析の立場から、原父殺害 (Urvatermord)、タブー (Tabu) 及び法の発生の心理的基礎について述べる。初回は精神分析の基本概念について。
4	法の心理学的・人類学的基礎(IV) 精神分析の人間観から見た法・刑罰についての考え方とその批判
5	法の心理学的・人類学的基礎(V) 「いじめ」はなぜおきるのか、行動科学、行動学の立場から見た法・刑罰・犯罪についての考え方。
6	裁判と司法精神医学、心理学はどうかかわるか(I)：責任能力、民事行為能力の理論的基礎について、人類の古代的概念、未開法、古代法、近代法について、歴史的変遷を考慮しつつ述べる。
7	裁判と司法精神医学、心理学はどうかかわるか(II)：刑事責任能力・民事行為能力判定の大綱——個々の精神障害の場合その責任能力、行為能力はどう判定されるか、その原則について述べる。
8	裁判と司法精神医学、心理学はどうかかわるか(III)：司法精神鑑定はどう行われるか、その方法論と理論的・実際的な問題点について述べる。
9	裁判と司法精神医学、心理学はどうかかわるか(IV)：犯罪事件での司法精神鑑定はどう行われるか、興味ある鑑定例を挙げて述べる。
10	裁判と司法精神医学、心理学はどうかかわるか(V)：民事事件での司法精神鑑定はどう行われるか、禁治産、遺言、医事紛争の鑑定例を挙げて述べる。
11	証言と供述の心理学：人間はなぜ・どんなときに嘘をつくのか。供述の評価および証言能力について、鑑定例に基いて述べる。
12	捜査と警察の心理学：犯罪捜査に心理学と行動科学はどうかかわるか、米国連邦捜査局 (FBI) の行動科学課 (BSK) が行った Profiling の技法を紹介しつつ述べる。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	犯罪心理学入門—犯罪学の諸学説— 人間はなぜ犯罪をおかすのか、Platon 以来の伝統的諸概念、Lombrosol 以来の近代犯罪学の諸学説を紹介しつつ説明する。
2	何が人を犯罪に駆り立てるのか—人間性の深層から出発して、人を犯罪に駆り立てる諸要因について考える。
3	誰でも犯罪者になる可能性がある、しかし… 犯罪者の人格がどう形成されるか、犯罪はどのような誘因でひきおこされるか、Mozger の動力的犯罪説の公式をもとに考える。
4	犯罪者はどうやって作られるか。 犯罪者の生育環境、コンプレックス、その他犯因性人格環境と行為環境について考える。
5	「心の病気」と犯罪が結びつくとき 精神障害と犯罪の関係、犯罪の誘因としての薬物の影響とその対策。
6	人はなぜ人を殺すのか さまざまな殺人の類型を鑑定例、統計、歴史にもとづいて考える。
7	さまざまな犯罪とその心理(1) 性的殺人—異常性質とむすびつく犯罪の事例、とくに悦楽殺人 (Lustmord) の事例について述べる。
8	さまざまな犯罪とその心理(2) 放火犯、窃盗犯、詐欺犯など知能犯罪の心理について述べる。
9	未来の犯罪はどうなる(1)：社会変動、文化変容に伴って犯罪その他社会病理の形態も変化する。情報化社会によって生み出される犯罪について論じる。
10	未来の犯罪はどうなる(2)：宗教、政治など集団的環境が犯罪その他社会病理とどうかかわるか考える。
11	犯罪における個別問題：女子犯罪、老人犯罪、少年犯罪、および外国人犯罪の心理について考える。
12	矯正心理学と被害者学：犯罪・非行の対策と処置、および被害者の救済とカウンセリングについて考える。
備考	

科目名	英米法(94年度以降) 英米法I(93年度以前)	担当者名	早坂 禧子
-----	-----------------------------	------	-------

講義の目標	<p>英米法は、日本のような大陸法とは異なる点が多いうえ、英米法のなかでも現代では、イギリス法とアメリカ法とでは違っている。本講義では、まず、英米法の形成の歴史を通観することで英米法の背景についての基礎知識を得たうえで、とりわけアメリカ法に重点をおき、法源制度、制定法と裁判（訴訟手続と救済制度等）の仕組みを理解することを目標とする。このような知識を基にして、異なる法文化を比較検討し相互理解を深める力を培って欲しい。</p>		
講義概要	<p>現代では、英米法でも大陸法でも判例が注目されているが、英米では判例のもつ法的意味が日本とは基本的に異なるし、法律も、英米では日本のような体系化された法典はないといえるから、法律の探し方にも戸惑うことがある。さらに連邦制をとるアメリカ合衆国では、連邦制定と州制定法が混在し、他州の判決を別の州ではどう扱うかという問題を抱える。また、陪審や証拠収集という英米に固有の制度もある。講義は、このような問題毎に章に分けて口述する形で進める。随時法律、判例に当たることになるが、簡便な六法は存在しないので関係条文、判例の抜粋をその都度配布する。</p>		
使用教材	テキスト	特に指定しない。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・田中英夫編『BASIC英米法辞典』（1993）東京大学出版会 （合衆国憲法典は本書末尾掲載のものを使用する。また、英米法の法律用語については本書を用いて説明することがある） 	
評価方法	<p>学年末の定期試験の成績で評価することを原則とするが、普段の講義を聴くことが大事だと考えるので、講義への出席率も評価に加える。</p> <p>年度途中での試験、レポート提出等はない。追試も実施しない。</p>		
受講者に対する要望など	<p>法学入門程度の日本法についての基礎知識があることが望ましい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の進め方について 参考文献等の紹介 英米の判決文の読み方
2	I 英米法概観
3	II イギリス法の形成 I コモンローの形成と特色
4	2 エクイティの形成と特色
5	3 近代法の形成 4 イギリスの法律と判例
6	III アメリカ法の形成 1 イギリス法の継受
7	2 アメリカ合衆国憲法典の制定
8	3 Civil Rights Act (人権保護法)
9	IV 法源 1 判例法主義の特色
10	2 英米判例の読み方—裁判規範の特定
11	V 違憲審査制 1 違憲審査制の二類型 2 アメリカ型違憲審査制の確立
12	3 憲法訴訟と訴訟要件
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	VI アメリカ法の仕組：制定法 1 連邦の立法権
2	2 州際通商規制権限
3	3 州の立法権
4	4 連邦の専占と州制定法
5	5 大統領の行政協定権
6	VII アメリカ法の仕組：裁判 1 連邦の裁判
7	2 州の裁判—管轄権
8	3 州の裁判—他州判決の承認・執行
9	VIII アメリカ民事訴訟手続き 1 Discovery 2 jury
10	IX アメリカ刑事訴訟手続 1 捜査と人権
11	X 救済制度 1 損害賠償 2 差止め 3 違法宣言 4 制度改革訴訟
12	XI アメリカの判例を読む (その時点で話題となっている新しい最高裁判決の紹介)
備考	

科目名	ドイツ法 (94年度以降) ドイツ法I (93年度以前)	担当者名	市川 須美子
-----	---------------------------------	------	--------

講義の目標	ドイツ法では、ドイツの法制度のしくみの概要を公法を中心に紹介し、日本法と比較しながら、それぞれの法制度の特徴を理解することを目標とする。		
講義概要	基本法を頂点とするドイツの法体系と裁判制度の理解の上に各論的に、地方自治制度、行政法、民法（親子法）、社会法、教育法分野を比較法的に検討する。ドイツ法の実態にふれるために、憲法判例、行政判例の和訳も行なう。		
使用教材	テキスト	特に指定しない	
	参考文献	・村上・マルチュケ著『ドイツ法入門』有斐閣	
評価方法	前期 レポート 後期 試験		
受講者に対する要望など	ドイツ法文献を読むので、一定程度のドイツ語力と、法学入門程度の法学の基礎的素養を必要とする。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の目標と予定 進め方の説明
2	ドイツ法と日本法、その歴史的関係
3	ドイツの法体系、ドイツ統一の基本法、連邦法と州法、法律と条例
4	基本法(1) 憲法原理と基本権
5	基本法(2) 国家機関
6	裁判制度(1) 概要と特徴
7	裁判制度(2) 法曹養成制度、裁判官論
8	ドイツの憲法判例(1)
9	ドイツの憲法判例(2)
10	ドイツの地方自治(1) 憲法的保障と機能的自治論
11	ドイツの地方自治(2) 具体的しくみ
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ドイツ行政法とフランス行政法 オットーマイヤー行政法
2	ワイマール期の行政法
3	現代行政法 行政手続法と国家責任法
4	ドイツ行政判例(1)
5	ドイツ行政判例(2)
6	親子法とその改革
7	社会法(1) 社会法の体系と法典化
8	社会法(2) 少年福祉法改革
9	社会法(3) 介護保険法とその問題点
10	ドイツ教育法と日本教育法(1)
11	ドイツ教育法と日本教育法(2)
12	ドイツ法の新しい問題 ヨーロッパ法とドイツ法
備考	

科目名	外国法文献研究（94年度以降） 外国法制研究1（93年度以前）	担当者名	鈴木 淳一
-----	------------------------------------	------	-------

講義の目標	国際人権法に関する英語のテキストを教材にして、国際人権法についての基礎的理解を深めると同時に、法律英語を読む練習をする。本講義では、とりわけ英語の専門用語を学ぶことを目標とする。		
講義概要	毎回割当てを決め、報告者の報告に対する質疑応答の形式で行う。		
使用教材	テキスト	その都度配布する。	
	参考文献	・条約集（有斐閣、東信堂、三省堂のいずれの出版社のものでもよい）	
評価方法	毎回の出席及び割当てられた報告を評価する。		
受講者に対する要望など	報告者は十分に予習を行ってください。 六法又は条約集を必ず持参してください。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	人権の国際的保障
2	国連憲章(1)
3	国連憲章(2)
4	世界人権宣言(1)
5	世界人権宣言(2)
6	自由権規約(1)
7	自由権規約(2)
8	自由権規約(3)
9	自由権規約(4)
10	規約人権委員会
11	個人による通報制度
12	国家報告制度
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ヨーロッパ人権条約(1)
2	ヨーロッパ人権条約(2)
3	ヨーロッパ人権条約(3)
4	米州人権条約(1)
5	米州人権条約(2)
6	米州人権条約(3)
7	他の地域的人権条約
8	国際人道法と人権(1)
9	国際人道法と人権(2)
10	国際人道法と人権(3)
11	社会権規約(1)
12	社会権規約(2)
備考	

科目名	憲法 I	担当者名	右崎正博
-----	------	------	------

講義の目標	<p>憲法の総論と人権保障について基礎的な知識と理論を学び、基本的理解を得ることをめざす。その際に、憲法の歴史をふまえ、憲法の意味や考え方などについて理解を深めるとともに、現実の憲法運用にも焦点を当て、日本の憲法政治と人権保障の現状を批判的に検討することも、あわせて課題としたい。 はじめて憲法を学ぶことになるので、憲法を学ぶことのおもしろさをわかっていただけるような講義にしたいと考えている。</p>				
講義概要	<p>憲法の意味・歴史・国民主権と象徴天皇制・平和主義・人権保障が、カバーすべき問題領域である。後掲のテキストは、憲法学の体系書としてすでに定評のあるものであるが、このほど五年ぶりに改訂され、第三版が刊行されることになった。著者は、憲法・英米法を専攻し、後に最高裁判事までつとめた人であり、最高裁での経験もこの著作に加味されている。著者の憲法学の体系を学ぶとともに、それを批判的に読むことをめざしたい。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>・伊藤正己『憲法〔第三版〕』弘文堂（95年12月刊）</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・芦部信喜『憲法』岩波書店 ・宮沢俊義『憲法Ⅱ〈新版〉』有斐閣 ・杉原泰雄『憲法Ⅰ—憲法総論』有斐閣 ・奥平康弘『憲法Ⅲ—憲法が保障する権利』有斐閣 ・杉原泰雄『資料で読む日本国憲法（上）』岩波書店ほか。 </td> </tr> </table>	テキスト	・伊藤正己『憲法〔第三版〕』弘文堂（95年12月刊）	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・芦部信喜『憲法』岩波書店 ・宮沢俊義『憲法Ⅱ〈新版〉』有斐閣 ・杉原泰雄『憲法Ⅰ—憲法総論』有斐閣 ・奥平康弘『憲法Ⅲ—憲法が保障する権利』有斐閣 ・杉原泰雄『資料で読む日本国憲法（上）』岩波書店ほか。
テキスト	・伊藤正己『憲法〔第三版〕』弘文堂（95年12月刊）				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・芦部信喜『憲法』岩波書店 ・宮沢俊義『憲法Ⅱ〈新版〉』有斐閣 ・杉原泰雄『憲法Ⅰ—憲法総論』有斐閣 ・奥平康弘『憲法Ⅲ—憲法が保障する権利』有斐閣 ・杉原泰雄『資料で読む日本国憲法（上）』岩波書店ほか。 				
評価方法	<p>評価は、前後期各1回の試験による。試験は、選択解答の論述形式をとる。</p>				
受講者に対する要望など	<p>テキストの該当箇所を必ずあらかじめ読んだうえで、講義に臨むことを要望する。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	憲法とは何か（憲法の意味）を考えるとともに、憲法学習の視点と方法について考え、1年間の課題を明確にする。
2	近代憲法の成立とその歴史的背景、近代立憲主義の諸原則、その展開を考察する。
3	現代憲法への発展とその背景、現代憲法の特質などについて考察する。憲法の国際化、国際的人権保障の動き、憲法と私的秩序、私人間における憲法の効力などの検討も含む。
4	明治憲法の成立と背景、その特質、その展開について考察する。外見的立憲主義といわれる明治憲法の基本的性格とその限界についての検討も含む。
5	日本国憲法の成立と展開過程を概観する。日本国憲法制定の法理、日本国憲法の基本原理の考察も含む。
6	国民主権と国民代表制、選挙制度と選挙活動の自由について考察する。議員定数不均衡をめぐる訴訟の展開と選挙制度のあり方の考察も含む。
7	日本国憲法における象徴天皇制の構造とその運用について考察する。「天皇の人権」、皇室の経済の制度と運用の検討も含む。
8	日本国憲法における平和主義の理念と規範構造について考察する。憲法九条の法的性格と平和的生存権の検討も含む。
9	憲法九条の動態と国際社会のなかでのそのあり方を考察する。憲法九条をめぐる訴訟の展開についても概観する。
10	基本的人権の原理、その成立史、発展史を概観する。近代人権と現代人権の特徴と違い、明治憲法における「臣民ノ権利」の保障と日本国憲法における「侵すことのできない永久の権利」の保障の違いの考察も含む。
11	人権の享有主体について考察する。憲法と人権保障の意味を確認し、外国人、天皇、未成年者、法人、特殊な法律関係の下での人権保障のあり方を検討する。
12	人権の体系について考察する。人権の価値序列とその法的意味と法的効果、人権制約の考え方についての検討も含む。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	幸福追求権について、その根拠となる憲法13条の法的性格のとらえ方、プライバシーの権利をめぐって、考察する。
2	法の下での平等について、その意味、「合理的差別」論、雇用関係や家族生活における両性の本質的平等とその実態、平等違反と違憲審査のあり方などを考察する。
3	思想・良心の自由、信教の自由と政教分離の原則について考察する。政教分離原則の法的性格、違憲審査のあり方の検討も含む。
4	学問の自由、集会・結社の自由について考察する。集会の自由の現代的意義およびパブリック・フォーラム論の検討などを含む。
5	表現の自由について考察する。伝統的な表現規制の典型としてわいせつ、せん動、営利的表現や象徴的表現の規制、検閲禁止などの問題を検討する。表現の自由制約の違憲審査のあり方の検討も含む。
6	表現の自由の現代的局面について考察する。報道の自由とアクセス権、知る権利と情報公開などの問題を検討する。差別的表現の規制の問題の検討も含む。
7	人身の自由と適正手続の保障について考察する。適正手続保障の行政手続への準用の問題や死刑の憲法適合性などの問題の検討も含む。
8	経済的自由と財産権の保障について考察する。「公共の福祉」によるその制限の歴史的意味、「規制緩和」論の持つ意味などの検討も含む。
9	生存権と教育を受ける権利について考察する。生存権の法的性格、その具体的展開、義務教育の無償の意味などの考察も含む。
10	勤労権と労働基本権について考察する。公務員の労働基本権の制限の現状と背景、裁判の動きなどの検討を含む。
11	国務請求権について、裁判を受ける権利、国家賠償請求権を中心に考察する。
12	1年間の講義のフォロー・アップとまとめ、残された課題の整理。
備考	

科目名	憲法 I	担当者名	古 関 彰 一
-----	------	------	---------

講義の目標	日本国憲法の人権条項を中心に憲法の基本的理解を身につけることを目標とする。		
講義概要	日本国憲法の基本原理、平和主義、人権、天皇についての基本的解説。		
使用教材	テキスト	・ 芦部信喜『憲法』岩波書店	
	参考文献	『六法』（版元はどこでもよい） ・ 芦部信喜・高橋和之編『憲法判例百選』第三版、I・II（別冊ジュリスト）有斐閣 ・ 樋口陽一編『憲法の基本判例』（別冊法学教室）有斐閣	
評価方法	前期・後期2回の試験による		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	開講にあたって（近代憲法と日本国憲法の特色）
2	平和主義と9条の解釈
3	日米安保条約と自衛隊
4	基本的人権・総論（人権の歴史）
5	基本的人権と私法関係
6	私法関係への適用をめぐる判例
7	外国人の人権
8	平等権の概念
9	平等権をめぐる判例
10	信教の自由と政教分離原則
11	政教分離をめぐる判例の動向
12	前期のまとめ（平和と人権）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	表現の自由・総論
2	表現の自由と名誉・プライバシー
3	表現の自由と政治活動
4	知る権利と報道の自由
5	学問の自由と教育権
6	教育権をめぐる判例の動向
7	生存権の意義と判例
8	環境権の法的性格と判例の動向
9	労働基本権の内容と判例
10	刑事人権の保障
11	天皇の地位の法的性格
12	閉講にあたって（日本国憲法の理念と現在）
備考	

科目名	憲法Ⅱ	担当者名	右崎正博
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>憲法の統治機構について基礎的な知識と理論を学び、基本的理解を得ることをめざす。その際に、憲法の歴史をふまえ、統治の諸制度の構造と意味について考えるとともに、現実の憲法運用にも焦点を当て、憲法政治の現状を批判的に検討することも課題としたい。国家や社会のあり方が世界的な規模で大変動を経つつあるなかで、伝統的憲法理論も変容を迫られているので、現代的な変動の諸要因をも考慮に入れながら「生きている憲法」の把握をめざしたい。</p>		
講義概要	<p>憲法の統治機構の構造とその意味を学ぶことになるので、権力分立・国会・内閣・裁判所・財政・地方自治・憲法保障の仕組みなどがカバーすべき問題領域となる。後掲のテキストは、憲法学の体系書としてはすでに定評のあるものであるが、このほど5年ぶりに改訂され、第三版が刊行されることになった。著者は、憲法・英米法を専攻し、後に最高裁判事までつとめた人であり、最高裁での経験もこの著作に加味されている。著者の憲法学の体系を学ぶとともに、それを批判的に読むことをめざしたい。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・伊藤正己『憲法〔第三版〕』弘文堂（95年12月刊） 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・芦部信喜『憲法』岩波書店 ・清宮四郎『憲法Ⅰ〈第三版〉』有斐閣 ・杉原泰雄『憲法Ⅱ—統治の機構』有斐閣 ・杉原泰雄『資料で読む日本国憲法（下）』岩波書店ほか。 	
評価方法	<p>評価は、前後期各1回の試験による。試験は選択解答の論述形式をとる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>テキストの該当箇所を必ずあらかじめ読んだうえで、講義に臨むことを要望する。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	憲法学習の視点と方法について考えるとともに、近代憲法の成立から現代憲法への展開の歴史を概観し、憲法とはなにか（憲法の意味）をおさえたうえで、1年間の課題を明確にする。
2	統治機構に関する基本原理としての権力分立の意義、その成立と展開、世界と日本における現われ方を歴史的、比較法的に考察する。
3	国会の地位に関し、国民の代表機関、国権の最高機関、唯一の立法機関の意味を考察するとともに、代表制、選挙制度と政党制度などについて考える。
4	国会の構成について、両院制、衆議院と参議院の権限関係、参議院制度の意義など、また、国会議員の地位、身分、諸特権について、考察する。
5	国会の活動に関し、会期制、議事手続、衆議院の解散、参議院の緊急集会などの諸論点を考察する。
6	国会と財政に関し、租税法律主義、財政民主主義、予算の法的性格、予算修正権の可否、公費支出の制限などの論点を考察する。
7	議院の権能に関し、国政調査権の意義、その法的性格と行使の限界について考察する。議院証言法などの検討も含む。
8	議院の権能に関し、自律権の意義と限界について考察する。懲罰権や政治倫理制度などの検討も含む。
9	行政権の意義、行政国家と官僚制などの論点を考察する。現代国家における行政権の肥大化傾向の特徴と問題点の検討も含む。
10	内閣の地位に関し、独立行政委員会制度の意義とその憲法適合性の問題、議院内閣制の特質と問題点などを考察する。
11	内閣の組織と構成、その権能、文民条項の意義などについて考察する。
12	前期講義のまとめとフォロー・アップ、後期講義のガイダンス。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	司法権の意義とその帰属、司法への国民の参加と監視に関する諸問題を考察する。最高裁判官の国民審査に関する論点も含む。
2	司法の独立と裁判官の身分保障の問題を考察する。歴史と現状についての検討も含む。
3	裁判所の組織、機構、審級制などの問題を考察する。司法の現状についての分析も含む。
4	地方自治制度の意義、歴史的展開、地方自治の本旨の意味、地方自治権の法的性格をめぐる諸論点を考察する。地方分権をめぐる議論にも言及する。
5	地方公共団体とその権能、地方自治における直接民主制的諸制度、条例制定権の範囲と限界などについて考察する。
6	憲法保障の意義とその仕組みを概観するとともに、抵抗権、国家緊急権をめぐる議論を検討する。
7	憲法保障の仕組みとしての違憲審査制について、その法的性格、主体と対象、憲法訴訟と裁判所の役割について考察する。日本における違憲審査の現状の分析も含む。
8	憲法訴訟の特質と要件、違憲審査の対象などについて考察する。統治行為論、立法・行政の自律と裁量、立法不作為の違憲審査などに関する問題の検討も含む。
9	憲法判断の方法、違憲審査基準、違憲判決の効力などについて考察する。
10	憲法改正の意味とその手続、憲法改正の限界を考察するとともに、改憲論の動向と現状について考察する。
11	国法の諸形式とその体系について考察する。法律、予算、命令、規則、条例、条約の成立手続とそれらの効力関係をみる。
12	1年間の講義のフォロー・アップとまとめ、残された課題の整理。
備考	

科目名	憲法Ⅱ	担当者名	古関彰一
-----	-----	------	------

講義の目標	日本国憲法の統治機構を中心に憲法の基本的理解を身につけることを目標とする。		
講義概要	日本国憲法の国会、内閣、司法、地方自治を中心に統治機構についての基本的解説		
使用教材	テキスト	・ 芦辺信喜『憲法』岩波書店	
	参考文献	『六法』（版元はどこでもよい） ・ 芦辺信喜・高橋和之編『憲法判例百選』第三版、Ⅰ・Ⅱ（別冊ジュリスト）有斐閣 ・ 樋口陽一編『憲法の基本判例』（別冊法学教室）有斐閣	
評価方法	前期・後期2回の試験		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	開講にあたって（現代国家と主権者）
2	国民主権と人民主権
3	日本国憲法における国民主権
4	権力分立制
5	選挙権の法的性格
6	選挙権と選挙制度
7	選挙区定数と判例の動向
8	立法機関の法的性格
9	国政調査権
10	行政権と議院内閣制
11	租税法律主義と財政
12	前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	司法権の意義と範囲
2	司法権の独立
3	裁判所の構成
4	裁判への国民の参加
5	違憲法令審査制
6	違憲審査の対象
7	憲法訴訟における統治行為論
8	憲法判断の方法と効力
9	地方自治総論（その性格）
10	住民自治
11	団体自治
12	閉講にあたって
備考	

科目名	行政法 I	担当者名	金子正史
-----	-------	------	------

講義の目標	行政法総論の理論を理解する。		
講義概要	判例、具体事例を素材として行政法総論の理論を説明する。		
使用教材	テキスト	・原田尚彦著『行政法要論（全訂第三版）』学陽書房	
	参考文献	(1) 行政判例百選 I・II（第三版） 有斐閣 (2) 行政法 I・II・III、有斐閣 塩野 宏著	
評価方法	前期、後期各 1 回のテストによる。		
受講者に対する要望など	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞、総合雑誌その他を良く読んで社会現象に目を向けてもらいたいと思います。 ・教科書は完全に理解して下さい。 		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	行政とは何か。 行政の定義 日本国憲法下における行政の特質
2	行政法とは何か。 公法と私法
3	行政法の法源
4	訓令・通達
5	行政組織 行政組織の基礎概念 国・地方公共団体の行政組織
6	法治行政 特別権力関係
7	行政立法（委任立法）
8	行政計画 計画策定手続の民主化
9	行政過程における私人の地位 反射的利益 行政便宜主義
10	行政行為の意義と特質 公定力・不可争力・自力執行力・不可変更力
11	法治行政と行政裁量
12	行方手続と行政行為 行政手続法
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	行政行為の種類と附款
2	行政行為の瑕疵 無効・取消 重大・明白な瑕疵
3	行政行為の取消しと撤回
4	行政指導(1)
5	行政指導(2)
6	行政契約
7	行政上の強制執行(1) 代執行・執行罰・直接強制
8	行政上の強制執行(2)
9	即時執行 行政強制
10	行政調査
11	行政上の義務違反に対する制裁 行政罰 秩序罰
12	行政法総論のまとめ・試験の説明その他
備考	

科目名	行政法Ⅱ	担当者名	荒 秀
-----	------	------	-----

講義の目標	違法・不当な行政活動により国民が権利・利益を侵害された場合の損害の填補等の国家補償問題や、行政処分の効力の排除に関する法律問題を勉強した後、いわゆる行政法各論として土地公法などを概観する。		
講義概要	違法行為に対する国家賠償、適法行為による損失補償、行政機関による不服申立制度、裁判所による行政訴訟制度を述べ、土地公法としては国づくり、まちづくりの法として、土地基本法、国土利用計画法、都市計画法等の内容を概観する。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・原田尚彦『行政法要論』学陽書房 ・荒・小高『不動産法概説(2)』有斐閣 	
	参考文献		
評価方法	後期試験の範囲は前期の講義範囲を含む。後期試験の結果を重視するが、前・後期共に受験していない者は失格とする。		
受講者に対する要望など	私語を絶対にしないこと。予習・復習をしっかりとすること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	〔損失補償〕 意義、憲法との関係、補償要否の基準
2	補償内容、生活補償、開発利益問題
3	〔国家賠償〕 国家賠償の歴史、国家賠償法の体系
4	1条の内容
5	2条の内容
6	その他の問題
7	〔行政争訟制度〕 行政不服申立制度（1）
8	同（2）（3）
9	〔行政訴訟〕 意義、特色、法律上の争訟
10	種類の概要
11	抗告訴訟の要件 処分性
12	訴えの利益（原告適格、狭義の訴えの利益）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	出訴期間、審査前置主義、被告適格、管轄裁判所
2	審理手続
3	執行停止、内閣総理大臣の異議
4	判決の種類と効力、事情判決
5	住民訴訟
6	〔土地公法〕 土地公法の体系
7	土地基本法、国土利用計画法の概要
8	都市計画法、地域地区制、開発許可制、都市施設、都市計画事業
9	建築基準法
10	事業法と収用法
11	補論（1）
12	補論（2）
備考	

科目名	比較憲法	担当者名	加藤一彦
-----	------	------	------

講義の目標	比較憲法は、日本国憲法をより深く理解するための研究分野である。したがってここでは、日本国憲法の基礎的知識を前提に、外国の憲法、特にドイツ基本法との比較の上で、ドイツと日本の憲法の一般性と特殊性を再確認したい。		
講義概要	ドイツ基本法の大きな特徴は、いわゆる「戦う民主制」を憲法原理としている点である。講義では、この憲法原理が具体的に憲法テキストと政治構造の中でどのように現れているかについて研究する。		
使用教材	テキスト	特に指示しない。但し、樋口・吉田編『解説世界憲法集』三省堂は必携。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・樋口陽一『比較憲法』青林書院 ・吉田善明『現代比較憲法論』敬文堂 ・阿部照哉編『比較憲法入門』有斐閣 その他、随時指示する。	
評価方法	前期、後期に小テストを行う。その結果は、ボーナス点として斟酌する（各20点満点）。本試験は、後期の学年末試験一本である。		
受講者に対する要望など	憲法の単位を取得していないものは、受講しないこと。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ドイツ憲法史(1)ヴァイマル憲法
2	ドイツ憲法史(2)ボン基本法制定過程
3	ドイツ憲法史(3)統一憲法
4	大統領制論(1)
5	大統領制論(2)
6	議会制度と連邦議会の選挙制度(1)
7	議会制度と連邦議会の選挙制度(2)
8	議会制度と連邦議会の選挙制度(3)
9	政党法制(1)
10	政党法制(2)
11	政党法制(3)
12	予備日
備考	適時、小テストを行う。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	裁判制度と連邦憲法裁判所(1)
2	裁判制度と連邦憲法裁判所(2)
3	裁判制度と連邦憲法裁判所(3)
4	基本権論(1)
5	基本権論(2)
6	基本権論(3)
7	国家緊急権(1)
8	国家緊急権(2)
9	良心的兵役拒否
10	抵抗権論
11	予備日
12	予備日
備考	適時、小テストを行う。

科目名	税法	担当者名	北野弘久
-----	----	------	------

講義の目標	現代税法全体の基礎理論を具体的諸問題を素材にして解明する。このことを通じて学生諸君が税法問題を自力で解決できるように、努力したいと思う。1年間の講義によって、税法学の最新の理論をわかりやすく会得させたい。税法学への的確な理解は、激動の現代社会生活にとって不可欠である。ふるって参加されたい。		
講義概要	現代税法をめぐる主要問題を具体的ケースを素材にして総合的に検討し、現代資本主義法としての現代税法の構造的特質を解明する。そしてこれをふまえて納税者（タックスペイヤー）の立場からどのような実践的税法理論を構築するのがもっとも望ましいか考えてみたい。17回の講義によって11のテーマの税法学の基礎理論を紹介する。つぎに6回の講義によって企業課税をめぐる諸問題を各論的に扱うこととしたい。企業課税を扱うこととしたのは、現代は『企業社会』と呼ばれているように、非常に重要な問題であるからである。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・北野弘久著『税法学原論・3版』青林書院 ・北野弘久著『現代企業税法論』岩波書店 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・北野弘久著『納税者の権利』岩波新書 ・北野弘久『消費税はエスカレートする』岩波ブックレット ・北野弘久著『納税者基本権論の展開』三省堂 ・北野弘久著『税理士制度の研究』税務経理協会 その他、随時指示する。	
評価方法	毎回の講義への出席を重視する。学年末に1回筆記試験を行う。1年間の学習の成果がテストできるような基本的テーマの試験を行う。		
受講者に対する要望など	毎回、読むべき文献を指示する。重要な論点は板書する。ノートをとることを希望する。復習をたんねんに積み重ねてほしい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	税法学の方法と特質(1) —税法学の重要性—
2	税法学の方法と特質(2) —財政学との関係—
3	税法学の方法と特質(3) —会計学との関係—
4	税法学の方法と特質(4) —行政法学との関係・総括—
5	租税の法的概念
6	租税の法的分類
7	税法の体系と税法学
8	租税法律主義の原則・租税条例主義の原則(1) —— 般的検討 ——
9	租税法律主義の原則・租税条例主義の原則(2) —— その現代的展開・自治体財政権 ——
10	実質課税の原則(1) —— 般的検討 ——
11	実質課税の原則(2) —— 借用概念、所得の帰属、仮装行為、租税回避行為 etc ——
12	税法と信義誠実の原則
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	税務行政機構論
2	税務調査権の法理(1) —— 総論的検討 ——
3	税務調査権の法理(2) —— 各論的検討 ——
4	税務争訟制度の特質
5	租税犯の構造
6	企業課税をめぐる諸問題(1) —— 法人所得課税の構造・その1 ——
7	企業課税をめぐる諸問題(2) —— 法人所得課税の構造・その2 ——
8	企業課税をめぐる諸問題(3) —— 同族会社 ——
9	企業課税をめぐる諸問題(4) —— 企業主権 ——
10	企業課税をめぐる諸問題(5) —— 事業承継税制 ——
11	企業課税をめぐる諸問題(6) —— 事業者とサラリーマン ——
12	企業課税をめぐる諸問題(7) —— 消費税 ——
備考	

科目名	教育法	担当者名	市川 須美子
-----	-----	------	--------

講義の目標	<p>教育法学の基礎理論の理解の上に、現代的問題である1980年代以降の「子どもの人権裁判」を素材に、教育法の体系的理解を目標とする。</p>		
講義概要	<p>前期は、教育法の基本概念である教育人権の概念と、教育における国家の役割を学ぶ。教育法形成に重要な影響を及ぼした基本判例を素材とする。</p> <p>後期は、現在の教育法の焦点となっている「子どもの人権裁判」を体罰、いじめ裁判、校則裁判、学校教育措置訴訟、教育情報裁判に分類して、論点と課題を検討する。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神田修編『教育法と教育行政の理論』三省堂、1993年 ・ 兼子・神田編『ホーンブック教育法』北樹出版、1995年 	
評価方法	<p>前期 レポート</p> <p>後期 試験</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	教育法とは何か？ 教育法の機能的三種別、教育条理
2	戦後教育法制の基本的特徴 戦前法制と比較して
3	教育法における教育人権と一般人権、教育権力
4	教師の教育権(1)
5	教師の教育権(2)
6	親の教育権(1)
7	親の教育権(2)
8	子どもの学習権(1)
9	子どもの学習権(2)
10	教育の地方自治 教育委員会準公選制
11	国家の教育権と国民の教育の自由
12	学校事故と教育行政の条件整備義務
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	子どもの人権裁判総説
2	体罰裁判(1) 水戸五中事件とその後の体罰判例
3	体罰裁判(2) 風の子学園事件
4	いじめ裁判(1) いわきいじめ自殺事件、中野富士見中事件
5	いじめ裁判(2) その後のいじめ事件判例
6	校則裁判(1) 二つの丸刈り訴訟
7	校則裁判(2) バイク退学事件・パーマ退学事件
8	学校教育措置訴訟(1) 原級留置き訴訟
9	学校教育措置訴訟(2) エホバの証人生徒退学事件
10	学校教育措置訴訟(3) 障害生徒入学不許可事件
11	教育情報裁判 内申書開示請求訴訟
12	まとめ 子どもの権利条約と教育法
備考	

科目名	民法 I	担当者名	平井 一 雄
-----	------	------	--------

講義の目標	民法第一編総則の解釈論上の諸問題について基礎的な理解を得られるように講義する。民法総則の講義は、民法入門的な講義も兼ねているので、民法全体にわたる基本的な概念や民法の他の領域との関連も理解できるように講義する。		
講義概要	最初に民法全体にわたる基本的な概念や民法の勉強の仕方について説明したうえで、概ね条文の順序に従って各制度について説明してゆく。		
使用教材	テキスト	・三和一博・平井一雄編『民法総則要説』青林書院	
	参考文献		
評価方法	年二回の定期試験による。		
受講者に対する要望など	講義に出席してノートを取り、教科書を用いて予習復習することが大事である。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	勉強の仕方。参考書の紹介。民法案内。
2	民法全体についての基本的な説明（民法の法源、歴史、基本用語など）。
3	民法の基本原則とその修正(1)
4	民法の基本原則とその修正(2)
5	権利能力、行為能力(1)
6	行為能力(2)
7	住所、不在者の財産管理と失踪宣告
8	法人(1)―序論、法人の能力など
9	法人(2)―法人の不法行為など
10	法人(3)―権利能力なき社団など
11	権利の客体
12	法律行為総説
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	意思表示(1)―心裡留保、虚偽表示(1)
2	意思表示(2)―虚偽表示(2)
3	意思表示(3)―錯誤
4	意思表示(4)―詐欺・強迫
5	代理(1)―序論、代理権
6	代理(2)―代理行為
7	代理(3)―無権代理
8	代理(4)―表見代理
9	無効、取消、条件、期限、期間
10	時効(1)―序論
11	時効(2)―取得時効と消滅時効
12	時効(3)―時効通則
備考	

科目名	民法 I	担当者名	花本 広志
-----	------	------	-------

講義の目標	民法の基本的な考え方や基礎概念を修得することを第一目標とし、そのうえで、第一編総則の解釈論上の諸問題について知識と理解を深めることを第二目標とする。		
講義概要	民法典第一編総則につき概説する。総則には抽象的な規定が多いので、できるだけ具体例を示しつつ解説する。総則は、民法全体の通則であるから、民法のその他の部分について十分な知識がなければ理解が困難である。したがって、講義内容を単に「記憶」するよりも、基本的な考え方を修得するよう努めてほしい。もちろん覚えなければならない事項も多いので、年数回の小テストを実施する。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・遠藤浩ほか『要論民法総則』青林書院 ・我妻栄ほか編『民法基本判例集〔第五版〕』一粒社 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・四宮和夫『民法総則〔第四版〕』弘文堂 	
評価方法	期末試験の成績と小テストの成績の合計。		
受講者に対する要望など	法律学の講義では六法全書は必携である。六法を携帯しない者の受講は認めない。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	民法（法律学）の勉強の仕方 民法とは何か（法体系における位置づけ・民法の歴史・民法の体系）
2	民法の法源・基本原則（権利能力平等の原則・所有権絶対の原則・私的自治の原則）とその修正、民法の効力、民法の解釈。
3	私権・権利能力
4	意思能力と行為能力
5	住所・不在者・失踪宣告
6	法人……意義、法人の設立、法人の能力（権利能力）
7	法人の能力（行為能力・不法行為能力）、法人の組織 権利能力なき社団
8	権利の客体たる「物」とは？
9	法律行為とは？……法律行為総説（意義・法律行為の解釈・有効要件）
10	意思表示総説（法律行為の中核である意思表示について概説する）
11	法律上問題のある意思表示(1)……意思の欠缺(1)……心裡留保・虚偽表示
12	法律上問題のある意思表示(2)……意思の欠缺(2)……九四条二項の類推適用・錯誤
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	法律上問題のある意思表示(3)……瑕疵ある意思表示（詐欺・強迫） 意思表示の効力の発生
2	代理(1)……代理の意義・要件・効果
3	代理(2)……表見代理(1)……表見代理の意義・効果
4	代理(3)……表見代理(2)……代理権授与表示の表見代理、代理権濫越の表見代理、代理権消滅後の表見代理
5	代理(4)……無権代理……無権代理の意義・効力、無権代理人の責任
6	無効・取消
7	条件・期限・期間
8	時効(1)……時効総説(1)……意義、効果、時効の援用
9	時効(2)……時効総説(2)……時効利益の放棄、時効の中断・停止
10	時効(3)……取得時効
11	時効(4)……消滅時効
12	全体の総括と民法答案の書き方
備考	

科目名	民法Ⅱ(94年度以降)	担当者名	花本広志
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>民法典第二編物権の諸制度および解釈論上の諸問題について基礎的知識を習得し、理解を深めることを目標とする。</p>		
講義概要	<p>前期は「物権法総論」を中心に用益物権まで講義する予定である。この部分は、民法学の中でも、もっとも理論的かつ複雑な問題の多いところであるので、それだけ抽象的・緻密な思考力が要求される場所である。講義中はできるだけ具体例を示しながら説明するが、各自がかなりの予習・復習をしないと理解は困難であろう。</p> <p>これとは逆に、「担保物権」は、理論よりも金融実務のほうが先をいっている面が多分にあり、また、民法典にない担保制度も数多く存在する。「担保」という以上、債権の存在は不可欠であるから、債権法に関する知識も担保物権法の理解には欠かせない。必要な範囲で債権法についても触れるが、各自独習することも要求されよう。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・遠藤浩ほか『要論物権法』青林書院 ・我妻栄ほか『民法基本判例集〔第五版〕』一粒社 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・我妻栄／有泉亨補訂『新訂物権法〔民法講義Ⅱ〕』岩波書店 ・舟橋諄一『物権法』有斐閣 ・近江幸治『民法講義Ⅱ〔物権法〕』成文堂 ・柚木馨／高木多喜男『担保物権法〔第三版〕』有斐閣 ・高木多喜男『担保物権法〔有斐閣法学叢書2〕』有斐閣 ・近江幸治『担保物権法』弘文堂 ・道垣内弘人『担保物権法』三省堂 その他は、適宜講義中に紹介する。 	
評価方法	<p>期末試験の成績によるが、場合によっては実施する小テストの成績を加味する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>法律学の講義では六法全書は必携である。六法を携帯しない者の受講は認めない。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	物権法の勉強の仕方。物権法とは何か？
2	物権の意義・物権の効力（一般的効力・物権的請求権）
3	物権変動(1)……物権変動とは何か？ 物権行為
4	物権変動(2)……不動産の物権変動①（不動産物権変動における登記の機能）
5	物権変動(3)……不動産の物権変動②（物権変動と登記）
6	物権変動(4)……不動産登記の仕組みと有効要件
7	物権変動(5)……動産の物権変動①
8	物権変動(6)……動産の物権変動②（即時取得）・物権変動に関するその他の問題
9	占有権・所有権
10	地上権・地役権
11	永小作権・入会権
12	前期の総括
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	債権担保総論。
2	担保物権法総論 法定担保物権(1)……留置権
3	法定担保物権(2)……先取特権
4	約定担保物権(1)……質権(1)……意義、動産質
5	約定担保物権(2)……質権(2)……不動産質、権利質
6	約定担保物権(3)……抵当権(1)……意義、抵当権の設定、抵当権の効力の及ぶ範囲、抵当権侵害と抵当権の効力
7	約定担保物権(4)……抵当権(2)……抵当権と用益権との利害調整、抵当権の実行、抵当権の処分
8	約定担保物権(5)……抵当権(3)……共同抵当、根抵当
9	約定担保物権(6)……抵当権(4)……抵当権の消滅、特別法上の抵当制度
10	非典型担保(1)……意義と種類、仮登記担保
11	非典型担保(2)……譲渡担保、所有権留保
12	全体の総括と民法答案の書き方。
備考	

科目名	民法Ⅲ(94年度以降)	担当者名	辻 伸行
-----	-------------	------	------

講義の目標	この講義は、債権総論の基本的理解を得ることを目的としている。単に一般的・抽象的に法律用語や法制度をおぼえるだけでは不十分であり、設例を通じて具体的に理解することが必要である。		
講義概要	講義の内容は、民法典第三編債権(399条～520条)の全般であるが、取り扱う主な事項は、債権の目的・種類、履行の強制、債務不履行と損害賠償、受領遅滞、債権者代位権、債権者取消権、多数当事者の債権関係、債権譲渡、債務引受、弁済、相殺などである。		
使用教材	テキスト	・野村豊弘・栗田哲男・池田真朗・永田真三郎著『民法Ⅲ——債権総論』有斐閣Sシリーズ 有斐閣	
	参考文献	・別冊ジュリスト『民法判例百選Ⅱ債権(第三版)』有斐閣 ・ジュリスト増刊『民法の争点Ⅱ(債権総論・債権各論)』有斐閣	
評価方法	前期および後期の定期試験期間中に試験を実施する。この二回の試験の結果の総合評価によって、単位の認定を行う。したがって、単位を取得するためには、前期および後期の試験を受けることが必要である。		
受講者に対する要望など	受講者は、予習・復習をしてくること、また、受講に際しては、六法全書を携帯すること。また、言うまでもないことであるが、授業中は、私語を慎むこと、そしてまた、授業時間に遅れてこないこと。以上の点は必ず守ってほしい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	開講にあたっての一般的注意、テキスト・参考書などの紹介、序論——債権の意義、債権編の内容の概観、物権と債権
2	債権の目的(1)——特定物債権と種類債権
3	債権の目的(2)——金銭債権、利息債権、選択債権
4	債権の効力(1)——序論、債権侵害
5	債権の効力(2)——履行の強制(1)
6	債権の効力(3)——履行の強制(2)
7	債務不履行(1)——序論、債務不履行の種類
8	債務不履行(2)——安全配慮義務、契約締結上の過失
9	債務不履行(3)——損害賠償の内容・範囲
10	受領遅滞
11	責任財産の保全(1)——債権者代位権(1)
12	責任財産の保全(2)——債権者代位権(2)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	責任財産の保全(3)——債権者取消権(1)
2	責任財産の保全(4)——債権者取消権(2)
3	多数当事者の債権関係(1)——序論、分割債権・分割債務、不可分債権・不可分債務
4	多数当事者の債権関係(2)——連帯債務
5	多数当事者の債権関係(3)——保証債務
6	債権譲渡(1)
7	債権譲渡(2)、債務引受
8	弁済(1)
9	弁済(2)
10	相殺
11	更新、免除、混同
12	一年間のまとめ
備考	

科目名	民法Ⅳ(94年度以降) 民法Ⅲ(93年度以前)	担当者名	後藤巻則
-----	----------------------------	------	------

講義の目標	債権各論の基本的理解を得ることを目標とする。具体例を多く示し、わかりやすく講義することを心がけたい。		
講義概要	講義の内容は、不法行為、契約総論、契約各論、事務管理、不当利得であり、この順序で進める。		
使用教材	テキスト	・内田勝一『債権各論講義ノート』成文堂	
	参考文献	・別冊ジュリスト『民法判例百選Ⅱ〔第4版〕』有斐閣	
評価方法	前期および後期の定期試験および授業中に実施する小テストを総合的に評価する。		
受講者に対する要望など	授業中に小報告を課したり、年数回小テストを実施する。意欲的に参加してほしい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	不法行為総説
2	不法行為の一般的成立要件(1)―故意・過失、違法性
3	不法行為の一般的成立要件(2)―因果関係、責任能力
4	特殊の不法行為(1)―責任無能力者の監督者の責任、使用者責任
5	特殊の不法行為(2)―工作物責任、動物占有者責任、共同不法行為
6	不法行為特別法―国家賠償法、自賠法など
7	不法行為の効果
8	契約総説、契約の成立
9	契約の効力(1)―同時履行の抗弁権、危険負担
10	契約の効力(2)―第三者のためにする契約、契約の解除、贈与
11	売買(1)―意義、成立、予約、手付
12	売買(2)―売主・買主の義務
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	売買(3)―担保責任など
2	消費貸借、使用貸借、賃貸借(1)―成立、総説、存続・終了
3	賃貸借(2)―賃貸人・賃借人の権利義務、賃借権の対抗力、賃借権の譲渡
4	賃貸借(3)―借地借家法等
5	請負
6	委任、寄託、組合
7	その他の契約
8	契約法のまとめと今日的課題
9	事務管理
10	不当利得(1)―成立要件
11	不当利得(2)―効果
12	予備日
備考	

科目名	民法 V (94年度以降) 民法 N (93年度以前)	担当者名	松嶋 由紀子
-----	--------------------------------	------	--------

講義の目標	<p>①夫婦、親子その他の親族間の法律関係を理解し、現代社会における家族並びに家族法のあり方について考察すること。</p> <p>②国際的な家族法の動向についても理解を深めること。</p>		
講義概要	<p>親族法・相続法（民法第四編・第五編）とする。</p> <p>年間講義予定参照のこと。</p>		
使用教材	テキスト	<p>①『民法(8)親族』第3版増訂版 有斐閣双書</p> <p>②『民法(9)相続』第3版 有斐閣双書</p>	
	参考文献	<p>『家族法判例百選』第四版、有斐閣。その他についてはその都度指示する。</p>	
評価方法	<p>筆記試験を行う。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	親族法総論 (総論、氏名と戸籍、親族関係、国際条約と家族法)
2	紛争処理機構 (家庭裁判所、その他)
3	婚姻 (婚姻の成立、効力)
4	婚姻 (夫婦財産制、婚姻の解消、効力)
5	離婚 (離婚法の流れ、離婚原因)
6	離婚 (財産分与、離婚の効果)
7	親子 (嫡出子、人工生殖)
8	親子 (非嫡出子)
9	親子 (養子、養子縁組の要件と効力、離縁)
10	親権 (意義、親権者、内容、喪失)
11	後見・保佐、扶養 (開始原因、機関、事務の内容、高齢者扶養の立法政策)
12	国際条約と家族法 (条約の国内適用可能性、その他)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	相続法総論 (相続の意義、相続の開始)
2	相続人 (順位、代襲相続、相続欠格、相続人の廃除)
3	相続の効力 (相続財産の承継)
4	相続の効力 (相続分の意義、決定、指定、相定相続分序説)
5	相続の効力 (法定相続分)
6	相続の効力 (特別受益者、寄与分、相続債務、相続分の譲渡)
7	相続の効力 (遺産の共有、遺産分割、相続回復請求権)
8	財産分離、相続の承認と放棄 (財産分離、単純承認、限定承認、放棄)
9	相続人の不存在 (相続財産法人と相続財産の処理、特別縁故者への財産の分与)
10	遺言 (意義、方式、効力)
11	遺言及び遺留分 (遺贈、遺言の執行、遺留分序説)
12	遺留分 (遺留分の減殺請求)
備考	時間数の関係で適宜変更することがある。

科目名	商法Ⅱ	担当者名	青木英夫
-----	-----	------	------

講義の目標	会社法、殊に株式会社法に重点をおいて講義し、株式会社の基本構造を理解させることが目標である。		
講義概要	会社法総論を講義した後、直ちに株式会社法に入り、株式および機関を中心に講義する。		
使用教材	テキスト	・青木英夫著『会社法（新訂版）』税務経理協会刊	
	参考文献	その都度、指示する。	
評価方法	前後期の定期試験を行うが、後期試験に重点において評価し、前期試験は参考程度にとどめる。		
受講者に対する要望など	板書も多いので、ノートを持参すること。出欠調査はしないので、意欲ある学生のみのお出席を希望する。		

年 間 講 義 予 定

週割当ての講義範囲を予め示しても、その通り実行するのは困難であるので、前期で予定している講義範囲を示すこととする。予習については、直前の講義において、具体的に範囲・内容を指示するので、受講生に不都合は生じない。

前期では、3、4回、会社法総論を講義した後、株式会社を中心に講義する。その内容は次の通りである。

1. 会社法総論
 - (1) 会社法の法源
 - (2) 会社の概念
 - (3) 会社の種類
2. 株式
 - (1) 総説
 - (2) 株主の権利義務
 - (3) 株券
 - (4) 株主名簿
 - (5) 株式の譲渡
 - (6) 端株
 - (7) 単位株制度

後期は株式会社の機関が中心である。その内容は次の通りである。

1. 機関
 - (1) 株主総会
 - (2) 取締役及び取締役会
 - (3) 監査役
 - (4) 検査役
2. 計算 ここでは、計算書類、準備金および利益配当（中間配当）を概括的に取り上げる。
3. 新株の発行及び資本の減少 ここでは、新株発行及び減資の無効の訴を中心に講義する。

科目名	商法Ⅲ	担当者名	坂本延夫
-----	-----	------	------

講義の目標	手形法・小切手法の体系的な理解。		
講義概要	<p>商法Ⅲの講義内容は手形法・小切手法である。</p> <p>講義は約束手形を中心に行うが、受講生が手形法・小切手法の理論と実務の双方について理解しうよう努める。詳細は、年間講義予定を参照。</p>		
使用教材	テキスト	・山村忠平・坂本延夫・中村建編著『要説手形法・小切手法』嵯峨野書院	
	参考文献	追って指示する。	
評価方法	原則として、二度の筆記試験をもって評価する。		
受講者に対する要望など	意欲的な受講を期待する。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	手形・小切手の法と経済的機能
2	手形・小切手と銀行取引
3	有価証券としての手形・小切手(I)
4	有価証券としての手形・小切手(II)
5	手形行為の概念および種類
6	手形行為の成立要件(I)
7	手形行為の成立要件(II)
8	手形行為の代理・代表(I)
9	手形行為の代理・代表(II)
10	手形行為と利益相反
11	手形の偽造・変造
12	補講
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	手形上の権利
2	手形抗弁(I)
3	手形抗弁(II)
4	手形上の権利の消滅と利得償還請求権
5	約束手形の振出(I)
6	約束手形の振出(II)
7	約束手形の裏書(I)
8	約束手形の裏書(II)
9	約束手形の支払
10	約束手形の遡求
11	小切手(I)
12	小切手(II)
備考	

科目名	商法 I	担当者名	小林俊明
-----	------	------	------

講義の目標	<p>商法総則（商法第1編）では、企業活動を担う商人の意義やその営業組織面に関する一般的な制度を理解し、これが現実の社会のなかでどのように機能しているのかを学ぶ。一方、商行為法（商法第3編）では、商行為に関する規定の特性を理解し、さまざまな企業取引に対する規制を学ぶことを目的とする。</p>		
講義概要	<p>前期においては商法総則を中心に、後期は商行為法を中心に授業をすすめる。おおむね教科書に沿って講義する予定であるが、必ずしもシラバスどおりに進行するとはかぎらない。商行為法では、できるかぎり現代的な企業取引にも触れ、具体的な判例も含めて解説することとしたい。前提として民法（財産法）の理解は不可欠である。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・落合誠一・大塚龍児・山下友信『商法 I —総則・商行為〔第2版〕』有斐閣Sシリーズ</p>	
	参考文献	<p>・鴻他編『商法（総則・商行為）判例百選（第三版）』有斐閣 ・鴻常夫『商法総則』弘文堂 ・江頭憲治郎『商取引法』（上・下）弘文堂</p>	
評価方法	<p>後期試験を中心に評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>教科書および六法を必ず持参すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	商法の意義・特色・地位
2	商法の法源・適用順序
3	商行為の概念と種類
4	商人の概念と種類
5	商人資格の得喪
6	営業の意義
7	営業の補助者、商業使用人
8	支配人
9	商号
10	商業登記
11	商業帳簿
12	商行為法の適用範囲
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	商行為通則
2	企業取引の補助者、代理商、仲立人、問屋
3	商事売買と商法の規定
4	委託販売
5	消費者売買
6	運送取引、運送人の責任
7	運送証券、運送取扱取引
8	銀行取引
9	リース取引
10	証券取引
11	場屋取引
12	保険取引
備考	

科目名	商法Ⅳ	担当者名	青木英夫
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>保険法を中心に講義を進め、現代人にとって不可欠な保険についての知識を修得させることを目標とする。</p>		
講義概要	<p>講義の対象は、保険法および海商法であるが、受講生にとって、将来、海商法の知識が役立つことはほとんどないと思われる。これに対して、保険法の知識は、現代社会を安全に過す上において、極めて重要である。そこで、講義は、保険法を中心に行い、海商法については、海上保険との関連において、取り扱うにとどめることにしたい。なお、講義の進行によっては、数回分を一度に行うこともありうるし、一つのテーマに関して、数回にわたって講義することもありうる。</p>		
使用教材	テキスト	<p>ノートを中心にし、テキストは使用しない。</p>	
	参考文献	<p>講義の進行に応じて、指示する。</p>	
評価方法	<p>前期及び後期の定期試験を行うが、3年生については、後期試験の結果によって、主として評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>ノートを持参すること。六法は言うまでもないこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	保険制度及び保険法
2	同 上
3	保険契約の意義及び特色
4	同 上
5	保険契約の当事者と関係者
6	同 上
7	損害保険契約の意義、要素及び種類
8	同 上
9	同 上
10	他人のためにする損害保険契約
11	被保険利益及び保険価額
12	同 上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	告知義務及び保険証券
2	損害保険契約の効果
3	同 上
4	損害保険債権の移転及び保険者の代位
5	危険の変更及び損害保険契約の終了
6	各種の損害保険契約
7	同 上
8	生命保険契約の意義、要素及び種類
9	同 上
10	他人の生命及び他人のための生命保険契約
11	告知義務及び保険証券
12	危険の変更及び生命保険契約の終了
備考	

科目名	国際取引法	担当者名	山本孝夫
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>国際取引の分野は、貿易取引に加えて、知的財産取引・合併企業・サービス取引・投資など、国際化が進展しています。国内での経済活動もコンピュータソフト、情報通信、フランチャイズ、金融はじめ先端・成長分野で特に国際化が進んでいます。国際的舞台で活躍することをめざしている方に、国際取引、国際的な事業に不可欠な国際取引法、契約、貿易、訴訟、知的財産取引に関わる法的な知識と現実的な対応を紹介します。具体的な設例を議論しながら、国際的舞台へ踏み出すための「知識」「技術」「スピリッツ」修得が目標です。ボーダーレスの現代では、「英語」は国際取引の「標準語」と考えてみてはどうでしょうか。クラスの1人1人との真剣な話し合いを通じて毎回新鮮な授業をすすめたいと思います。</p>				
講義概要	<p>「国際売買条件」「国際取引の特色とリスク」「国際的知的財産取引・技術移転」「海外進出・合併事業」「国際取引紛争と解決方法」「エンターテイメント・ビジネス」「国際的なベンチャービジネス」を具体的に紹介します。ミシガン大Law Schoolやロンドン、サンフランシスコ、NY、東京（三井物産）で国際取引・プロジェクト・知的財産法務に携って来た経験をもとに、仮想ケースメソッドや英文教材（プリント）も使用したいと思います。獨協大の学生の方々や新人を思い浮べて執筆した『英文契約書の書き方』〔日経文庫〕、『国際取引・知的財産法の学び方（梁山泊としてのゼミナール）』（国際商事法務94年1月～96年3月号〔毎月連載中〕）、『知的財産契約の常識』（「CIPICジャーナル」94年3月～95年3月号）も使います。法律知識・判例だけでなく、契約、実務も紹介します。「主要テーマ」中心です。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <p>1. 「プリント」（毎回配布） 2. 山本孝夫『英文契約書の書き方』〔日本経済新聞社、日経文庫。'93.5刊〕 3. 『国際取引法』〔山田・佐野、有斐閣〕</p> </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <p>1. Folsom, Gordon, Spanogle <i>International Business Transactions</i> (West Publishing; コースブックとNutshell版) 2. 山本孝夫『国際取引・知的財産法の学び方〔Seminer at Michigan Law School and Coffee Shops〕』（「国際商事法務〔IBL〕」94年1月号～96年3月号、27回連載中） 3. 新堀聡『貿易取引入門』〔日本経済新聞社〕 4. 沢田寿夫『新国際取引ハンドブック』〔有斐閣〕 5. 山本孝夫『知的財産契約の常識』〔「CIPICジャーナル」94年3月～95年3月号〕 6. 山本孝夫『ベンチャー企業の法務と対応』〔日本経済新聞社『ベンチャー企業の経営と支援』共著〕</p> </td> </tr> </table>	テキスト	<p>1. 「プリント」（毎回配布） 2. 山本孝夫『英文契約書の書き方』〔日本経済新聞社、日経文庫。'93.5刊〕 3. 『国際取引法』〔山田・佐野、有斐閣〕</p>	参考文献	<p>1. Folsom, Gordon, Spanogle <i>International Business Transactions</i> (West Publishing; コースブックとNutshell版) 2. 山本孝夫『国際取引・知的財産法の学び方〔Seminer at Michigan Law School and Coffee Shops〕』（「国際商事法務〔IBL〕」94年1月号～96年3月号、27回連載中） 3. 新堀聡『貿易取引入門』〔日本経済新聞社〕 4. 沢田寿夫『新国際取引ハンドブック』〔有斐閣〕 5. 山本孝夫『知的財産契約の常識』〔「CIPICジャーナル」94年3月～95年3月号〕 6. 山本孝夫『ベンチャー企業の法務と対応』〔日本経済新聞社『ベンチャー企業の経営と支援』共著〕</p>
テキスト	<p>1. 「プリント」（毎回配布） 2. 山本孝夫『英文契約書の書き方』〔日本経済新聞社、日経文庫。'93.5刊〕 3. 『国際取引法』〔山田・佐野、有斐閣〕</p>				
参考文献	<p>1. Folsom, Gordon, Spanogle <i>International Business Transactions</i> (West Publishing; コースブックとNutshell版) 2. 山本孝夫『国際取引・知的財産法の学び方〔Seminer at Michigan Law School and Coffee Shops〕』（「国際商事法務〔IBL〕」94年1月号～96年3月号、27回連載中） 3. 新堀聡『貿易取引入門』〔日本経済新聞社〕 4. 沢田寿夫『新国際取引ハンドブック』〔有斐閣〕 5. 山本孝夫『知的財産契約の常識』〔「CIPICジャーナル」94年3月～95年3月号〕 6. 山本孝夫『ベンチャー企業の法務と対応』〔日本経済新聞社『ベンチャー企業の経営と支援』共著〕</p>				
評価方法	<p>前後期2回のレポートとクラスへの参加を重視します。これ迄、寺沢ゼミ、平井ゼミ、奈良ゼミ、松本ゼミはじめ受講生が積極的だったので、レポートとしました。新年度も前期レポート期限を9月末（テーマ自由、2千字以上）とします。これ迄3年間は、意欲的な作品が多く、A・B中心の評価でした。</p>				
受講者に対する要望など	<p>私は授業は受講生と教師が各1対1で意見交換し、協力して作り上げるものだと考えています。93年は学生アドバイザー起用、最近2年は出席票代りに、毎回「質問・意見・メッセージ」をB5版メモで提出願ひ、授業・テーマに反映させました。質問・意見メモは必ず2度読み、次回以降のクラスや、内容により、本人に直接答えるようにしてきました。夢を追う仲間の楽しいゼミナールにしたいと思います。授業に参加し、意見をきかせて下さい。</p>				

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	(質問) あなたが初めて海外客先に商品の売り込みに成功、大筋商談がまとまりました。契約書の交渉に移ろうとすると相手が言います。「今約束した通り納入して下さい。契約書は不要です。」どうしますか。『英文契約書の書き方』 pp.16-20
2	第1週の Business Writing の役割の議論に続き具体的なケースで「国際取引のリスク・特色」を取上げます。マライヤ・キャリーをキャンパスと呼ぶとしたら、どんな契約を作りますか。『英文契約書の書き方』 pp.20-82; 「プリント」
3	具体的なケースとビジネスを取上げ、「国際取引の種類」を学びます('94はエアバス事故、'95はミュージカルとブランドビジネス)。例えば売買、リース、サービス、ライセンス、フランチャイズ契約。『英文契約書の書き方』 pp.20-23; 『国際取引法』 pp.4-6
4	Athenの Alpha Companyが New Yorkの Santa Clausに Toyを注文します。Alpha社からの Letter (照会)、Purchase Order を読み、船積・支払条件、信用状、Bill of Ladingを学びます。『貿易取引入門』 pp.98-173; 「コースブック」 pp.33-41
5	Santa Claus ケース (継続)。「国際売買の仕組み」「FOB, CIF 条件」を学びます。FOB (Free on Board) とはどのような意味でしょうか。CIF とは何の略でしょうか。『国際取引法』 pp.69-113; 『英文契約書の書き方』 pp.84-137
6	米 Georgia州の Sam Silverが英 Bathの Bill Bonesから「Desire under the Thornbush」を FOB Savannah(Georgia)条件で、そして、Huntから CIF Bath条件で100宛注文を受けます。Bathと一緒に送ることができですか。
7	Silver ケース (継続)。「International Business Transactions (コースブック)」の pp.85-87です。船積港が Savannah, Destinationが Bathという点は同じです。もし、「FOB サバナナ」と「CIF バス」が同金額なら、どちらへ売りますか。
8	国際取引に適用される世界共通の法律はあるのでしょうか。国連のウィーン売買条約というのは何でしょうか。日本の Aurora Borealis社とサンフランシスコの Karen View社が契約したとします。どの国の法律が適用されますか。
9	Aurora Borealis社と Karen View社の契約をめぐって、レター形式の契約のし方、フォーマルな契約書のドラフティングを学びます。米国 UCC (統一商法典) とは何でしょうか。『英文契約書の書き方』 pp.43-112; 『国際取引・知的財産法の学び方』 IBL 94年5-11月号
10	海外や外資で働くのも、国際取引の一形態(雇用契約)です。「求人広告」「英文履歴書」「Cover Letter」「Interview」「国際雇用契約」のポイントを学びます。あなたの Resume、野球選手の雇用契約、俳優の出演契約を作ってみませんか。
11	国際取引の舞台に登場する「Actors」「主な Forms (売買、ライセンス、投資)」についてふり返ります。M. N. E., Delaware Enterprise, Tax Haven とは何でしょうか。『コースブック』 pp.10-30; 「Nutshell 版」 pp.1-30
12	あなた方一人一人の質問・意見を紹介し、お答えします。毎回いただくメモ (B5版)にも返事します。前期のレポート (期限: 9月末) は国際取引に関する限り自由課題ですが、参考テーマ (20) と翻訳用プリントを用意します。
備考	クラスの終りに毎回、自由な質問・意見メモ (B5版)を受取り、その次のクラスなどのはじめや後半で、5~10人分ずつ紹介し、お答えして行きます。授業のテーマや内容にも反映させ、学生参加によるクラス、講義をつくりあげて行きます。

後期

週	主要テーマ
1	前期レポートの提出を受けます。後期の学び方・指針について紹介します。あなた方の夏休みの成果・感想を聞いたり、私のすごし方などをお話しします。['94は北大での集中講義、コペンハーゲン AIPPI 執行委員会会議印象記 (AIPPI '94.9-'95.3月号)]
2	夏休み中のレポートの紹介、講評、助言を行います。契約英語、ビジネス英語の基本を紹介します。『英文契約書の書き方』 (V. 契約英語のポイント、pp.191-209)の基礎的表現 (May, Shall, Will, 時制、数字、期間等)も説明します。
3	「国際技術移転・知的財産取引 (1)」として、その基本を紹介します。Intellectual Property Rights とは何でしょうか。Copyrights, Patent, Trademark, Trade Secret とは何でしょうか。有効期間はどうか。『国際取引法』 pp.146-171; 「コースブック」 pp.612-621
4	「国際技術移転・知的財産取引 (2)」として、具体的なライセンス契約やその契約条件を学びます。『コースブック』 Problem 9.4 Patent and Knowhow Licensing, pp.706-725; 『英文契約書の書き方』 pp.146-171; 『知的財産契約の常識』 (CIPIC ジャーナル Vol.27~35) '94年3~11月号
5	「国際知的財産契約」を仮想の主人公 (Karen View と日高氏)で紹介します。販売店契約、ライセンス契約、フランチャイズ契約は各どんな特色がありますか。マクドナルドや Colonel Chicken のフランチャイズ契約をみて考えませんか。『コースブック』 pp.675-691
6	映画・ミュージカル・音楽など国際的なエンターテインメント・ビジネス。制作・輸入・上演・ビデオ化・放送の実際や契約条件、紛争に重点を置いて紹介します。『Love NY 事件』『Dallas Cowboys Cheerleaders 事件』を知っていますか。
7	「海外への進出と事業形態・合併事業 (1)」の基礎を紹介します。販売店と代理店、支店と現地法人はどう違うのでしょうか。合併会社 (ジョイント・ベンチャー・カンパニー) とは何でしょうか。『国際取引法』 pp.211-220; 『新国際取引ハンドブック』 pp.104-164
8	「海外への進出と事業形態・合併事業 (2)」のテーマで、具体例と契約を説明します。合併契約のポイントは何でしょうか。M&A はどのように実行すればよいのでしょうか。株式買収と資産買収方式ではどう違うのでしょうか。
9	国際取引に伴って発生する重要問題と解決策を取上げます。①国際的な製造物責任 (航空機、薬品、車等)、②Antitrust 法 (独占禁止法) を米国のケースと法で紹介。『国際取引法』 pp.168-176; 『国際取引・知的財産法の学び方』 IBL 94年11月-95年3月号
10	前週に続き、③国際的な環境問題、関連法・条約、関連ビジネス (Body Shop 事業)、④反ダンピング法、④国際税法 (Tax Haven, 移転価格、租税条約)、⑤WTO (世界貿易機関)、⑥国際倒産を学びます。あなたの意見も聞かせて下さい。
11	国際取引紛争とその解決方法を取上げます。具体的なケース (訴訟、仲裁)により、裁判管轄、適用法、救済 (損害賠償、差止命令等)をみます。米国の三倍額賠償、Jury、成功報酬制も学びます。『国際取引紛争と外国弁護士起用上の注意点』 IBL 93年11月号
12	まとめとレポートの説明、これまでの質問、意見にお答えします。「国際取引法」という学問はあなたと共に成長し続けます。あなたが国際的舞台で若い鷹のようにばたく翼 (力)となるよう祈ります。
備考	「国際取引」はあなたのすぐ身近です。①個人輸入 (海外通販)、②外資への応募 (Personal History, Japan Times 月曜版)、③海外での買物、旅行、レンタカー、ホテル予約、④N G O、⑤留学 (手続)、⑥インターネット…。『英語』『契約知識』さえ身につければ…。

科目名	刑法 I	担当者名	奈良俊夫
-----	------	------	------

講義の目標	<p>現代における「犯罪論の基本構造」を通説を中心に学習する。なお、法解釈の実践的指標である判例の検討も重視してゆきたい。</p> <p>時間の許す限り、法制史・法哲学の概観（刑事法との関連において）、および諸外国の理論と立法の動向の概況にも言及する予定である。</p>		
講義概要	<p>年間講義予定を参照。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・奈良俊夫『新版 概説刑法総論』芦書房</p>	
	参考文献	<p>・『ジュリスト別冊、刑法判例百選(1)総論』（三版）有斐閣</p>	
評価方法	<p>前期・後期の定期試験（前期を40点満点、後期を60点満点に換算し、合計60点を合格点とする）。</p> <p>答案（採点後のコピー）の返却に応ずる（指定期日に申し出た者に限る）。</p>		
受講者に対する要望など	<p>予習の励行を強く希望する。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	犯罪論の概観——近代刑法理論の発展過程を概観
2	わが国における学説と判例の動向、刑法典の概要、刑罰法の歴史の概観
3	行為論(1)——犯罪論における「行為」の意義（「犯罪は行為である」という命題の意味）
4	行為論(2)——不作為犯、因果関係
5	構成要件論(1)——犯罪論における「構成要件」の意義
6	構成要件論(2)——構成要件理論の分析と応用（通説的な犯罪論の骨格）
7	違法論(1)——犯罪論における「違法」の意義（実質的違法と形式的違法、可罰的違法）
8	違法論(2)——違法性阻却事由（正当行為、正当防衛）
9	違法論(3)——違法性阻却事由（緊急避難、被害者の承諾）
10	責任論(1)——犯罪論における「責任」の意義（現代における責任主義の内容）
11	責任論(2)——故意責任の分析（特に、未必の故意、錯誤）
12	責任論(3)——過失責任の分析（特に、業務上過失）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の講義内容の総括
2	未遂論(1)——犯罪論における「未遂」の意義（犯罪の発展段階）
3	未遂論(2)——予備・未遂・既遂の区別とその基準
4	共犯論(1)——犯罪論における「共犯」の意義（複数人が関与する犯罪形態の特性）
5	共犯論(2)——共同正犯（特に、共謀共同正犯）
6	共犯論(3)——狭義の共犯（教唆犯、従犯）、共犯の特殊問題(1)
7	共犯論(4)——共犯の特殊問題(2)（共犯と身分、共犯と錯誤）
8	罪数論(1)——犯罪論における「罪数」の意義（犯罪の数と処罰の関係）
9	罪数論(2)——一罪と数罪の区別、包括一罪、科刑上一罪、併合罪
10	刑罰論(1)——刑罰の歴史、現代の刑罰論
11	刑罰論(2)——死刑、自由刑、罰金刑、没収
12	後期の講義内容の総括
備考	

科目名	刑法 I	担当者名	林 弘正 (前期) 只木 誠 (後期)
-----	------	------	------------------------

講義の目標	この講義では、刑法総論、すなわち刑法典第一編総則に規定される犯罪全体に共通する項目のなかで、基本的かつ必須であるテーマにつき、その意義と問題点を学説上の争点、判例・立法例を交えつつ分かりやすく明らかにし、各自が体系的に刑法総論の輪郭をとらえることをねらいとする。	
講義概要	年間講義予定を参照。	
使用教材	テキスト	・奈良俊夫『新版 概説刑法総論』芦書房
	参考文献	・『ジュリスト別冊・刑法判例百選総論 (第三版)』有斐閣 ・利光三津夫・林弘正『法学—法制史家のみた』成文堂 ・『逐条判例刑法』法学書院 その他の参考書については、開講時に指示する。
評価方法	試験は前期と後期の試験期間中に筆記試験にて行う。六法 (判例付き不可) のみ参照可。なお、答案練習のレポートなどを課題とする。	
受講者に対する要望など	予習を十分にすることが不可欠です。とりわけ、大学生として専門科目を履修するには、主体的学習が要求されます。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	〈刑法の基礎1〉 刑法の意義・機能
2	〈刑法の基礎2〉 刑法理論史と新旧学派の争い
3	〈刑法の基礎3〉 罪刑法定主義の意義・派生原則、刑法の法源と解釈、適用範囲
4	〈行為論・構成要件論1〉 犯罪の意義と種類、行為、構成要件論、犯罪主体
5	〈行為論・構成要件論2〉 構成要件該当性、真正・不真正不作為犯
6	〈行為論・構成要件論3〉 因果関係論
7	〈違法論1〉 違法性の意義と本質、可罰的違法性
8	〈違法論2〉 正当行為（労働争議行為、被害者の承諾、安楽死）
9	〈違法論3〉 正当防衛（過剰防衛、誤想防衛）
10	〈違法論4〉 緊急避難（過剰避難、誤想避難）
11	〈責任論1〉 責任主義、責任の本質、責任能力、原因において自由な行為
12	調整日
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	〈責任論2〉 故意論、故意の意義と種類（概括的故意・未必の故意）——フルスピードで人混みの中を通過した場合の罪責。
2	〈責任論3〉 錯誤論（事実の錯誤と法律の錯誤）——生死を誤認した老人を遺棄した場合は、なぜ無罪か。
3	〈責任論4〉 過失論、過失の意義と種類（新過失論、新・過失論）——『ブラックジャック』が手術に失敗したら、という設例。
4	〈未遂論1〉 予備・未遂・既遂の区別、未遂の基準、予備罪の諸問題——「一步進行した段階」で犯罪を思いとどまれば不処罰か。
5	〈未遂論2〉 不能犯の意義と要件——砂糖で人を殺そうとした場合、あるいは、空ピストルで人を撃った場合の罪責。
6	〈未遂論3〉 中止犯の意義と要件——パトカー（救急車）のサイレンを救急車（パトカー）のそれと誤信して窃盗をやめた場合の罪責。
7	〈共犯論1〉 共犯の意義、間接正犯——医者が毒入り注射を看護婦に渡し、看護婦がこれに気づきながら注射した。いずれが正犯か。
8	〈共犯論2〉 共同正犯——強盗の共謀にもとづきAは実行、Bは見張り、Cは自宅で待機した。それぞれの罪責如何。
9	〈共犯論3〉 狭義の共犯——警察と打ち合わせの上AはBに殺人を教唆し、Bは実行の着手と同時に逮捕された場合、Aの罪責は。
10	〈共犯論4〉 共犯の諸問題（共犯と身分、共犯と錯誤）——夫である公務員と共謀の上賄賂を収授した妻は有罪か。
11	〈罪数論・刑罰論〉 犯罪の個数とその基準、一罪と数罪、刑罰の本質と種類——発の弾で二人を殺害した場合の犯罪の数は。
12	調整日
備考	

科目名	刑法Ⅱ	担当者名	奈良 俊夫（前期） 只木 誠（後期）
-----	-----	------	-----------------------

講義の目標	<p>刑法各則に規定されている諸犯罪の中から、代表的なものを選んで、各々の罪につき基本的な解釈論を学習する。刑法各論の解釈は、判例に指導される部分が多いので、裁判例の検討に時間をさきたい。</p> <p>なお、現代においては、新しい犯罪類型が次々と登場してくるので（コンピュータ犯罪など）、諸外国の立法の動向にも目を向ける必要がある。</p>	
講義概要	<p>全体を、(1)個人的法益に対する罪、社会的法益に対する罪、国家的法益に対する罪、に三分類し、各々の類型の特性に注目しながら、各類型の代表的犯罪について検討する。</p> <p>詳細は、年間講義予定を参照。</p>	
使用教材	テキスト	開講時に説明する。
	参考文献	・『ジュリスト別冊、刑法判例百選（Ⅱ）各論』（三版）有斐閣
評価方法	<p>前期・後期の定期試験（前期40点満点、後期60点満点に換算し、合計60点以上を合格とする）。</p> <p>答案（採点後のコピー）の返却に応ずる（指定期日に申し出た者に限る）。</p>	
受講者に対する要望など	予習の励行を強く希望する。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	刑法各則の概観、犯罪の法制史的・比較法的考察（序論）
2	生命・身体に対する罪(1)——殺人罪、傷害罪、人の「死」の意義
3	生命・身体に対する罪(2)——業務上過失致死傷罪ほか
4	自由に対する罪——脅迫罪、強制猥せつ罪、強姦罪
5	名誉に対する罪——名誉毀損罪、侮辱罪、表現の自由と個人の名誉
6	財産に対する罪(1)——財産罪の概観、財産罪の新しい類型（コンピューター利用詐欺罪など）
7	財産に対する罪(2)——窃盗罪、不動産侵奪罪
8	財産に対する罪(3)——強盗罪、強盗致死傷罪
9	財産に対する罪(4)——詐欺罪、恐喝罪
10	財産に対する罪(5)——横領罪、業務上横領罪
11	財産に対する罪(6)——背任罪、特別背任罪
12	前期講義内容の総括
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国家の作用に対する罪(1)——公務執行妨害罪
2	国家の作用に対する罪(2)——取権濫用罪、賄賂罪
3	公共の安全に対する罪——放火罪ほか
4	経済的秩序に対する罪——通貨・有価証券偽造罪
5	社会的信用に対する罪——文書偽造罪
6	道徳的秩序に対する罪——猥せつ物頒布罪ほか
7	公共の安全と犯罪——交通事故と刑事責任
8	経済的取引と犯罪
9	民事法と刑事法の交錯
10	比較法的にみた日本刑法
11	具体的事案解決の練習(1)——判例研究の方法(1)
12	具体的事案解決の練習(2)——判例研究の方法(2)
備考	後期講義内容の総括

科目名	刑法Ⅱ	担当者名	野村 稔
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>刑法総論で得た知見を基礎として、個別的な犯罪類型の分析を行い、社会における犯罪現象に対する刑法の適用能力を身につけることを目標にする。その際、単に法律的知識を記憶するのではなく、縦糸に体系的思考を、横糸に分析的思考をそれぞれ置き、法律思考ができること、さらに法治国家の市民として国家刑罰権の行使の在り方につき法の適正手続きの精神を理解したうえで常に自律的・批判的に考えることができることが重要であるとする。</p>		
講義概要	<p>本講義においては、学説・判例の動向に注目しながら、刑法各本条について、個人的法益に対する罪から社会的法益に対する罪および国家的法益に対する罪の順で解説を行う。特に刑法各論においては主要な判例の見解を知ることが大事であるので、随時判例百選刑法Ⅱ各論を参照する。なお、質問を歓迎するので、質問のある者は、質問の内容を簡潔に用紙に書いて講義の始まる前に教卓の上に置くこと。可能な限り当日の講義の際に答える。講義の時間以外の機会に相談・質問などのある者は、自宅（☎043-486-0271）に連絡すること。</p>		
使用教材	テキスト	<p>大谷実『刑法講義各論』第4版 成文堂刊を使用する。</p>	
	参考文献	<p>・『判例百選刑法Ⅱ各論』第3版 有斐閣</p>	
評価方法	<p>前期試験と学年末試験の成績により総合的に評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>刑法の勉強はとっつきやすいが、奥が極めて深い。出席は取らないが、ひたむきさ、真摯さのある学生諸君の聴講を望む。質問なども大いに歓迎する。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	開講の辞 刑法各論序説—刑法各論の意義、体系、方法 個人的法益に対する罪—総説
2	個人的法益に対する罪 各説(1)—殺人罪の概説；自殺関与罪の諸問題（実行の着手、錯誤の取り扱いなど）；傷害罪・暴行罪
3	個人的法益に対する罪 各説(2)—同時傷害罪；凶器準備集合罪（共同加害目的の実現、凶器の意義、結集罪）
4	個人的法益に対する罪 各説(3)—遺棄罪（ひき逃げの罪責を含む）；自由に対する罪 総説
5	個人的法益に対する罪 各説(4)—脅迫罪；強要罪；逮捕監禁罪；略取誘拐罪；強姦罪・強制猥褻罪
6	個人的法益に対する罪 各説(5)—名誉・信用に対する罪；真実性の証明に関する諸問題
7	個人的法益に対する罪 各説(6)—業務妨害罪；業務の意義（業務妨害罪、業務上過失致死傷罪、業務上失火罪）
8	個人的法益に対する罪 各説(7)財産罪総説(1)—財産罪の類型、客体（財物・財産上の利益）の意義
9	個人的法益に対する罪 各説(8)財産罪総説(2)—財産罪の保護法益；刑法上の占有の概念と機能
10	個人的法益に対する罪 各説(9)財産罪総説(3)—不法領得の意思の意義と機能 財産罪各説(1)—窃盗罪・不動産侵奪罪；親族相盗例
11	個人的法益に対する罪 各説(10)財産罪各説(1)—強盗罪の概説；強盗罪の類型；事後強盗罪
12	個人的法益に対する罪 各説(11)財産罪各説(2)—刑法240条、241条；詐欺罪・恐喝罪の概説
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	個人的法益に対する罪 各説(12)財産罪各説(3)—詐欺罪の成否（訴訟詐欺、キセル乗車）；クレジット・カードの法律関係
2	個人的法益に対する罪 各説(13)財産罪各説(4)—詐欺罪の成否（クレジット・カードの不正使用）；コンピュータ詐欺罪
3	個人的法益に対する罪 各説(14)財産罪各説(5)—横領罪・背任罪の概説、二重売買の刑事責任
4	個人的法益に対する罪 各説(15)財産罪各説(6)—二重抵当、不正貸付けの刑事責任；贓物罪
5	国家的法益に対する罪 総説；各説(1)—内乱罪・外患罪、内乱罪と騒乱罪との異同
6	国家的法益に対する罪 各説(2)—公務執行妨害罪概説；職務行為の適法性（要件、判断基準・時点、錯誤）
7	国家的法益に対する罪 各説(3)—逃走罪；犯人蔵匿罪・証拠隠滅罪・親族間の特例
8	国家的法益に対する罪 各説(4)—偽証罪；賄賂罪
9	社会的法益に対する罪 総説；各説(1)—放火罪
10	社会的法益に対する罪 各説(2)—偽造罪の概説；文書偽造罪（犯罪類型、文書の意義；コピー文書の偽造）、偽造の概念(1)
11	社会的法益に対する罪 各説(3)—偽造罪の概念(2)；電磁的記録物の偽造；通貨偽造罪
12	社会的法益に対する罪 各説(4)—有価証券偽造罪；印章偽造罪、閉講の辞
備考	講義の進度などにより、講義のテーマが若干前後する場合がある。

科目名	刑事政策	担当者名	大芝靖郎
-----	------	------	------

講義の目標	<p>刑事政策は、その対象領域が広大であり、政策理念も多様であり得るため、定型的な体系化は極めて困難である。本講においては、その基本的、標準的な論点を取りあげ、刑事政策についての一般的理解を得ることを意図する。</p> <p>すなわち、犯罪原因及び犯罪現象の解明に関する諸研究を概観し、犯罪の予防統制及び犯罪者の処遇について、主要な理論及び施策を考察する。その歴史的な発展変遷及び国際的な動向を検討し、我が国における状況と問題点を明らかにしたい。</p>
講義概要	<p>はじめに、刑事政策の意義と研究対象を確認する。次いで、犯罪及び犯罪者に関する観念の変遷と、これに伴う刑事政策思想の発展を概観し、犯罪原因及び犯罪現象に関する主要な理論を検討し、我が国における重要な犯罪の動向について考察する。更に、犯罪の予防統制及び犯罪者の処遇に関する諸施策、すなわち、各種の刑罰、保安処分、犯罪者の社会復帰を図る措置について、理論的かつ実証的な検討を行い、特に、刑事政策上最終的な課題とされる行刑処遇の在り方を展望する。</p> <p>時間の制約があるため、重要な論点については詳述するが、簡略な論述にとどめる部分もあるから、参考文献によって、自ら補習するよう努められたい。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <p>講義内容に適合するものがないので、特に指定しない。次に掲げる参考書（いずれも、すぐれた著述である）の一つを熟読されたい。</p> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤本哲也『刑事政策概論』青林書院 ・加藤久雄『刑事政策学入門』立花書房 ・大谷 実『刑事政策講義』弘文堂 ・森下 忠『刑事政策大綱』成分堂 ・柳本政春『刑事政策読本』成文堂 <p>なお、講義中、必要な文献を指示する。</p>
評価方法	<p>後期に、一括して筆記試験を行う。</p> <p>なお、適時数回、出席状況を確認し、成績評価の参考とする。</p>
受講者に対する要望など	<p>講義の前に、参考書等によって、あらかじめ、関係事項につき一応の理解を得ておくことを望む。</p>

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	刑事政策の概念 刑事政策の対象（犯罪、犯罪者、犯罪の予防制圧、犯罪者の処遇）隣接領域との関係（刑事法学、犯罪学、被害者学、行刑学）刑事政策の国際性（国際会議、犯罪対策の国際的協力）
2	古代及び中世における刑事思想（タブー、宗教規範、鬼神論）近代啓蒙主義における刑事思想（功利主義的犯罪観、刑法古典学派） 実証主義における刑事思想（自然科学の勃興と社会変動、イタリア学派）
3	社会防衛論の展開（刑法近代学派—目的刑論、犯罪者処遇思想の進展） 社会防衛観念の強調（ナチス・ドイツ、ソヴィエト連邦） 新社会防衛論 我が国における刑事思想の発展
4	犯罪原因の研究(1) 個体的原因論（体質生物学的研究、遺伝学的研究—犯罪家族の研究、双生児の研究、性染色体異常説、精神医学的・心理学的研究—精神病、精神薄弱、精神病質、精神分析）
5	犯罪原因の研究(2) 社会的原因論（文化伝播理論、分化的接触理論、分化的同一化理論、文化葛藤理論、アノミー論、非行副次文化理論、分化的機会構造論、非行中和理論、非行漂流理論）
6	犯罪原因の研究(3) 統合的原因論（事例研究法、犯罪生物学） 同(4) 新しい犯罪学思想（ラベリング理論、ニュー・クリミノロジー）
7	犯罪現象の考察(1) 社会現象としての犯罪 犯罪統計と暗数 暗数調査 同(2) 犯罪現象に関する諸条件（生物的基礎条件、自然的条件、社会的条件）
8	犯罪現象の考察(3) 我が国における犯罪現象の推移（第二次世界大戦まで、第二次大戦後の推移と動向）
9	犯罪現象の考察(4) 我が国における重要な犯罪現象（交通犯罪、薬物犯罪、暴力団犯罪）
10	刑罰(1) 刑罰の特質と機能（非難の具体化—法益の剝奪、応報、威嚇ないし抑制、排害ないし無害化、社会復帰）
11	刑罰(2) 死刑（死刑の歴史的推移、死刑廃止論と存置論、死刑の執行方法、死刑存廃に関する国際的状況、死刑に代わる刑罰、死刑の執行延期）
12	刑罰(3) 自由刑（自由刑の歴史的展開、刑事政策的機能、自由刑の単一化、短期自由刑の問題、不定期刑）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	刑罰(4) 財産刑（特質と機能、日数罰金制、不完納に対する措置）
2	保安処分(1) 保安処分の意義と特質（行為者の将来的危険性に対する特別予防、規範的評価と無関係、不特定性）
3	保安処分(2) 保安処分の種類（社会的隔離を図る処分、行動制限を図る処分、自由剝奪による改善処分、行動制限及び指導による改善処分）
4	保安処分(3) 刑罰との関係（二元主義の問題点—併科主義、代替主義、レッテル詐欺、執行の同質性） 刑罰と保安処分の一元化
5	犯罪者処遇の概念 処遇理念の発展と動揺（改善主義の普及、改善主義の徹底と破綻） 処遇理念の均衡・調和
6	犯罪者処遇の基本原理（人道的処遇、法的公正処遇、合理的・科学的処遇—処遇の個別化） 犯罪者処遇の動向（非犯罪化、非刑罰化、非施設化、Diversion、処遇の社会化・開放化）
7	処遇の選択実施(1) 捜査（検挙、微罪処分） 起訴猶予 裁判（量刑） 刑の執行猶予及び宣告猶予
8	処遇の選択実施(2) 仮釈放 保護観察（残刑期間主義、考試期間主義）
9	行刑処遇(1) 行刑の意義及び目的 行刑の法律化（法律による行政の原理、行刑法律関係、自由刑の純化、営造物利用—特別権力関係の理論、ハンズ・オフの原則） 行刑法律化の進展 行刑法律化の構造
10	行刑処遇(2) 我が国における行刑の展開（近代的行刑の萌芽、行刑法の生成—監獄則、監獄法） 現行監獄法の性格（施設管理法、形式的法律化） 監獄法体系の変貌と混乱
11	行刑処遇(3) 監獄法の改正と新行刑法（監獄法改正作業、刑事施設法案の特色—処遇法、実質的法律化） 受刑者処遇の基本構造（資質及び環境の調査、個別的処遇計画、処遇集団の編成、処遇の展開—自主性の促進）
12	少年に対する処遇（処分の種類、Diversion の否定、家庭裁判所の職権主義、少年に対する刑事処分の問題点）
備考	

科目名	労働法	担当者名	土田道夫
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>具体的事例や資料を駆使し、外国法との比較も交えながら、変革期にある労働法の全体像を解明する。</p>		
講義概要	<p>労働法は、人が働く上で発生する様々な問題の法的解決を図ることを目的とする法領域である。近年、残業による長時間労働、単身赴任や出向、過労死、雇用における男女差別、リストラに伴う労働条件の不利益変更や解雇、高齢化社会へ向けての定年延長、HIV感染者の差別、外国人労働者問題等々、雇用労働をめぐる様々な問題が生じている。それらは日本の社会の現状や今後のあり方に直結しており、法的にも速やかな解決を要請するものが多い。現状を直視し、今後のあり方を探りながら、こうした問題を法的に解決するシステムとしての労働法について講義する。テキストは大変わかりやすいもので、これをベースに進めるが、そのつど具体的判例や資料を配布して一歩進んだ内容にしたい。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・中窪裕也＝野田進＝和田肇『労働法の世界』有斐閣 	
	参考文献	<p>開講時に紹介するが、特に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菅野和夫『労働法（第4版）』弘文堂 ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第6版）』有斐閣 ・別冊ジュリスト『労働法の争点（新版）』有斐閣 ・下井隆史＝山口浩一郎『ワークブック労働法』有斐閣 	
評価方法	<p>前期・後期ともに試験を行う（六法参照可）。</p>		
受講者に対する要望など	<p>知的好奇心にあふれた学生諸君の受講を期待する。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	労働法の概要：採用から退職まで、ライフ・ステージで生ずる労働法上の問題について概観する。また憲法27条、28条、労働基準法、労働組合法、男女雇用機会均等法などの主要法令を解説する。
2	日本の雇用制度、企業社会と法：「働きすぎ社会」といわれる日本—外国と比較しながら、なぜそうなるのかを法と社会の交錯の中で探る。
3	労働条件決定の法的システムの概要：労働条件は具体的にどのように決定されるのか—賃金・労働時間を例に、法的側面からアプローチする。
4	労働契約の締結（1）：「就職氷河期」といわれる今日、採用をめぐる法的問題を、「採用の自由とその制限」を中心に考える。
5	労働契約の締結（2）：採用内定・試用期間を中心に、労働契約の締結過程で生ずる法律問題を検討する。
6	賃金（1）：労働条件の中でも特に重要な賃金—賃金額の決定・支払方法に関する法規制を概観する。
7	賃金（2）：賞与（ボーナス）・退職金をめぐるトラブルは多い。具体的事例を通して法律問題の解決方法を探る。
8	労働時間と休日（1）：1987年以降、労働時間法制は大きく変身した。改正労基法の解説や外国法の紹介を通して、「時短」の現状と課題を探る。
9	労働時間と休日（2）：長時間労働の代名詞である時間外・休日労働（残業）。その法規制のあり方を探るとともに、フレックスタイム制にも言及する。
10	年次有給休暇：年休は「コマ切れ」よりも長期休暇の方がよい。法がそのためにどのように機能しているかを検討する。
11	男女の雇用平等（1）：まだまだ多い「男女の雇用差別」。雇用機会均等法を中心に、雇用平等の現状と課題、「平等」と「保護」のあり方について考える。
12	男女の雇用平等（2）：引きつづき雇用平等法の課題を探るとともに、セクシャル・ハラスメントや育児・介護休業法について考える。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	配転：サラリーマンに転勤はつきもの。でも全く自分に合わない職種だったり単身赴任ならどうする？ 配転について法的側面から考える。
2	出向：終身雇用はもう古い？ 日常化し始めた出向・転籍の実情と法規制について検討する。
3	就業規則と労働条件（1）：就業規則は使用者が一方的に作成するが、職場の労働条件を定める役割をほとんど一手に担っている。その法的性質は何か。なぜ労使を拘束するのかをわかりやすく説明する。
4	就業規則と労働条件（2）：リストラや定年延長などで、就業規則の改正により労働条件を引き下げるケースが増えてきた（賃金基準の切下げなど）。このような不利益変更は許されるのか—これがここでの課題である。
5	労働協約と労働条件：今一つ影の薄い労働協約。でもその効力はとてつもなく強い（労組法16条）。労働組合はどこまで労働条件を規制できるのか—ここでも不利益変更問題を中心に考える。
6	労働災害（1）：過労死問題と法—労災保険法の解釈を中心に、過労死を生み出す社会のあり方にも目を向ける。
7	労働災害（2）：過労死問題と法—同 上。
8	労働契約の終了（1）：リストラの中で増えてきた解雇、整理解雇、変更解約告知（労働条件変更のための解雇）等の法規制について概説する。
9	労働契約の終了（2）：「超」高齢社会に向けて生じてきた定年延長・年金支給の問題、雇用の流動化に伴う引き抜き、競争禁止義務などについて概説する。
10	労働組合法の概要（1）：労働組合、団体交渉、不当労働行為制度の仕組みを概説する。
11	労働組合法の概要（2）：同 上
12	外国人労働者問題：いわゆる不法就労者について、現状と今後のあり方を考える。
備考	

科目名	経済法	担当者名	山部俊文
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>経済法の中心に位置付けられる独占禁止法の理論・解釈・実務の現状を把握するとともに、その問題点・課題を明らかにする。</p>		
講義概要	<p>はじめに経済法総論に属する問題（経済法概念など）を概観した後、独占禁止法の解釈論を講義する。適宜、諸外国（米国・ドイツ・EU）の法制にも言及することとしたい。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<p>テキストに準じるものとして、久保欣哉『独占禁止法通論』三嶺書房を用いる。また、『独占禁止法審決判例百選』有斐閣を副読本として用いる。他の文献については、最初の講義のときに文献表を配布して解説する。</p>	
評価方法	<p>試験の成績によって評価する。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義内容・予定の説明、文献・資料の解説、経済法（学）の概念、経済法（学）・独占禁止法（学）についての若干のコメント等
2	独占禁止法1条（目的規定）の解釈 独占禁止法の手続（1）：行政法上の措置・司法審査
3	独占禁止法の手続（2）：民事的規律（損害賠償・法律行為の有効性）、刑事的規律
4	わが国の競争政策・独占禁止法の展開（第2次大戦前の状況・独占禁止法の制定・独占禁止法の改正・現状）
5	独占禁止法の基本概念（1）：事業者・事業者団体・役員
6	独占禁止法の基本概念（2）：競争・一定の取引分野・競争の実質的制限
7	私的独占の規制（1）：私的独占の行為類型
8	私的独占の規制（2）：対市場効果、排除措置
9	独占的状态の規制
10	企業結合規制（1）：一般集中規制（持株会社の規制等）
11	企業結合規制（2）：企業集団と独占禁止法、市場集中規制（株式保有規制）
12	企業結合規制（3）：市場集中規制（合併規制等）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	不当な取引制限の規制（1）：不当な取引制限（カルテル）の行為類型
2	不当な取引制限の規制（2）：対市場効果、行政指導と不当な取引制限、公共の利益
3	事業者団体規制
4	排除措置・課徴金、同調的価格引上の報告制度
5	不公正な取引方法の規制（1）：総論、共同の取引拒絶
6	不公正な取引方法の規制（2）：その他の取引拒絶、差別対価、差別的取扱
7	不公正な取引方法の規制（3）：不当廉売・ダンピング、不当誘引
8	不公正な取引方法の規制（4）：抱き合わせ販売、取引強制
9	不公正な取引方法の規制（5）：排他条件付取引、再販売価格拘束
10	不公正な取引方法の規制（6）：拘束条件付取引
11	不公正な取引方法の規制（7）：優越的地位の濫用、不当な取引妨害
12	国際的取引の規制（独占禁止法の域外適用、独占禁止法6条の規制）
備考	

科目名	消費者法 (94年度以降)	担当者名	後藤 卷 則
-----	---------------	------	--------

講義の目標	消費者として安全で、豊かなくらしを実現するためにはどうすべきか。これを見究める目を養うことを目標として、消費者法の仕組みや判例法理に関する理解を深める。		
講義概要	消費者法が扱う問題は広い領域にわたるが、本講義では、消費者取引の適正化および消費者被害の救済を中心として、これに関する法令や判例について講義する。		
使用教材	テキスト	未定。追って指示する。	
	参考文献	・『消費者取引判例百選』有斐閣	
評価方法	定期試験および年数回課すレポートによる。		
受講者に対する要望など	担当者がこの講義を担当するのは本年度が初めてなので、積極的に出席し、疑問点などを指摘してほしい。一緒に講義をつくってくれるような意欲的な学生を希望する。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	消費者問題と消費者、消費者の権利と消費者法
2	消費者取引と法(1)―消費者と事業者の法的地位、消費者契約と契約自由
3	消費者取引と法(2)―消費者の立場、事業者の立場
4	消費者取引と法(3)―消費者契約の締結、消費者契約の拘束力、消費者契約の義務の履行
5	消費者取引の適正化と法(1)―店舗以外の場所での取引
6	" (2)―消費者信用取引
7	" (3)―身近な取引に関するもの
8	" (4)―利殖取引
9	" (5)―消費者取引の適正化のための課題、約款論
10	競争秩序の確保―独占禁止法と消費者の権利
11	消費者判例解説(1)
12	消費者判例解説(2)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	商品・サービスの安全規制・表示規制(1)―商品・サービスの安全規制
2	商品・サービスの安全規制・表示規制(2)―表示規制
3	投資的取引被害と事業者の責任(1)―商品先物取引など
4	投資的取引被害と事業者の責任(2)―原野商法、金融商品被害など
5	商品欠陥による損害と事業者の責任(1)―事業者の法的責任の根拠
6	商品欠陥による損害と事業者の責任(2)―製造物責任
7	紛争処理のための手続き(1)―紛争解決機関、裁判所による解決
8	紛争処理のための手続き(2)―自己破産手続など
9	消費者判例解説(3)
10	消費者判例解説(4)
11	消費者法のまとめと課題
12	予備日
備考	

科目名	知的財産権法（94年度以降） 工業所有権法（93年度以前）	担当者名	角田政芳
-----	----------------------------------	------	------

講義の目標	<p>知的財産権法の保護対象は、人類の知的創作である。マルチメディアやインターネットなどの複製・通信技術の著しい発展によって実現した高度情報化社会における情報のほとんどはこの知的財産であり、知的財産はあらゆる局面で身近なものとなっており、しかも国際的な保護が必要である。</p> <p>この講義では、科学技術の発展と国際的な保護の約束に対応した知的財産権法の全体像を明かにする。</p>
講義概要	<p>知的財産権ないし知的所有権は、コンピュータ・ソフトウェアやミュージックや文学作品・芸術作品などの著作物や発明、考案、デザイン、トレードシークレットなどの知的な創作と産業上のマークに関する排他的独占権である。マルチメディアなどの複製技術やインターネットなどの通信技術の著しい発展は、従来の知的財産権の概念では捉えきれないような問題も生ぜしめている。また、バイオテクノロジーの発展は、いわゆる生命体の複製の問題までこの法領域の課題とするに至っている。知的財産権の侵害は、無断複製や無断利用であり、これらは国の内外を問わず行われうる。国際的な取り決めに対応した知的財産権の全体系につきなるべく具体例を挙げて説明し、さらに主要各国の法制との比較をも行う。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紋谷暢男著『無体財産権法概論〔第5版〕』有斐閣 <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・角田政芳編『知的財産権小六法』（1996年版）成文堂 ・別冊ジュリスト『著作権判例百選（第2版）』有斐閣 ・別冊ジュリスト『特許判例百選（第2版）』有斐閣
評価方法	<p>前期・後期試験を行う（法令集参照可）。</p>
受講者に対する要望など	<p>知的財産権の客体は文芸・美術・音楽や技術・デザイン・ブランドなどであり、知的財産権法は技術の発展に対応して発展してきた。そのような客体や技術の発展自体にも関心を持っていただきたい。</p>

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	知的財産権法の意義：知的財産の概念、種類および保護の必要性、高度情報化および国際化時代における問題点。
2	知的財産権法の沿革：複製（印刷）技術の発明による著作権制度の発生、ベネチア特許制度、精神的所有権論、商標保護法制の発展、使用主義と登録主義、国際的保護の法制度の確立など。
3	知的財産権の国際的保護および主要国・地域の法制度：TRIPs協定、ベルヌ条約、万国著作権条約、パリ条約、PCTなどの各条約概説。アメリカ、イギリス、ドイツ、EC法 NAFTA など。
4	知的財産権の種類：現行法における権利の種類と保護法および条約。新しい知的財産保護の必要性。
5	知的財産権の客体：著作物、発明、考案、インダストリアルデザイン（意匠）、トレードシクレット、トレードマークおよびサービスマーク（商標）などの概念。
6	知的財産権の法的性格：私権であり、無体財産権であること（とくに、有体物に対する所有権との相違）、公共的制約（存続期間法定、権利不発生、私的複製、バックアップ、バージョンアップなど）。
7	知的財産権の発生に関する原則：方式主義と無方式主義、権利主義、審査主義、発明者主義、先願主義、登録主義と使用主義など。
8	知的財産権発生の主体的要件：権利能力、手続能力、権利者適格（とくに特許を受ける権利、共同創作、法人著作、職務発明など）。
9	知的財産権発生の客体的要件(1)：著作者人格権・著作権、特許権、実用新案権の積極的要件（特許要件・実用新案登録要件）と消極的要件（不特許・不登録事由）。
10	知的財産権発生の客体的要件(2)：商標権の積極的要件（登録要件）と消極的要件（不登録事由）。
11	知的財産権発生の手続的要件(1)：狭義の工業所有権取得のための手続原則、出願手続。
12	知的財産権発生の手続的要件(2)：狭義の工業所有権取得のための審査手続、審判手続、審決取消訴訟。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	知的財産権の積極的効力(1)：著作者人格権（公表権・氏名表示権・同一性保持権）著作権（複製権、上演・演奏権、放送権・有線送信権、口述権、展示権、上映権・頒布権、貸与権、二次的著作物作成権・利用権）および著作隣接権の効力。
2	知的財産権の積極的効力(2)：特許権、実用新案権、意匠権、商標権、集積回路配置利用権の効力など。
3	知的財産権の効力の制限(1)：著作権の効力の制限（強制利用許諾、権利の用尽、私的複製、図書館における複製、引用、バージョンアップ、バックアップ、リパースエンジニアリングなど）。他人との関係における制限。
4	知的財産権の効力の制限(2)：特許権・実用新案権・意匠権・商標権の効力の制限（強制利用許諾、権利の用尽、リパースエンジニアリングなど）。他人との関係における制限。
5	知的財産権の移転とライセンス：自由移転の制限、専用利用権と通常利用権、担保権設定
6	知的財産権の侵害(1)：著作権の直接侵害（とくに、複製権、演奏権、族送権・有線送信権、上映権・頒布権、貸与権、翻案権の範囲）および間接侵害。
7	知的財産権の侵害(2)：特許権の直接侵害（とくに、特許権の範囲、均等論・不完全利用論など）および間接侵害。
8	知的財産権の侵害(3)：意匠権および商標権の直接侵害（とくに、意匠権の範囲、商標権の範囲）および間接侵害。
9	知的財産権の侵害(4)：新品種保護権・集積回路利用権の直接侵害および間接侵害、不正競争防止法における不正競争行為。
10	知的財産権の防衛的制度：秘密意匠、類似意匠、連合商標、防護標章の各制度。
11	知的財産権の侵害に対する救済と制裁：民事的救済（差止請求、損害賠償請求、不当利得返還請求、準事務管理）。刑事上の制裁（著作権侵害罪（私的複製のための複製機器の提供、外国犯処罰を含む）、特許権侵害罪、商標権侵害罪など）。
12	知的財産権の消滅事由：とくに著作権の存続期間（死亡起算の原則）と商標権存続期間の更新。
備考	

科目名	刑事訴訟法	担当者名	松本一郎
-----	-------	------	------

講義の目標	刑事司法制度と刑事裁判手続きの概要を解説し、あわせて現代における問題点を探る。		
講義概要	一応テキストに沿って講義を進めるが、重要な事項については判例を紹介しながら詳しく説明する。必要に応じて、レジュメを配布する予定である。なお、始終条文を引用するから、必ず六法全書を持参すること。		
使用教材	テキスト	・三井誠・坂巻匡『入門刑事手続法』 1995年、有斐閣	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・田宮裕『刑事訴訟法』 1992年、有斐閣 ・松本一郎『事例式演習教室・刑事訴訟法』 1987年、勁草書房 ・別冊ジュリスト『刑事訴訟法判例百選』第六版 有斐閣 	
評価方法	前後期定期試験の成績を合計して評価する。テストの際は、六法全書（ただし、判例付きでないものに限る）の持ち込みを許す。		
受講者に対する要望など	私語と途中退席は許さない。出席はとらないから、私語しないと生存できない異常体質者と、90分間同じ場所に滞留できない異常性格者は、心おきなく欠席されたい。		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	刑事裁判手続きの概要・刑事訴訟の基本理念・学習の方法
2	捜査(1)…… 1章 I (以下、テキストの章・項を示す)
3	捜査(2)…… 1章 II・III
4	捜査(3)…… 1章 IV
5	捜査(4)…… 1章 V
6	捜査(5)…… 1章 VI
7	公訴(1)…… 2章 I
8	公訴(2)…… 2章 II
9	公判手続き(1)…… 3章 I・II
10	公判手続き(2)…… 3章 II (続き)
11	予備
12	予備
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	前期講義の復習・前期テスト結果の講評・本人に成績開示
2	証拠法(1)…… 4章 I
3	証拠法(2)…… 4章 II
4	証拠法(3)…… 4章 III
5	証拠法(4)…… 4章 IV
6	公判の裁判(1)…… 5章 I・II
7	公判の裁判(2)…… 5章 II (続き)・III
8	上訴(1)…… 6章 I
9	上訴(2)…… 6章 II・III・IV・V
10	非常救済手続き…… 7章 I・II
11	少年法概説
12	予備
備考	

科目名	民事訴訟法 (94年度以降) 民事訴訟法 I (93年度以前)	担当者名	森 勇
-----	------------------------------------	------	-----

講義の目標	判決手続きの基本的論点の包括的理解		
講義概要	民事訴訟は、実体法の実現に奉仕する制度であり、民事訴訟法はこれを規律する法です。本講義では、判決手続の基本原則を解説します。民事訴訟のダイナミックを理解していただけるようにしたいと考えています。		
使用教材	テキスト	・中野貞一郎・松浦馨・鈴木正裕編『民事訴訟法講義』(3版) 有斐閣大学双書 (必ず本書購入の必要はない)	
	参考文献	上記は司試をめざす諸君を念頭においたものである。各自その他のものを選択することもかまわない。その他の教科書・参考図書については、第一回目にリストを配布する。なお、以下のものの内いずれか一冊は、ゴールデン・ウィーク明けまでに最低三回は通読すること。 ・小島武司『プレップシリー 民事訴訟法』弘文堂 ・兼子一・竹下守夫『訴訟のはなし』有信堂 ・林屋礼二・吉村徳重『民事訴訟法』有斐閣新書	
評価方法	問題を多数出題し、簡略であれ、すべてに正答した者のみを合格とする。 要は体系的な理解ができているかである。		
受講者に対する要望など	民事訴訟法は、予習をしないとうまく理解できない。この用意のない者が受講することは、意味がない。なお、途中で数回小テストを実施する(評価の対象とはならない)。また、Ⅱ類の人は刑訴法も受講することがすすめられる。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	民事訴訟とその目的
2	訴えの提起
3	手続のながれ
4	裁判所
5	訴訟の当事者そのⅠ
6	訴訟の当事者そのⅡ
7	訴訟上の代理
8	訴えの利益そのⅠ
9	訴えの利益そのⅡ
10	主体についての正当な利益
11	訴え提起の効果
12	訴訟の審理そのⅠ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	訴訟の審理そのⅡ
2	口頭弁論そのⅠ
3	口頭弁論そのⅡ
4	口頭弁論そのⅢ
5	口頭弁論に当事者が欠席したらどうなるのか
6	証拠そのⅠ
7	証拠そのⅡ
8	証拠そのⅢ——自由心証主義
9	証拠そのⅣ——証明責任
10	当事者の行為による訴訟の終了
11	終局判決による終了
12	まとめ民事法特講への招待
備考	

科目名	倒産法(94年度以降) 破産法(93年度以前)	担当者名	櫻井孝一
-----	----------------------------	------	------

講義の目標	破産法を中心として、その他の倒産処理手続(会社更生、和議、会社整理、会社の特別清算など)の仕組みを把握してもらうとともに、それと同時に、民法などの実体法の理解および民事訴訟法・民事執行法などの手続法の理解をより深めてもらうことである。		
講義概要	わが国の現行破産法を中心として講述し、現在の倒産(破産)制度を支える法理を十分に把握してもらうとともに、それを基礎としてその他の倒産処理手続(会社更生、和議、会社整理、会社の特別清算など)にふれてゆきたいと考えている。加えて、破産法を中心とする、倒産処理の手続では、債務者の経済的破綻における法律関係の処理として、民法・商法などの実体的法律関係が大幅に修正され、それに裁判上の手続的処理がからみ合う。その点で、破産法ないしは倒産法の学習を通じて、諸君が今までに学んできた、民法・商法などの実体性の知識をより深めるとともに、民事訴訟法などの手続法理の理解にも役立つよう、できるだけ立体的にその諸問題につき論議してゆきたいと考えている。		
使用教材	テキスト	講義の最初に指示する。	
	参考文献	『新倒産判例百選』(ジュリスト別冊No.106)を授業中多く参照するので、できるだけ用意されたい。その他の文献については、その都度指示する。	
評価方法	現在のところでは、学年末(後期)において、講義全体に関して筆記試験を行うこととしているが、さらに講義の進行状況からみて、適時に小テストなどを行うことも考えている。		
受講者に対する要望など	以下の授業計画は一応の予定にすぎず、破産法を軸として、倒産法全体の有機的理解を諸君に十全ならしめるため、前後相関連して問題を取り上げて行くことになるので、その点を十分に承知して受講されたい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	倒産手続序説 ——倒産（破産）制度の目的——倒産手続の概要・特徴——とくに、破産手続を中心として、諸手続との比較
2	倒産開始の要件(1) ——実体的要件——とくに、破産原因・破産能力などを中心として
3	倒産開始の要件(2) ——とくに、破産の申立とそれをめぐる諸問題を中心として
4	倒産手続の開始（破産宣告）とその効果 ——とくに、会社の破産を中心として
5	倒産手続開始前の保全処分 ——とくに、破産宣告前の財産保全とその方法を中心として
6	倒産財団(1) ——とくに、破産財団の意義と範囲——自由財産の処理を中心として
7	倒産財団(2) ——その管理・換価と破産管財人（更生管財人）を中心として
8	倒産財団の維持(1) ——とくに、破産者の宣告後の処分行為などを中心として
9	倒産財団の維持(2) ——倒産手続開始前、とくに、宣告前の契約関係とその処理を中心として（その1）——契約の処理一般——賃貸借契約の処理
10	倒産財団の維持(3) ——倒産手続開始前、とくに、宣告前の契約関係とその処理を中心として（その2）——請負契約関係その他の契約関係の処理
11	倒産財団の維持(4) ——係属中の訴訟関係の処理
12	倒産財団の維持(5) ——係属中の執行関係などの処理
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	倒産財団に対する権利の行使(1) ——とくに、破産債権（更生債権）を中心として（その1）——その意義と要件および順位など
2	倒産財団に対する権利の行使(2) ——とくに、破産債権（更生債権）を中心として（その2）——破産債権者の個別的地位と共同的地位など
3	倒産財団に対する権利の行使(3) ——とくに、取戻権を中心として
4	倒産財団に対する権利の行使(4) ——とくに、別除権（更生担保権）を中心として
5	倒産財団に対する権利の行使(5) ——相殺権
6	倒産財団に対する権利の行使(6) ——財団債権（共益債権）
7	倒産財団の増殖——否認権(1) ——否認権の意義とその基本体系——その一般的要件
8	倒産財団の増殖——否認権(2) ——個別問題の分析
9	倒産財団の増殖——否認権(3) ——その行使と効果
10	倒産手続の終了(1) ——手続の終了一般——とくに、破産廃止を中心として
11	倒産手続の終了(2) ——免責と復権——とくに、免責に関する諸問題を中心として
12	倒産と渉外関係 ——相互主義と属地主義
備考	

科目名	国際法Ⅰ	担当者名	松田幹夫
-----	------	------	------

講義の目標	国際法の基礎理論の修得		
講義概要	テキスト前半が講義範囲。目次を読めば、講義概要は自然に分かる。しかし、テキストべったりの授業は、しない。適宜、国際ニュースに言及しながら、講義を進めて行く。		
使用教材	テキスト	・小田・石本・寺沢編『新版現代国際法』有斐閣	
	参考文献	テキストの章末に掲載されている。	
評価方法	主として前期および後期試験（論述式各2問）で評価を下す。		
受講者に対する要望など	教室内の秩序維持については獨協—ンピアである。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	獨逸学協会学校初代校長・西周と国際法の関係などから国際法の世界にアクセス
2	ベンタム——ユス・ゲンティウムとユス・インテルゲンテス——箕作麟祥による造語「国際法」——ケルゼンのいう原始法
3	国際組織および個人の国際法主体性——古代国際法——ヨーロッパ国家系の成立——無差別戦争観——AAグループ——ユス・コーゲンス
4	国家の分類——国家の構成要素——永世中立国——イギリス帝国からコモンウェルスへ——ソ連邦から CIS へ
5	国家承認——創設的效果説対宣言的效果説——尚早の承認——集合的承認——事実上の承認——承認は一方的行為
6	政府の非合法的変更——一般的事実上の政府——トバール主義とウイルソン政策——交戦団体承認——国家承継
7	前期前半知識の整理
8	国家の基本権——ジャン・ボダンの主権概念——対内主権と対外主権——独立権——安保理における主権制限——国内問題不干涉
9	国家平等概念の整理——国際組織における大国の優越性——正戦論——自己保存権——オラン港事件——国連憲章51条の重要性
10	名誉権——交通権——トリーベル——ウィーン学派——フェアドロス——ケルゼン——イェリネック——自動執行条約
11	国家責任の成立——「国家」の行為とは——過失とは——無過失責任の導入
12	前期後半知識の整理
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国家責任の解除——民事責任と刑事責任——個人責任
2	条約と慣習国際法——条約法条約のポイント
3	慣習国際法のポイント——国際組織の立法事業——国際法委員会の役割
4	領域の構成——内水——領海——領土取得の権原
5	日本の領土問題——とくに北方領土
6	後期前半知識の整理
7	委任統治——信託統治——非自治地域——租借地——南極条約のポイント
8	国際河川——スエズ・パナマ・キール
9	海洋法（前半）
10	海洋法（後半）
11	領空の高さは？——シカゴ条約——東京条約——宇宙条約
12	後期後半知識の整理
備考	

科目名	国際法Ⅱ	担当者名	鈴木 淳一
-----	------	------	-------

講義の目標	国際法Ⅰを継承しつつ国際問題に対する法的思考力を養成する。		
講義概要	テキストの後半部分が講義内容である。前期には①国際経済活動と国際法（第9章）、②国際行政法（第8章）、後期では①国際社会の組織化（第7章）、②紛争の平和的処理（第10章）、③国際安全保障（第11章）を検討する。		
使用教材	テキスト	・小田・石本・寺沢編『新版現代国際法』有斐閣	
	参考文献	・山本草二編集代表『国際条約集 一九九六年版』有斐閣 ・田畑・高林・山手・太寿堂・香西・竹本・小川編『基本条約・資料集〔第三版〕』東信堂	
評価方法	主として前期及び後期の試験により評価する。		
受講者に対する要望など	講義ではテキストの内容を補足するので、事前に該当部分を予習しておくことが望まれる。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション (国際経済秩序の法構造) (第9章1節)
2	経済自由化原則の発展と国際法——ガット概説 (第9章2節)
3	経済開発と国際法(1) (第9章3節)
4	経済開発と国際法(2)
5	前期前半知識の整理
6	国家契約と国際法(1) (第9章4節)
7	国家契約と国際法(2)
8	環境保護と国際法(1) (第9章5節)
9	環境保護と国際法(2)
10	国際行政法(1) (第8章1節)
11	国際行政法(2) (第8章2節)
12	前期まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション
2	国際組織の成立と発展 (第7章1節)
3	国際連合 (第7章2節)
4	国際組織の地域化と専門化 (第7章3節)
5	紛争の平和的処理 (第10章1-3節)
6	国際裁判 (第10章4節)
7	国際連合による紛争の解決 (第10章5節)
8	戦争概念とその変化 (第11章1節)
9	国連軍 (第11章2節)
10	地域的安全保障 (第11章3節)
11	核兵器の規制 (第11章5節)
12	後期のまとめ
備考	

科目名	国際政治学	担当者名	星野昭吉
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>国際政治の現在は著しく日常化し、われわれの生存は国際政治の在り方に大きく依存している。人類がいま直面しているさまざまな具体的な問題、すなわち、核拡散問題はじめ、軍拡競争、民族・宗教問題の激化。南北問題の深化、環境破壊の増大、人口・食糧問題、人権抑圧、世界経済の混迷、などの地球的規模の問題群を検討する。この巨大で、複雑で、流動的で、不確実な国際政治の危機構造の本質、その特徴、変容などを理解する。その上で、国際政治の見方・在り方、考え方を提示し、国際政治におけるわれわれの存在意義を明らかにする。</p>		
講義概要	<p>今日の国際政治が一体どのような段階にあり、どのような問題を抱えているのか、国際政治がわれわれの日常生活とどのような関連性をもっているのかを説明しながら、国際政治学の課題を提示する。国際政治の構造的変動としての冷戦崩壊過程とその意義を問いながら、国際政治の新しい枠組みの構造を具体的に見ていく。その中でとりわけ国際政治の基軸であり、最も矛盾した存在である、南北問題と第三世界の存在とを分析する。また、第三世界の国際政治学の構築を模索する。それを可能にするために、国際政治理論の科学性・イデオロギー性、規範性、変動性について検討していく。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・星野昭吉『国際関係の理論と現実—世界政治社会システムにおける第三世界—』アジア書房、1995年。</p>	
	参考文献	<p>・衛藤藩吉他『国際関係論』（第2版）東京大学出版会、1989年。 ・初瀬龍平『国際政治学—理論の射程』同文館、1993年。</p>	
評価方法	<p>前期にはレポートを提出してもらい、後期にはテストを受けてもらい、総合して評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>すべてをテキスト通りやるのではないので、必ずノートを使用してほしい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	国際政治の現在、国際政治学の課題。
2	国際政治の構造的変動、冷戦構造崩壊の意義。
3	国際政治の新しい枠組み－1：冷戦崩壊後の基本的動向。
4	国際政治の新しい枠組み－2：湾岸危機・戦争と世界秩序。
5	国際政治の新しい枠組み－3：ソ連邦の解体と世界秩序。
6	国際政治の新しい枠組み－4：日米政治経済摩擦構造。
7	国家の機能変容と国際体系（国家体系）－相互依存関係と脱国家主体。
8	国際政治学の発展過程－1：第一次大戦と国際政治学の成立とその後。
9	国際政治学の発展過程－2：第二次大戦後から現代まで。
10	国際政治理論と現実。
11	理論の意味とその構成条件。
12	国際政治の分析レベルと分析方法。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	実証主義理論の構造と問題。
2	脱実証主義理論の構造と特徴。
3	国際政治理論のイデオロギー性。
4	現状維持志向理論－1)。
5	現状維持志向理論－2)。
6	現状打破志向理論。
7	国家－構造の弁証法。
8	世界政治社会システム変動。
9	国際システムの変動と第三世界－1)。
10	国際システムの変動と第三世界－2)。
11	第三世界の国際政治学の構築－1)。
12	第三世界の国際政治学の構築－2)。
備考	

科目名	比較政治	担当者名	増島 建
-----	------	------	------

講義の目標	<p>比較政治は、世界各国の政治を統一的視角によって理解することを目指す学問である。比較政治の研究は、各国の憲法体制の比較から始まり、1960年代の非植民地化に伴う「第三世界」諸国の登場への対応を経て、今日に至っている。本講は、比較政治学の成果をふまえて、世界各国の政治を体系的に理解するための概念・方法を提供することを目標とする。日本の政治との比較は念頭におくが、講義は日本以外の第三国の政治を直接の対象とする。</p>		
講義概要	<p>各国の政治を統一的に比較することが可能かどうかを、(1)比較政治学の基本概念・学説の流れ、(2)各国政治を比較するための枠組、(3)具体的事例の理論的検討、を通して追求する。前期において(1)(2)を講義するが、具体的事例をできるだけ多く紹介し、後期における事例研究へと結びつけるよう留意する。</p>		
使用教材	テキスト	特に指定せず。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・西川知一編『比較政治の分析枠組』ミネルヴァ書房、1994年。 ・砂川一郎他編『比較政治学の理論』東海大学出版会、1990年。 —その他、適宜指示する。 	
評価方法	主に学年度末試験によるが、前期に課す短いレポートも参考にする（ボーナスとして）。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンス
2	比較政治の方法
3	比較政治学の流れ(1) (立憲的) 政治体制論
4	同上(2)システム・機能主義理論
5	同上(3)・ポスト・ビヘイビオリズム理論
6	政治体制
7	政党・選挙
8	政府・議会
9	官僚・軍部・司法
10	政策決定過程
11	国家と社会の関係
12	政治変動
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	先進諸国の政治(1)概観
2	同上(2)イギリス
3	同上(3)フランス
4	同上(4)アメリカ合衆国
5	同上(5)ドイツ
6	開発途上国の政治(1)概観
7	同上(2)アジア
8	同上(3)アフリカ
9	同上(4)中近東
10	同上(5)ラテン・アメリカ
11	体制移行期の政治 (ロシア、東欧諸国)
12	比較外交政策 (まとめにかえて)
備考	

科目名	日本外交史	担当者名	森山茂徳
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>幕末の開国から現代に至る日本外交の歩みを、権力構造と国際環境に注目して、全体の流れを一貫する特性が理解できるよう講義する。日本の外交は国際環境の変化と権力状況の変化とが相互作用し合う過程としてとらえられるのであり、単なる外交史的事実の羅列では理解しえず、構造的・段階的視角が必要である。国際環境の変化に対応して権力状況が変化し、それがまた国際環境に影響を及ぼすという相互関係に注目し、外交政策決定の主体と外交路線の競争的共存、近隣諸国との外交の相違、システムとしての国際環境の変化など政治学的観点も養う。</p>		
講義概要	<p>全体として時系列に沿って行う。まず第一に自由主義から自由貿易帝国主義への国際環境の変化と、これに対応すべく幕藩体制の改革=明治維持という権力状況の変化を論ずる。第2に独立維持のための明治国家体制の確立へ向けての国内の動きと、これと表裏一体となった条約改正・東アジア問題との関連を論ずる。第3に日本の独立を確定すると共にその後の歩みを決定づけた2つの戦争（日清・日露戦争）を論ずる。第4に国家目標を喪失した日本の権力状況変化（世代交替）と第1次世界大戦を論ずる。第5に国際協調枠組としてのワシントン体制とその崩壊としての第2次大戦（満州事変、日中戦争）を論じ、最後に現代外交を論ずる（再出発から先進大国まで）。板書が多い。事前に年表を配布する。</p>		
使用教材	テキスト	特に用いない。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・池井優『日本外交史概説』慶応通信社 ・入江昭『日本の外交』、『新・日本の外交』中公新書 ・北岡伸一『日本政治外交史』放送大学教材 ・坂野潤治『日本政治外交史』同上 ・三谷太郎『日本政党政治の形成』東京大学出版会 <p>一など。授業時間中に逐次指摘する。最新の研究成果を用いるため論文も多量に指摘する。プリントも配布する（レポートを課す）。</p>	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・前後期各1回の定期試験およびレポートによって決定する。 ・レポートは夏期休業直前に配布するプリントの中から、適宜1冊以上の参考文献を読み、要約及びコメントを書いてもらう。 ・前後期の定期試験時に講義についてのアンケート調査を行う。 		
受講者に対する要望など	<p>授業では一切の私語を厳禁する。授業は板書の量が多いが、その分、日本外交史の流れと外交のセンスについての思考様式も学べるので、熱心な学生の出席を求める。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義概要および参考文献の説明を、例年行っているアンケート調査に基づいて行う。次いで、「外交について（外交の世界）」を入門的に説明する。第1に外交の定義、第2に外交交渉・情報・国益などを解説する。
2	西欧の衝撃と幕藩体制の動揺(1)―「西欧国際システムと自由貿易帝国主義」 西欧国際体系の制度と実態とを国際政治学の基礎的知識習得を合せて解説し、19世紀後半の自由貿易帝国主義とその波及を論ずる。
3	西欧の衝撃と幕藩体制の動揺(2)―「幕藩体制の特質と中華秩序」 身分制や政治的コミュニケーションの断絶などの幕藩体制が内外政をリンクさせる形であり、それと不可分な関係の中華秩序（朝貢体制）を論ずる。
4	幕藩体制の崩壊。西欧の国際体系と伝統的中華秩序の衝突から始まった幕藩体制の変動が崩壊＝明治維新に至った過程を解説する。段階的の把握を体制崩壊論により論じ、国家構想や欧米列強の介入などにも触れる。
5	明治外交の出発。維新政府の外交理念・目標とその特色、次いでそれを実現するための制度・機構の整備、外交を担う主体、初期外交としての領土画定など、山積する課題に対し明治の外交官がいかに取組んだかを示す。
6	明治憲法体制の成立。維新政府の課題と外交の関連を政府の危機的状況認識、諸党派の競争的共存、行政・財政・軍事の一元化（狭義の政府）から、政治的ゲームのルール（広義の政府）までの過程を論ずる。
7	条約改正。幕末に結ばれた不平等条約を如何に改正して平等条約締結にまで至ったかを、権力状況の変化（明治憲法体制の成立）および国際環境の変容（自由貿易帝国主義から帝国主義へ）と関連づけて論ずる。
8	東アジア問題。条約改正と表裏一体の東アジア国際関係の新たな模索の過程を解説する。中国との平等条約締結という提携側面と台湾出兵・琉球処分という対立側面、朝鮮との圧搾、脱亜論、アジア主義を論ずる。
9	日清戦争。日本の国民的独立を達成する一契機となった日清戦争を、帝国主義の登場という国際環境の変容、および明治憲法体制の成立という権力状況の変化と関連づけ、様々なアプローチと戦争の実態を論ずる。
10	日清・日露戦間期の外交。三国干渉に始まる東アジア国際関係の流動化（多極化・競争と均衡・相互牽制メカニズム）に日本外交がどう対応したのかを、日清戦後経営論に止まらず実際の対中国・朝鮮外交を論ずる。
11	日露戦争。明治日本の最大の試練であった日露戦争の原因・過程・結果を解説する。相互牽制メカニズムの崩壊という東アジア国際関係の変動と日露対立の過程、および日露戦争の近代政治外交にもった意味を論ずる。
12	日露戦後の外交。明治維新時に設定した国家目標の喪失と世代交替という権力状況の変化（桂閣体制）の中で、朝鮮植民地化＝日韓併合、中国進出と反発＝辛亥革命、条約改正の達成、軍部の台頭と調落を論ずる。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1次世界大戦と日本。「大正の天佑」となった第1次大戦の原因・過程・意義および日本の対応を解説する。経済発展と大陸国家化という日本の路線と中国・朝鮮のナショナリズムの反発との関係に注目して論ずる。
2	第1次世界大戦後の外交。シベリア出兵という帝国主義外交の挫折と、大正デモクラシーを背景とする政党政治の台頭を、ナショナリズム、ボルシェヴィズム、デモクラシーの台頭という国際環境と関連づけて論ずる。
3	ワントン体制の成立。初めての国際協調主義的枠組としてのワントン体制の成立を、ベルサイユ体制との比較、四国借款団という経済的枠組の意義、日米緊張緩和の過程と関連させ、挑戦者についても論ずる。
4	ワントン体制下の外交。「幣原外交」をもたらした日本の政党政治の成長とその問題点の発生・発展、ワントン体制への挑戦者としてのソ連、中国そして日本軍部の動向と対応などに焦点を合せて論ずる。
5	満州事変と軍部の台頭。政党政治の崩壊をもたらした政党内部の変化、軍部の台頭と派閥対立（陸軍主流＝長州系から南・宇垣系、上原派＝皇道派、統制派と条約派・艦隊派）と北伐以来の満州経営の対立を論ずる。
6	帝国の崩壊(1)―日中戦争。満州事変により「田中外交」が失敗して日中戦争の泥沼へと至る過程を、大恐慌に始まる国際協調主義の挫折と軍事クーデタに始まる総動員体制準備との関連に注目して論ずる。
7	帝国の崩壊(2)―第2次世界大戦（太平洋戦争）。日中戦争を終結させるための様々な工作と日米交渉の挫折、大東亜共栄圏の性格、戦争の開始から終結までの日本外交の不在と挫折、戦争の意味などに注目して論ずる。
8	敗戦日本の再出発(1)―戦後改革と冷戦構造の定着。敗戦・占領から始まった戦後改革を55年体制の形成まで辿り、米ソの戦後世界戦略と中国革命、朝鮮戦争による冷戦構造の定着と関連させて論ずる。
9	敗戦日本の再出発(2)―講和と外交再編成。戦後日本の独立外交の開始となった講和と「吉田路線」、米極東政策の変化という外因をうけての周辺諸国との国交復活・賠償交渉などを、経済発展路線定着と関係づけ論ずる。
10	先進大国日本の外交(1)―高度経済成長路線により戦前の水準をこえた日本経済と政治・外交の関連、冷戦の緊張緩和とアジア・アフリカ諸国の独立、ヴェトナム戦争とアメリカの凋落などに注目して論ずる。
11	先進大国日本の外交(2)―経済成長という目標の達成、55年体制の崩壊、新たな国際貢献の模索という日本の状況と、脱冷戦、相互依存関係の進展という国際環境の変化とを関連づけて論ずる。
12	日本の外交と外交者像―日本の外交にあらわれた幾つかの路線とその継承あるいは新路線の模索の試みを、陸奥宗光、小林寿太郎、幣原喜重郎、吉田茂という外交者像に関連させ、外交のあり方を論じて終講とする。
備考	

科目名	西洋外交史	担当者名	中園和仁
-----	-------	------	------

講義の目標	ヨーロッパの国際政治システムの歴史的变化を国家主権、ナショナリズム、勢力均衡、外交交渉、戦争、帝国主義、植民地主義、国際主義、基本的自決権などの諸概念を通して、理解することを目的とする。		
講義概要			
使用教材	テキスト	特定しない。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・岡義武『国際政治』岩波書店 ・H. ニコルソン『外交』東大出版会 ・H. J. モーゲンソー『国際政治ⅠⅡⅢ』福村出版 ・E. H. カー『危機の二十年』岩波書店 ・坂野正高『現代外交の分析』東大出版会 ・J. フランケル『国際関係論』 // 	
評価方法	<p>1. 出欠をとる 2. 前期試験はレポートとする 3. 授業中小テストを実施する 4. 後期試験はペーパー・テストとする</p> <p>以上の総合評価で採点する。なお、予習が必要であり、各自報告してもらうこともある。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	歴史とは何か。
2	外交交渉とは。
3	主権概念と近代ヨーロッパ。
4	18世紀ヨーロッパにおける勢力均衡の意味とその評価。
5	フランス革命・ナポレオン戦争。
6	ウィーン体制の成立。
7	ウィーン体制の崩壊。
8	帝国主義の時代（ビスマルク外交）
9	帝国主義の時代（帝国主義的対立の展開）
10	第一次世界大戦の導火線
11	第一次世界大戦の勃発
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ベルサイユ体制の成立（パリ講和会議とドイツに対する制裁）。
2	アメリカ合衆国の好景気と破産。
3	ヒットラーの登場とベルサイユ体制の打破。
4	ルーズベルト大統領とニュー・ディール政策。
5	スターリンとロシアの近代化。
6	イギリスの対独宥和政策。
7	第二次世界大戦とイギリスの反応。
8	真珠湾攻撃から広島原爆投下まで。
9	ベルリンへの道（スターリン・グラードの攻防）
10	冷戦の起源
11	ケネディとフルシチョフ（キューバ危機）
12	まとめ
備考	

科目名	アメリカ外交史 (94年度以降)	担当者名	宮里 政 玄
-----	------------------	------	--------

前 期

講義の目標	アメリカ外交の作成過程（国内政治）を講義し、とくに第二次世界大戦後の外交史を分析することによってアメリカ政治・外交の歴史・理論・実際を学ぶことである。		
講義概要	前期ではアメリカの外交政策の作成過程について大統領、議会、圧力団体の相互作用を講義する。とくに日米関係に関連する対外経済政策の作成、議会の役割を強調する。1996年は選挙の年なので、大統領選挙も取り上げる。		
使用教材	テキスト	有賀 貞、宮里政玄編『概説アメリカ外交史』有斐閣、1993年。阿部 斉編『アメリカの政治』弘文堂、1991年。宮里、「米国の対外政策における議会の役割」(1)、『独協法学』第41号、1995年9月。その他適宜に指定する。	
	参考文献	適宜に指定する。	
評価方法	期末に筆記試験を行う。追試は原則として行わない。		
受講者に対する要望など			

後 期

講義の目標	前期の対外政策作成過程の講義を踏まえて、第二次世界大戦後のアメリカ外交政策を年代順に講義する。その過程で冷戦の開始、発展、そして終結、冷戦後の混乱期における政策を取り上げる。日米関係も重点的に扱う。		
講義概要			
使用教材	テキスト	前期に同じ	
	参考文献	適宜に追加するが、以下を含む。松岡 完『20世紀の国際政治』同文館、平成4年。有賀 貞他編『アメリカ史』2（世界歴史体系）、山川出版、1993年。山極晃編『東アジアと冷戦』三嶺書房、1994年。佐々木卓也『封じ込めの形成と変容』三嶺書房、1994年。	
評価方法	期末に筆記試験を行う。原則として追試は行わない。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の講義内容と参考書などについての説明。
2	憲法上の大統領の権限、三権分立の原理。
3	F. D. ルーズベルト以後の大統領のマネジメント・スタイル。
4	大統領府 (NSC, NEC, USTR など) の役割、大統領との関係の重要性。
5	内閣と閣僚の特徴
6	議会分析のレベルを説明する (議員、委員会のレベル) ことによって議会に対する見方、議員の立場からの分析。
7	委員会の分析。下院の歳入委員会の例。
8	同上
9	議会と大統領
10	対外経済政策決定過程の全般的な特徴についての説明。
11	議会の役割についての説明。
12	総まとめ。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の紹介
2	冷戦の開始について。第二次大戦時中のルーズベルト外交と冷戦の関連性。
3	冷戦の開始について。トルーマン外交。
4	中国の「喪失」、NSC 68、朝鮮戦争など。
5	冷戦の展開—アイゼンハワー・ダレス外交
6	ケネディ・ジョンソン外交
7	米ソのデタント—ニクソン・キッシンジャー外交
8	カーター—人権外交とアフガニスタン
9	レーガンと米ソ関係
10	冷戦終結とブッシュ外交
11	クリントン外交
12	総まとめを行う。
備考	

科目名	国際経済論	担当者名	益山光央
-----	-------	------	------

講義の目標	国際経済を分析する際に必要な最低限必要と思われる諸概念の修得を目標とする。		
講義概要	国際経済学の基礎的な理論を中心に講義する。前期は貿易理論、後期は開放経済下の所得決定メカニズムを中心テーマとする。今日、世界で問題となっている具体的事項については直接は取り扱わない。		
使用教材	テキスト	教科書 仙頭佳樹ほか、『あなたにもわかる国際経済学』多願出版、1991	
	参考文献	渡辺太郎『国際経済（第四版）』春秋社、1990 Peter B. Kenen; <i>The International Economy (Third Edition)</i> , Cambridge University Press, 1994	
評価方法			
受講者に対する要望など	まじめに勉強してほしい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義のアウトライン
2	リカード的奉易理論Ⅰ
3	リカード的貿易理論Ⅱ
4	ヘクシャーオリーン定理Ⅰ
5	ヘクシャーオリーン定理Ⅱ
6	リブチンスキー定理
7	ストルパーサミュエルソン定理
8	関税Ⅰ
9	関税Ⅱ
10	国際生産要素移動Ⅰ
11	国際生産要素移動Ⅱ
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	GNP と GDP
2	固定収支表
3	固定相場制下の所得決定Ⅰ
4	固定相場制下の所得決定Ⅱ
5	変動相場制下の所得決定Ⅰ
6	固変動相場制下の所得決定Ⅱ
7	開放経済上の金融政策Ⅰ
8	開放経済上の金融政策Ⅱ
9	開放経済上の財政政策Ⅰ
10	開放経済上の財政政策Ⅱ
11	ポリシーミックス
12	まとめ
備考	

科目名	国際組織（94年度以降）	担当者名	寺澤 一
-----	--------------	------	------

講義の目標	<p>今日の国際組織とくにその中核ともいえる国際連合の内容、機能、そしてその将来の可能性と限界を軸に講義する。地域的な国際組織的なものとして、EU、OAS等もあるが、それらは別の科目で講じられるということなので、本科目からは外す。逆に、国際法一般とかかわる場合には、随時、国際法の理論と実際をとり入れる。</p>		
講義概要	<p>私が従来『国際法』を講じたさいに使ってきた、『新版現代国際法』（有斐閣）の第七章の「国際社会の組織化」の内容を深めたものにしたいと思う。いうまでもなく、この章は一つであるが、「国際組織」として講じる以上、ここだけにとどまるものではない。私の未発表の論文などにも触れるので、講義したいに視点を置いて欲しい。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・小田・石本・寺沢編『新版現代国際法』有斐閣 ・最上敏樹『国連システムを超えて』岩波書店 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・高野雄一『国際組織法』法律学全集、有斐閣 ・最上敏樹『国際機構論』東大出版会（1996年5月刊行予定） 	
評価方法	<p>学期末試験。</p>		
受講者に対する要望など	<p>国際組織だけを講義するのは初めてであるし、上述したように、未発表の論文も取りあげるので、受講していなければ理解できないことを特に強調しておきたい。シラバスには各時間の講義予定を記載しない。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	最初の授業で説明します。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	平和学(94年度以降)	担当者名	星野昭吉
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>国際紛争(戦争)と平和の現代は著しく日常化し、われわれの生存・生活はその在り方によって大きく左右されている。人類に直面している「紛争(戦争)と平和」をめぐるさまざまな問題を解明していく。そのため国際政治学ではなく、平和学の立場からそれら問題へアプローチする。平和とは何か、人類、国民、国家にとって平和をどう位置づけていくべきか、紛争解決にはどうすることによって可能となるのか、などを検討する。その上で、国際平和の見方、在り方、考え方を提示し、国際平和におけるわれわれの存在意義を明らかにする。</p>		
講義概要	<p>平和研究とは何か、その目的・対象・方法・課題を明らかにしながら、従来の国際政治における戦争(紛争)と平和の捉え方を、とくにアナキー仮説、紛争(戦争)と平和を構成する国家(主体)と国際システム構造の弁証法、とくに国際紛争構造の形成・展開・変容・崩壊過程を分析していく。その中で平和を位置づけると同時に、国際システムにおける軍事力の役割、核時代における安全保障、地球的規模の問題群の存在と平和との関連性を検討していく。その上で、国際平和にとって日本の地位、役割についての問題を展開する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・星野昭吉『世界政治の変動と権力—アナキー—国家・システム・秩序・安全保障・戦争・平和—』同文館、1994年。</p>	
	参考文献	<p>・斎藤哲夫他『平和学のすすめ』法律文化社、1994年。 ・岡本三夫『平和学を創る—構想・歴史・課題—』広島平和文化センター、1993年。 ・入江 昭『二十世紀の戦争と平和』東京大学出版会、1986年。</p>	
評価方法	<p>前期のレポート提出と、後期のテストで総合評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>すべてをテキスト通りにやるのではないので、必ずノートを使用してほしい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	現代世界における平和。
2	国際政治学と平和学（研究）－1）。
3	国際政治学と平和学（研究）－2）。
4	国際社会のアナキーと平和。
5	国際平和の主体と国際体系－1）。
6	国際平和の主体と国際体系－2）。
7	国際政治における権力－1：本質と構造。
8	国際政治における権力－2：国力と手段。
9	国際政治における権力－3：権力配分構造。
10	勢力均衡と平和。
11	核抑止理論の構造と特徴。
12	国際平和と権力
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国際政治における紛争（戦争）と平和。
2	国際紛争構造の形成。
3	国際紛争の展開。
4	国際紛争構造の変容。
5	国際紛争構造の崩壊。
6	国際紛争構造の現在。
7	紛争（戦争）と平和の弁証法。
8	国際秩序と軍事力の役割。
9	核時代における安全保障－1）。
10	核時代における安全保障－2）。
11	地球的規模の問題群と平和。
12	国際平和と日本の役割。
備考	

科目名	国際関係文献研究1 (94年度以降) 外国法政研究2 (93年度以前)	担当者名	臼井久和
-----	--	------	------

講義の目標	外国文献の講読を通して国際政治学あるいは平和研究の基本的な問題を研究する。		
講義概要	21世紀を目前に控え、国際社会と国際政治学は多くの難題を抱えている。安全保障一つをとってみても、それがどのように確保されるのか。軍事力は有効性をもちうるのか。主権国家は国際政治の唯一の主体なのか。これらの問い掛けにもう一度理論的な検討を加え、地球的規模の諸問題と平和の問題を考えることにしたい。		
使用教材	テキスト	① Woodhouse, T., ed. (1991) <i>Peacemaking in a Troubled World</i> . Berg. ② Merryfield, M. M. and R. C. Remy, eds. (1995) <i>Teaching About International Conflict and Peace</i> . State University of New York Press. なお、テキストはコピーして配布する。	
	参考文献	(1) Rosenau, J. N. and M. Durfee, eds. (1995) <i>Thinking Theory Thoroughly : Coherent Approaches to an Incoherent World</i> . Westview Press. (2) Hettne, B., ed. (1995) <i>International Political Economy : Understanding Global Disorder</i> . Zed Books.	
評価方法	前期レポート提出、後期試験。両者を総合して評価する。		
受講者に対する要望など	外国文献の精読・研究であるから事前の予習がかなり必要である。意欲のない人は受講しないで欲しい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ	
1	年間講義概要の説明。テキスト配布。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		Mack, A., "Objectives and Methods of Peace Research". (テキスト①所収)
8		
9		
10		
11		
12		
備考		

後 期

週	主 要 テ ー マ	
1		
2		
3		
4		
5		
6		Alger, C. F., "Building Peace : A Global Learning Process". (テキスト②所収)
7		
8		
9		
10		
11	テキストないし参考文献のなかから別の論文を読むことを考えている。	
12		
備考		

科目名	国際関係文献研究 2 (94年度以降) 外国法政研究 3 (93年度以前)	担当者名	中 園 和 仁
-----	--	------	---------

講義の目標	1997年に中国に返還される香港の問題を考える。国籍・移民問題、人権、民主化、報道の自由・宗教の自由の問題などを取りあげる。		
講義概要	香港の憲法ともいふべき LETTERS PATENT & ROYAL INSTRUCTIONS をまず読み、中国香港特別行政区の基本法と比較検討する。香港はなぜイギリスの植民地として今日まで存続したのか、また返還後香港はどうなるのかといった基本的な問題を議論する。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Britain and Hong Kong</i> (London : HMSO) 1992. Stephen Chieu, <i>The Politics of Laissez-faire</i> (1994) 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ Raymond Wacks, <i>HUMAN RIGHTS IN HONG KONG</i> (1992) ・ J. Arthur McInnis, <i>LEGAL FORUM ON NATIONALITY</i> (1997) 	
評価方法	前期レポート提出、後期試験、出席率を総合的に評価。		
受講者に対する要望など	外国文献講読のため、予習が必要である。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Letters Patent
2	Royal Instruction
3	The Joint Declaration
4	Basic Law
5	Government and Administration ①
6	Government and Administration ②
7	The Economy
8	Financial Services
9	Protecting Human Rights in Hong Kong
10	The Bill of Rights
11	The International Protection of Human Rights
12	Human Rights in China
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Freedom of Expression
2	Freedom of Religion
3	Democratization in Hong Kong ①
4	Democratization in Hong Kong ②
5	Nationality
6	The Problems Relating to Chinese Nationality
7	China's Law and Policy on Nationality
8	Dual Nationality: Canadian Citizens in Hong Kong
9	The U. S. Immigration Act of 1990 and its Hong Kong Provisions
10	The Right to Nationality
11	Discussion ①
12	Discussion ②
備考	

科目名	政治学原論	担当者名	森山茂徳
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>現代の政治体制において、先進国を問わず発展途上国を問わず、目指されるものはデモクラシー（民主主義的政治体制）である。講義では民主主義が歴史的にどのように実現されてきたか、そして民主主義には理論的にどのような問題があるのかを、政治学という学問の考え方に基づいて検討し、日本の民主主義のあり方を各国と比較して明らかにする。政治学の基礎的知識に基づいて歴史的・理論的に民主主義を理解し、民主主義の問題点を十分に認識しながら、民主主義の実現のための個人レベル、社会レベル、国家レベル、国際レベルの思考を養う。</p>				
講義概要	<p>まず第1に一般的・基礎的な政治学の知識の習得をめざす。2人以上いれば始まる政治というものを理解する視角にどのようなものがあるかを、理論的・体系的に学ぶ。第2に政治体制論という視角に基づいて、歴史的・理論的に政治体制について理解を深める。第3に政治体制・政治思想の歴史的理解という視角に基づいて、民主主義の歴史を学ぶ。第4に原理論・分類論・経験論・演繹論という理論的視角に基づいて、民主主義の諸問題点について検討する。第5に日本の民主主義とは何か、そのあり方を各国と比較して明らかとする。そして最後に民主主義実現のために個人・社会・国家・国際レベルで、思考様式を説く。なお授業は板書が大半で量も多い。プリントを配布することも考えている。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>・篠原一・永井陽之助編『現代政治学入門・新版』有斐閣</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・福田敏一『近代民主主義の歴史と展望』岩波新書 ・丸山眞男『現代政治の思想と行動』未来社 ・D・リンス『権威主義体制の崩壊』岩波現代叢書 ・B・ムーア Jr.『独裁と民主政治の社会的起源』同上 ・京極純一『日本の政治』東京大学出版会 <p>一など。授業時間中に逐次指摘する。大量のものとなるが、プリントを配布する（夏期休業直前にレポートを課す）。</p> </td> </tr> </table>	テキスト	・篠原一・永井陽之助編『現代政治学入門・新版』有斐閣	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・福田敏一『近代民主主義の歴史と展望』岩波新書 ・丸山眞男『現代政治の思想と行動』未来社 ・D・リンス『権威主義体制の崩壊』岩波現代叢書 ・B・ムーア Jr.『独裁と民主政治の社会的起源』同上 ・京極純一『日本の政治』東京大学出版会 <p>一など。授業時間中に逐次指摘する。大量のものとなるが、プリントを配布する（夏期休業直前にレポートを課す）。</p>
テキスト	・篠原一・永井陽之助編『現代政治学入門・新版』有斐閣				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・福田敏一『近代民主主義の歴史と展望』岩波新書 ・丸山眞男『現代政治の思想と行動』未来社 ・D・リンス『権威主義体制の崩壊』岩波現代叢書 ・B・ムーア Jr.『独裁と民主政治の社会的起源』同上 ・京極純一『日本の政治』東京大学出版会 <p>一など。授業時間中に逐次指摘する。大量のものとなるが、プリントを配布する（夏期休業直前にレポートを課す）。</p>				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・前後期各1回の定期試験およびレポートによって決定する。 ・レポートは夏期休業直前に配布するプリントの中から、適宜1冊以上の参考文献を読み、要約及びコメントを書いてもらう。 ・前後期の定期試験時に講義についてのアンケート調査を行う。 				
受講者に対する要望など	<p>授業では一切の私語を厳禁する。授業は板書の量が多いが、その分、政治学のセンス・思考様式が身に付くので、熱心な学生の出席を求める。</p>				

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	講義概要および参考文献の説明を、例年行っているアンケート調査に基づいて行う。次いで、「政治について（政治の世界）」を入門的に説明する。第1に大政治・小政治、第2に状況・制度・組織などを解説する。
2	政治学的思考と政治的思考との違いについて説明する。現実の事象に存在する独自性とそれを理解するための独自の思考様式の一端に触れる。第1に権力と支配、第2に政治理論の諸レベルなどを解説する。
3	政治学の対象および理論のそれぞれのレベルに合わせて、個人・社会・国家レベルの思考様式を解説する。第1に政治的人間と政治参加・政治意識、第2に政治過程論と参加者（政党・官僚制・マスコミなど）に触れる。
4	政治体制論を論ずる。民主主義的、全体主義的、権威主義的という3つの類型に触れるとともに、政治的権威（政府）論および政治的文化論という他のレベルの理論も解説する。
5	民主主義および政治体制の歴史(1)―「権力の生成と政治思想の始まり」 政治体制が歴史的にどのように形成・推移してきたかを、民主主義的政治体制を中心に据えて解説する。政治的共同体の概念を明らかにする。
6	民主主義および政治体制の歴史(2)―「ヨーロッパ政治の伝統(1)」 ヨーロッパ政治の伝統としての古代民主政治を解説する。民主主義の古典的理念とバリエーションとしての共和政のもつ意味を論ずる。
7	民主主義および政治体制の歴史(3)―「ヨーロッパ政治の伝統(2)」 ヨーロッパ政治の伝統としてのキリスト教世界と領邦国家体制について解説する。アジアと異なる思考様式と政治体制のあり方を考える。
8	民主主義および政治体制の歴史(4)―「中世の解体」 ルネサンス、宗教改革そして近代政治思想の誕生を解説する。ルネサンスの人間主義、宗教改革の内面化、古典的政治思想の解体”を論ずる。
9	民主主義および政治体制の歴史(5)―「絶対主義の時代」 主権国家という国家様式とそれに伴って生じた思考様式を解説する。古典的政治思想の解体(2)と法理論の国際化、国際政治の開始を論ずる。
10	民主主義および政治体制の歴史(6)―「近代国家の成立」 近代国民国家および市民社会を生出したフランス、イギリス、アメリカの3つの革命を解説する。近代民主主義の構成論としての意味を論ずる。
11	民主主義および政治体制の歴史(7)―「19世紀の政治」 イデオロギーの時代とよばれる19世紀に民主主義が定着していった過程を解説する。自由主義、保守主義、社会主義のもつ意味を論ずる。
12	民主主義および政治体制の歴史(8)―「20世紀の政治」 2つの世界大戦により全体主義的、権威主義的政治体制が出現した過程と現代の諸問題を解説する。脱冷戦、相互依存のもつ意味を論ずる。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	民主主義の理論(1)―「原理論(1)=価値原理」 原理論という視角から民主主義の諸問題を論ずる。価値原理としての自由と平等の補完的・対立的側面に触れ、現代の状況における問題を論ずる。
2	民主主義の理論(2)―「原理論(2)=機構原理」 本来、民主主義とは相容れない機構原理としての代表制と多数決の民主主義を実現する側面、阻害する側面の両面について論ずる。
3	民主主義の理論(3)―「原理論(3)=方法原理」 民主主義を機構・制度に形骸化しないための方法原理としての討論・説得と参加・抵抗の問題を論じ、参加民主主義とは何かを解説する。
4	民主主義の理論(4)―「分類論(4)=理念型論」 「諸少数者の統治」としてのポリアーキーを始めとして、アリストテレスやモンテスキューらの理念型を解説し、エリート理論との対比を論ずる。
5	民主主義の理論(5)―「経験論」 民主主義の維持条件、制度運営実態、圧力団体等についての歴史のおよび数量的アプローチを解説し、社会・経済・文化的側面を論ずる。
6	民主主義の理論(6)―「演繹論」 民主主義の経済学的理論・公共選択理論を解説する。ダウنزやアローの決定理論の特性および公共選択の意義と課題などを論ずる。
7	日本の政治文化と民主主義(1)―「日本の政治文化」 日本という政治的共同体を規定する政治文化を論ずる。「古層」たる歴史意識と「無責任体制」、コスモス・ノモス・カオス論などに注目する。
8	日本の政治文化と民主主義(2)―「制度と実態としての民主主義」 制度として定着されたとされる日本の民主主義が原理をどのように実現しているかを論ずる。自由、平等、民主的思考の現代的状況を概観する。
9	日本の政治文化と民主主義(3)―「制度の運用」 政党制、議会制、選挙、官僚制などの諸制度がどのように運用されてきたか、されているかを解説し、他国と比較して日本の独自の問題を論ずる。
10	日本の政治文化と民主主義(4)―「岐路に立つ民主主義」 55年体制＝自民党の一党優位体制の崩壊と80年代に登場してきた諸問題を論ずる。規制緩和や「新国家主義」と国際政治・経済の関連に注目する。
11	日本の政治文化と民主主義(5)―「権力構造と政治的行動様式」 日本の独特な権力構造と政治的行動様式の特徴とを関連させて解説する。「制度の政治」と「正論の政治」の対比と官治主義などとの関連を論ずる。
12	政治を生きる―政治的リアリズムとは何か。 複雑な政治の世界を生きるために必要な政治的リアリズムを解説する。行動・変化する主体としての人間とその資質などを論じて終講とする。
備考	

科目名	地方自治	担当者名	佐藤俊一
-----	------	------	------

講義の目標	<p>地方自治とは何かを問うことは、地方分権とは何かと問うこととかなり重なっている。ところで、戦後日本では憲法第八章で地方自治が保障されることになった。しかし、自治体の政治や行政の実態、中央政府と自治体との関係などは、時代とともに変容し、現在では地方分権推進法のもとで分権化が進められようとしている。そこで、戦後のかかる変化を理解しつつ、現在進行中の分権化はどのようなものか、その意義と問題点などをさぐることにしたい。</p>		
講義概要	<p>戦後日本における地方自治の展開—中央政府と自治体との関係、自治体の政治や行政などの諸側面の変化—を、大きくは3つの時期、細くは5つの時期に分けて講述する。それは、(1) 制度形成期(戦後民社化改革期)、(2-1) 制度運用前期(地域工業開発期)、(2-2) 制度運用後期(革新自治体期)、(3-1) 制度改革前期(行財政改革期)、(3-2) 制度改革後期(分権化改革期)である。なお、最後の分権化改革期は現在進行中なので、新聞報道等に注目してほしい。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<p>・村松岐夫『地方自治』東京大学出版会</p>	
評価方法	<p>上記講義概要の時期区分にしたがい、各期講述の終了ごとに小テストを実施し、それに期末試験の成績をあわせて評価する予定です。</p>		
受講者に対する要望など	<p>特定のテキストは使用しません。したがって、小テストや期末試験にはテキストの持込可がないことに注意して下さい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	地方自治及び地方分権に関する原論的概要、戦後日本における地方自治の展開に関する時期区分について。
2	制度形成期（１）－占領民主化改革と地方エリート追放や農地改革などについて。
3	制度形成期（２）－第１次地方制度改革から第２次地方制度改革（地方自治法の成立）へ。
4	制度形成期（３）－戦後の地方自治制度における中央地方関係に関する二つの見方について。
5	制度形成期（４）－財政危機と町村大合併について
6	制度形成期（５）－農村（自治体）の政治と行政の変容について。
7	制度運用前期（１）－1955年体制の形成と統治構造について
8	制度運用前期（２）－自民党の単一支配政治における中央地方関係（新中央集権化論）とクライエンテリズムについて。
9	制度運用前期（３）－戦後の経済計画と地域（工業）開発計画の展開について。
10	制度運用前期（４）－地域（工業）開発をめぐる自治体の政治や行政について。
11	制度運用前期（５）－大衆社会論から地域民主主義論について。
12	制度運用前期（６）－都市化における自治体の政治と行政の変容について。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	制度運用後期（１）－公害・都市問題の噴出と市民・住民運動の簇生について。
2	制度運用後期（２）－革新（首長）自治体の叢生から凋落へ。
3	制度運用後期（３）－革新（首長）自治体の政治指導と政策展開について。
4	制度運用後期（４）－革新（首長）自治体期における中央地方関係について
5	制度運用後期（５）－シビル・ミニマム論やコミュニティ形成論などについて
6	制度運用後期（６）－市民・住民参加と自治体の二元代表制における政治と行政の変容について
7	制度改革前期（１）－財政危機と第二次臨時行政改革調査会設置について。
8	制度改革前期（２）－第二臨調下における自治体の行財政改革について。
9	制度改革前期（３）－〈地方の時代〉と過疎・過密地域における自治体の政治と行政について。
10	制度改革前期（４）－広域行政論の系譜と戦後の広域行政の実態について。
11	制度改革後期（１）－第一次行革審から新（第二次）行革新、新々（第三次）行革審について。
12	制度改革後期（２）－地方分権推進法の成立とその意義及び問題点などについて。
備考	

科目名	政治思想史	担当者名	柴田平三郎
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>思想や哲学が疎じられているのが、現在の私たちを取りまいて一般的雰囲気だといったら、いいすぎになるかもしれない。しかし、少なくとも時代の表層的部分ではそういうと思う。いつごろから、そうやってきたのか。皆でじっくり考えてみたい。そして、その問題意識をさらに延ばして行って、歴史に確実な刻印を残してきた思想を振り返り、私たちの現在と未来を知る手掛りにしたいと思っている。</p>	
講義概要	<p>具体的には、ここでは思想は〈政治思想〉をさすが、一口に政治思想といっても、そこにはさまざまなタイプやニュアンスの差がある。そうした政治思想の歴史的な展開を時代と社会の変化のなかで捉えながら、私たち自身の想像力と感性を養っていききたい。したがって、講義では古代—中世—近代—現代という時系列で進むことになるが、もちろんこうした時代区分はさしあたりの区分でしかない。そのことも講義のなかで明らかにするつもりである。</p>	
使用教材	テキスト	・柴田平三郎『政治思想史講義ノート』而立書房
	参考文献	参考文献は無数にある。講義のなかで指摘していくつもりである。
評価方法	<p>前期・後期の二回のテストを基本に評価を決定する。レポートの提出をしてもらう場合もある。</p>	
受講者に対する要望など	<p>できる限り、古典に親しんでもらいたい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	〔以下に掲げるのは、あくまでも当初の予定である。講義の進み具合で、変化が生じる可能性のあることを断っておく。〕 政治思想史を始めるにあたって。
2	政治思想史の課題と方法について。
3	古典古代あるいは地中海世界の問題性について。
4	プラトンの政治思想(1)
5	プラトンの政治思想(2)
6	アリストテレスの政治思想
7	ヘレニズム時代の政治思想
8	古代ローマの政治思想——キケロとセネカ
9	キリスト教と政治思想
10	アウグスティヌスの政治思想(1)
11	アウグスティヌスの政治思想(2)
12	前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	中世政治思想の問題性
2	中世政治思想(1)——ソールズベリのジョン
3	中世政治思想(2)——トマス・アキナス
4	ルネサンスの政治思想——マキアヴェリ
5	宗教改革の政治思想——ルターとカルヴァン
6	近代の政治思想(1)ホッブズ
7	近代の政治思想(2)ジョン・ロック
8	近代の政治思想(3)ルソー
9	保守主義の政治思想——バークを中心に
10	自由主義の政治思想——ベンサム、ミル、トックヴィル
11	社会主義の政治思想——マルクス
12	まとめ
備考	

科目名	政治史	担当者名	井上スズ
-----	-----	------	------

講義の目標	従来の政治史がほとんど大国のみを取り上げていたのに対し、本講では中小国を含めたヨーロッパ全体を対象とする。同一の時代状況において、異なる国々がどのような対応をするかを検討し、その結果地域別の政治変動のパターンを理解させる。
講義概要	テキスト冒頭の政治史理解のための理論的枠組については、政治発展の理論に重点をおいて解説し、ここで示された政治発展の指標を手がかりとして、第一次世界大戦に至るまでの諸国の発展を大づかみに述べる。ついで、第八章第一次世界大戦以後、第二次世界大戦に至るまで、より詳細にテキストを参照しつつ講義する。但しテキストの叙述を必ずしも順に追うことなく進めるので注意すること。それというのも、この時期の時代的特色・課題は、相対的安定期と世界恐慌の到来・ファシズムの昂揚の時期に別れるが、特に諸国や地域の特徴理解に役立つように、まとめて論じた方がよいと思うからである。
使用教材	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・篠原一『ヨーロッパの政治』東京大学出版会 <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジョル『ヨーロッパ100年史』みすず書房 <p>その他個別の国、問題については、特に推薦すべきものは授業中に述べる。</p>
評価方法	前期・後期の試験の結果による。
受講者に対する要望など	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	理論的枠組：政治発展の理論
2	政治的近代化の展開：英・仏・独
3	同上
4	同上
5	中小国デモクラシー：北欧デモクラシー
6	同上
7	多極共存型デモクラシー：オランダ、ベルギー、スイス
8	同上
9	同上
10	オーストリアーハンガリー二重帝国
11	バルカン半島のナショナリズム
12	労働運動の諸類型
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第一次世界大戦の歴史的意味と革命の発生：ロシア革命とドイツ革命
2	同上
3	イタリアにおけるファシズム体制
4	世界恐慌の衝撃：英・独・仏・スペイン・スウェーデン
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	多極共存型デモクラシー諸国の動向
10	同上
11	同上
12	東欧のファシズム
備考	

科目名	行政学	担当者名	中村陽一
-----	-----	------	------

講義の目標	行政に関する初歩的な知識を教授するために、行政学の歴史、行政組織、公務員制度、予算制度、行政に対する統制を講義する。		
講義概要			
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・加藤他『行政学入門』有斐閣 ・西尾他『講座行政学』（全6巻）有斐閣 	
評価方法	年に1回（学年末）に試験を行う。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業のためのイントロダクション
2	行政国家
3	行政部の活動
4	行政学の歴史——古典的官僚制モデル——
5	行政学の歴史——人間関係モデル——
6	行政学の歴史——インスティテューショナル・モデル、新官僚制モデル——
7	行政学の歴史——公共選択モデル——
8	行政学の歴史——新しい行政モデル——
9	行政学の歴史——プロフェッショナル・モデル——
10	行政組織——権威関係——
11	行政組織——部省制——
12	行政組織——スタッフ——
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	行政組織——委任、独立機関——
2	行政組織——政府法人——
3	行政組織——JR——
4	公務員制度——2つの定型
5	公務員制度——委任、勤務評定
6	公務員制度——給与、政治的中立
7	予算制度——書式、編成——
8	予算制度——議会の審議と決定——
9	予算制度——執行、決算、事業評価——
10	統制——議会と裁判所——
11	統制——情報公開、オンブズマン——
12	統制——審議会、市民参加——
備考	多少の変更はある。

科目名	日本の政治（94年度以降）	担当者名	宮崎隆次
-----	---------------	------	------

講義の目標	戦後政治システムの成り立ちから現代日本の政治と社会を考え、国際化の中の日本政治を展望する。		
講義概要	日本の政治は現在再編成期にあり、目先の情報だけに頼っている、方向性を見失いかねない状況にある。そこで政治的諸価値、とりわけ民主主義的諸価値を議論の前提とした上で、戦後政治の形成・安定・変容そして今後の展望を、国際政治とも関連させながら講義する。プリントを配布し、それを参照しつつ講義を進めるが、それは黒板に書く手間と時間を節約するためであり、プリントを集めただけでは何も理解できない。ノートに要点筆記する能力が必要である。		
使用教材	テキスト	使用しない	
	参考文献	開講時に紹介するが特に『シリーズ 昭和史 8～15』岩波ブックレットが入手しやすく、手軽な入門書となる	
評価方法	試験を行う。		
受講者に対する要望など	受講者は当然「今の政治状況」「今政治問題化していること」を知っているものとして、随時言及するから、新聞・テレビ・ラジオなど好みの媒体を通して情報を得ておくこと。		

年間講義予定

週2コマ後期完結

主要テーマ	
1	政治とは何か？ 政治と非政治、政治のイメージ：政策—闘争、自治—支配
2	現代デモクラシーの思想：リベラリズム・ソーシャリズム・ポリアーキー 多元的民主主義の理論とその限界 参加民主主義、ボーダーレス化と「多文化主義」のディレンマ
3	戦後日本政治の国際的枠組：アメリカの対日占領構想の作成とポツダム宣言 補：ポツダム宣言受諾と旧植民地 初期占領政策の展開とその特色：「非軍事化」と「民主化」
4	占領改革と現代①総論：連続と断絶 市民社会・政治社会・国家機構各レベルの連続と断絶、法制と政治文化
5	占領改革と現代②各論：地域政治、警察制度と教育制度、農地改革と女性解放
6	国内政治システムと政党制 サブシステムとしての政党制、政党制の諸類型 争点と政策距離、連合政権形成ゲーム
7	日本政治の連続と断絶 市民社会・政治社会・国家機構の戦前・戦中・戦後 有権者の投票行動、政党制の再構築、改正憲法
8	第3次吉田茂内閣期の政治過程：55年体制への道か？ 中道政権の挫折と保守合同の挫折 「平和」争点軸の登場
9	55年体制の成立と展開：「平和」争点による社会党支持基盤の固定化と「利益」による「保守」支持層の結集
10	高度成長と55年体制の変容：池田勇人の登場とチェンジ・オブ・ペース 高度成長をもたらした諸要因
11	高度成長下の政治 高度成長下の自民党派閥政治 高度成長下の反対派：議会内野党勢力と新しい社会運動
12	政治的イノベーションの失敗と臨調路線の展開 政治的イノベーションの可能性 イノベーションの失敗と体制硬直化：市民社会・政治社会 ・国家機構
13	冷戦の終焉と55年体制の崩壊：連合政治と国際化の時代 新しい政治の課題、我々一般市民に出来ることは？
備考	各々のテーマに関し、1～3回の講義を行う。

科目名	欧米の政治（94年度以降）	担当者名	宮下大志
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>欧米の戦後政治のいくつかのトピックスを紹介し、これに理論的考察を加え、これをもとに受講者に「今の政治」（日本も含めて）を考えるための材料を提供したい。受講者にとって、単に「覚える」だけの講義ではなく、「考える」講義を展開したい。</p>	
講義概要	<p>欧米、とくにヨーロッパの諸国の戦後政治の中で、重要と思われる現象を紹介し、分析する。もちろん、必要に応じて、その歴史的背景にまでさかのぼって説明することもある。そして可能な限り、日本との比較も試みたい。日本の政治は、欧米と比べて「特殊なもの」と片付けられがちであるが、比較を通じて、「どこまでが共通でありどこで違いが生じたのか、どの部分は全く異質なのか」を考えるための材料を提供したい。</p> <p>このような講義であるため、特定の教科書は使用せず、私なりの講成で講義をすすめてゆく。</p>	
使用教材	テキスト	特に使用しない。
	参考文献	<p>講義全体の参考になるような文献は存在しない</p> <p>その都度テーマについての参考文献は、講義中に紹介する</p>
評価方法	<p>基本的には学年末試験で評価する。出席は取らない。</p> <p>ただし年間に数回、講義中に小テストを行うことがある。この点は学年末試験に加算する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>この講義のテーマに興味を持った学生ならば、知識の有無にかかわらず、受講を歓迎する。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	欧米諸国の民主主義への道(1)歴史的な前提条件
2	同 (2)民主化過程の差異
3	同 (3)社会的条件
4	欧米の民主化における差異(1)政党の差異
5	" (2)政党システムの差異
6	" (3)政党システムの差異をもたらしたものの
7	" (4)民主主義の差異
8	(なお、上にあげたテーマは、各週毎の講義にそのまま対応しているわけではない。テーマによっては2週以上にわたって講義するものもある。
9	また、受講者の理解度によっても講義の進む速度は変わってくる。さらに、状況によっては内容を変更することがある。後期のテーマについても、同様である)
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	欧米の戦後政治(1)戦後政党システムの成立と戦後の対立軸
2	同 (2)社会民主主義
3	同 (3)福祉国家
4	同 (4)「国民政党」
5	同 (5)「豊かな社会」
6	同 (6)利益集団
7	同 (7)新保守主義
8	同 (8)政党システムの変化
9	同 (9)閉塞
10	今後の政治の方向性
11	
12	
備考	

科目名	第三世界の政治（94年度以降）	担当者名	萩原宜之
-----	-----------------	------	------

講義の目標	<p>第2次世界大戦後の国際政治のなかで、アジア・中東、アフリカ、ラテンアメリカは、米ソの第1世界、ヨーロッパ、日本などの第2世界に対して第3世界と呼ばれた。このうち、ラテンアメリカは19世紀前半に、中東は第1次世界大戦後に独立したが、アジアは第2次世界大戦後に、アフリカは1960年代以後独立した。これらの国々は、西欧の植民地支配から解放され政治的独立を達成したが、米ソ冷戦と南北問題のなかで苦難の道を歩んできた。本講においては、これら第3世界の国々の抵抗の歴史を中心にその多様性を明らかにするものである。</p>		
講義概要	<p>第2次世界大戦後のアジア・アフリカ諸国の独立の道程を明らかにし、(1)独立の担い手 (2)政権の性格 (3)経済政策 (4)外交などについて明らかにする。ついで、ラテンアメリカ、中東との比較において、アジアの特質を考える。その上で、アジア諸国について、(1)中国 (2)南北朝鮮 (3)ASEAN 7か国（その他東南アジアの3か国についても考える） (4)南アジア諸国の政治について1国ごとに考える。最後に、戦前・戦中・戦後を通じて、わが国と最も関係の深いアジア諸国との関係について考えることとする。</p>		
使用教材	テキスト	とくに指定しない。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・浦野起夫『第三世界の政治学』有信堂（1977年） ・木戸翁・藏堂毅編『第三世界と国際政治』晃洋書房（1983年） ・西川潤『第三世界と平和』早稲田大学出版部（1987年） ・江口朴郎ほか『第三世界を知る』（全5冊）大月書店（1984年） ・ポール・ハリソン『第三世界貧困の解剖』三一書店（1995年） ・游仲勲ほか『南北問題をみる眼』有斐閣新書（1980年） ・ワイゼッカー『地球環境政策』有斐閣（1994年） ・内山秀夫『比較政治考』三嶺書房（1990年） 	
評価方法	前期・後期の筆記試験で判定する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第2次世界大戦後の現代世界の政治について概観する
2	アジア諸国の独立過程
3	アフリカ諸国の独立過程
4	米ソ冷戦と第3世界
5	南北問題
6	非同盟運動
7	地域協力 (ASEAN, SAAPC など)
8	第3世界の紛争と平和
9	第3世界の比較政治
10	第3世界の人口、食料、貧困の問題
11	第3世界の安全保障
12	第3世界の環境問題
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	アジア諸国の民族、言語の多様性
2	アジア諸国の宗教の多様性
3	アジア諸国の比較政治体制
4	現代中国の政治
5	南北朝鮮の政治
6	タイ、フィリピン、インドネシアの政治
7	マレーシア、シンガポール、ブルネイの政治
8	ベトナム、カンボジア、ラオス、ビルマの政治
9	インド大陸諸国の政治
10	中東、ラテンアメリカの政治
11	アジア太平洋の安全保障と経済協力 (ASEAN, APEC, ARF, AFTA, NAFTA)
12	アジアと日本の関係
備考	

科目名	政治学文献研究 1 (94年度以降) 外国法政研究 4 (93年度以前)	担当者名	小野修三
-----	---	------	------

講義の目標	福祉の政治学を構想することを目標に行なう。ただし本年度取り上げる文献はアメリカ合衆国における福祉政策の現状報告ないし批判なので、理解のためには最新のジャーナルを渉猟する労を参加者は執らねばならないだろう。		
講義概要	英文和訳を行なうことになるが、日々の新聞に書かれるようなわが国の福祉に関する出来事をも話題にしつつ参加者全員で議論する、ゼミナール的な運営を行ないたいと考えている。		
使用教材	テキスト	・ Joel F. Handler, <i>"The Poverty of Welfare Reform,"</i> (Yale U. P. 1995).	
	参考文献		
評価方法	毎回出席をとる。前期、後期各一回、計二回の試験（レポート提出）を行なう。		
受講者に対する要望など	運営形式は数回行なった後に変更することはあり得る。教材はこちらでコピーして配布するが、ペーパーバックで13.8ドル、洋書を扱う本屋に注文すれば2000円ほどで買える。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間計画の紹介。
2	第一章 Welfare and Poverty
3	同上
4	第二章 The Past is Prologue
5	同上
6	同上
7	第三章 The Problem of Poverty, the Problem of Work
8	同上
9	同上
10	第四章 Setting the Poor to Work
11	同上
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第五章 The Return to the States: Changing Social Behavior
2	同上
3	同上
4	第六章 The Current Reform Proposals
5	同上
6	同上
7	第七章 Another Exercise in Symbolic Politics
8	同上
9	同上
10	
11	
12	
備考	

科目名	政治学文献研究2 (94年度以降) 外国法政研究5 (93年度以前)	担当者名	堀江浩一郎
-----	---------------------------------------	------	-------

講義の目標	外国文献の講読を通じて、国際政治学が取り挙げる主たるテーマや課題を理論的かつ実証的に研究する。		
講義概要	冷戦が終焉を迎えた今日、国際政治の舞台に見られる様々な現象や状況のなかで「民主化」の動きに着目した。民主化はどのような背景のもとで、どのような形態をとって顕われ、そしてどのようなインパクトを国際政治の舞台にもたらしてきたのか。しかも地域間、あるいは国家間ではインパクトにどのような特徴的な相違を見い出すことが出来るのか。このような疑問を解く鍵を下記のテキストを読みながら捜し出す。		
使用教材	テキスト	①S. P. Huntington (1991), <i>The Third Wave. Democratization in the Late Twentieth Century.</i> ②J. Defrongo (1991), <i>Revolutions & Revolutionary Movements</i>	
	参考文献	その都度関連論文をプリントにして配布する。また講読の進み具合によっては第3、第4のテキストも使用可。これについては受講される方々と協議の上で決めたい。	
評価方法	学年度を通して出欠確認を兼ねた小テストを数回行ない、その総合で評価を行なう。		
受講者に対する要望など	Huntingtonの図書についてはすでに三嶺書房から訳書が刊行されているが、これにあまり依存されないことを希望する。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキスト①の概要説明
2	S. P. Huntington, The Third Wave (テキスト①) 第1章
3	同上 第2章
4	同上 第3章
5	同上 第4章
6	同上 第5章
7	同上 第6章
8	講読の進み具合によっては、1章を2週間で読み合うか、あるいは新しいテキストを追加使用する。
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキスト②の概要説明
2	J. Defrongo Revolutions & Revolutionary Movements (テキスト②) 序章+第1章
3	同上 第2章
4	同上 第3章
5	同上 第4章
6	同上 第5章
7	同上 第6章
8	同上 第7章
9	同上 第8章
10	同上 結び
11	講読の進み具合によっては、1章を2週間で読み合うか、あるいは新しいテキストを追加使用する。
12	同上
備考	

科目名	法律学特講A (94年度以降) 民事法特講3 (前)・民事法特講4 (後) (93年度以前)	担当者名	小柳 春一郎
-----	---	------	--------

講義の目標	近代日本の土地法制を概観する。その際に、平成元年に公布された土地基本法の提示する「土地に関する基本理念」である「土地についての公共の福祉優先」、「土地の適正な利用」、「計画的な利用」、「投機的取引の制限」、「価値の増加に伴う適切な負担と公的土地評価の適正化」などがいかに制度として形成されてきたか、或いは、こなかったかを明らかにする。		
講義概要	明治4年から平成7年までの土地法制を8つの時期に分けて、各時期の土地法制の特徴を概観した後に、各個別の法について、法律制定の目的、法律の内容、制定の後の改廃等を概観する。スライドなどを使って、わかりやすい授業にしたい。		
使用教材	テキスト	・稲本洋之助・小柳春一郎『土地法制史』東大教材出版	
	参考文献	・国土庁土地局編『日本の土地・歴史と現状』ぎょうせい、平成8年刊行予定	
評価方法	前期・後期ともに試験を行う。試験は、客観式（穴埋め、○×など）と主観式（何々について論ぜよ。）を併せて試験問題とする。		
受講者に対する要望など	スライドなどを使って、わかりやすい授業にしたいので、興味のある学生は、出席してほしい。		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	I 明治期の土地法制①自由な土地所有権の形成 明治初年の地租改正による地券交付に伴う近代的土地所有権の特質を概観する。その後、担保制度の確立と登記制度との関係にふれる。
2	I 明治期の土地法制②民法・建物保護法の特質 明治29年に公布された現行民法の土地関連規定の特質を明らかにし、更に借地制度に関連して建物保護法に言及する。
3	I 明治期の土地法制③土地税制 地租制度の特質に言及した後、宅地地価修正法について述べる。
4	II 大正期の土地法制①都市計画法 明治時代の都市整備のための法規である東京市区改正条例を紹介した後に、大正8年に制定された都市計画法を紹介し、併せて市街地建築物法についても言及する。
5	II 大正期の土地法制②借地法・借家法 明治民法の賃貸借規定の修正として登場した借地法・借家法についてその特質を明らかにする。
6	II 大正期の土地法制③震災対策立法 関東大震災の後に制定された特別都市計画法、借地借家臨時処理法について概観する。
7	III 昭和戦前期の土地法制①耕地整理法と郊外開発 大正時代から進められていた耕地整理法による郊外開発を紹介し、近代的な住宅開発の原型をみる。
8	III 昭和戦前期の土地法制②抵当証券法・農地調整法 不動産不況対策として制定された抵当証券法を紹介し、更に農地における民法の修正である農地調整法を概観する。
9	III 昭和戦前期の土地法制③地代家賃統制令・借地法借家法改正 戦時立法として進められた地代家賃統制とこれと関連する借地法・借家法の昭和16年改正を概観する。
10	IV 戦後復興期（昭和20年代）の土地法制①住宅緊急措置令・罹災都市借地借家臨時処理法 戦災の緊急対策として制定された一連の土地法制を概観する。
11	IV 戦後復興期（昭和20年代）の土地法制②農地改革・財産税 戦前の土地所有秩序の破壊を目指して占領下に行われた制度改革を概観する。
12	IV 戦後復興期（昭和20年代）の土地法制③建築基準法・土地収用法・土地区画整理法 戦前からあった法を戦後の社会に適合させるべく新法が制定されている。その代表例を紹介する。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	V 景気回復期（昭和30年代）の土地法制①首都圏整備法 市街地の無秩序な拡大を防止するために、首都圏に近郊地帯というグリーンベルトを作ること为目标とした首都圏整備法の内容と実施の際の問題点を述べる。
2	V 景気回復期（昭和30年代）の土地法制②市街地改造法 大都市の内部の再開発を目的とする住宅地区改良法、市街地改造法等について述べる。
3	V 景気回復期（昭和30年代）の土地法制③新住宅市街地開発法 大都市の郊外にニュータウンを造成する新住宅市街地開発法や民間開発に規制を行う諸制度を紹介する。
4	VI 経済成長期（おおむね昭和40年代）①都市計画法 市街化区域と市街化調整区域の線引きという開発抑制に関する制度を導入した都市計画法について紹介する。
5	VI 経済成長期（おおむね昭和40年代）②都市再開発法 市街地改造法と防災建築街区造成法を一本化して制定された都市再開発法について紹介する。
6	VII 社会経済成熟期（おおむね昭和50年代）の土地法制①国土利用計画法 昭和40年代後半の地価上昇に対する対策として、規制区域制度などの土地取引規制を設けた国土利用計画法を概観する。
7	VII 社会経済成熟期（おおむね昭和50年代）の土地法制②生産緑地法 市街化区域内農地を都市計画制度の中に位置づけるための生産緑地制度とその矛盾について紹介する。
8	VII 社会経済成熟期（おおむね昭和50年代）の土地法制③マンション法改正 マンションの増加に対応して大改正された区分所有法（マンション法）の内容について紹介する。
9	VIII バブル・調整期（昭和60年代、平成）の土地法制①土地基本法 昭和60年代の地価上昇に対する種々の政治的対応とその成果といえる土地基本法について紹介する。
10	VIII バブル・調整期（昭和60年代、平成）の土地法制②都市計画法改正 市町村マスタープランの導入、地区計画の制度としての受け入れ、用途地域の詳細化などを特徴とする平成4年の都市計画法改正について紹介する。
11	VIII バブル・調整期（昭和60年代、平成）の土地法制③借地借家法 定期借地権、期限付き借家などを導入した借地借家法の制定について紹介し、近年の定借の動向についても言及する。
12	VIII バブル・調整期（昭和60年代、平成）の土地法制④被災市街地復興推進特別措置法 阪神・淡路大震災に対する対応として制定された復興推進特別措置法について、その内容を紹介し、併せて、同震災対策の内容について概観する。
備考	

科目名	法律学特講B1〈借地・借家法〉(94年度以降) 借地・借家法(93年度以前)	担当者名	平井一雄
-----	---	------	------

講義の目標	平成4年から「借地借家法」が施行された。借地借家法は民法の使用貸借・賃貸借の特別法の分野を形成する。債権各論の講義では充分触れる時間がないのが通常であるので、とくに半期で別途講義する。		
講義概要	前記のように、平成4年から新法の施行をみたとはいえ、原則として、それ以前の契約にかかるものについては、「建物保護法」「借地法」「借家法」が適用になる。したがって、講義では、これら旧法を中心に説明することになる。		
使用教材	テキスト	開講時に指示する。	
	参考文献		
評価方法	学年末試験による。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	借地借家法の制定まで。
2	借地借家法の適用領域（旧法との関係——付則） 借地権の存続期間
3	借地契約の更新
4	借地権の対抗力（最大判昭41、4、27 民集20巻4号870頁）
5	建物買取請求権 譲渡・転賃の効力
6	借地契約の解除——正当事由
7	解除の第三者効
8	定期借地権
9	建物賃貸借（存続期間・更新）
10	借家権の対抗力・造作買取請求権
11	地代家賃の増減額
12	敷金・権利金、借地借家権の相続
備考	

科目名	法律学特講B 2 〈民事訴訟法演習〉(94年度以降) 民事法特講1 (93年度以前)	担当者名	森 勇
-----	---	------	-----

講義の目標	司法試験程度の問題の論点をつかみ、一応の解答を示せる程度の理解をめざす。	
講義概要	この授業は、民事訴訟法Ⅰでやり残したところを補完しつつ、すでにⅠで論じた問題の理解を深めていくものである。判例を多く取り上げる予定である。	
使用教材	テキスト	・中野貞一郎・松浦馨・鈴木正裕編『民事訴訟法講義』〔補訂2版〕有斐閣大学双書 各自その他のものを選択することもかまわない。
	参考文献	第一回講義のときにリストを配布する。
評価方法	授業中における理解度のチェックならびに各自が興味をもったテーマについて提出してもらうレポート(200×50程度)による。	
受講者に対する要望など	民事訴訟法Ⅰを受講し、あるいはそれと同等のレベルにある者以外は受講しても徒勞に終わるので注意されたい。なお、民事訴訟法Ⅰおよび民事訴訟法との併行履修も可であるが、これを望む者は特に申し出ること。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	複雑訴訟形態概説
2	裁判の種類・判決の種類
3	判決の成立・判決書・上訴と判決の確定
4	裁判の自己拘束力とその例外・判決の瑕疵
5	終局判決と中間判決
6	訴訟判決と本案判決
7	申立て事項と判決事項
8	判決の本来的諸効果
9	既判力その1——既判力本質論・その作用局面と作用の仕方
10	既判力その2——その基準時と客観的範囲
11	既判力その3——その主観的範囲
12	判決の付随的諸効果
備考	

科 目 名	法律学特講B3〈国際民事訴訟法〉(94年度以降) 民事法特講2 (93年度以前)	担当者名	森 勇
-------	---	------	-----

講 義 の 目 標	紛争処理の観点から、国際取引に際しての留意点を理解する。		
講 義 概 要	君がアメリカで買い、日本に持ち帰った品物が爆発し、君がケガをした。製造者はパリに本店をおくフランス企業である。このような場合、君はこのフランス企業を被告として、日本の裁判所に救済を求めることができるのだろうか。涉外民事紛争に際して生じる手続法上の諸問題に答えるのが、国際民事訴訟法である。国際性豊かな諸君への特別メニューである。堪能されたい。		
使 用 教 材	テキスト	適当なものとして石川明・小島武司編『国際民事訴訟法』青林書院がある。しかし授業の進行はこれによらないので注意。なお、資料をその都度指示・配布する。	
	参考文献	第一回目にリストを配布する。	
評 価 方 法	授業中における理解度のチェックならびに各自が関心をもったテーマについて提出してもらったレポート(200×50枚程度)による。		
受 講 者 対 する 要 望 等	民事訴訟の基本的理解と国際私法への関心のない者は受講しても意味がない。ただし、他学部学生の冷やかかしは許す。		

年 間 講 義 予 定

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国際民事紛争と国際民事訴訟法
2	国際民事訴訟法の基礎的諸原則
3	裁判権
4	国際裁判管轄——その概念と発現形態ならびに実践的意義
5	国際裁判管轄各論
6	外国在住当事者との法交渉——送達
7	内国手続における外国人の地位
8	外国法の探知と適用
9	国際証拠法・証拠手続法
10	外国判決の承認と執行その1——基本概念・承認の対象とその効力
11	外国判決の承認と執行その2——承認の要件
12	国際的司法共助——国際司法摩擦
備考	

科目名	法律学特講B 4 〈公法特講〉(94年度以降) 公法特講(93年度以前)	担当者名	加藤一彦
-----	---	------	------

講義の目標	日本の議会制度、政治改革の現状について集中的に講義する。憲法の講義ではふれられることのすくない、政治資金規制、政党法制などにつき研究する。	
講義概要	政治改革が遂行された現在、この改革が真に改革の名に値するものなのかという視点から、各政治改革関連法を批判的に分析する。	
使用教材	テキスト	テキストは特に指定しない。六法必携。
	参考文献	・吉田善明『政治改革の憲法問題』岩波書店 その他、随時指示する。
評価方法	学年末試験で評価する。出席などについては、受講者の意見を聞いた上で決定する。	
受講者に対する要望など	憲法の単位を取得していない者は、受講しないこと。	

年 間 講 義 予 定

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の説明
2	選挙権は「権利」なのか
3	被選挙権は「権利」なのか
4	衆議院選挙制度の憲法問題(1)議員定数不均衡訴訟と憲法訴訟
5	衆議院選挙制度の憲法問題(2)選挙制度改革
6	衆議院選挙制度の憲法問題(3)選挙制度改革
7	政治資金と憲法問題(1)法人の政治献金
8	政治資金と憲法問題(2)政治資金規正法の問題性
9	政党助成法と憲法問題(1)
10	政党助成法と憲法問題(2)
11	政治改革と憲法「改正」論
12	予備日
備考	

科目名	法律学特講B 5 〈罪と罰について〉(94年度以降) 刑事法特講 1 (93年度以前)	担当者名	松本 一郎
-----	--	------	-------

講義の目標	犯罪とは何なのか、刑罰はどうあるべきか、といった刑事法の根本問題について、受講者と一緒に考えてみたい。	
講義概要	各テーマについて、できるだけ受講者との対話形式で、話を進めるつもりである。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・渥美東洋『罪と罰を考える』1993年、有斐閣 ・加藤久雄『ボーダレス時代の刑事政策』1995年、有斐閣
評価方法	期末試験の成績によって評価する。テストの際は、六法全書（ただし、判例付きでないものに限る）の持ち込みを許す。	
受講者に対する要望など	問題について共に考え、積極的に発言する受講者を希望する。一方通行でない授業を期待している。六法全書は必ず持参すること。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	犯罪—その歴史と実体
2	被害者のない犯罪（その1）
3	被害者のない犯罪（その2）—とくに性犯罪について
4	軽微な犯罪
5	企業犯罪・組織犯罪
6	これからの「犯罪」（総括）
7	刑罰—その歴史と実体
8	死刑
9	拘禁刑
10	財産刑
11	これからの「刑罰」（社会的制裁）（総括）
12	予備
備考	

科目名	法律学特講B6 <日本政治裁判小史> (94年度以降) 刑事法特講2 (93年度以前)	担当者名	松本一郎
-----	--	------	------

講義の目標	戦前において刑事裁判の対象となった主要な政治的事件について、事件と裁判の内容を講義し、その歴史的意義を考えたい。		
講義概要	取り上げた各事件の概要とこれに対する裁判の過程を解説し、その政治的・社会的背景を考え、法律上の問題点を探る。		
使用教材	テキスト	なし (レジュメ配布予定)。	
	参考文献	・我妻栄ほか編『日本政治裁判史録』全5巻 1968-70年、第一法規	
評価方法	期末試験の成績によって評価する。		
受講者に対する要望など	現在は過去の、未来は現在の、それぞれ延長線上にある。そうだとすると、歴史を学ぶことは、未来を学ぶことでもある。受講を契機に、諸君が歴史に関心を寄せられることを期待したい。		

年 間 講 義 予 定

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	大津事件
2	関妃殺害事件
3	大逆事件
4	大本教事件
5	共産党弾圧事件
6	五・一五事件、血盟団事件
7	二・二六事件（その一）
8	二・二六事件（その二）
9	ゾルゲ事件
10	横浜事件
11	権力と裁判（総括）
12	予備
備考	

科目名	国際関係特講A(94年度以降) 国際関係特講2(前)・国際関係特講3(後)(93年度以前)	担当者名	志摩園子
-----	--	------	------

講義の目標	東欧・旧ソ連地域の現状を理解するための背景をつかむ。	
講義概要	地域的・文化的多様性を重視して、地域の問題をどのように捉えていくかについて、東欧、旧ソ連地域を具体的な例として取り上げて、国際社会における地域についての把握につとめる。	
使用教材	テキスト	特になし
	参考文献	授業で示す。
評価方法	主として、前・後期のレポート。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	東欧について
2	東欧について
3	バルカン
4	ハプスブルク帝国の諸民族
5	ハプスブルク帝国の諸民族
6	ロシア帝国と東欧
7	ロシア帝国と東欧
8	近・現代東欧経済史の特徴
9	東欧のナショナリズムについて
10	東欧のナショナリズムについて
11	第一次世界大戦と東欧
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1次世界大戦後の東欧諸国
2	第1次世界大戦後の東欧諸国
3	ソヴェト連邦の成立
4	両大戦間期の独裁政権
5	両大戦間期の独裁政権
6	第2次世界大戦中の抵抗運動
7	第2次世界大戦後の東欧
8	第2次世界大戦後の東欧
9	第2次世界大戦後の東欧とソ連
10	東欧の民主化への道
11	東欧革命
12	まとめ
備考	

科目名	国際関係特講B (94年度以降) 国際関係特講1 (93年度以前)	担当者名	今井圭子
-----	--------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>ラテンアメリカはアジア、アフリカとともに発展途上地域に加えられ、政治経済社会に及ぶ諸側面において様々な低開発の問題を抱えている。この地域は19世紀前半に独立期を迎えたが、それに先立つ3世紀余りの長期にわたって植民地支配を受け、その間に形成された政治経済社会構造の遺制が、今日この地域の発展を阻害する重大な要因の一つになっている。本講義ではラテンアメリカの政治経済を中心に、まずその歴史的変遷過程を辿り、同地域をめぐる国際関係を考察する。そして現在ラテンアメリカが抱える主要な政治経済社会問題とその対応策について考える。</p>	
講義概要	<p>ラテンアメリカの政治経済社会的低開発性とその特質をアジア・アフリカとの比較において理解し、次いでラテンアメリカ地域の自然・住民・文化を概観する。さらに同地域の政治経済社会の歴史的変遷過程を辿り、まず植民地前の先住民社会について説明する。それを踏まえて植民地期における植民地政策の特質とその下でのラテンアメリカ政治経済社会の変容過程をおさえ、さらに独立後の国家建設、経済開発の実施過程を考察する。そして現在ラテンアメリカが抱えている主要な政治経済社会問題の現状を明らかにし、かつその根源を探る。次いでラテンアメリカをめぐる国際関係を分析し、日本の同地域との歴史的関係を辿りながら今後の両者の関係のあり方について考える。</p>	
使用教材	テキスト	特に指定せず、授業の初めに主要参考文献リストを配る
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・国体伊代著『概説ラテンアメリカ史』新評論 1992年 ・細野昭雄・恒川恵市共著『ラテンアメリカ危機の構図』有斐閣、1986年 ・水野一編『日本とラテンアメリカの関係』上智大学イベロアメリカ研究所、1990年 ・今井圭子著『アルゼンチン鉄道史研究——鉄道と農牧産品輸出経済』アジア経済研究所、1985年。
評価方法	<p>授業中に何回かミニテストを行なう。</p> <p>最後の授業までに、ラテンアメリカに関する本を1冊選んで書評を書き提出する。</p> <p>学期末に筆記試験、以上を合わせて評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>授業では内容の濃いものをわかり易く講義することをめざすので、受講者は授業に出席し、不明な点、納得できない点はどしどし質問すること。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序 ラテンアメリカの概観——ラテンアメリカとアジア、アフリカとの比較の視点について要約した後、ラテンアメリカの自然、住民、文化、宗教について概観する。
2	第1章 ラテンアメリカ政治経済史 第1節 時期区分 世界経済史と対比しながら、ラテンアメリカ政治経済史の時期区分について述べる。
3	第2節 植民地以前の時期（～15世紀末）コロンブス一行到来前の先住民社会について概観し、アステカ、マヤ、チブチャ、インカの各先住民社会、文明について考察する。
4	第3節 植民地期（15世紀末～19世紀初め）ラテンアメリカの植民地化の過程、植民地政策、植民地支配の下での先住民社会の変容について説明する。
5	第4節 独立期（19世紀初め～19世紀半ば）独立運動高揚の国際的および国内的要因をおさえ、独立運動の思想、担い手、独立闘争の進展過程について説明する。
6	第5節 第一次産品輸出経済確立期（19世紀半ば～1929年）独立後の国家建設と経済開発をめぐる政策について、論争を含めながら解説し、第一次産品輸出経済が確立されていく過程を明らかにする。
7	第6節 工業化から地域協力に至る時期（1929年～現在）1929年大不況がラテンアメリカ経済に与えた影響について考察し、ラテンアメリカ諸国の対応策を論じ、第2次世界大戦後の工業化に言及する。
8	第2章 ラテンアメリカ政治経済の現状と問題点 ラテンアメリカ諸国が抱える主要な政治経済問題をまとめて解説し、その対策について考える
9	第2章（つづき）ラテンアメリカ政治経済社会の現状と問題点 ラテンアメリカ諸国が抱える主要な政治経済社会問題をまとめて解説し、その対策について考える。
10	第3章 ラテンアメリカの開発をめぐる諸理論 ラテンアメリカの開発をめぐる主要な理論をとりあげて説明し、コメントを加え、その有効性について討論する。
11	第3章（つづき）ラテンアメリカの開発をめぐる諸理論 ラテンアメリカの開発をめぐる主要な理論をとりあげて説明し、コメントを加え、その有効性について討論する。
12	第4章 日本とラテンアメリカの関係 日本とラテンアメリカの関係について、移民、貿易、投資、援助、外交関係について考察し、今後のあり方について論じる。
備考	

科目名	政治学特講A (94年度以降)	担当者名	堀江 浩一郎
-----	-----------------	------	--------

講義の目標	今日のグローバル社会が抱える諸問題のなかで人権問題についてともに学びたい。本講ではとりわけ国際的争点としての「人種」に焦点をあてて、南アフリカなどを事例に現代史の文脈のなかでの人権問題の変容と展望に触れたい。なおより多くのサブ・テーマを概括するに留まった従来とは異なり、今年度は主たるサブ・テーマに絞ってより具体的な講義を行ないたい。		
講義概要	南アフリカなどを例に挙げつつ、「人種」が国内／国際的争点をなす背景、そして「人種」を巡る政治過程、さらに「人種」の壁の撤廃をめざす国民的和解への歩みについて講説する。また本講はこのように現代史の断章を紹介するとともに、今日のグローバル政治の主たる部分を構成する民族運動、原理運動、人間集団の国際移動、分離運動と統合化政策の綱引き、などにも合わせて焦点を当てる予定である。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・堀江浩一郎『南アフリカ。現代政治史の鳥瞰図』国際書院 および ・堀江浩一郎『南アフリカ。国民的和解の政治』（仮題）国際書院 	
	参考文献	その他プリント（地図、統計、グラフなど）ならびにビデオ映像をその都度配布、上映する。	
評価方法	出欠確認を兼ねた小テスト（前期・後期それぞれ数回）ならびに期末（前期・後期いずれも）試験		
受講者に対する要望など	現代史全般についての関心が深いことを望む。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の概要説明
2	グローバル政治における人種問題Ⅰ：人種問題の文脈のなかでの歴史的背景（植民地統治、国際連盟／国際連合の誕生、国家と市民社会など）。
3	グローバル政治における人種問題Ⅱ：現代国際社会における形態（例。アメリカ／イギリス、モーリタリア／スーダン、インド／ハイチ）。
4	南部アフリカと人種問題Ⅰ：奴隷貿易と植民地統治。
5	南部アフリカと人種問題Ⅱ：南アフリカ連邦誕生の地域的意義（主にイギリス、南西アフリカ＝ナミビアとの関連）。
6	南アフリカを事例に挙げつつ、 人種差別の形成Ⅰ：アフリカ諸民族間の抗争と西欧文明の浸透。
7	人種差別の形成Ⅱ：経済・社会構造の変容と人種差別の拡大（鉱山などでの差別の顕在化）。
8	人種差別体制の確立Ⅰ：政治的動因と政治領域における差別。
9	人種差別体制の確立Ⅱ：社会領域における差別。
10	人種差別体制の防衛Ⅰ：冷戦時代と共産主義の脅威、不安定化工作（対近隣諸国ならびに西欧社会における工作）。
11	人種差別体制の防衛Ⅱ：対南ア制裁破りと“PARIAH同盟”の形成。
12	日本との関わり。「名誉白人」の供与と経済協力、西欧諸国による対南ア孤立化政策の分断と日本の役割。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	人種差別体制に対する挑戦Ⅰ：エリート主導による活動から大衆運動へ。
2	人種差別体制に対する挑戦Ⅱ：黒人意識運動、国民戦線、労働運動。
3	人種差別体制に対する挑戦Ⅲ：国際社会による対南ア制裁ならびに“アパルトヘイト犠牲者”に対する支援。
4	民主化Ⅰ：人種差別法の撤廃と政治過程の平常化。
5	民主化Ⅱ：政治暴力の激化と民主主義の台頭。
6	民主化Ⅲ：初めての民主選挙。選挙の過程と結果（平和委員会・NGO・西欧諸国の役割を中心に）。
7	脱人種政治の開花Ⅰ：RDP（＝再建・開発計画）の実施。
8	脱人種政治の開花Ⅱ：国民的和解①過去の清算。
9	脱人種政治の開花Ⅱ：国民的和解②社会の共同建設。
10	脱人種政治の開花Ⅲ：外交と国際経済領域での新開拓。
11	グローバル政治における人種問題Ⅲ：人種差別の“衣替え”の行方（人権と政治権力との間の緊張関係の文脈）。
12	講義のまとめ。
備考	

科目名	経済原論	担当者名	西村 允克
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>市場経済を理解するための理論的枠組みを学習することによって、現実の経済問題を正しく理解する力を養うことが、この講義の目的である。経済現象は孤立してあるものではなく、他の経済現象と複雑な複合関係にあることをまず理解してもらいたい。講義では、経済現象を1つ1つ取り上げていくが、それは経済現象間の複雑な複合関係を解くための1つの方法であって、必ずそれは結合させて次の段階へ進むから、絶えず講義で学習した内容を復修しながら学習しなければならない。</p>		
講義概要	<p>現実経済は極めて複雑な組織である。複雑なシステムを理解するためには、システムをそれを構成する基本的要素（供給者と需要者、家計、企業、政府）と基本的要素間の経済関係によって、理論的分析が可能となるモデルに再構築しなければならない。前期では、経済学の最も基礎的なマイクロモデルとマクロモデルを学習し、経済理論の基礎的な考え方を理解し、後期の学習の基礎をかためる。前期の前半は経済分析ために必要な基礎知識を学び、後半のモデル分析理解の土台となる学習であるから、常に先に進んでももどって再学習しなければならない。後期は前期のモデル分析をヨリ現実に近いものに拡張し、さまざまな現実経済問題の理解に進む。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・中谷 巖 著 『入門マクロ経済学』 日本評論社 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・幸村千佳良著 『マクロ経済学事始』 多資出版 ・R. T. ギル著 久保、長谷川訳 『マクロ経済学入門』 上下 東洋経済新報社 ・藤野正三郎 著 『価格理論』 東洋経済新報社 ・スティグラール著 『価格の理論』 有斐閣 ・倉沢資成 『入門価格理論』 日本評論社 	
評価方法	<p>前期と後期の定期試験の結果による。試験問題についての採点基準は講義において注意した点をよく理解して記述されているかである。</p>		
受講者に対する要望など	<p>日々の新聞の経済面の見出しに注意し、経済の動きについての常識的理解を深める努力をしてほしい。講義は常に現実の経済の動きに対応している。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1 経済学を学ぶための基礎 (I) 基礎用語 経済主体、経済資源 経済活動 財とサービス 実物資産と金融資産 価格
2	2 経済学を学ぶための基礎 (II) 分析ツール 関数と曲線 図の読み方 限界と平均 関数の変化と曲線のシフト 変数 (独立変数と従属変数)
3	3 経済学を学ぶための基礎 (III) 市場モデルの作り方、市場均衡と市場不均衡 短期と長期 (経済与件)
4	4 国民経済計算 (I) 付加価値額 国内総生産 国内総支出 グロスとネット 国民1人当たり国内総生産
5	5 国民経済計算 (II) 物価指数 (デフレーター) 名目値と実質値 経済成長率
6	6 生産関数と総費用関数 産出量と投入量 限界生産力 完全雇用と不完全雇用 等生産量曲線 総費用関数 固定費用と可変費用 限界費用と可変費用
7	7 消費関数 限界消費性向と限界貯蓄性向 平均消費性向と平均貯蓄性向
8	8 価格決定理論 (I) 需要関数と供給関数 市場均衡の安定分析
9	9 価格決定理論 (II) なぜ価格は変化するのか
10	10 国民所得決定理論 (I) 簡単なモデル 貿易のない場合の国民所得決定理論 財政政策の国民所得に及ぼす効果
11	11 国民所得決定理論 (II) 貿易を含む場合の国民所得決定理論
12	12 前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	13 貨幣市場の問題 マネーサプライとハイパワードマネー 金融政策 (公定割引歩合 公開市場操作、予金準備率) 貨幣数量説
2	14 貨幣需要について 取引動機による貨幣需要と投機的動機による貨幣需要
3	15 IS = LM 分析 (I) ——国民所得と利子率の同時決定理論 IS 曲線と LM 曲線の導出とその意味
4	16 IS = LM 分析 (II) 財政政策は国民所得と利子率をどのように変化させるか 金融政策は国民所得と利子率をどのように変化させるか
5	17 IS = LM 分析 (III) 安定分析、現実経済への応用
6	18 景気変動 (I) キッチン波動 ジュグラー波動 コンドラチェフ波動 技術革新 独立投資と従属投資
7	19 景気変動 (II) 資本移動率 バブルと平成不況
8	20 経済成長論 (I) (基本概念) 投資の生産力効果 潜在的成長率と現実成長率
9	21 経済成長論 (II) なぜ日本は戦後このような高度成長を実現したのか、基本概念を用いながら説明する。
10	22 国際収支 経常収支 (貿易収支 貿易外収支 移転収支) と資本収支、変動相場制 交易条件
11	23 インフレーション フィリップス曲線
12	24 まとめと平成8年の日本経済の諸問題
備考	

科目名	会計学	担当者名	宮澤 清
-----	-----	------	------

講義の目標		
講義概要	<p>会計情報の利用者にとって自らの経済的意思決定に役立つ情報とは、どのようなものであるかについては、常に経験的実在の認識の観点に立って考察しなければならないが、その場合、財務情報の利用者が切実に希求するのは、その意思決定に役立つ情報なのである。それをみとすには、経験的実在としてのどのような経済資源、債務および出資者持分ならびにそれらの変動の認識・測定をいかに決定すべきであるかという目的に対する手段を合理的に選択するという、つまり合理的行動の基礎が必要となってくる。結局、そこに要請されるのは幾つかの情報の属性である。この合理的行動の基礎としての情報の属性を確認することによってのみ会計情報の有用性が高められ、保持されるのである。</p>	
使用教材	テキスト	・拙著『財務会計論』。なお、『財務会計基礎理論』でも可。いずれも白桃書房
	参考文献	
評価方法	期末テストによる。	
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	会計：会計はその時代を支配する理念によって規定されるが、その会計の世界において、基本的に異なった二つの考え方がある。その一つは経験的・事実的な考え方であり、もう一つは当為的・規範的な考え方である。
2	測定：会計測定とは、経済主体が会計理論にもとづいた一定のルールに従い、自己の営む経済活動という対象に数をあてがうことによって、外部の情報利用者に役立つ財務情報に加工を施して仕上げる作業のことである。
3	伝達：伝達とは、言語を用いてある事柄を表現し、これを第三者に伝える行為である。言語が社会的行為の手段であるといわれるのは、人間がひとたび社会関係のなかにはいるとそれが必要となってくるからである。
4	会計主体：会計主体の公準は、会計行為の究極的な帰属点、つまり、価値判断の究極の担い手として会計の対象としての客体を規定するものであるが、その主体によって規定される客体が会計単位といわれる。
5	継続企業：会計において、一つの期間を人為的に区切って資本計算を行なうには、その前提として企業活動が継続して営まれていなければならない。継続企業の公準は、このような趣旨のもとに定立されたものである。
6	貨幣価値安定：企業の経済活動を記録し計算するには、すべて貨幣額が用いられるが、物価の騰落や貨幣価値の変動があっても、それが軽微であれば、一応、安定しているものと仮定して会計処理がなされるのである。
7	真实性：企業会計の一般原則のうち、企業の財政状態および経営成績について真実な報告をするという会計の最高規範が真实性の原則と呼ばれる。この原則は他のすべての一般原則を規定するところの根本原則である。
8	剰余金原則：資本取引と損益取引とを峻別するという原則が、資本と利益の区別に関する原則と呼ばれる。特に資本剰余金と利益剰余金の区別は重要である。それらが立脚する法の理念による利益が相反するからである。
9	明瞭性：財務諸表のうえで利害関係者に必要な会計事実をはっきりと表示することによって、企業の状況についての判断を誤らせないようにするという表示における形式の側面を重視するのが明瞭性の原則と呼ばれる。
10	継続性：継続性とは、選択した測定方法を首尾一貫して適用することをいう。首尾一貫という言葉は、もともと「相互に矛盾がないこと」を意味する。この趣旨を生かしたのが一般原則第五の継続性の原則である。
11	保守主義：保守主義の原則は、「いかなる利益も見積もりによるものは計上しないが、損失はできうるかぎり計上する」というイギリスにおける企業会計の実践において用いられてきた格言によって端的に示される。
12	単一性：「単一」という言葉のなかに形式と内容の関係がある。この関係において重要なことは、「概念（形式）のない直観（内容）は盲目であり、直観（内容）のない概念（形式）は空虚である」ということである。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	財務報告：財務報告は、報告すること自体が目的ではなく、経済的意思決定を行なうのに有用な情報を提供することが目的なのである。その目的は、情報の受け手と目される人びとのニーズから生まれるものである。
2	情報の利用者：財務情報を利用する者のなかで、最も重要で注目される利用者は投資者と債務者である。しかしながら、彼らには、自己の欲する財務情報を企業に要求するいかなる権限も与えられてはいないのである。
3	情報の質：目的適合性と信頼性という属性を備えているか否かによって「より優れている情報」と「より劣っている情報」とに分かれる。この二つを生かすことが、情報の利用者に対する真の保証となるのである。
4	比較可能性：目的適合性と信頼性は、単独で語ることができるが、比較的可能性は単独では語ることができない性質のものである。なぜなら、比較可能性は、常に複数のあいだにおいてのみ成り立つものだからである。
5	コストとベネフィット：情報によってもたらされるベネフィットが、それを入手するのに要したコストを上回っていれば、その情報は有用であり、提供するに値する。要するに、この二つは常に比較される言葉である。
6	資産：時間の相の下にたえず変動するところのすべての資産および経済資源に共通に認められる特徴は、それらを利用する企業に用役または効益をもたらす用役潜在力あるいは経済的効益をもっているという点にある。
7	負債：負債の本質は、義務を発生させることによって現金が受け取られるか否かにあるというよりは、むしろ将来において経済的効益を犠牲にするところの法的債務、衡平法上の債務または推定上の債務のなかにある。
8	持分：資産も負債も、発生の可能性が高い将来の経済的効益またはその犠牲として定義されるが、持分は両者の差額として示され、必然的に蓋然性の強い性格のものとなり、単独で存立しえない宿命をもつのである。
9	包括利益：包括利益は、出資者による投資および出資者への分配から生ずるものを除いた源泉にかかわる取引や、その他の事象または環境要因によって生み出される一会計期間における企業の持分の変動のことである。
10	認識基準：認識基準は資産、負債または持分に与える影響の観点から、ある項目を財務諸表に計上すべきかどうか、もし計上するとすれば、いかなる金額で、いつ正式に計上するのかということを示す判定基準である。
11	真理：われわれは真理というものについて、完全に到達することができるものとは考えていない。その意味で、われわれは真理への探求者となりうることはできても、真理の保有者となることは永遠にできないのである。
12	認識：企業の経済活動という経験的・個性的な実在に関する認識は、単なる事実の集合によって得られるのではなく、研究者の抱く認識関心（関心方向）つまり研究者の目的観を前提とすることによってのみ可能となる。
備考	

科目名	環境保健論 (94年度以降)	担当者名	久松一恵
-----	----------------	------	------

講義の目標	<p>環境保健はヒト・人間の健康に影響を及ぼす環境条件を管理し、改善することを目的とする活動と技術である。環境条件は、自然科学の分野に即すれば、生物的要因、化学的要因、物理的要因に分けることができ、その背景に人文・社会的要因がある。昔は猛獣が環境危険の最たるものであったが、現在では人間活動、すなわち重化学工業や戦争の陰にある環境汚染等の方が危険であると認識されている。いずれ、この地球という星が消滅する時が来るそうだが、それまでの間、人間の生命を支えるために良い環境条件とは如何なるものか、考えてみる。</p>
講義概要	<p>講義の前半は、主として、学生が身近にある環境及び将来生活することになるであろう環境を、できる限りの範囲であるが、実際に測定したデータと自己の感覚を比較して、環境要因を把握する。</p> <p>後半は、人間集団の活動と環境汚染について、記録された映像及び見学を介して、問題と今後のあるべき方向を論じる予定。</p> <p>見学予定 6月：浄水場見学。7月下旬：下水処理場、ごみ処理埋立場見学。9月中～下旬：地域騒音観測。12月中～下旬：企業の環境保護活動又は地域の環境行政現場の見学。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鈴木庄亮編『人間・環境系の科学』メヂカルフレンド社、'91 ・ILO 他 (訳)『安全、衛生、作業条件トレーニングマニュアル』労研、'95 <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三浦豊彦『新・生活の衛生学』労研、'93 ・鈴木路子編『くらしの科学としての人間環境学』福村出版、'95 ・小泉明・村上正孝編『環境保健入門』日本評論社、'90 ・環境庁『環境白書』印刷局、年刊 ・レスター R. ブラウン、沢村監訳『地球環境白書』ダイヤモンド社、年刊 ・J. Seager, <i>THE NEW STATE OF THE EARTH ATLAS</i>, Simon & Schuster '95
評価方法	<p>測定結果のレポート、前期定期試験、及び後期の小論文による。</p>
受講者に対する要望など	<p>聴講者の人数によって、測定実習等の方法を変更することになるかもしれない。</p>

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間予定について。健康と環境問題の歴史
2	環境への適応と限界
3	建築物内の空気 (1)
4	(2)
5	騒音と振動
6	採光と照明
7	飲料水 (1)
8	飲料水 (2)
9	廃棄物の処理
10	学校の環境保健
11	職場の環境保健
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	環境と生態学
2	化学物質による環境汚染 (1)
3	(2)
4	(3)
5	放射性物質による環境汚染 (1)
6	(2)
7	風土と感染症 (1)
8	(2)
9	環境影響評価 (環境アセスメント)
10	地球規模の環境問題 (1)
11	(2)
12	まとめ
備考	

科目名	民法Ⅱ(93年度以前)	担当者名	椿 久美子
-----	-------------	------	-------

講義の目標	債権総論と担保物権に関する解釈論を中心とする法律的基本知識を提供することを目的とする。下記のように、この領域は問題が多岐にわたるため論点ピックアップ方式と全体概観方式とが考えられるが、本年はどちらにするかは、受講生諸君の反応をみながら、おいおい決めていきたい。	
講義概要	債権総論(民法399条～520条)とは、売買その他の契約によって成立した債権の法的な力、債務の決済、債権者や債務者が複数の場合における法律関係、債権あるいは債務の移転などを扱う分野である。担保物権(民法295条～398条ノ22)とは、貸金回収のために用いる抵当権や質権など約定担保物権、先取特権や留置権など法定担保物権、民法に規定のない非典型担保(たとえば譲渡担保)などを対象とする。講義では、重要な問題、理解が困難な問題を中心に説明する。また、ケース問題を提示し、それについて受講生に質問し、回答してもらうという方法をとることにより、受講生が講義と独習で獲得した法律知識を日常生活の法律紛争において活用できるようにしていきたい。	
使用教材	テキスト	講義の際に指示する。
	参考文献	講義の際に指示する。
評価方法	原則として、前期・後期の試験の結果を総合評価して、単位を認定する。	
受講者に対する要望など	民法Ⅱは範囲が広く、したがって基礎的な事項は受講生がすでに予習し理解しているという前提で講義を進めていくので注意されたい。民法の試験は一夜漬けでは合格が難しいので、できる限り授業に出席して下さい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	債権総論の概観、債権の意義および性質
2	債権の目的——序説、特定物債権、種類債権、金銭債権、利息債権
3	債権の消滅(I)——序説、弁済
4	債権の効力(I)——序説（債権の対外的効力、不完全債務）
5	債権の効力(II)——強制履行
6	債権の効力(III)——債務不履行
7	債権の効力(IV)——不履行による損害賠償、受領遅滞
8	責任財産の保全(I)——債権者代位権
9	責任財産の保全(II)——債権者取消権（法的性質および客観的要件）
10	責任財産の保全(III)——債権者取消権（主観的要件、行使の効果）
11	多数当事者の債権関係(I)——序説、分割債権、不可分債権、連帯債務
12	多数当事者の債権関係(II)——保証債務
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	債権譲渡——序説、指名債権の譲渡
2	債務引受
3	債権の消滅(II)——供託、相殺、更改、免除、混同
4	担保物権法総論——序説、人的担保と物的担保、典型担保と非典型担保
5	担保物権の一般的性質・効力
6	抵当権(I)——序説、抵当権の設定、抵当権の効力（目的物の範囲、物上代位）
7	抵当権(II)——被担保債権の範囲、共同抵当
8	抵当権(III)——法定地上権、短期貸借の保護
9	抵当権(IV)——第三取得者の法的地位、抵当権の処分
10	根抵当
11	譲渡担保、仮登記担保、所有権留保、代理受領
12	質権、留置権、先取特権
備考	

科目名	銀行取引法（93年度以前）	担当者名	川村正幸
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>本講義は銀行取引に関して実際に生じるさまざまな問題に関して、基本的な法的考え方や対応の仕方を理解してもらうことをめざす。その際に、実際に問題となり裁判上で争われた事例を素材として取り上げて、これらの点を具体的に理解できるよう配慮したい。</p>		
講義概要	<p>銀行取引に関する問題は多方面にわたり、それらすべてを取り上げることは時間的にも無理である。本講義では、そのうち、預金取引、貸付取引と為替取引を中心として、それらに加えて、今日、銀行業務の拡大がみられるので、この面についても触れることとする。預金取引については、総合口座取引、当座勘定取引などの各種の取引に関して生じる問題について、貸付取引については、貸付取引の基本理論、取引の前提となる銀行取引約定書の問題や各種の貸付類型の法的性質といった論点を取り上げる。さらに、為替取引に関しては、近時のEFTに関する理論と振込に当たっての銀行側のミスとその免責の問題を取り上げる。拡大された銀行業務の面では、銀行の証券業務、金融の証券化（セキュリティゼーション）、および、金融先物取引を取り上げて論じることとする。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・田中誠二『銀行取引法（四全訂版）』（1990）経済法令研究会 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・加藤一郎監修・吉原省三編『現代銀行取引法』（1987）金融財政事情研究会 ・大西武士『現代金融取引法』（1993）ビジネス教育出版社 	
評価方法	<p>成績の評価は、主に学期末の教場試験によるが、授業への出席度も若干加味する。試験は即題である。試験場への持ち込みは六法全書（但し判例・解説付きのものは除く）のみ可。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	銀行取引法の序論として、現代社会における銀行の役割に関して論じる。
2	銀行取引法の基礎理論に関して、とくに預金取引を中心として論じる。取引上で銀行が顧客に対して負う義務、および、銀行取引に広く用いられる約款の問題にふれる。
3	預金取引の種別と預金契約の成立に関して論じる。とくに手形小切手の受入れと預金契約の成立および白地手形の受入れと銀行の白地補充義務の問題を取り上げる。
4	総合口座取引・定期預金取引における預金者の認定の問題およびキャッシュカードの不正使用と銀行の免責、預金担保貸付の問題を取り上げる。
5	当座預金取引と手形・小切手の振出・決済および手形交換の問題を取り上げる。
6	貸付取引の種類と性質について、貸付の意義、貸付の種類、貸付の利息、貸付の基本原則および銀行取引約定書を中心に論じる。
7	貸付の法的性質の問題を、証書貸付、当座貸越、コール・ローンその他の貸付類型に応じて論じる。
8	貸付の一つである手形割引の法的性質と手形買戻請求権に関して論じる。
9	為替取引に関して、振込取引に際しての銀行のミスとその責任および現代的な電子資金送金（Electronic Fund Transfers, EFT）の問題を取り上げて論じる。
10	付随的な問題として銀行の行う証券取引とその規制、証券子会社の問題、および金融の証券化（セキュリタイゼーション）、の問題を取り上げて論じる。
11	金融先物取引にかかわる法と取引の実際、スワップなどデリバティブ、および、信託銀行の業務に関して論じる。
12	講義の終わりに当たって、金融自由化の進展と銀行の将来という問題を考えてみる。
備考	

科目名	法医学(93年度以前)	担当者名	齋藤一之
-----	-------------	------	------

講義の目標	死体を科学的に視るとはどのようなことか、法医学的思考過程とはどのようなものか、具体的な症例の検討を通して理解できるようにしたい。	
講義概要	法医学は、雑学的実践医学である。死体を解剖する作業は、一見ワンパターンのようにみえるかもしれないが、同一の事例というものは二度と経験することはなく、いわば一期一会の勝負といえる。人体に関するあらゆる知識はもちろんのこと、広く自然科学的手法を駆使して、死因や凶器や病気やその他もろもろの死体情報をもれなく抽出する作業が検死であり解剖である。講義ではこのような法医学の実際の姿を、具体的な症例を検討することによりわかりやすく紹介し、同時に法医学的思考法の一端を理解できるようにしたい。専門的でわかりにくい面も少なくないと思うので、受講者にも相当な意欲が必要であろう。	
使用教材	テキスト	・渡辺博司『死体の視かた』令文社
	参考文献	・勾坂馨編『テキスト法医学』南山堂 ・石山昱夫『法医学ノート』サイエンス社 ・高橋長雄編『からだの地図帳』講談社 ・山口和克編『病気の地図帳』講談社
評価方法	筆記試験(論述問題中心)	
受講者に対する要望など	法医学の分野では、死体を自然科学的分析の対象とする。そのことと、死者の尊厳を重んじ故人に哀悼の念を捧げることは全く次元の異なる問題である。受講者は、このことを十分に認識して講義に臨んで貰いたい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ヒトの死と生活反応
2	自然現象としての死後変化
3	創傷に関する基礎知識
4	交通事故と頭部外傷
5	窒息——とくに頸部圧迫について
6	水中死体に関する問題点
7	高温・低温による傷害
8	急性中毒およびアルコールをめぐる問題
9	突然死——予期されない急死
10	医療事故の背景にあるもの
11	白骨死体から得られる情報について
12	血液型の基礎知識およびDNA 鑑定の問題点
備考	

科目名	簿記(93年度以前)	担当者名	井出健二郎
-----	------------	------	-------

講義の目標	<p>ある会社を良い悪いと評価するものさしは何があるでしょうか？様々ありますが、いくらもうかっているか、どれだけ借金があるか…おカネのものさしがあるでしょう。そのおカネのものさしを作るもの…これこそ簿記です。また、皆さんが就職などの際、評価されるものさしは何でしょうか？皆さんの個性が第一ですが、資格の取得が考えられます。日商検定・税理士・公認会計士などは簿記に関連する資格です。</p> <p>会社として皆さんにとってこうした大切な簿記のしくみを知ってもらおうのが本講義の目標です。</p>		
講義概要	<p>前期では、まず簿記の目的やその種類などについて講義をします。続いて、簿記の手順・ルールを勉強する前段階として知ってもらいたい用語などについて説明します。そして、簿記の一巡(ワンサイクル)について基本的な部分を講義します。</p> <p>後期においては、前期での復習を行なった上で個別の取引について簿記ではどのように処理していくかを説明します。そして、簿記の一巡(ワンサイクル)についてマスターしてもらい、実際に皆さんにも簿記の一巡ができるようになってもらいます。</p>		
使用教材	テキスト	<p>①上田俊昭・小川冽・渋谷信夫・湯田雅夫共著『演習商業簿記入門』中央経済社 ②新井清光監修『新ワークブック3級』税務経理協会</p>	
	参考文献	<p>染谷恭次郎著『簿記の手ほどき』日経文庫 会田一雄・中村泰将・白瀬房徳『現代簿記精説』中央経済社 小川 冽共著『簿記の基礎』創成社</p>	
評価方法	<p>試験(前期テスト・後期テスト)および出席をもとにして総合評価をする予定です。また、資格取得の方にはボーナス評価をするつもりです。</p>		
受講者に対する要望など	<p>できるだけわかりやすい講義を心がけますので、皆さん“この講義をとって良かった”と充実感の残るようにしましょう。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	簿記の諸目的と種類について
2	簿記の基本等式と基本概念について
3	簿記上の取引とその記録について
4	簿記上の取引の勘定記入について
5	簿記のプロセス1：仕訳について
6	簿記のプロセス2：（元帳）転記について
7	帳簿記入と伝票について
8	簿記のプロセス3：試算表について
9	簿記のプロセス4：精算表について
10	簿記のプロセス5：決算手続について
11	簿記のプロセス6：財務諸表の作成について
12	簿記のプロセスの復習と前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期講義内容の復習
2	現金・預金、商品売買取引に関する簿記
3	売掛金・買掛金、その他の債権・債務に関する簿記
4	手形取引に関する簿記
5	貸倒損失・貸倒引当金に関する簿記
6	有価証券、固定資産に関する簿記
7	費用・収益に関する簿記
8	資本と税金に関する簿記
9	決算手続についての簿記1
10	決算手続についての簿記2
11	財務諸表の作成について
12	簿記の役割の再確認、会計学とのかかわり
備考	

科目名	簿記(93年度以前)	担当者名	氏原茂樹
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>本講義では、簿記の初学者向けに基礎知識から専門知識まで理解可能なように易しく説明します。簿記の知識を修得するためには、まず、基礎概念の構築が必要であり、それを土台にして専門知識の高度化をはかることになります。</p> <p>簿記は、技術的処理を中心とする科目ですが、その技術的処理は会計理論にもとづいているので、両面から理解が深められるように詳細な説明を行ないます。</p>		
講義概要	<p>・前期 企業の経済活動を仕訳にもとづいて、仕訳帳・元帳に記帳でき、計算表、6桁精算表、損益計算書、貸借対照表の作成方法が理解できるように簿記の基本原則を学びます。</p> <p>・後期 前期に学んだ簿記の基本原則にもとづき、特殊な取引に関する簿記処理を学習します。</p>		
使用教材	テキスト	氏原茂樹著『簿記の基礎詳細』税務経理協会	
	参考文献	新井清光監修『日商簿記検定・ワーク・ブック(3級商業簿記)』税務経理協会	
評価方法	<p>下記の事項を参考にして総合的に評価します。</p> <p>①定期試験 ②学習意欲と学習成果 ③出席状況</p>		
受講者に対する要望など	<p>①遅刻をしない ②予習・復習をする。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ	
1	資産・負債・資本	基礎概念と簿記処理
2	収益・費用	基礎概念と簿記処理
3	取引・仕訳	取引要素と仕訳の方法
4	仕訳・転記・伝票	転記の方法と伝票の記入
5	仕訳帳・総勘定元帳	仕訳帳と総勘定元帳への記入
6	試算表	試算表の機能と作成方法
7	精算表	精算表の機能と作成方法
8	決算手続	決算の予備手続と本手続
9	現金・預金	現金等の内容と処理
10	小口現金	小口現金の内容と処理
11	商品勘定と3分法(1)	分記法、総記法、3分法による仕訳
12	商品勘定と3分法(2)	分記法、総記法、3分法の決算処理
備考	3分法の総合問題	3分法による仕訳と転記の総合問題

後 期

週	主 要 テ ー マ	
1	仕入帳・売上帳	仕入帳・売上帳の機能と記帳方法
2	商品有高帳	商品有高帳の機能と記帳方法
3	売掛金と買掛金	売掛金元帳と買掛金元帳
4	手形取引	約束手形と為替手形の処理
5	貸倒償却と貸倒引当金	貸倒償却と貸倒引当金の内容と処理
6	有価証券	有価証券の内容と処理
7	固定資産と減価償却	固定資産と減価償却の内容と処理
8	その他の債権・債務	その他の債権・債務の内容と処理
9	個人企業の資本金	個人企業の資本金の内容と処理
10	決算整理	決算整理の内容と処理
11	収益・費用の見越・繰延	収益・費用の見越・繰延の内容と処理
12	8桁精算表	8桁精算表の機能と作成方法
備考	損益計算書と貸借対照表	損益計算書と貸借対照表の機能と作成方法

科目名	簿記(93年度以前)	担当者名	岡下 敏
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>簿記は企業で用いられている記録のつけ方で、明治初期に西洋から導入されたものである。したがって記録のつけ方の中に、西洋人の思考パターンが組込まれている。この記録のつけ方を、将来企業人となる者に必要と思われるレベルまで講義する。講義では、単に理論を習得することだけではなく、実際に各自が記帳処理することをも含める。</p>		
講義概要	<p>企業は、二つの計算書(損益計算書、貸借対照表)を作成する。そのためそれらに記載される事柄について、日頃からデータを集めておかねばならない。そのデータを集めるための記録の仕方が簿記であるが、それには一定の形式と記帳順がある。この形式と記帳について、全くの初歩の段階から講義し、上記二つの計算書を作成しかつ理解しうるまでを講義する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・岡下 敏著 『商業簿記入門』同文館、平成5年</p>	
	参考文献	<p>・沼田嘉穂著 『簿記教科書』同文館、平成6年 ・中村 忠著 『現代簿記』白桃書房、平成5年</p>	
評価方法	<p>前・後期とも幾度かの小テストを行い、後期末に定期試験を行う。評価はそれらの結果をすべて加味して行うが、特に後期の定期試験の結果を重視する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>欠席は、その後の講義の理解に大きく影響する。したがって欠席はしないことを希望する。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	簿記とは何か。なぜ必要なのか。記録の仕方としての特徴は何か。
2	簿記で記録するのは何か。資産、負債、資本の意味と、それらの相互関係。
3	資本が増減する二つの原因。増資、減資と収益、費用の区別の重要性。
4	取引の意味と、二つの要素に分けた記帳。借方と貸方。
5	取引発生順の記録（仕訳）。仕訳の原則と仕訳帳。
6	仕訳記録の組替え。具体的項目名（勘定科目）別の記録。総勘定元帳。
7	仕訳帳と総勘定元帳の検算。合計試算表と残高試算表。
8	下書きとしての精算表（6桁）。
9	勘定口座の締切り（大陸式決算法）
10	勘定口座の締切り（英米式決算法）
11	損益計算書と貸借対照表の作成
12	前期のまとめ（簿記の基本構造の完全な理解のために）。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	決算整理(I)。なぜ日常記録したものを修正しなければならないか。どのような手順で行うのか。収益勘定、費用勘定の整理。
2	決算整理(II) 固定資産勘定と債権勘定の整理
3	練習問題を用いたここまでのまとめ。
4	多くの勘定科目の理解のために(I)→現金勘定、当座預金勘定等。
5	多くの勘定科目の理解のために(II)→商品売買に関する勘定科目（三分法を中心として）
6	多くの勘定科目の理解のために(III)→手形取引の処理について
7	多くの勘定科目の理解のために(IV)→有価証券の売買に関する勘定科目。
8	多くの勘定科目の理解のために(V)→固定資産に関する勘定科目（直接法と間接法を中心として）
9	多くの勘定科目の理解のために(VI)→その他の債権及び債務勘定。
10	総括問題を用いた練習と解説(I)
11	総括問題を用いた練習と解説(II)
12	一年間のまとめ
備考	

科目名	簿記(93年度以前)	担当者名	中村泰将
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>コンピュータの発達により、計算技術的に迅速かつ正確な計算が可能になったが、経済活動を記録・計算する原理は簿記システムを学ばなければ理解できない。企業の利益の計算、課税所得の計算を始め、すべての経済活動の結果は、簿記によって計算される。この計算構造の原理を学ぶことが本講座の目的である。</p>
講義概要	<p>前期：企業の目的と企業のシステムを学び、そこで行われる経済活動を理解し、簿記がなぜ、そこに登場しなければならないかを考える。経済の活動の結果は、富のフローとストックで表すことが出来るから、その報告書が作成できるようにしたい。</p> <div style="text-align: center;"> <pre> graph LR A["(1) 経済活動"] --> B["(2) 簿記上の取引"] B --> C["(3) 分類・記録・計算"] C --> D["(4) 試算表"] D --> E["(5) 損益計算書"] D --> F["(6) 貸借対照表"] </pre> </div> <p>上の一連の行為を簿記の処理として学ぶ。(ワンサイクルの学習と呼ぶ。)</p> <p>後期：前期で学んだ一連の処理を前提として、前期よりも複雑な取引を対象としてその簿記処理を学ぶ。従って、(2)と(3)の基本的原理は同じだが、(4)から(5)と(6)を作成する過程が複雑になる。どのように複雑になるかは、授業で説明する。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会田・中村・百瀬共著『現代簿記精説』中央経済社 問題のプリントも併せて使用する。 <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> 簿記検定を受験する希望者は、つぎの問題集をすすめる。 ・『検定簿記ワークブック』3級、2級の商業簿記、中央経済社
評価方法	<p>前期テスト、後期テストによって成績評価を判定する。</p>
受講者に対する要望など	<p>出欠は自由であるが、授業に出席することが簿記を習得するための要である。</p>

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	簿記とは何かを理解する
2	(1) 複式簿記の基本等式 (2) 複式簿記の基礎概念 (3) 複式簿記の5つの基本要素
3	(1) 簿記上の取引の意味と種類 (2) 取引の8要素 (3) 資産・負債・資本の増減変化表の作成
4	(1) 「勘定」とは何か (2) 勘定でどのように計算するか
5	(1) 「仕訳」とは何か (2) 仕訳の仕方 (3) 「仕訳」から「勘定」へ転記する
6	第5回までの一連のプロセス [取引]→[仕訳帳]→[元帳]→?
7	試算表の作成 (1) 試算表とは何か (2) どのような目的で試算表を作成するか
8	精算表の作成 (1) 精算表とは何か (2) 精算表から損益計算書と貸借対照表を作成する
9	決算の仕方を理解する (1) 決算とは何か
10	(2) 決算の手続—予備手続と本手続 (3) 元帳の締切
11	決算の仕方を理解する (1) 費用・収益勘定を締め切る (2) 利益を資本金勘定に振り替える
12	(3) 資産、負債、資本の勘定を締め切る
備考	前期を以て簿記のワンサイクルが終了し、後期より個別の項目についてより詳しい簿記の処理（仕訳）と補助簿の作成を勉強する。

後期

週	主 要 テ ー マ
1	現金と預金の処理
2	商品の購入・管理・販売の処理 (1) 商品の売買利益の算定の仕方 (2) 商品の3分割
3	(3) 商品有高帳の作成
4	(4) 仕入帳と売上帳の作成
5	有価証券の購入・保有・売却の処理
6	固定資産の購入・利用・修繕・処分処理
7	債権・債務の処理(1)
8	その他の債権・債務(2)
9	資本金の処理
10	決算の修正手続(1) (1) 収益と費用の繰延 (2) 前払費用の前受収益
11	決算の修正手続(2) (1) 収益と費用の見越 (2) 未収収益と未払費用
12	決算の修正手続(3) (1) 8桁精算表の作成 (2) 損益計算書と貸借対照表の作成
備考	

科目名	簿記 (93年度以前)	担当者名	福島 寿
-----	-------------	------	------

講義の目標	簿記の初級すなわち、基礎から中級までを段階的に講義することによって、簿記の全仕組を平易に解説することを目的とする。		
講義概要	シラバスに記したように、まず、テキストⅠで説明的講義を行い、次にそれを応用するために、テキストⅡで演習を行うという方式で講義をすすめる予定である。 テキストについては変更もありうることを留意していただきたい。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・Ⅰ 會田義雄著『簿記講義 (改訂版)』国元書房 ・Ⅱ 井上達雄・新井清光編『検定簿記ワークブック・3級商業簿記』中央経済社 	
	参考文献		
評価方法	評価はテスト及び授業への参加度 (レポートを含む) により決定する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義概要の説明。テキストⅠの第1講及び第2講。テキストⅡの第1回
2	テキストⅡの第2回から第5回まで。
3	現金・預金・有価証券の諸勘定。テキストⅠの第3講。
4	テキストⅡの第11回及び第12回
5	仕訳帳と元帳。テキストⅠの第4講。
6	テキストⅡの第7回。
7	商品勘定とその分割。テキストⅠの第5講及び第6講。
8	テキストⅡの第13回及び第14回。
9	債権・債務の勘定、手形の勘定。テキストⅠの第7講
10	テキストⅡの第15回、第16回、第25回、及び第26回。
11	試算表と精算表。テキストⅠの第8講。
12	テキストⅡの第8回、第9回及び第10回。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	決算。テキストⅠの第9講。
2	テキストⅡの第20回及び第21回。
3	基本財務諸表の作成。テキストⅠの第10講。
4	テキストⅡの第19回、第29回及び第30回。
5	テキストⅠの第11講。伝票仕訳制。テキストⅡの第6回。
6	特殊商品取引（その一）。テキストⅠの第13講。
7	特殊商品取引（その二）。テキストⅡの第14講。
8	有形無形固定資産の諸勘定。テキストⅠ第16講。テキストⅡ第17回。
9	投資その他の資産・繰延資産の諸勘定。テキストⅠ第17講。
10	資本金の諸勘定。テキストⅠ第18講。テキストⅡ第18回。
11	本支店会計。テキストⅠ第19講。
12	年度末テスト。
備考	

科目名	簿記（93年度以前）	担当者名	細田 哲
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>「複式簿記」の基本的仕組み、簿記一巡の手続きについて理解すること。また企業における基本的な取引について記帳し、決算手続きを遂行し、損益計算書、貸借対照表作成ができることを目標とする。</p>		
講義概要	<p>前期講義は、学生諸君が簡単な精算表の作成、決算本手続きを遂行できるようにすることを目的とする。 講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 複式簿記とは ○ 取引と勘定 ○ 仕訳帳と総勘定元帳 ○ 試算表と精算表 ○ 決算(1) <p>後期講義は、学生諸君が、次の事項を容易に遂行できるようにすることを目的とする。 個々の取引に対する記帳、8桁精算表の作成、決算本手続の遂行、貸借対照表、損益計算書の作成である。 講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現金・預金の記帳 ○ 掛取引の記帳 ○ 商品売買の記帳 ○ 手形取引の記帳 ○ 資金調達・返済取引の記帳 ○ 損益整理 ○ 決算(2) ○ 貸借対照表、損益計算書の作成 		
使用教材	テキスト	<p>・中村忠『新訂 現代簿記』白桃書房</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>年2回以上の試験の結果による。</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	簿記(93年度以前)	担当者名	百瀬 房徳
-----	------------	------	-------

講義の目標	<p>本講では、特に複式構造を内包した商業簿記を取り上げる。複式構造は仕訳に基づき勘定システムを通じて事業の資産、負債および資本の増・減を測定する。この勘定システムと事業体の組織との関係で、各勘定の意義および機能と具体的な処理について理解を深めることにする。</p>	
講義概要	<p>複式簿記とは、貸方および借方の複式構造をもち、取引を仕訳帳、元帳および補助簿へ記入する簿記をいう。まず、複式簿記の基本的な勘定システムを前期に修得し、つぎに、基本的な勘定について仕訳帳の記入、元帳における勘定への転記および補助簿への記入について取引を記録する過程を具体的に修得する。</p>	
使用教材	テキスト	・中村・曾田・百瀬著『現代簿記精説』中央経済社
	参考文献	無し
評価方法	<p>前期および後期において講義した範囲について試験する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>講義のあった日に必ず復習すること。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間における講義内容の説明。
2	複式簿記の体系の説明およびこの簿記における取引とは何か。
3	仕訳の基本原則および取引勘定への転記。
4	補助簿への記入、および試算表の作成原理。
5	精算表の作成原理損益勘定および残高勘定への転記。
6	取り引きパターン別仕訳例の説明。
7	パターン別に仕訳された例の勘定への転記。
8	例題による取引の仕訳、勘定への転記、および試算表の作成。
9	例題による精算表の作成、および帳簿締切による損益勘定および残高勘定への完成。
10	練習問題——取引の仕訳記入および仕訳帳から元帳への転記。
11	練習問題——試算表の作成および精算表の作成。
12	練習問題——元帳締切による損益勘定および残高勘定の完成。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	現金勘定と現金出納帳。
2	当座預金と当座預金出納帳、および小口現金と小口現金出納帳。
3	商品勘定の記入方法…単純な商品勘定、混合商品勘定および商品勘定の分割。
4	仕訳勘定と売上勘定…返品と値引きおよび商品の仕入価額。
5	仕入勘定と仕訳勘定および売上勘定と売上帳。
6	繰越商品勘定と商品有高帳、および棚卸減耗費および商品評価損。
7	売掛金勘定と得意先元帳、および買掛金勘定と仕入先元帳。
8	受取手形勘定と受取手形記入帳、および支払手形勘定と支払手形記入帳。
9	その他の債券・債務の諸勘定、および有価証券勘定。
10	固定資産の諸勘定…特に減価償却に関する処理。
11	決算前の諸勘定の整理について。
12	決算…勘定の締切、損益勘定および残高勘定の完成、および8桁精算表の作成。
備考	

科目名	簿記(93年度以前)	担当者名	湯田雅夫
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>簿記は、企業の管理運営を合理的に推進するにあたって、また企業の財政状態や経営成績を外部の利害関係者に正しく報告するうえで、欠くことのできない計算技術である。</p> <p>本講は、受講生全員が日本商工会議所検定3級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。</p>		
講義概要	<p>複式簿記の基礎的な原理と技法を完全に修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行なう。簿記は、技術がかなりのウェートを占めている学問であるので、単に書物を読んで学習するだけでは修得できない。各自、授業の進捗度に応じて教科書の「練習問題A」および「練習問題B」に取り組み、記帳練習を重ねる必要がある。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・上田・小川・渋谷・湯田『演習 商業簿記入門』中央経済社 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・渋谷武夫『日商簿記検定3級 初級簿記演習』税務研究会出版局 ・渋谷武夫『日商簿記検定2級 中級簿記演習』税務研究会出版局 ・小川洌・渋谷武夫『現代工業簿記』税務経理協会、1984 	
評価方法	<p>当該講義科目は、前期・後期の2回実施する試験によって行う。なお、出席状況を素点に加点するために、年間数回の出席をとる。出席記録のまったくない者の成績評価は、試験の成績だけで評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>私語を一切しないこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション；講義概要ならびに授業の進め方
2	簿記の歴史
3	第1章 簿記の意義と目的；第2章 資産・資本と貸借対照表
4	第2章 東京商会の事例解説；第3章 収益・費用と損益計算書
5	第4章 取引；第5章 勘定
6	第6章 仕訳と転記
7	第7章 帳簿
8	第8章 簿記一巡の手続き
9	第9章 現金預金
10	第10章 商品売買
11	第10章 商品売買
12	第11章 有価証券；第12章 売掛金と買掛金
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第13章 その他の債権・債務
2	第14章 手形
3	第15章 貸倒れと貸倒引当金
4	第16章 固定資産；第17章 資本金と引出金
5	第18章 収益・費用の繰延と見越
6	第19章 決算予備手続
7	第19章 問題
8	第20章 決算本手続
9	第20章 決算本手続
10	第20章 問題
11	総合問題
12	本講義の結びとして、「簿記学習の継続」の必要性を指摘する。
備考	